津波碑巡礼

先人が私たちに残し伝えたものは何か











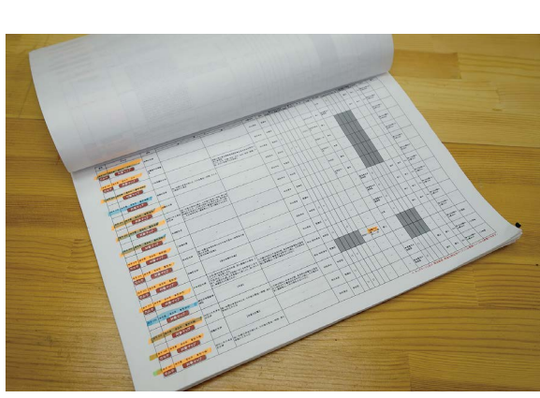
旅的電子書籍制作所

東日本大震で多大な被害を受けたすべての方々と
貴重な資料をお譲り下さった 上西勇氏 に捧ぐ

なぜ津波碑巡礼は始まったのか

古来より、三陸沿岸に津波が多発していることは、学校の授業で習い十分承知していたが、「津波碑」について初めて知ったのは、昭文社のツーリングマップル東北の記載を見てからである。それには「津波記念石/昭和三陸大津波の記録が掘り刻まれている」と記述されていた。この1世紀少々の間に、明治・昭和・チリ地震と大きな津波が3回襲来している。そのような石碑は当然建てられただろうことは容易に想像できた。しかし、ツーリングマップの津波碑記載はこの1箇所のみであった。

筆者は、電子書籍型の観光ガイドブック制作を業としている。インターネットの検索・調査は日常茶飯事で、まさに業務である。その業務中、偶然、ある個人のブログで「青森県三沢市にある津波碑を見に行った」という記述を見つけた。さらに、青森県には同型の津波碑が6基あるとも書かれていた。これはまったく未知の情報であり、さらに詳しく検索をかけることになった。その結果、国土交通省東北整備局のWEBサイトに「津波石碑一覧シート」[※1]なるものを発見した。



これが運の尽きだった。この一覧表には青森県から岩手県、宮城県に至る海岸線に321基の津波碑があることが記載されていたのである。筆者の性格上、一度でも興味を持ったり、関心を示したものは、自身が触れない限りその呪縛から解き放されることがないのである。そのため、このリストに掲載の石碑はもちろん、未掲載のものもあろうということで、可能な限り、すべての津波碑を取材し、写真撮影、碑文記録、所在地の正確な位置把握をデータベース化しようと心に決めた。

本誌は、そのデータベースを一般の方々が見やすいように編集したものとなる。したがって、碑本体のみならず周囲の景観も掲載し、漢文など難しい碑文や長い文面などは簡略化、所在地はGPS座標だけではなく、国土地理院2万5千分の1地図に正確に落とし込む、といった内容に仕上げている。筆者が足掛け4年をかけて訪ね歩いた津波碑のデータベース化であり、旅のガイドとしても一助になればとの想いも込めて本誌を制作した。

※1　http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekihijouhou/index.html

津波碑巡礼の準備作業

国土交通省東北整備局の資料には、リストとカルテがある。カルテは全数ではなく70%程度ほど。しかし、いずれの資料にも正確な住所と詳細なマップは付記されていなかった。そのため、正確な位置の把握は非常に難航した。

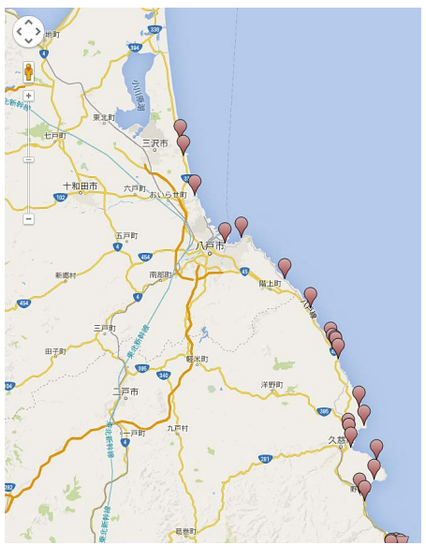


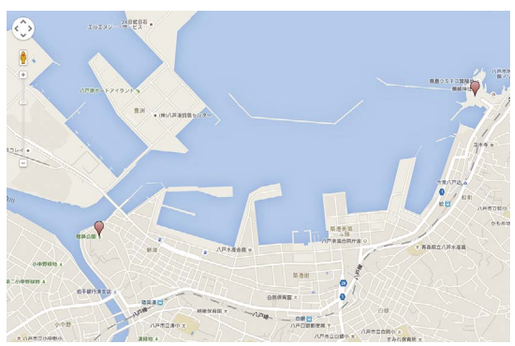
リストには地区名までしか記載がない



カルテも同様で地図の位置も大雑把

リストには住所がなくても位置を特定できる記載もある。例えば、「大蛇小学校」、「明神山公園」、「金比羅神社」という具合。このような記載を頼りに、PCの地図アプリにポイントを落とし込んでいった。

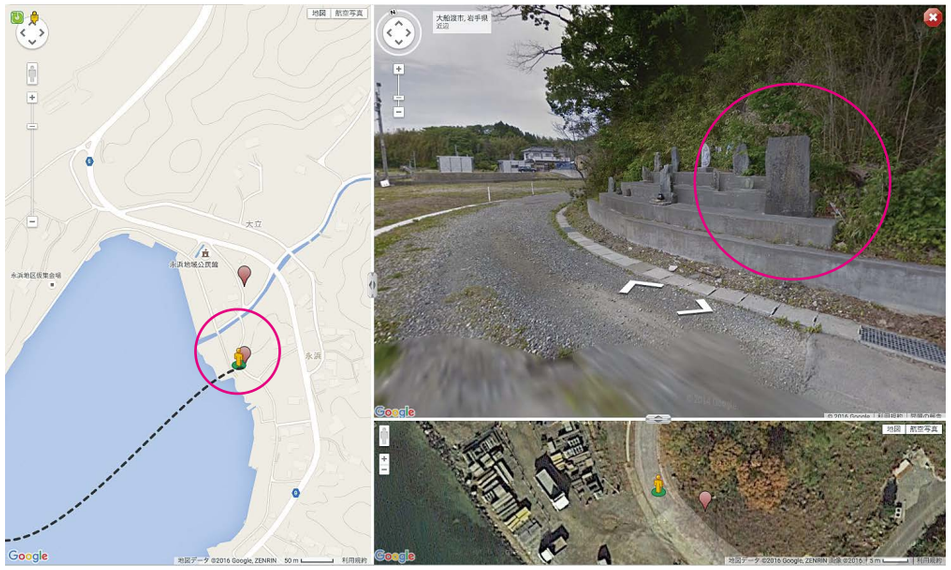




※2 使用したアプリは、「MY MAP PLUS」という優れもの。GoogleMapsをベースにしているが、PC上で入力したデータをiPhoneで同期させデータを持ち運べるほか、現地でiPhoneデータを修正するとPC側に反映する

※2　http://iphone-ja.mymapplus.com/

最もやっかいなのが、県道脇とか、沿道などのように非常に曖昧な記述しかない場合。たとえば、リストの所在地が「岩手県大船渡市赤崎町字永浜」、建立場所「沿道」といった具合のときは、GoogleMapsのストリートビューで確認し、見つけられるまで地図上を移動するのである。発達した文明の利器には大変助けられた。



マップとストリートビューを同時表示するのも、MY MAP PLUSの機能

特定の場所を示す記述なく、ストリートビューで確認できる沿道でもない場合は、現地で探すほか方法はない。まず当てずっぽで足を運び、近くの住民に尋ねるのが常套手段。それでも見つからなければ役所に出向いて教えを請うのである。
今回、役所で尋ね発見できなかった碑は皆無。やはり地元の情報源は役所に限るようである。



宮古市役所田老支所

津波碑巡礼の実行

津波碑の巡礼は２年半をかけ、仕事の合間に出掛けている。天候や時間、時期など様々な要因でリストの順序通りに巡ってはいない。また、写真の不備、見落としや忘れなどで何度も足を運んだ碑もある。岩手県花巻市在住とはいえ、１基２基のために沿岸まで足を運ぶのは、時間とお金の浪費だが致し方なかった。

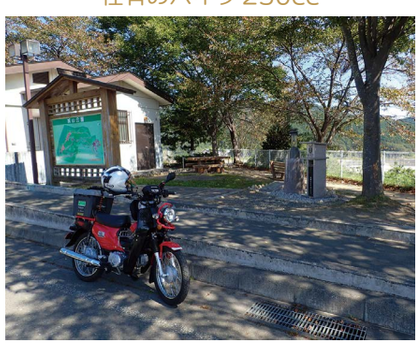
巡礼には、社所有のクルマとバイクにマイバイクと３台の車両を使った。クルマの場合は淡々とした取材気分だったが、バイクの場合はツーリング気分でなかなか爽快だった。クルマでは車中泊だが、バイクの時はキャンプを楽しんだ。



最も出動した社有車



社有のバイク 250cc



筆者の買い物バイク 110cc も出動



今回の津波碑巡礼で利用した
宮古市の姉ヶ崎キャンプ場にて

気仙大島では、この巡礼で唯一の自転車巡り
日頃の運動不足を思い知らされた



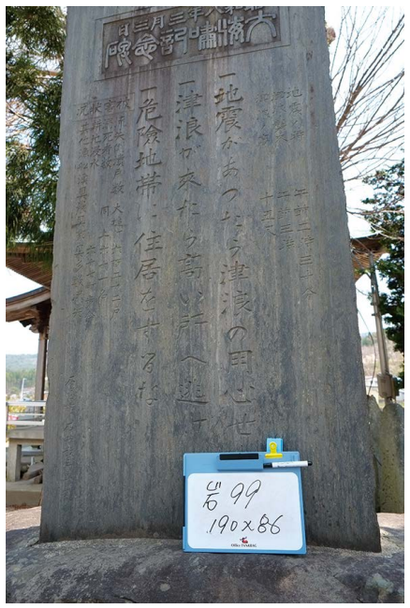


iPhone でのナビ画面

←道順のほか、2.8km 先 10 分少々で着くと把握できる

津波碑の巡礼では、三陸沿岸を南北 500km に 300 を超える石碑を巡らなければならない。十分な準備のうえに、効率よく移動する必要があった。そのため前項で記載した地図アプリが大いに役立った。三陸沿岸の、しかも国道幹線から外れた一般道は非常に入り組んでおり、かつ迷路のように複雑なところもある。そのため、最も手早く移動するために、アプリのナビ機能を最大限に使用した。次のポイントまでの道案内はもちろん、距離と時間も掴める。ナビなしではあと半年長引いたかもしれない。

津波碑の記録法はいたってシンプル。碑の外観、周辺の様子、碑銘碑文はすべて写真に収めた。碑の番号とサイズ記録はマーキングボードを置いた。作業中は稀に奇異な目で見られたことも。位置の確定は iPhone のアプリに記録。経緯度および標高については、国土地理院の電子国土[※3] WEB にて数値を取得した。





※３　http://www.gsi.go.jp/

津波碑巡礼目次

青森県

三沢市・おいらせ町・八戸市・階上町

青森001番 震嘯災記念 14
青森003番 震嘯災記念 16
青森004番 震嘯災記念 18
青森005番 震嘯災記念 20
青森005-2番 津浪　昭和八・三・三 24
青森005-3番 海嘯記念碑 25
青森006番 海嘯記念碑 26
青森007番 震嘯災記念 28
青森008番 海嘯死亡者之碑 30

岩手県

洋野町・久慈市・野田村

岩手001番 不慮の津浪に不断の注意 34
岩手002番 大海嘯罹災者招魂碑 36
岩手003番 地震に気を緊め津浪に避難 38
岩手004番 二十三回忌 40
岩手005番 想へ慘禍の三月三日 42
岩手006番 頌徳碑 44
岩手007番 弐陸津浪記念碑 45
岩手008番 昭和八年津浪記念碑 48
岩手009番 昭和八年津浪記念碑 50
岩手010番 海嘯紀念碑 54
岩手011番 海嘯溺死者紀念碑 56
岩手012番 津波記念碑 58
岩手013番 防潮林記念碑 60
岩手14番 昭和八年津浪記念碑 64

岩手県

岩手015番 昭和八年津浪記念碑 66
岩手016番 昭和八年津浪記念碑 68
岩手017番 昭和八年津浪記念碑 70
岩手017-2番 海嘯遭難供養塔 74
岩手018番 津波記念碑 76

普代村・田野畑村・岩泉町・宮古市

岩手019番 大海嘯記念 80
岩手020番 三陸大海嘯　溺死者・諸精霊　供養塔 82
岩手021番 津波防災之碑 84
岩手021-2番 顕彰碑 86
岩手022番 津波記念塔 90
岩手025番 大海嘯溺死者招魂碑 94
岩手27番 すべて 96
岩手28番 三陸海嘯横死者招魂碑 98
岩手29番 昭和八年津浪記念碑 100
岩手030番 海嘯溺死者供養塔 102
岩手031番 三陸大海嘯溺死者慰霊塔 104
岩手031-2番 海嘯記念碑 106
岩手032番 三陸大海嘯記念 108
岩手033番 三陸大海嘯記念 110
岩手034番 海嘯死者供養 112
岩手035番 三陸海嘯拾三回忌 113
岩手036番 海雲巧樹信士 114
田老地区常運寺の津波碑群 118
岩手039番 弔海嘯死者碑 119

岩手県

岩手039-2番 海嘯死者之碑 120
岩手040番 明治二九年海嘯之碑 121
岩手041番 海嘯供養塔 122
岩手043番 海嘯死者碑 123
岩手042番 三陸大海嘯溺死慰霊塔 124
岩手045番 大海嘯記念 126
岩手049番 海嘯記念 130
岩手050番 海嘯溺死者供養塔 134
岩手051番 牛馬供養塔 135
岩手052番 海嘯記念碑 138
岩手053番 海嘯記念碑 142
岩手054番 卍海嘯供養塔 144
岩手057番 大海嘯記念 146
岩手058番 1960年5月24日チリ地震津波記念碑 148
岩手059番 宮古開港記念碑 150
岩手060番 三陸海嘯横死者招魂之塔 152
岩手062番 三陸大海嘯横死精霊 154
岩手063番 海嘯紀念碑 156
岩手064番 三陸大海嘯記念碑 157
岩手065番 三陸海嘯横死者精霊 158
岩手066番 チリ地震津浪記念碑 160
岩手067番 海嘯紀念碑 164
岩手068番 海嘯横死者精霊塔 166
岩手069番 三陸海嘯記念碑 168
岩手071番 海嘯紀念碑 170
岩手072番 昭和八年大津浪記念碑 171
岩手074番 海嘯供養 172
岩手075番 津浪記念碑 174

岩手県

岩手076番 海嘯記念碑 176
岩手077番 大津浪記念碑 180
岩手080番・岩手081番 海嘯記念碑/昭和八年大津浪記念碑 183
岩手083番 海嘯横死牛馬観世音 184

山田町・大槌町・釜石市

岩手086番 三陸大海嘯記念碑 190
岩手087番 海嘯紀念碑 192
岩手088番 三陸大海嘯溺死者慰霊塔 194
岩手089番 丙申震嘯之紀 196
岩手090番 海嘯遭難者慰霊塔 198
岩手091番 津浪記念 200
岩手096番 大海嘯記念 202
岩手097番 大海嘯紀念碑 204
岩手092番 大海嘯記念 208
岩手093番 大海嘯記念 210
岩手094番 三陸大海嘯溺死者慰霊塔 212
岩手095番 大海嘯記念 214
岩手098番 海嘯溺死精霊塔 218
岩手099番 大海嘯記念碑 220
岩手100番 海嘯溺死精霊塔 222
岩手101番 大海嘯記念碑 224
岩手107番 津波記念碑 230
岩手108番 南無妙法蓮華経八大竜王鎮座 232
岩手110番 忠烈永芳 234
岩手111番 津波記念碑 236
岩手112番 殃死無縁者追善供養塔 238
岩手001番 両石海嘯紀念碑 240
岩手117番 海嘯記念碑 242

岩手県

岩手118番 津波記念碑 243
大只越公園の津波碑６基 246
岩手119番 三陸大海嘯溺死者弔祭之碑 248
岩手120番 海嘯記念碑 249
岩手121番 海嘯災死追悼 250
岩手120番 海嘯萬人供養塔 251
岩手123番 明治丙申海嘯記念之像 252
岩手124番 明治丙申海嘯記念之像 253
岩手126番 嘯没者追弔塔 254
岩手127番 海嘯横没精霊 256
岩手128番 海嘯記念碑 262
尾崎白浜の５碑 264
岩手129番 海嘯横没者供養塔 265
岩手130番 三陸大津波犠牲先祖供養塔 266
岩手131番 大津波犠牲先祖霊位 267
番外 東日本大震災教訓碑 268
岩手132番 中村重兵衛閲歴 270
岩手136番 大海嘯遭難者　追哀碑 274
唐丹本郷地区の３石碑 276
岩手137番 海嘯遭難記念之碑 278
岩手138番 昭和八年津浪記念碑 279
岩手139番 納骨之所 280
岩手140番 昭和八年津浪記念碑 282
岩手141番 海嘯溺死霊供養碑 284
岩手142番 海嘯紀念碑 286
岩手143番 海嘯溺死碑 288

大船渡市・陸前高田市
岩手194番 嗚呼惨哉海嘯 294

岩手県

岩手194-2番 津波の追憶 296
番外 吉浜　奇跡の集落 298
岩手195番 津浪記念碑 300
岩手197番 嗚呼惨哉海嘯 302
岩手198番 津浪記念 304
岩手199番 津浪記念碑 306
岩手200番 昭和海嘯死亡者追悼碑 308
岩手201番 海嘯溺死者供養碑 309
岩手202番 海嘯溺死記念碑 310
岩手203番 津浪記念碑 312
岩手204番 萬死之霊 314
岩手204-2番 明治三陸大津波伝承碑 318
岩手205番 海嘯溺死者霊 320
岩手206番 家譜 322
岩手207番 頌徳碑 323
岩手144番 津波記念碑 324
岩手145番 ○海嘯横死者諸精霊塔 325
岩手146番 丙申海嘯死亡者諸精霊 326
岩手147番 ○ 327
岩手148番 津波記念碑 328
岩手149番 丙申大海嘯横死諸群霊墓 330
岩手150番 津波記念碑 332
岩手151番 丙申海嘯横死長濱七拾四名供養塔 334
岩手152番 津波記念碑 336
岩手153番 津波記念碑 338
岩手154番 萬人靈塔 344
岩手155番 海嘯紀念 346

岩手県

岩手156番 大海嘯紀念碑 348
岩手158番 ○海嘯死者碑 351
岩手159番 津浪記念碑 352
岩手160番 津波犠牲者供養塔 353
岩手162番 チリ地震津波襲来地点 354
岩手164番 チリ地震津波襲来地点 356
岩手165番 海嘯溺死者霊 358
岩手166番 明治二十九年六月海嘯襲来地点 362
岩手168番 昭和八年三月海嘯襲来地点 364
岩手167番 明治二十九年六月海嘯襲来地点 365
岩手169番 昭和八年三月海嘯襲来地点 366
岩手170番 明治二十九年六月海嘯襲来地点 368
岩手171番 昭和八年三月海嘯襲来地点 370
岩手173番 明治二十八年六月海嘯襲来地点 371
岩手174番 海嘯溺死之霊 372
岩手175番 津浪横死者供養碑 374
岩手178番 海嘯記念碑 376
岩手180番 明治二十九年六月海嘯襲来地点 378
岩手192番 昭和八年三月海嘯襲来地点 380
岩手193番 明治二十九年六月海嘯襲来地点 381
岩手184番 昭和八年三月海嘯襲来地点 382
麟祥寺の津波碑３基 384
岩手185番 海嘯記念碑 385
岩手186番 明治丙申海嘯溺死　弔魂碑 386
岩手187番 津浪横死者慰霊塔 387
岩手189番 明治二十九年六月海嘯襲来地 390
華蔵寺の津波碑４基 394
岩手209番 没溺供養塔 395

岩手県

岩手210番 海嘯溺死供養塔 396
岩手211番 弔　　亡霊 397
海嘯 397
赤痢 397
岩手212番 弔海嘯溺死霊 398
番外 東日本震災慰霊碑 399
岩手213番 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ 400
岩手214番 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ 402
岩手215番 津浪記念碑 404
岩手221番 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ 406
岩手220番 海嘯　招霊碑 408
岩手219番 佐佐木大三郎翁頌徳碑 410
岩手215-2番 招魂供養塔 412
岩手216番 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ 414
岩手217番 海嘯溺死霊供養塔 416
岩手220-2番 つなみ溺死紀念碑 418
岩手220-3番 津浪と聞いたら欲捨て逃げろ 420
岩手223番 津浪記念碑 424

宮城県

気仙沼市・南三陸町
宮城001番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 432
宮城002番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 434
宮城003番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 436
宮城004番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 438
宮城010番 海嘯紀念碑 440
宮城005番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 442
宮城006番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 444
宮城007番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 446
宮城008番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 448

宮城県

宮城009番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 450
宮城014番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 452
宮城015番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 454
宮城016番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 456
宮城017番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 458
宮城018番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 460
宮城019番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 462
宮城011番 震嘯記念 466
宮城012番 MEMORIAL OF THE GREAT EARTH QUAKE AND TIDAL WAVE 468
宮城013番 震嘯記念 470
宮城020番 海嘯紀念碑 474
宮城023番・宮城024番 大谷漁港の流失２碑 476
宮城025番 海嘯紀念碑 478
宮城026番 海嘯碑 482
宮城027番 有縁無縁三界万霊塔 484
宮城028番 昭和八年三月三日大震災記念碑 486
宮城029番 海嘯溺死者精霊之塔 487
宮城031番 大震嘯記念碑 490
宮城033番 昭和八年三月三日大震嘯災紀念 492
宮城034番 海嘯記念之碑 494
宮城037番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 498
宮城038番 海嘯遭難死亡各霊供養碑 500
宮城039番 津浪災害記念碑 504
宮城042番 志津川町チリ地震津浪災害30周年記念碑 505
宮城043番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 506
宮城043-2番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 508
宮城045番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 510

宮城県

宮城045-2番 昭和八年三月三日大震嘯災記念 512

石巻市・女川町

宮城46番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 518
宮城46番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 520
宮城47-3番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 522
宮城47-2番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 524
宮城049番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 528
宮城051番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 530
宮城058番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 532
宮城060番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 536
宮城061番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 538
宮城061-2番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 542
宮城062番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 546
宮城063番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 550
宮城064番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 552
宮城065番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 554
宮城067番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 556
宮城068番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 558
宮城066番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念 562
宮城069番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 564
宮城070番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 566
宮城071番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 568
宮城071-2番 昭和八年海嘯溺死者供養塔 570
宮城072番 昭和八年三月三日 大震災記念 572
宮城073番 昭和八年三月三日 大震災記念 574
宮城074番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 578
宮城075番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 580

宮城県

宮城076番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 582
宮城077番 津浪記念碑 584
宮城078番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 586
宮城081番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 588
宮城080番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 590
宮城079番 昭和八年三月三日 大震嘯記念 592
宮城085番 チリ地震津波碑 596

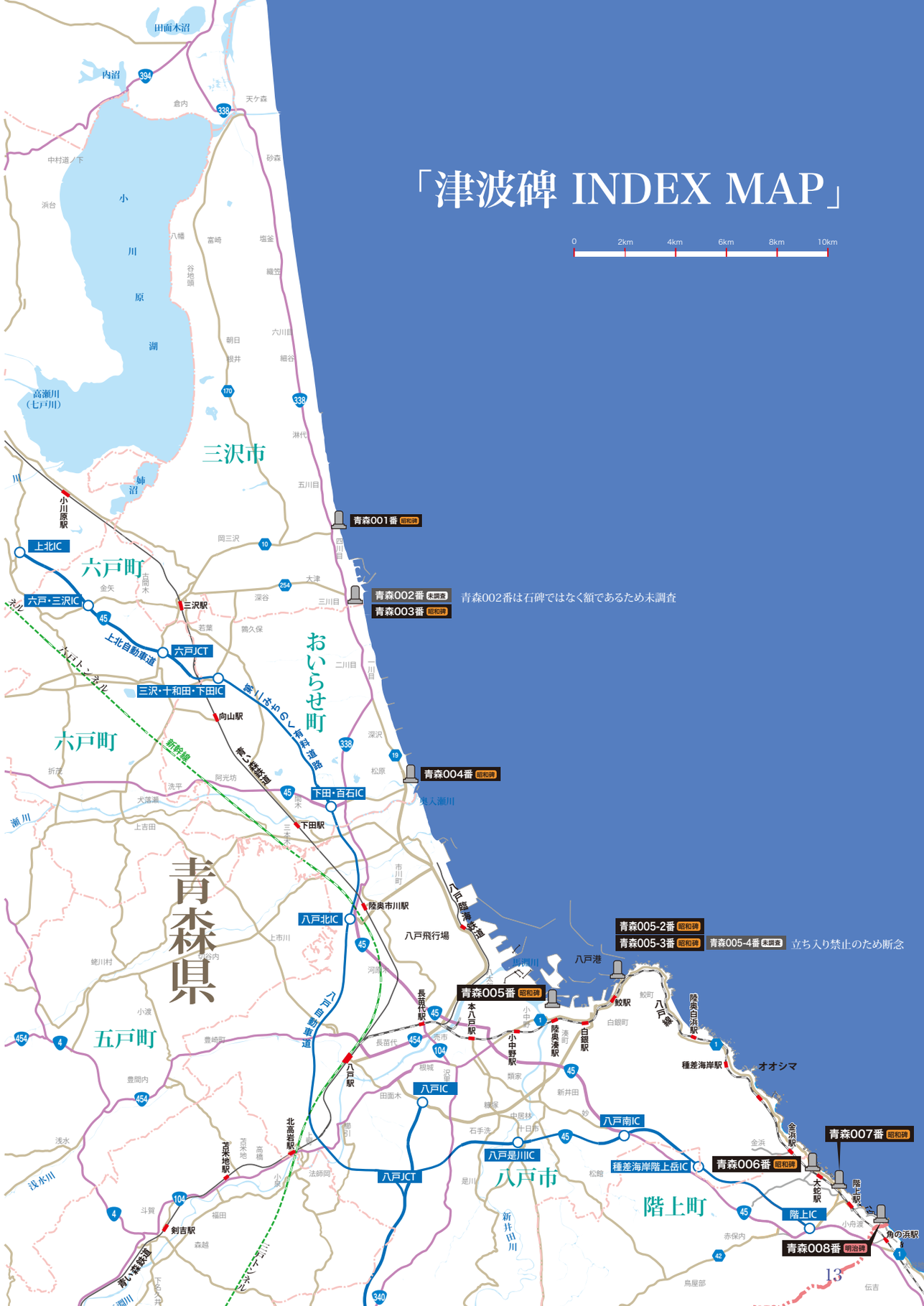
東松島市・松島町・仙台市・名取市・山元町

宮城086番 貞観の碑（碑銘読めず） 602
宮城087番 三陸海嘯　死者供養塔 604
宮城082番 震嘯記念 608
宮城083番 昭和八年三月三日 大震災記念 614

青森県

三沢市・おいらせ町・八戸市・階上町

調査対象津波碑	10基
現存碑	10基
流失碑	0基
不明碑	0基
未確認碑	1基

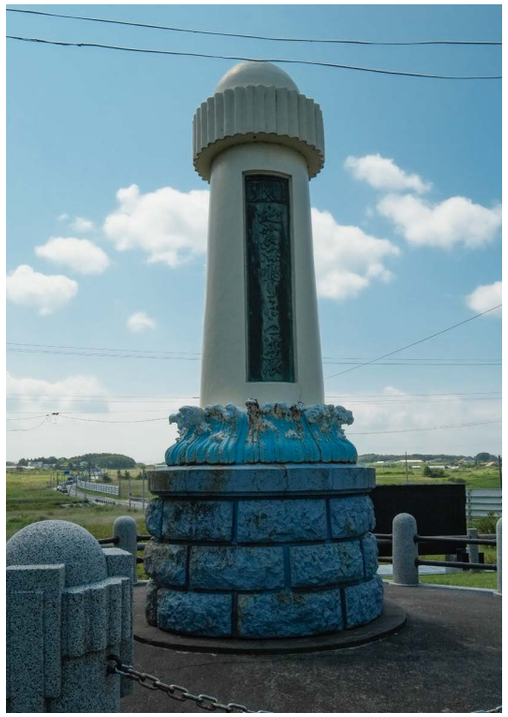


青森001番
2015/08/19

震嘯災記念（しんしょうさい）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月11日　住 所 三沢市四川目３丁目　建立場所 金比羅神社境内
碑 高 330cm　碑 幅 98cm　海 抜 10ｍ







青森県内に５基建てられた灯台型津波碑の１基で、その最北に位置する。ここは昭和三陸地震の際に津波が到達した場所である。海抜10ｍの小高い丘の上に建つ金比羅神社の境内に鎮座。というより境内の大部分をこの津波碑が占めているといっていい。海岸線までは300ｍほどあり、距離の割に海は遠く見える。東日本大震災の津波も足元まで到達している。国道338号沿いにあり、社格に合わない立派なトイレ併設の整備された駐車場がある。訪れるのには苦労しない。







経緯度 北緯40度41分56秒/東経141度25分26秒

碑文表

地震海鳴りほら津浪

碑文裏

維持昭和八年三月三日午前二時三十分四十八秒、突如として強震あり。爾後（じご）半刻にして洋上遥か大音響を聞き、閃光の発するを見るや、間髪を容れざるに海嘯（かいしょう）の襲う所となる。怒濤天空を摩（さつ）し、くだけて地上を洗う。一瞬多数の生命を奪い、財産を拉す。阿鼻叫喚（あびきょうかん）の声随所に充ち、その惨状言語に絶す事、天聴に達し、かしこくも救恤（きゅうじゅつ）の資を賜う。皇恩無窮感激に堪えず、聖旨を奉戴（ほうたい）して官民一致この間に処し、孜々（しし）としてこれが復興に努め、その方途を誤らず。全国の同情また翕然（きゅうぜん）として集まり、もって罹災民をして、よくその全きを得しめたるを喜ぶ。被害地住民は、永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。ここに東京朝日新聞社募集の義援金をもってするこの記念碑建設に当り、青森県知事多久安信、標語を記し、もって深く銘戒せしむと云爾（うんじ）。

青森003番
2013/11/24

震嘯災記念（しんしょうさい）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月11日　住　所 三沢市三川目３丁目145　建立場所 三川目公民館敷地内
碑　高 330cm　碑　幅 98cm　海　抜 13ｍ



青森県内に５基建てられた円柱型津波碑の１基。三沢市には同型の津波碑が２基建つが、昭和三陸津波の被害が多くでた地区に建てられているとのことで、四川目地区の至近に２基目が建っている。この地区では家屋が16戸流され、死者20名、重軽傷者31名の被害だった。下調べで公民館の敷地にあることは判っていたが、公民館を正面に見回すも、3mを越えるであろう大きな碑など見当たらない。まさかと思いながら、建物の裏手へと回り込むとその奥にあった。しかも、台座にボロボロに裂けたビニールシートとロープが放置されている。

先人が切なる想いを込めて建てた津波碑が、建物の陰に追いやられ、さらに、管理する気のない状態にア然とする。海岸線までは600ｍほどだが、東日本大震災の津波は、公民館の１軒手前まで押し寄せていた。この碑はその様子のすべてを見ていたに違いない。



経緯度 北緯40度40分24秒/東経141度25分53秒



津波碑は公民館の右手奥にある。正面からはまったく見えない位置にある



碑文表

地震海鳴りほら津浪

碑文裏

維持昭和八年三月三日午前二時三十分四十八秒、突如として強震あり。爾後半刻にして洋上遥か大音響を聞き、閃光の発するを見るや、間髪を容れざるに海嘯の襲う所となる。怒濤天空を摩し、くだけて地上を洗う。一瞬多数の生命を奪い、財産を拉す。阿鼻叫喚の声随所に充ち、その惨状言語に絶す事、天聴に達し、かしこくも救恤の資を賜う。皇恩無窮感激に堪えず、聖旨を奉戴して官民一致この間に処し、孜々としてこれが復興に努め、その方途を誤らず。全国の同情また翕然として集まり、もって罹災民をして、よくその全きを得しめたるを喜ぶ。被害地住民は、永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。ここに東京朝日新聞社募集の義援金をもってするこの記念碑建設に当り、青森県知事多久安信、標語を記し、もって深く銘戒せしむと云爾。

青森004番
2015/08/19

震嘯災記念（しんしょうさい）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月11日　住所 上北郡おいらせ町松原１丁目73-470
建立場所 明神山公園　碑高 330cm　碑幅 98cm　海抜 13ｍ







おいらせ町にある灯台型津波碑は町民憩いの公園の一角に建つ。ここは幕末に台場（砲台跡）だったところ。海岸線から500m離れた海抜13ｍの台地にあり、津浪碑は海に向かって住宅地を見下ろしている。奥入瀬川と明神川の河口付近で、東日本大震災の際は、水門と堤防が大きな被害を防いだようで、眼下の住宅は綺麗に残っている。公園へのアクセスはやや判りにくい。案内看板はなく、大型車ならやっとの生活道路を登ったところに公園入口があり、カーナビを使って位置を確認しながらでないと一発では辿り着かない。2015年の夏に訪れた際、公園の一角に津波避難ビルを建設中だった。５階建てほどのビルで、完成すれば県道からもよく見えランドマークになるだろう。





経緯度 北緯40度36分27秒/東経141度27分22秒

碑文表

地震海鳴りほら津浪

碑文裏

維持昭和八年三月三日午前二時三十分四十八秒、突如として強震あり。爾後半刻にして洋上遥か大音響を聞き、閃光の発するを見るや、間髪を容れざるに海嘯の襲う所となる。怒濤天空を摩し、くだけて地上を洗う。一瞬多数の生命を奪い、財産を拉す。阿鼻叫喚の声随所に充ち、その惨状言語に絶す事、天聴に達し、かしこくも救恤の資を賜う。皇恩無窮感激に堪えず、聖旨を奉戴して官民一致この間に処し、孜々としてこれが復興に努め、その方途を誤らず。全国の同情また翕然として集まり、もって罹災民をして、よくその全きを得しめたるを喜ぶ。被害地住民は、永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。ここに東京朝日新聞社募集の義援金をもってするこの記念碑建設に当り、青森県知事多久安信、標語を記し、もって深く銘戒せしむと云爾。

青森005番
2013/11/24

震嘯災記念（しんしょうさい）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月11日　住 所 八戸市湊町館鼻78　建立場所 館鼻公園
碑 高 330cm　碑 幅 98cm　海 抜 27ｍ



新井田川河口に、八戸港を見下ろす小高い丘がある。その丘に館鼻公園が造られ、展望台や見晴らし台、屋内型休憩所、子供用の遊具などが整備された立派な公園となっている。その中央に津波碑が建つ。青森県内には同型の碑が５基建てられているが、なぜかこの碑だけ、波を表した基部のペンキが施されておらず赤く錆びていた。そのため、この部分は鉄の鋳物で造られていることが判った。神社仏閣を除けば、津波碑のほとんどが津浪到達地もしくは付近に建てられており、ここのように到達点とはかけ離れた場所に建つのは珍しい。碑の裏手には海抜51ｍの展望台「グレットタワーみなと」があるので、八戸の街並みと港湾を一望されたい。

県道１号から「館鼻公園」看板に従い狭い坂道を登る





経緯度 北緯40度31分39秒/東経141度31分19秒



基部にある鋳物製の波は赤く錆びていた
他の同型碑は水色のペンキが塗られている



碑文表

地震海鳴りほら津浪

碑文裏

維持昭和八年三月三日午前二時三十分四十八秒、突如として強震あり。爾後半刻にして洋上遥か大音響を聞き、閃光の発するを見るや、間髪を容れざるに海嘯の襲う所となる。怒濤天空を摩し、くだけて地上を洗う。一瞬多数の生命を奪い、財産を拉す。阿鼻叫喚の声随所に充ち、その惨状言語に絶す事、天聴に達し、かしこくも救恤の資を賜う。皇恩無窮感激に堪えず、聖旨を奉戴して官民一致この間に処し、孜々としてこれが復興に努め、その方途を誤らず。全国の同情また翕然として集まり、もって罹災民をして、よくその全きを得しめたるを喜ぶ。被害地住民は、永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。ここに東京朝日新聞社募集の義援金をもってするこの記念碑建設に当り、青森県知事多久安信、標語を記し、もって深く銘戒せしむと云爾。



館鼻公園 / グレットタワーみなと

平成19年4月25日に完成した、高さ24.2m、展望部の海抜51.2mの観光展望台。グレット(ぐれっと)とは、南部弁で「全部」という意味。展望室からは八戸の海や街並みが全部(ぐれっと)見渡せるということから命名されています。

■利用時間：夏季(4～9月)9：00～21：00、冬季(10～3月)9：00～19：00
■休館日：毎週月曜日(祝祭日の場合は翌日)
■入館料：無料
■問い合わせ：八戸市公園緑地課　0178-43-2111　内線343







青森005-2番 津浪　昭和八・三・三

2014/05/05



碑文表

津浪 昭和八・三・三

ウミネコの繁殖地で有名な蕪島に津波碑が２基ある。ひとつはこの自然石に刻みを入れた石碑。蕪島神社へ登る石段脇に建つ「八戸小唄」碑の右足元にある。草花に隠れているため、よく見ないとその存在は判らない。この碑は昭和三陸地震津波の到達を示すラインが刻まれている。東日本大震災ではこのラインを優に超えたと思われるが、この碑は流されずに済んだ。



対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 八戸市鮫町鮫56　建立場所 蕪島の斜面

碑　高 80cm　碑　幅 40cm　海　抜 3m

青森005-3番 海嘯（かいしょう）記念碑

2014/05/05



碑銘表

海嘯記念碑

蕪島には、前述の津波の到達波高を示した石碑とは別に、船のスクリューの１枚を突き立てた、とても珍しい形状の津波碑が神社境内の奥にある。昭和三陸地震津波が発生した際、港に停泊していた商船が流され座礁。その船のスクリューをこのように記念碑として建てたとのこと。真っ赤に錆びた鉄の板は何のために建っているのか？参拝者のほとんどは気にも留めていない様子。石の台座は残るが、あと数十年でスクリューは朽ち果ててるだろう。ウミネコの糞まみれ神社として参拝者が絶えないが、津浪記念碑もまた面白し。なお、この神社ではウミネコの糞害に遭うと、「神様のお使いウミネコに幸ウンを授かった」として会運証明書が貰える。



経緯度 北緯40度32分17秒/東経141度33分28秒

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年11月　住　所 八戸市鮫町鮫56　建立場所 蕪島神社境内

碑　高 225cm　碑　幅 95cm　海　抜 16m

青森006番
2014/05/05

海嘯記念碑（かいしょう）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年７月31日　住所 三戸郡階上町道仏大蛇30-1
建立場所 大蛇小学校校庭東端　碑高 242cm　碑幅 99cm　海抜 12ｍ



碑銘表

海嘯記念碑

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分強震あり。約四十分を経て大海嘯襲来し、家屋納屋漁船漁具魚粕等、或いは倒壊、或いは流失、死者負傷者多数を出すに至れり。その惨状と損害たるや言筆に尽くし難し。顧りみるに明治二十九年六月十五日三陸大海嘯の際も甚大なる損害ありしが、今年更に大なる損害を被れり。住民たるもの深く銘記して、将来の対策を構ぜざるべからず。すなわち、これを永遠に記念せんがために、村民相計りて、ここにこの碑を建てたり。然してこの報天聴に達するや長くも御救恤（ぎゅうじゅつ）金を賜わり、勅使御差遣わせらるる等、皇恩の大なるに村民一同感激泣せり。全国の同情もまた多大にして、義援金食料品慰問物等、続々来たり。殊に陸海軍部においては率先して被服寝具類を急贈し、県並びに国においても直ちに応急対策を施し、村を指導して一日も早く復旧せんことを図れり。その後、着々復旧の途に就くを得たるは、主としてこの広大なる恩義によるものと言わざるべからず。村民は子々孫々に伝えて海嘯の難を恐れるとともに、この高恩を永代に忘るべからず。今碑を建つるに当り、ためにその梗概を誌す。　昭和八年七月三十一日　階上村建立



小学校の校庭に建っていることを承知しており、堂々とグラウンド内に立ち入るのは憚（はばか）れるため、休校日の５月５日に訪れることにした。クルマを学校内の駐車場に停め、休校といえども、恐縮しながらグラウンドの縁伝いに歩を進めて津波碑と対面。高さ２ｍ越えの立派な石碑が海を背に立っている。碑銘は校舎を正面にする。子供達をしっかり見つめていると思った。

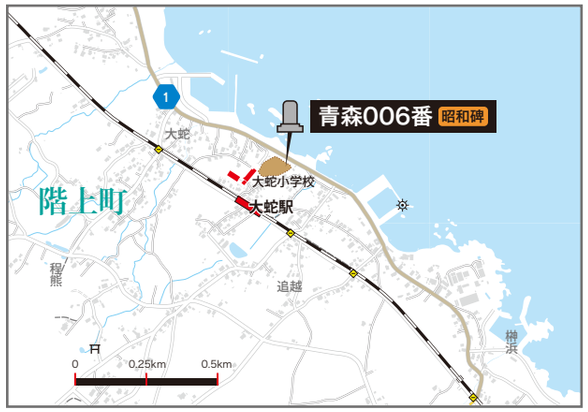
さらに目に止まったのが、碑の背面にあるフェンス。ちょうど津波碑のところで出入りできるように切れている。つまり、グラウンドに立ち入らなくても、道路から碑へ直接アクセスできるようになっていたのである。この心憎い配慮により、いかに津波碑を大事に扱っているのかが伺い知れた。そのことは、碑の背面に刻まれている文面を読めばさらに理解が深まる。昭和津波の碑については朝日新聞社の指導によるものが多い。しかし、この碑は違う。碑の建立は村民の総意によるもので、かつ、災害救援に対する恩義と海嘯の難を恐れるようにと子々孫々に伝え、この高恩は永代忘るべからず、とハッキリ刻まれている。しかも、建立は海嘯からわずか４ヶ月後のことである。読み易く手を入れているので、ぜひ、次項の原文を読んでも貰いたい。なお、津波碑の眼下に背の低い防波堤があり、この小学校の生徒たちが描いた海の絵が微笑ましかった。



U字溝沿いに登れば津波碑の横に出る



経緯度 北緯40度28分７秒/東経141度39分７秒



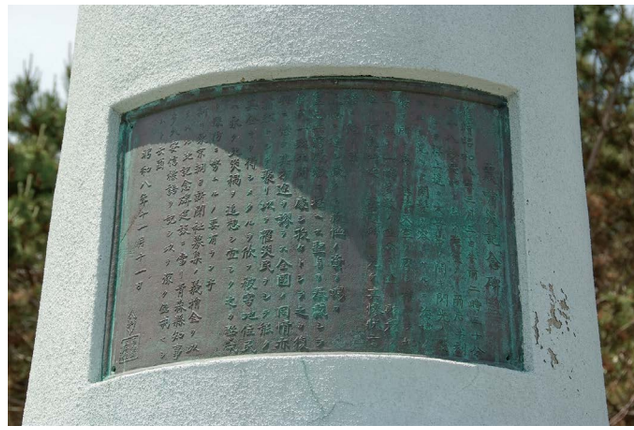
青森007番
2011/07/06

震嘯災記念（しんしょうさい）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月11日　住 所 三戸郡階上町道仏榊山8-29　建立場所 海岸線高台
碑 高 330cm　碑 幅 98cm　海 抜 14ｍ







階上町の観光ガイドにも掲載されている灯台型津波碑。青森県内に建てられた同型碑の最南端となる。表の碑文「地震海鳴りほら津浪」は、朝日新聞社による一般公募で選ばれた防災標語。このように標語まで公募し石碑を建て、防災意識の向上に努めたのだが、平成の世まで伝わりきらなかったようで実に残念。この碑を眺めていると強くそのことを痛感した。この津波碑だが、幹線である県道１号より海側を通る一般道沿いの小高い台地にある。県道との分岐は非常に狭い道のためにやや不安。地図やカーナビを確認しながら進んでもらいたい。



県道沿いに高台への登り口あり



経緯度 北緯40度27分36秒/東経141度39分53秒

碑文表

地震海鳴りほら津浪

碑文裏

維持昭和八年三月三日午前二時三十分四十八秒、突如として強震あり。爾後半刻にして洋上遥か大音響を聞き、閃光の発するを見るや、間髪を容れざるに海嘯の襲う所となる。怒濤天空を摩し、くだけて地上を洗う。一瞬多数の生命を奪い、財産を拉す。阿鼻叫喚の声随所に充ち、その惨状言語に絶す事、天聴に達し、かしこくも救恤の資を賜う。皇恩無窮感激に堪えず、聖旨を奉戴して官民一致この間に処し、孜々としてこれが復興に努め、その方途を誤らず。全国の同情また翕然として集まり、もって罹災民をして、よくその全きを得しめたるを喜ぶ。被害地住民は、永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。ここに東京朝日新聞社募集の義援金をもってするこの記念碑建設に当り、青森県知事多久安信、標語を記し、もって深く銘戒せしむと云爾。

青森008番
2015/08/19

海嘯死亡者之碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 三戸郡階上町道仏廿一2-35　建立場所 赤岩観音境内
碑高 133cm　碑幅 80cm　海抜 10ｍ



この津波碑は、この地域における明治の津波による死亡者の名前を刻んだ慰霊碑である。背面に22名の名前があるが、世帯主の氏名とその母であるとか妻、長男、四女などのように、続柄まで記載されている。つまり、家族そっくり亡くなっている世帯があることを示す。それは家屋の立地のためであろう。明治の津波は夜間に襲来している。このことが被害を拡大させた要因だが、東日本大震災では日中の襲来にもかかわらず、明治の津波と同様の犠牲者が出た。もしも、今回も夜間であったらどれほどの被害になったのであろうか。なお、津波碑の傍らに黒御影石の石碑がある。古い津波碑の背面に刻まれている碑文を読みやすく表記しており、平成23年11月に建立とある。階上町により設置されたものだが、津波碑に対する丁重な扱いに感心した。なお、この碑がある赤岩観音は住宅地の奥にあり、生活道路を抜けたところでやや判りにくい。



経緯度 北緯40度27分9秒/東経141度40分47秒

碑銘表

海嘯死亡者之碑

小幡茂義書





赤岩観音は、この赤い御堂がなければ個人宅のお花畑にしか見えない。しかし、よほど風が強いのか、テントのような張り綱が目につく



階上町は県境の町である。目と鼻の先に建つ白亜の灯台は階上灯台。その先は岩手県である。海沿いに気持ちの良い遊歩道が続く。時間があれば立ち寄ってもらいたい。

岩手県

洋野町・久慈市・野田村

調査対象津波碑	19基
現存碑	19基
流失碑	0基
不明碑	0基
未確認碑	0基



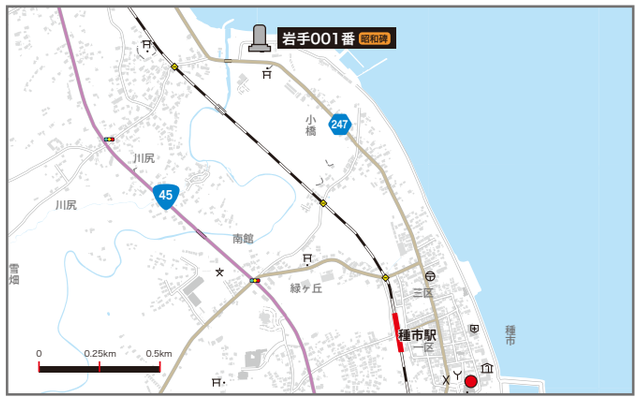
岩手001番
2015/05/05

不慮の津浪に不断の注意

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年12月　住所 九戸郡洋野町種市　建立場所 海岸至近の野原
碑高 146cm　碑幅 60cm　海抜 4m



岩手県に入り第１号目の津波碑。これがまた、いきなり摩訶不思議な光景を見せられる。巨大な防潮堤の傍らに広がる野っぱらの真ん中に、ポツンと忘れられたかのごとく石碑が立っている。「なぜ？」という言葉しか浮かばない。調べてみると、以前は防潮林の中に津波碑が建っていたようだが、これを伐採し防潮堤を築造したとのこと。であれば、なにも放置したかのごとく野原の只中に残さずとも、移設し小公園を造るなり、何らかの施しがあってもよさそうなのだが、このような有様である。これは「無視」という扱いであろう。さらに不思議なのは、津波碑の基部のさらに下に自然石があること。それが地中に半分埋まった状態になっている。しかも、この石には文言が掘られ墨入れがされているが、半分は土の中。おそらく、この野原は津波碑建立の後に造成されたのだろう。まったく慈悲というものがない扱いである。



経緯度 北緯40度25分15秒/東経141度42分31秒





碑文表

昭和八年三月三日

不慮の津浪に不断の注意

午前三時二分

碑文裏

この碑は、東京朝日新聞社読者から寄託された義援金で同社が各町村に分配した残余をもって建設したるものである。

死亡者
眞角福太郎　三十歳
金澤熊蔵　三十歳
信田直三郎　二十歳
草場松蔵　十八歳
前野松次郎　十八歳

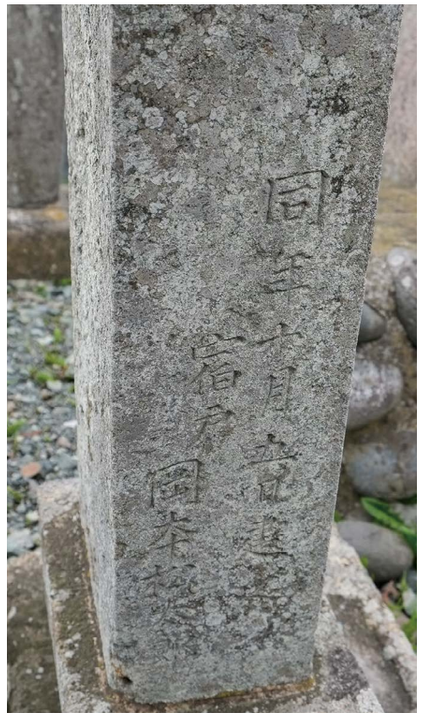
川尻流失　八戸
九戸郡種市村
昭和九年十二建立

岩手002番
2014/05/05

大海嘯罹災者招魂碑（だいかいしょうりさいしゃしょうこんひ）

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年10月5日　住所 九戸郡洋野町種市第7地割130−1
建立場所 共同墓地　碑高 61cm　碑幅 28cm　海抜 15m







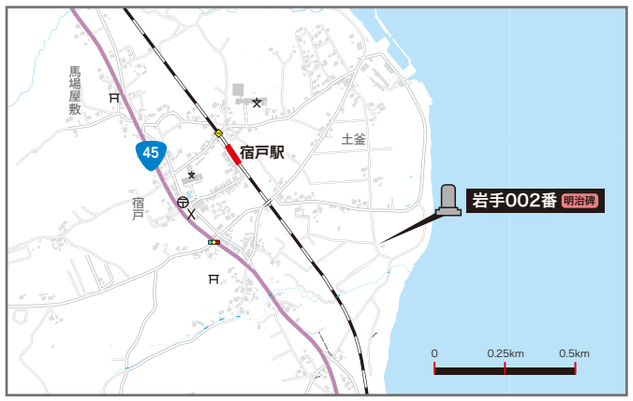


碑文右側面
明治廿九年旧五月五日
爲海嘯罹災老幼男女

碑銘表
大海嘯
罹災者　招魂碑

碑文左側面
同年十月五日建立
宿戸　岡本松太郎

この津波碑は、「宿戸（しゅくのへ）」と「共同墓地」という情報しかなく、Googleマップの航空写真から墓地を特定し現地を訪れた。墓地内の津波碑捜索はイヤなもの。なにせ石碑だらけなので。ところが幸いにも、墓地入口の左手に鎮座する小さな津波碑を早々に発見できた。はじめは大きな赤茶けた石碑かと思ったが、碑銘に「無逢搭」と刻まれていたため違うと判る。ふとその足元に目をやると、背の低い石碑に「大海嘯」の文字を認め、短時間の捜索と相成った。これは幸運と言わずして何というか、とばかりに大喜び。苦労すると思ってかかるとこんなもの。岡本氏という個人が建てた慰霊タイプの津波碑だが、この土地の有力者だったのだろうか。個人の建立は、親族や身内の慰霊目的であることが大半だが、この碑は被災者全般に対する慰霊となっている。立派な人柄であることが想像された。



経緯度 北緯40度21分47秒/東経141度45分10秒

岩手003番
2014/05/05

地震に気を緊め津浪に避難

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年12月　住　所 九戸郡洋野町種市第３地割48−6
建立場所 海岸線沿道　碑　高 124cm　碑　幅 92cm　海　抜 11　m







碑文裏

この碑は、東京朝日新聞社読者から寄託された義援金で、同社が各町村に分配した残余をもって建設したるものである

死亡者　二十二人
大濱　流失　八戸
昭和九年十二月建立

碑文表

昭和八年三月三日
地震に気を緊め
津浪に避難
午前二時五十五分

この碑が建てられたときは、集落を繋ぐ幹線街道だったようだが、現在はその脇を国道45号が通り、地元民の生活道路となっている。この人通りの少ない沿道から静かに海を見つめている。朝日新聞社による義援金をもって建てられた碑で、表には旭日旗があしらわれている。碑の背面には熊笹が生い茂り、足元にも雑草があるが、綺麗に刈り取られており、人の手により守られていることがはっきりと判る。建立した先人の想いが、今でもしっかり受け継がれているようで、胸が熱くなった。



経緯度 北緯40度21分10秒/東経141度45分23秒



岩手004番
2014/05/05

二十三回忌

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 大正7年5月5日/昭和9年旧2月8日　住所 九戸郡洋野町種市第3地割66-17　建立場所 共同墓地入口　碑高 160cm　碑幅 58cm　海抜 13m







八木港を見下ろす共同墓地の入口海側に、墓の番人のように2基の石碑が建っている。その左手が津波碑である。裏表にびっしりと碑文が刻まれている。震災が発生したときの様子と被害状況、そして死亡の氏名と戒名が。建立は明治三陸地震津波から23年後の大正7年5月5日。表は明治三陸地震津波について記されているが、裏面（海側）には昭和三陸地震津波に記述である。ということは、建立当初は表面にのみ碑文が刻まれていたものに、後日、昭和津波の記述を追加したということになる。これは数ある津波碑の中でも、極めて異例な碑といえる。通常であれば、隣に新しく建てるものが一般的。個人が建てたということもあり、とても合理的な発想である。なお、眼下に見える港湾施設は何事もなかったかのごとく復旧しているが、一般家屋は1軒もなし。



経緯度 北緯40度21分00秒/東経141度45分46秒

碑文表

忌回三十二

地区と死亡者の戒名

明治二十九年旧五月五日午後八時強震鳴動あり。俄然海嘯襲来せり。その当時、八木部落の戸数は三十三戸、人口二百三十二人あり。流出せし戸数二十七戸、流出を免れたるは僅かに六尺、また流出人員百二十三、生存せし者百九名。海嘯は八木川字上河原鐵糞畑地に達し、多数の家屋船舶の破片は漂着したり。今後もし強震鳴動あるか、井水海水不時に差引するが如き異状ある場合は、油断なく高所に避難せられんことを生存者古老の実話を聞き、後年の注意まで、ここに記録す。

寄付金の詳細

碑文裏

死亡者の氏名と享年

昭和八年三月三日午前二時半強震あり。区民皆驚愕して離床警戒せるも、異状無かりしため再び寝に就きしに、午前三時五分、俄然大海嘯襲来、堀込畑まで浸水、多数の人命を損じたり。今八木区の被害を調査せるに、漁舟三十三隻、発動機船六隻、死傷六十四名、流水家屋四十戸、その他倉庫耕地等の損害甚大を極めたり。よって今後強震に際しては、必ず津浪の襲来を予想して警戒の要するを後世の人士に告ぐ。明治二十九年旧五月五日午後八時の大海嘯は、強震と同時に襲来せり。今後強震ありたる時は、必ず高所に避難すべし

岩手005番
2014/05/05

想へ慘禍の三月三日

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年12月　住　所 九戸郡洋野町種市第１地割　建立場所 県道沿いの松林内
碑　高 255cm　碑　幅 123cm　海　抜 5ｍ







八木港に面する県道沿いの松林の中にある。これも朝日新聞社による義援金により建てられた碑だが、碑銘が独特。他の津波碑は防災標語的な文言が多いのだが、この碑は震災に対する悔しさが滲み出ている。裏面にはこの地区で亡くなった人数を91名と刻んでおり、一集落としてはかなり大きな被害である。碑銘の９文字に込められた想いは、非常に重たいものと感じる。なお、付近の住宅には、東日本大震災による大きな被害は見受けられなかった。標高５mと低地ながら、漁港の防波堤が津波のエネルギーを下げたのだろうか。１階の浸水程度で済んだようである。



経緯度 北緯40度20分51秒/東経141度45分47秒

碑文表

昭和八年三月三日
想へ慘禍の三月三日
午前二時五十二分

碑文裏

この碑は、東京朝日新聞社読者から寄託された義援金を、同社が各町村に分配した残余をもって建設したるものである

死亡者　九十一人
八木　流失　三十七戸
昭和九年十二月建立

岩手006番
2014/05/05

頌徳碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和11年旧3月3日　住所 九戸郡洋野町小子内第４地割1
建立場所 一般路沿道　碑高 154cm　碑幅 78cm　海抜 6m



碑文表

【漢文にて記載】
高見松太郎氏の人生と地域貢献についての説明



碑文裏

津浪注意
明治二十九年旧五月五日午后八時
高浪六十尺溺死者七十余名

昭和八年三月三日午前三時半
高浪三十尺死者小子内於八木六名

地震長きは津浪と思へ

昭和十一年旧三月三日建立

岩手007番
2014/05/05

弐陸津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 九戸郡洋野町小子内第４地割1
建立場所 一般路沿道　碑高 244cm　碑幅 107cm　海抜 6m

ここには２基の石碑が建っている。向かって左の碑は、高見松太郎という人物の顕彰碑で、背面に明治と昭和の津波被害について記述されている。碑が建つくらいなので、地域の名士だったのだろう。災害が起きても率先して復旧・復興に努めたとのこと。また、右隣には、朝日新聞社の義援金による警鐘タイプの津波碑が並ぶ。現在は、往来のある沿道に建っているが、当初は別々の場所にあったようで、時期は不明ながら揃って移設されたとのこと。

碑文表

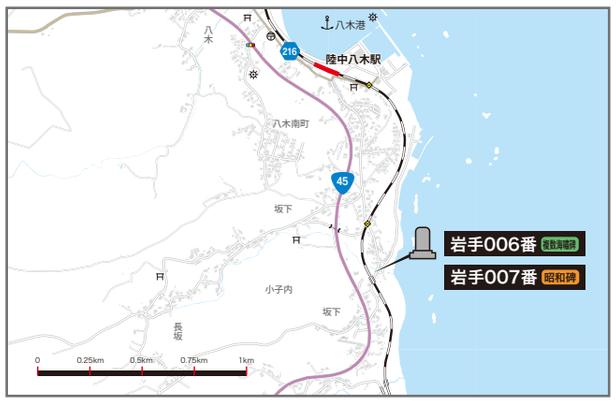
陸弐
碑念記浪津

一、地震があったら津浪の用心
一、津浪が来たなら高い所へ
一、あぶない所に家を建てるな

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分強震があり。続いて三時津浪に襲われた。これがため、本村では死者六名、家屋の流失倒壊六戸を出し、漁船漁具その他の被害もまた甚大であった。碑は東京朝日新聞読者から寄託された義援金を同社が各町村に分配した残余をもって建設したるものである。





経緯度 北緯40度20分12秒/東経141度46分9秒











洋野町立種市歴史民俗資料館

洋野町といえば南部潜りである。南部潜りとはNHKの朝ドラ「あまちゃん」にも登場した、潜水士（ダイバー）のことである。主な仕事は、サルベージ、港湾土木、橋梁工事、海洋調査、水産業関連などに於ける水中作業。幕藩時代、この地方が八戸南部藩だったことから、南部潜りと呼ばれるようになった。現在、町内にある県立種市高校には、潜水士の資格が取得できるという、全国唯一の海洋開発科があることで知られる。このように、洋野町は海に非常に関連が深いことから、主に海洋に関連した展示の民俗資料館がある。図書館の2階にある展示室は入館無料だが、お世辞にも素晴らしいとはいえない簡素な展示室だが、その中で、わずかではあるが津波碑に関する展示も見受けられる。

■住所：九戸郡洋野町種市23-27-1
■電話番号：0194-65-3943
■入館料：無料
■開館時間：9:00 ～ 18:00（土日17:00）
■定休日：水曜日、祝祭日



津波に関する展示コーナー

岩手008番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住　所 久慈市侍浜町麦生第３地割29
建立場所 麦生農村センター入口脇　碑　高 95cm　碑　幅 93cm　海　抜 90ｍ







ほぼ正方形の可愛らしい津波碑である。表にはまるで文学詩碑に使われるような字体で、津波被災に打ち勝つ気負いを謳った文言が刻まれる。反対に、裏面には几帳面な楷書体で義援金の額や被災の内容とその損害額が記されている。表面は被災者に対する慰霊の念を唱え、裏面には後世に伝える史料としての役割を持った津波碑である。現代のようにデジタルデータとして蓄積できる時代なら不要かもしれないが、この時代ならではのデータベース保存法なのだろう。



経緯度 北緯40度13分31秒/東経141度49分32秒

碑文表

昭和津浪記念碑

大津浪くぐ里て
めげぬ雄心もて
いざ追い進み
参い上らまし

英彦

碑文裏

昭和八年三月三日海嘯記録
御下賜金
左記死者　遺族拝受す　〜　三名の氏名
各宮家御救恤金
村内罹災民拝受
縣県扱義捐援金配當当千七百三十円
村扱義捐援金千百二十円
村内に於ける被害左の如し
船曳揚十一ヶ所　納屋四十七棟
漁船百六十九艘
此被害見積額　九萬円
港湾復旧費　二萬四百五十円
復旧事業費
漁業復旧費　四萬八千三百六十円
昭和九年三月三日　岩手県九戸郡侍浜村役場

碑文の「英彦」とは、当時の岩手県知事「石黒英彦」のことで、知事の書が刻まれている

岩手009番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住　所 久慈市侍浜町横沼第６地割
建立場所 建立場所　碑　高 100cm　碑　幅 92cm　海　抜 89ｍ







碑文表

昭和八年
津浪記念碑

大津浪くぐ里て
めげぬ雄心もて
いざ追い進み
参い上らまし

英彦

碑文裏

昭和八年三月三日海嘯記録
御下賜金
左記死者　遺族拝受す　〜　三名の氏名
各宮家御救恤金
村内罹災民拝受
縣県扱義捐援金配當当千七百三十円
村扱義捐援金千百二十円
村内に於ける被害左の如し
船曳揚十一ヶ所　納屋四十七棟
漁船百六十九艘
此被害見積額　九萬円
港湾復旧費　二萬四百五十円
復旧事業費
漁業復旧費　四萬八千三百六十円
昭和九年三月三日　岩手県九戸郡侍浜村役場

前述の麦生農村センターにある津波碑の姉妹碑である。サイズは若干異なるが、形状と碑文はまったく同じ。ただ、この碑を見つけるのは難儀した。まず、参考にした東北整備局の地図は誤りで別の場所が記載されていた。さらに、写真を見ての通り、県道から一本外れた農道の法面（斜面）に隠れるように建っている。走行中のクルマからはまず見えない。クルマを道路脇に停め歩いて探し、奇跡的に見つけた次第。ランドマークになるものはまったくなし。マップのピンは正確に落とすので、経緯度値を入力したナビを頼りに訪れてもらいたい。





経緯度 北緯40度15分24秒/東経141度48分53秒

碑文の「英彦」とは、当時の岩手県知事「石黒英彦」のことで、知事の書が刻まれている　51

「久慈市中心市街地」

久慈市

久慈湾

岩手010番 昭和碑
岩手011番 明治碑
岩手012番 復旧海嘯碑
岩手013番 復旧海嘯碑
岩手014番 昭和碑
岩手015番 昭和碑

陸中夏井駅
久慈駅
久慈市役所

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

岩手010番
2014/05/05

海嘯紀念碑（かいしょう）

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年１月３日　住所 久慈市夏井町大崎第８地割
建立場所 国道下沿道　碑高 235cm　碑幅 130cm　海抜 6ｍ







背面・碑文なし

東北整備局の資料には国道脇と記載があり、国道を走行しながら探すも見当たらず。この頃、すでに資料としている一覧表の記載は、あくまでも地図上での話、と気付いていたため、国道脇ではなく、国道に平行する一般道沿いだろうと判断。住宅地へ通じる脇道へ進むとすぐに発見。国道脇であることは間違いないが、国道からアクセスはできないのである。津浪碑探しのコツを掴みつつあった。その津浪碑であるが、大きく立派な構えで威風堂々としている。碑銘の下に細かな文字でびっしりと碑文が彫られており、拓本でもを取らないと容易には読めない。碑は当時の夏井村が建てたが、大湊徳太郎氏の土地を借りており、その費用は永遠に無料と最後に記されている。粋な人物だったと想像され、笑みがこぼれた。



経緯度 北緯40度12分41秒/東経141度47分27秒

碑銘表

海嘯紀念碑

碑文

碑文下部 要約

時維昭和八年三月三日午前二時四十八分、偶々震天の強震あり。とっさに人々は明治の海嘯を思い出した。すぐに海嘯襲来し、海岸一帯の漁舎漁具流失するも、不幸中の幸いにして、人家流失一、溺死者一名にとどまる。災後において、全国から支援、義援を預かり復興の第一歩を踏み出し、これひとえに各位の賜物と本村は感激している。ここに記念碑を建て永くこれを伝える。

九戸郡夏井村
地主　大湊　徳次郎　永遠無料



岩手011番
2014/05/05

海嘯溺死者紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 久慈市湊町第13地割75
建立場所 長寿庵参道石段沿い　碑高 275cm　碑幅 95cm　海抜 17m



長寿庵という寺院の参道石段傍らに、地蔵尊と共に建てられている。碑文は見当たらず碑銘のみだが、線香やろうそくをあげる台があり慰霊のための石碑であることが判る。明治地震津波の慰霊碑であることから、相応に古いものと推察するが、碑銘には遠くない過去に墨を入れた形跡がある。大切に守られていることが伺える。なお、駐車場がないために大きなクルマでの訪問には要注意。※保証はできないが、軽自動車か小型車なら、踏切周辺に短時間であれば置けるスペースはある。

経緯度 北緯40度12分12秒/東経141度47分33秒

碑銘表



背面・碑文なし





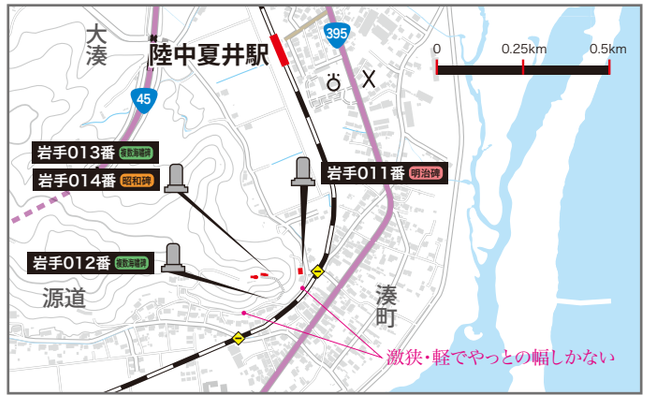
岩手012番
2014/05/05

津波記念碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和46年5月　住所 久慈市源道第13地割70
建立場所 金刀毘羅神社神社参道口　碑高 122cm　碑幅 327cm　海抜 15m



前頁の長寿庵からほど近いところにある金刀毘羅神社には3基の津浪碑がある。まず1基目は、参道口左手のかなり大型の碑。これは昭和46年に竣工した防潮堤の完成記念碑ともいえるもので、裏面には過去の津浪の記録と慰霊の念が刻まれている、らしい。というのは、写真をご覧の通り、石碑は擁壁の直近にあり碑文を読むことはほぼ不可能。碑文が刻まれているなら、きちんと読めるように配慮すべきだろう。建てた意味が半減する。なお、金刀毘羅神社の鳥居前にはクルマ1～2台が駐められるスペースがあるが、そもそもここまで来る道路が激狭。軽自動車でも脱輪覚悟という幅しかない。運転に自信がない人はクルマでの来訪はやめたほうがよいだろう。



経緯度 北緯40度12分10秒/東経141度47分31秒



碑銘表

津波記念碑

岩手県知事　千田正書

碑文裏

自然界における災害のなかで、津波ほど悲惨なものはない。過去において当市に襲来した記録は十八回に及び、特に明治二十九年、昭和八年は死者総数五百三十八人、負傷者二百六十七人、家屋流失百八十五戸を数え想起するだに慄然たるものがある。

市は悲惨なる災害から市民を護るため昭和三十八年防浪堤を構築した。

しかしながら、かくの如き津浪犠牲にならられた方々の慰霊の碑の無きことを遺憾とせられた兼田忠二郎氏等の発願により慰霊碑を建立することになった。

われわれは殉難者の重を慰めると共に宿命的な惨事を再び繰り返えさぬことを祈念してやまないものである。

昭和四十六年五月

久慈市長　山内　堯文

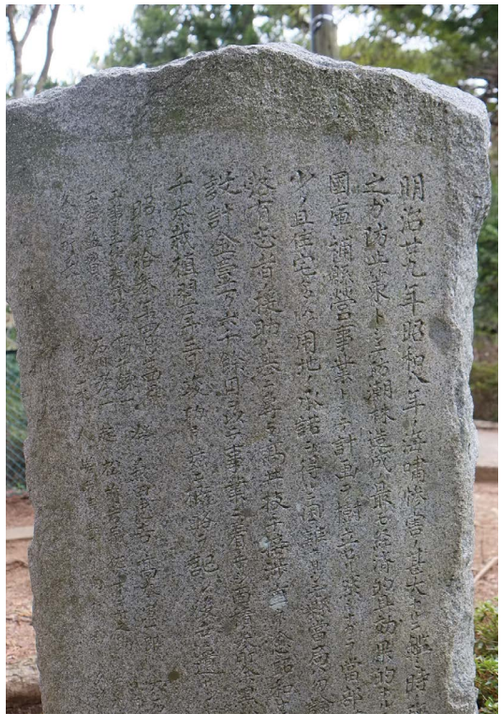
岩手013番
2014/05/05

防潮林記念碑

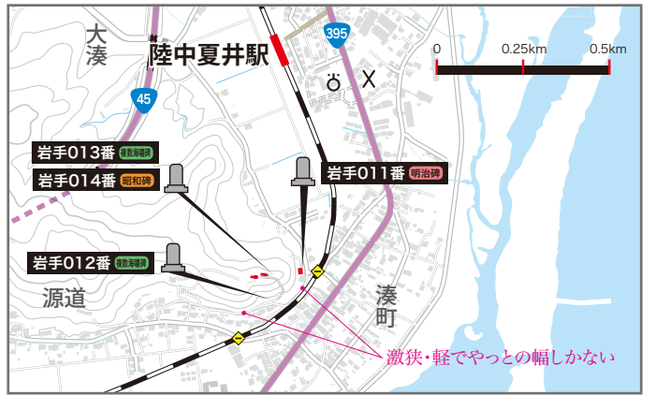
対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和13年4月14日　住所 久慈市源道第13地割90
建立場所 金刀毘羅神社神社境内　碑高 108cm　碑幅 60cm　海抜 42m







金刀毘羅神社の境内には２基の津波碑が並んで建つ。しかし、その境内というのが海抜42mの丘の上にある。参道口から急傾斜の石段を高低差にして27m、159段を登らなければならない。普段運動不足の人には苦行である。まず１基目の碑は防潮林記念碑である。津波対策に施工した防潮林の完成記念碑で、直接、震災を祈念したり慰霊する碑ではないが、裏面に過去の津波による甚大な被害の元、時の政府が防潮林事業を認めた経緯と、工事関係者の役職と氏名が刻まれている。



経緯度 北緯40度12分12秒/東経141度47分29秒

碑文表

昭和拾参年参月竣工
防潮林記念碑
湊部落発起者建之

碑文裏

明治二十九年、昭和八年の海嘯惨害の甚大なるに鑑み、時の政府はこれが防止策として防潮林造成の最も経済的かつ効果的なるを認め、国庫補県営事業として計画を樹立せり。しかしながら当部落は耕地少なくかつ住家多く、用地の承諾を得るに困難なりしも、県当局は勿論、町並びに部落有志者の援助の基に専ら高井技手接渉の重ね、いよいよ昭和十二年十月設計金一万六千余円をもって事業に着手し、面積三町余里、黒松二万三千本栽植、翌年三月竣工せり。ここに概略を記し、後世に遺さんとす。

工事関係者の氏名十名を記載



159段の直登階段は見ただけで心臓に悪い。中間に踊り場が１カ所ある

金刀毘羅神社

金比羅神社の境内の様子





金比羅神社からは、久慈の街並みと久慈川河口が望める

岩手14番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

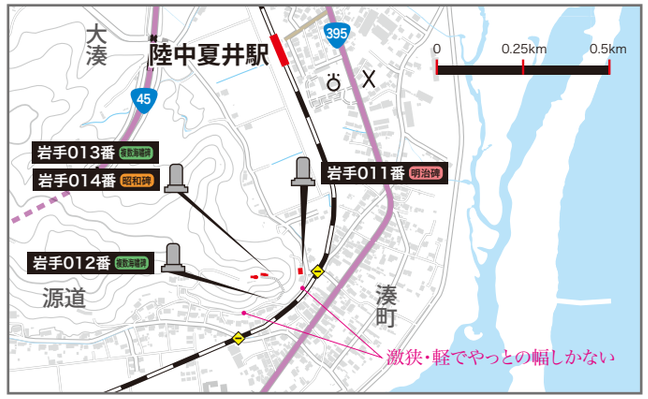
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年10月17日　住所 久慈市源道第13地割90
建立場所 金刀毘羅神社境内　碑高 154cm　碑幅 65cm　海抜 42ｍ







金刀毘羅神社の３基目は、朝日新聞社の義援金にて建てられた津浪碑である。前述の侍浜町にある津浪碑の碑文と同じ詩が刻まれている。右肩に丸みを帯びた形状の石に、文学碑のごとく流れるような字体で掘られている。当寺の岩手県知事、石黒英彦氏の書で、実に達筆である。また、背面にはこの碑を建てた経緯が細かな字でびっしりと刻まれている。この金刀毘羅神社境内は海抜42ｍの高さにあり、眼下に久慈港と被災を免れた住宅を見下ろすことができるが、久慈川の対岸は荒涼とした大地がむき出しになっており、津波の爪痕を一望にすることができる。復興が成ったときは、再度この場所から眺望したいと思う。なお、この境内は津波発生時の避難場所に指定されているが、狭いアクセス道路に急勾配の直登階段と、避難場所には条件が厳しいところだろうか。



経緯度 北緯40度12分12秒/東経141度47分29秒

碑文表

昭和八年津浪記念碑

大津浪くぐりてめげぬ雄
心持ていざ追い進み参
い上らまし　英彦

碑文の「英彦」とは、当時の岩手県知事「石黒英彦」のことで、知事の書が刻まれている

碑文裏

維時昭和八年三月三日暁二時半、俄然激震起り。海嘯轟然前の海嘯に体験せる部落民海嘯襲来なるを直観し、避難するを得たり。直に救援出動隊厳島艦慰問の来港を見る。明治二十九年の三陸大海嘯に比し人畜の被害僅少なれど、船舶粉砕、納屋流失の被害また少からず。今被害の対照を下に記す。被害の趣、畏くも天聴達するや御内帑金を賜わり、親しく大金侍従を御差遣あらせられ、三月十日湊小学校において優渥なる誓旨の御伝達を賜う。集う部落民惶懼感泣す。ほか宮家よりの御慰問金あり。もって大国旗に替え、毎年三月三日二掲揚し、永く記念するものなり。

東京朝日新聞社の以寄贈　昭和九年十月十七日
建立之碑

明治と昭和海嘯の被害対比を記載

岩手015番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和11年3月3日　住所 久慈市長内町第35地割
建立場所 一般道路路傍　碑高 210cm　碑幅 100cm　海抜 6m







碑文裏

津浪記念碑

噫（ああ）昭和八年三月三日午前二時半、俄然激浪とともに津浪の襲来に遇い、全漁村の被害甚大にして溺死者十名、負傷者五名、損害額十二万円。畏くも叡聞に達し、本村の邊陬にまで侍従を御派遣、慰恤あらせらる。誠に感銘に堪えず、また全国の同情また歙然として集るに、また村民奮励努力以て災後の復興を誓う。

朝日新聞社の同情義捐金により建設
昭和十一年三月三日　長内村長　中村芳樹
小田天山書

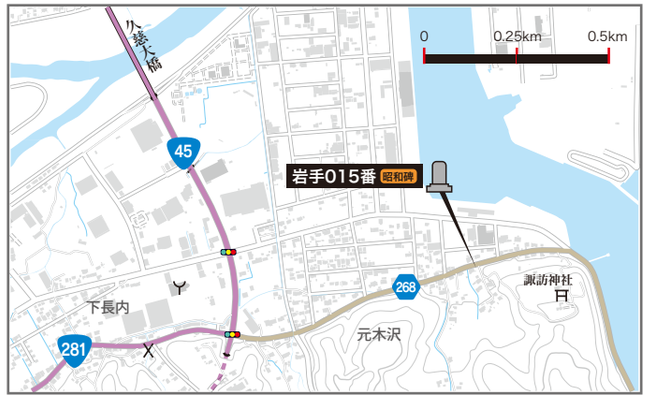
碑文表

昭和八年津浪記念碑
大津浪くぐりてめげぬ雄心
もていざ追い進み参い
上らまし

英彦

碑文の「英彦」とは、当時の岩手県知事「石黒英彦」のことで、知事の書が刻まれている

久慈港を見下ろす諏訪神社の参道口、桜の木の下に碑は建つ。傍らの電柱には「津波避難所」の看板が取り付けられていた。東日本大震災の折には、この神社へ駆け上った人は大勢いたかと思うが、避難の際、この津波碑を目にした人は何人いたのだろうか。避難に必死でそれどころではなかっただろう。しかし、津波碑は避難所の入口に建つもの、というルールを作るのも一考かもしれない。碑の撮影後、海抜42mの諏訪神社まで登ってみた。クルマで境内まで入ることができる。神社の境内には公園があり展望台もあったが、樹木が生い茂り展望はなかった。



経緯度 北緯40度11分19秒/東経141度47分45秒

岩手016番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 久慈市宇部町第23地割６
建立場所 高台/住宅脇　碑高 203cm　碑幅 99cm　海抜 68ｍ







この碑を探すのには苦労した。資料とした東北整備局地図が曖昧で、標高が15mと記載されていたため。実際にはかなりの高所である海抜68ｍの高台にあった。NHKの朝ドラで有名になった小袖漁港付近の住民に尋ねたところ、ずっと上に集落があるので行ってみるように教えられたので助かった。あとは勘だより。これだけの高所であれば海が見える縁に違いないと考え、見事に発見。漁港から集落へとつながる山道の終点に建っていた。





経緯度 北緯40度10分2秒/東経141度51分8秒

碑文表

昭和八年津浪記念碑

大津浪くぐりてめげぬ雄心もていざ追い進み参いら
まし

英彦

碑文裏

維持昭和八年三月三日旧二月八日午前三時四十八分、突如強震あり。洋上遠く爆音を聞きしよりわずかに半刻の後、天を摩する怒濤、閃光を帯びて陸岸を襲い、一時にて幾多の生霊を奪い、財をさらう。その惨状言語に絶す。天聴に達し畏くも勅使を差遣わされ、救恤の資を賜う。天恩洪大まことに感に堪えず。我が県、官民協力一致して克く、その救護に仕し、孜々として復興にかの全国朝野の同情また翕然として集まり、もって罹災民の飢寒を救い、奮容を復するを得たり。津浪は往古より周期的に襲来す、と聞く。被害地住民は永くこの災禍を追憶し、宜しく向後を警戒するの覚悟あるを要す。ために東京朝日新聞社寄贈の義援金をもってこの碑を建設し、永くこれを記念し、かつ将来の鑑戒しなす所以なり。

昭和九年三月三日

死亡者数　九名　流失戸数四戸

強い地震は津浪の報せ

岩手県知事　石黒英彦
宇部村長　宇部孫太

岩手017番
2014/05/05

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和9年3月3日　住所 久慈市宇部町第21地割107-31
建立場所 一般道路路傍　碑高 205cm　碑幅 96cm　海抜 7m



久喜地区漁村センター前に建つ。この建物は久喜漁港に面する防潮堤が目前にあったが、今回の震災ではまったく役に立たず全壊している。写真の建物は震災後建て直されたもの。ということは、津波碑もただでは済まなかったはず。しかし、センターの復旧も早かったが、津波碑の修復も手早く行われたと推察できる。各地で倒れた碑はそのまま放置、復旧修復しないところが多い中、見事な取扱いといえる。これは震災前からこの碑の存在感が高かった証ではないかと思われる。ちなみこの地区では、今回の津波では死者は出ていないようだ。





経緯度 北緯40度8分4秒/東経141度50分48秒





破損箇所はきちんと修復されている

碑文裏

維持昭和八年三月三日旧二月八日午前三時四十八分、突如強震あり。洋上遠く爆音を聞きしよりわずかに半刻の後、天を摩する怒濤、閃光を帯びて陸岸を襲い、一時にて幾多の生霊を奪い、財をさらう。その惨状言語に絶す。天聴に達し畏くも勅使を差遣わされ、救恤の資を賜う。天恩洪大まことに感に堪えず。我が県、官民協力一致して克く、その救護に仕し、孜々として復興にかの全国朝野の同情また翕然として集まり、もって罹災民の飢寒を救い、奮容を復するを得たり。津浪は往古より周期的に襲来す、と聞く。被害地住民は永くこの災禍を追憶し、宜しく向後を警戒するの覚悟あるを要す。ために東京朝日新聞社寄贈の義援金をもってこの碑を建設し、永くこれを記念し、かつ将来の鑑戒しなす所以なり。

昭和九年三月三日
死亡者数　九名　流失戸数四戸

岩手県知事　石黒英彦
宇部村長　宇部孫太

強い地震は津浪の報せ

碑文表

昭和八年津浪記念碑
大津浪くぐりてめげぬ雄
心もていざ追い進み参い上ら
まし

英彦

「野田村中心市街地」


陸中野田駅
三陸鉄道北リアス線
道の駅のだ
海蔵院
岩手017-2番 明治碑
野田村役場
城内
野田村
明内川
泉沢
泉沢川
三日市場
前浜
十府ヶ浦
野田漁港
港
岩手018番 昭和碑
45
29
268
217
0
0.25km
0.5km

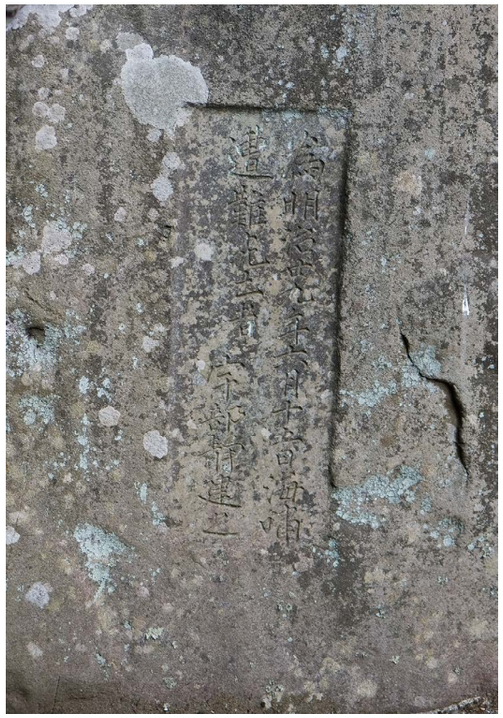
岩手017-2番
2014/05/05

海嘯（かいしょう）遭難供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年　住所 九戸郡野田村野田第26地割27
建立場所 海蔵院境内　碑高 124cm　碑幅 102cm　海抜 10ｍ







碑文裏

為明治二十九年六月十五日
海嘯遭難死亡者　宇部静建立

碑文表

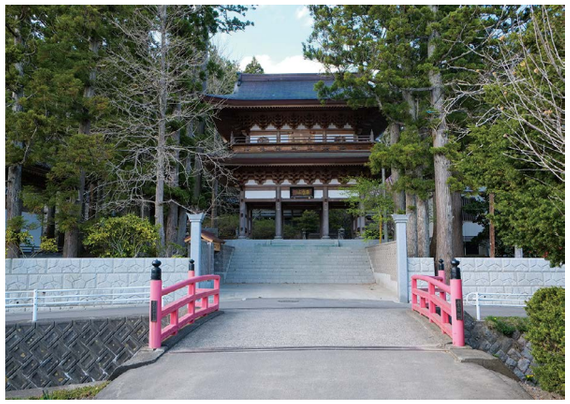
昭和三年六月十五日建立

海嘯遭難供養塔

文部大臣正三位勲一等水野錬太郎書

海蔵院の津波碑は国交省東北整備局のリストには未掲載で、上西氏の資料により知り得た。立派な山門が構える大きな寺院で、これまた立派な鐘楼の傍らに碑は建つ。詳しい経緯は定かではないが、碑文を見れば、明治海嘯の33回忌の際に、当時の文部大臣の書をもって建立されている。水野錬太郎は、関東大震災の際に内務大臣であり、２年後には帝都復興院総裁も兼任した経緯があり、明治の海嘯供養碑の碑文依頼に応じたのだろうと推察される。数ある津波碑の中でも大物政治家の筆が見られるのは貴重であろう。





経緯度 北緯40度6分42秒/東経141度48分56秒度

岩手018番
2014/05/05

津波記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年８月31日　住所 九戸郡野田村野田第10地
建立場所 国道脇/元綿津海神社境内　碑高 266cm　碑幅 104cm　海抜 11m



国道45号のちょうどカーブの所。一基の津波碑が横たわっている。碑の周りには、ここに神社があったことを連想されるにはやや乏しい石碑の類いが散らばる。そう、ここには綿津海神社が鎮座していた。神社の脇にはアパートなどの家屋もあったが、今は見る陰もない。十府ヶ浦を見下ろす高台にあり、少々の高波なら届かないであろう高さを感じる場所。ゆえに津波の猛威が想像できるところでもある。倒れたままの津波碑は、１度目と２度目の訪問では位置が変わっていた。工事関係者が移動したのであろう。ならば、もうひと手間掛け、建て直してもらいたいものだが、迷惑な願いだったろうか。



経緯度 北緯40度5分58秒/東経141度49分33秒

初回訪問時の様子（2014/05/05）





碑銘表

津波記念碑

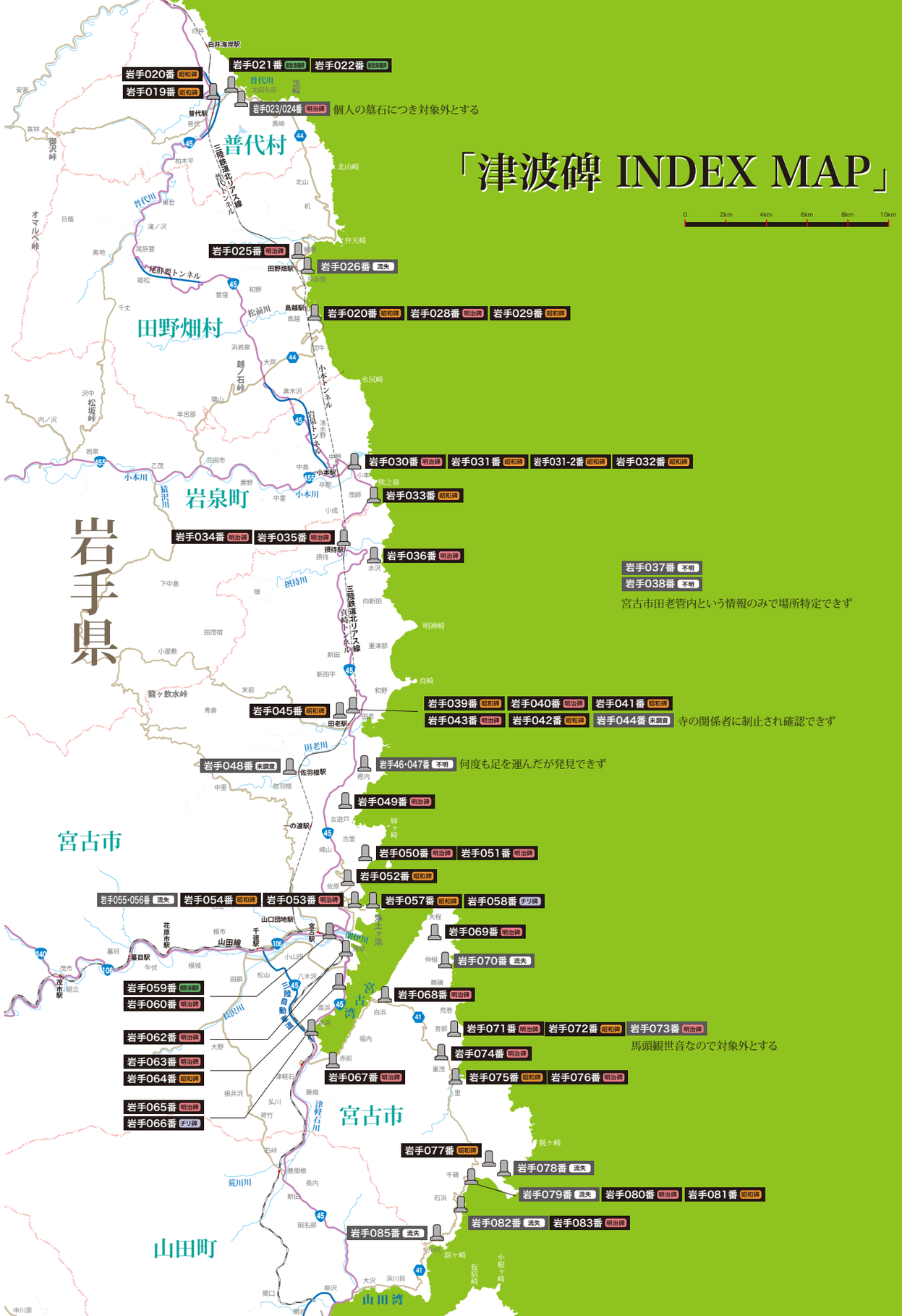
碑文裏

発震時　昭和八年三月三日午前二時三十分
津波襲来　同年同月同日午前二時五十九分
波高　十八尺
被害総額　二十八万一千四百五十円
世帯数　六十二戸　住家　五十八棟
罹災者　死亡者　八名　流失数　倉庫　八十棟
負傷者　七名　其他　六十四棟
生存者　三百十九名
浸水世帯数　四十三戸
昭和九年三一日
東京朝日新聞社寄贈金建設

岩手県

普代村・田野畑村・岩泉町・宮古市

調査対象津波碑	73基
現存碑	60基
流失碑	9基
不明碑	3基
未確認碑	1基



岩手019番
2014/04/24

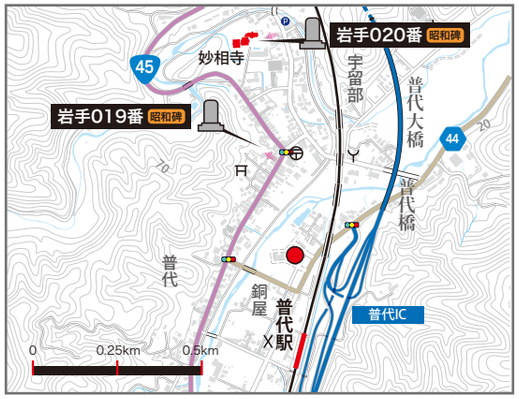
大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年８月　住所 下閉伊郡普代村第13地割普代127−4
建立場所 畠山家裏山　碑高 244cm　碑幅 122cm　海抜 20ｍ



津波碑探訪において、そうそう簡単に見つかるものばかりではない。なんということない場所にあっても、ご対面までは苦労させられるのである。この碑もそのひとつで、資料には「畠山宅裏山」とあるので、個人の敷地内にばかり目をやっておりなかなか発見できない。車から降り徒歩で通りを歩いていると、スーパーの屋根越しに何やら発見。これは判らないよ〜と、ため息しきり。さて、位置は確定したもののアクセス路が判らない。人の敷地を勝手に横断もできない。そこでスマホの地図を航空写真モードに切り換えルートを探す。文明の利器が無ければもっと苦労しただろうか。しかし、この手の記念碑というのは石で出来た掲示板である。ここじゃ誰も見に来ないですよ！





経緯度 北緯40度0分29秒/東経141度53分5秒

80　碑建立地より望む普代村の街並み





碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響とともに大海嘯の襲来あり。三時十分頃最も被害あり。普代村の流失戸数七十八戸、溺死者百三十五名、負傷者八十一名。本碑は東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義援金を同社において罹災者町村に分配せし残金を重ねて分配せられ、その金員をもって建設せしものなり

昭和八年八月　下閉伊郡　普代村建立

碑文表

大海嘯記念

一、大地震の後には津波が来る
一、地震があったら高い所へ集る
一、津波に追はれたら何処でもここくらいの高い所へ
一、遠くへ逃げては津波に追つかれる近くの高い所を用意しておけ
一、県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

石巻市　石井敬三郎刻

碑文の「石井敬三郎刻」は今後多く出てくる／読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み　81

岩手020番
2014/04/24

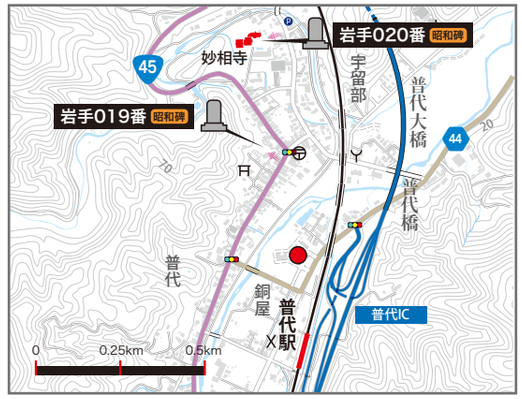
三陸大海嘯　溺死者・諸精霊　供養塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年８月　住所 下閉伊郡普代村第13地割普代177
建立場所 妙相寺境内　碑高 220cm　碑幅 100cm　海抜 10m



前述の山腹の碑とは打って変わり、苦もなく対面できた立派な津波碑。風格ある山門をくぐると、５段の石積みと洋風のスチールフェンスに囲まれた石碑が鎮座していた。高さ2mを越える碑も立派だが、これほど立派な台座をあしらった津波碑もそう多くはない。立派度は一、二を競うかもしれない。また、津波碑が建つ妙相寺だが、地図で見る限りでは、普代村の市街地で寺院はこの一寺のみのようだ。立派な構えも頷ける。昭和の海嘯では135名が亡くなったと刻まれているが、東日本大震災では市街地における被害は皆無。過去の被害を最も激減させた防災成功の村である。





経緯度 北緯40度0分39秒/東経141度53分5秒





碑文表

昭和八年　三月三日
旧二月八日　午前三時十分海嘯襲来

三陸大海嘯　溺死者
諸精霊　供養塔

普代村流失戸数七十八戸　溺死者数百三十五名

石巻市　石井敬三郎　刻

碑文裏

本供養塔は全国各地より寄託せられたる義援金の内より、特に海嘯溺死者慰施設費として指定し、県より配当せられたる義援金の内をもって建設せしものなり

昭和八年八月　下閉伊郡普代村　建立

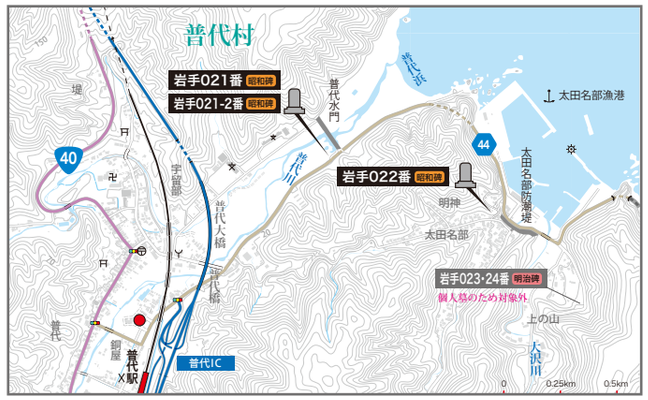
岩手021番
2014/04/24

津波防災之碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和59年5月8日　住所 下閉伊郡普代村第7地割
建立場所 県道・水門脇　碑高 160cm　碑幅 210cm　海抜 6m



岩手県山田町輩出の鈴木善幸元内閣総理大臣の書による津波記念碑である。東日本大震災で襲来した大津波を見事に防いだ巨大水門完成時に建立された石碑。水門の完成には12年の歳月と35億円の巨費が投じられたことがサラリと刻まれるが、完成に至るまでには紆余曲折があり、人的難工事であった。しかし、蓋を開けてみれば、普代村の人命と財産を見事に守り切ったのである。当時反対した人たちも、いまでは頭が下がる思いであろう。石碑の隣に建つ顕彰碑に刻まれた元村長の言葉「二度あったことは、三度あってはならぬ」を、今一度噛みしめなければならない。



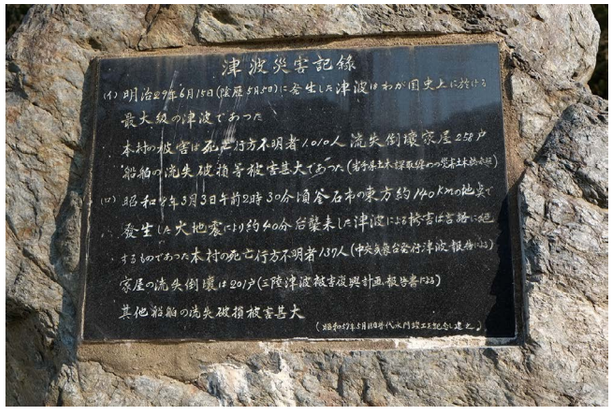
経緯度 北緯40度0分42秒/東経141度53分46秒



碑銘表

津波防災之碑

鈴木善幸書



碑文裏

津波災害記録

（イ）明治29年6月15日（陰暦5月5日）に発生した津波はわが国史上に於ける最大級の津波であった。
本村の被害は死亡行方不明者1,010人、流失倒壊家屋　258戸、船舶の流失破損等被害甚大であった（岩手県土木課取纏めの災害土木誌参照）
（ロ）昭和8年3月3日午前2時30分頃、釜石市の東方約140kmの地点で発生した大地震により約40分後襲来した津波による惨害は言語に絶するものであった。本村の死亡行方不明者137人（中央気象台発行津波報告による）
家屋の流失倒壊は201戸（三陸津波被害復興計画報告書による）
其他船舶の流失破損被害甚大
（昭和59年5月8日普代水門竣工を記念し建之）

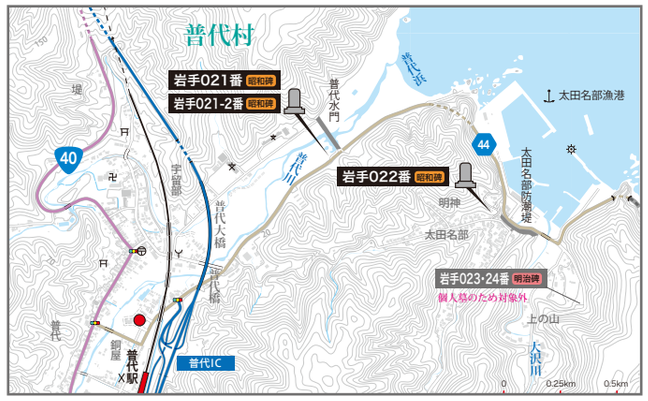
岩手021-2番
2014/04/24

顕彰碑

対象津波 東日本大震災　建立月日 平成25年3月11日　住所 下閉伊郡普代村第7地割　建立場所 県道・水門脇
碑高　碑幅 未計測　海抜 6m



東北地方で最大の高さである防潮堤と水門を造ったのが、1947年から10期40年間村長を務めた和村幸得氏（故人）。当時、防潮堤建設で標準の高さは10mであったが、明治の津波で15mの波高であったことを訴え、県の建設課の許可を取り付け普代村の防潮堤と水門だけは15.5mで造られた。村長の粘り強い行動の成果だった。しかし、業者との癒着ではないかなど、周囲から目はけっして温かいものばかりではなかったという。しかし、東日本大震災では村長の確信が功を奏した。水門は一部が破損し、2mほど波高は越えたものの、付近の小学校や市街地は無傷。漁港側の防潮堤に至っては越水することなく完全に食い止めている。このことは報道各社で報じられたほか、ネットでは全世界で話題となった。このことから村民の感謝の意を表すものとしてこの碑が建立されている。数ある津波碑の中でも唯一の「顕彰」の碑ではないだろうか。



経緯度 北緯40度0分42秒/東経141度53分46秒

碑銘表

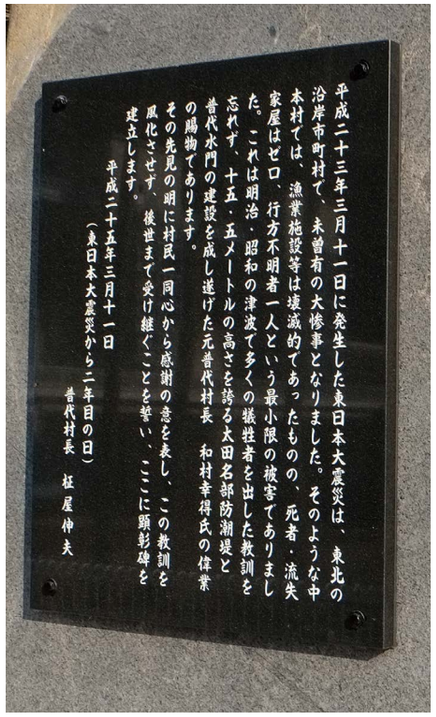
顕彰碑
二度あったことは、
三度あってはならない
元普代村長　和村　幸得



碑文裏

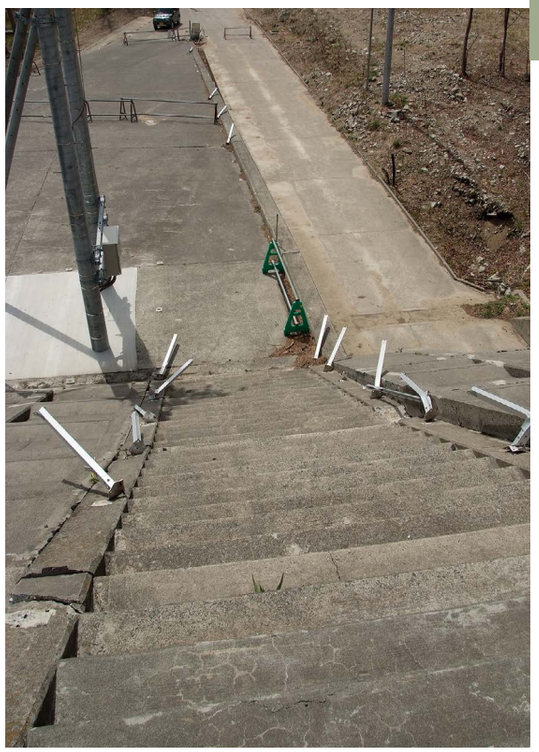
平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、東北の沿岸市町村で、未曾有の大惨事となりました。そのような中、本村では、漁業施設等は壊滅的であったものの、死者・流失家屋はゼロ、行方不明者一名という最小限の被害でありました。これは明治・昭和の津波で多くの犠牲者を出した教訓を忘れず、十五・五メートルの高さを誇る太田名部防潮堤と普代水門の建設を成し遂げた元普代村長　和村幸得氏の偉業の賜物であります。その先見の明に村民一同心から感謝の意を表し、この教訓を風化させず、後世まで受け継ぐことを誓い、ここに顕彰碑を建立します。

平成二十五年三月十一日
（東日本大震災から二年目の日）
普代村長　柾谷伸夫





2012.04.29



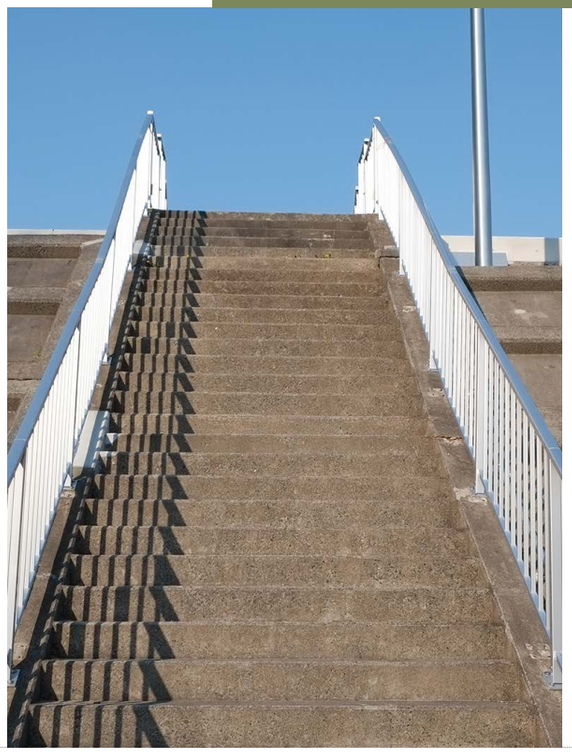
普代水門

普代水門は1984年（昭和59年）に完成した防波防潮水門。漁港側に建設された太田名部防潮堤とともに35億6000万円で建設された。高さ15.5ｍ、幅205ｍ。鉄筋コンクリート製で４枚の鋼製ゲートを装備。高さは東北一。建設当時、和村幸得村長が、過去の津波高を鑑み、普代村では15ｍ以上の防潮堤・水門が必要と訴え、周囲の反対を押し切り建設に至った。

東日本大震災では、17ｍを超える津波が襲来したが、施設の一部が破損したものの、決壊には至らず普代市街地を守り抜いた。過去の村長の英断が人命を守ったとのことで、国内の報道機関が注目したほか、インターネットで世界中に伝わり、米国の『ワシントン・ポスト』紙にも掲載されている。

筆者が、震災翌年の2012年４月に訪れた際は、手摺りのすべてが失われ、管理用歩道が落橋するなどの被害があったが、２年後の2014年４月には、破損箇所のすべてが修復されていた。このことは、この水門が世界に注目されたゆえ、特別な取扱いを受けたものと推察される。

2014.04.24





岩手022番
2014/04/24

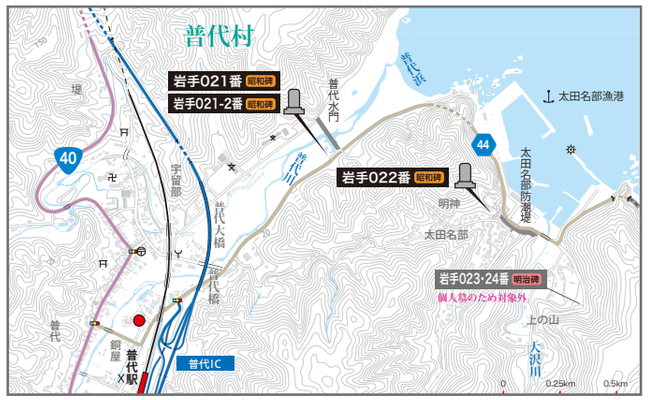
津波記念塔

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和55年8月　住所 下閉伊郡普代村第8地割太田名部69-7
建立場所 一般道脇高台　碑高 193cm　碑幅 88cm　海抜 19m



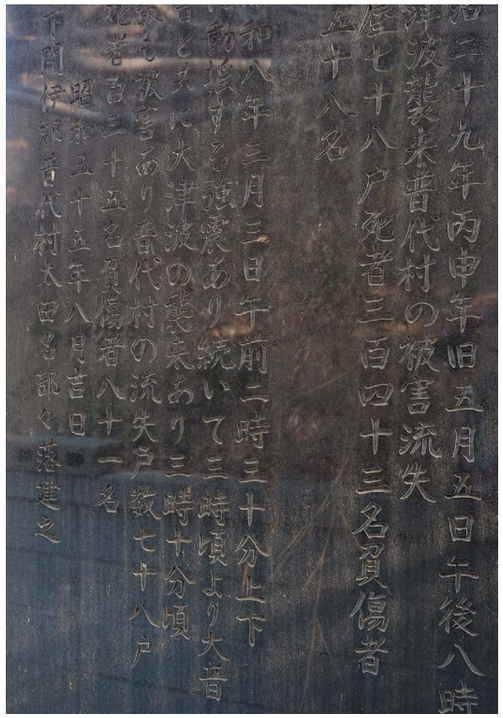
この碑は見つけるのに苦労した。辿り着いてしまえばなんということのない場所ながら、参考資料に「消防ポンプ小屋横」との記載があり、ポンプ小屋の「横」を探したが、これがなかなか判らない。実は横ではなく裏手であった。見る角度からすれば横にも見えるが、普通は建物の正面に立ち、左右・奥・裏と見るはず。それはさておき、黒御影の立派な石碑だが、碑文に見覚えがある。そう、街中のスーパー裏山に建っていた碑と同じ内容なのである。ところがこちらの方が明らかに真新しい。他の文献によると、この碑は2代目で、損傷のため昭和58年に再建されたもので、まったく同じ碑文となっていた。なお、建立場所は海抜19mの山腹にあり、東日本大震災で普代村を守り抜いた防潮堤が眼前にある。当日も迫り来る津波から、村と住民の無事を見守っていたに違いない。





経緯度 北緯40度0分34秒/東経141度54分15秒





碑文裏

明治二十九年丙申年旧五月五日午後八時、
大津波襲来。普代村の被害流失
家屋七十八戸、死者三百四十三名、負傷百五十八名
昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響と共に大津波の襲来あり。三時十分頃最も被害あり。普代村の流失戸数七十八戸、死者百三十五名、負傷者八十一名
昭和五十五年八月吉日
下閉伊郡普代村太田名部　部落建立

碑文表

明治二十九年
津波記念塔
昭和八年

注意事項

一、大地震の後には津波が来る
一、地震があったら高い所へ集まれ
一、津波に追はれたらどこでも
此処位より高い所へ
一、遠くへ逃げては津波に追つかれる
近くの高い所に用意しておけ
一、県指定の住宅適地より低い
所へ家を建てるな

太田名部防潮堤

前述の普代水門とともに建設された、東北一の高さを誇る防潮堤。
高さ15.5ｍ、堤頂長155ｍ。1970年（昭和45年）完成。

前項の「岩手022番」の津波碑は、この防潮堤西端部にある



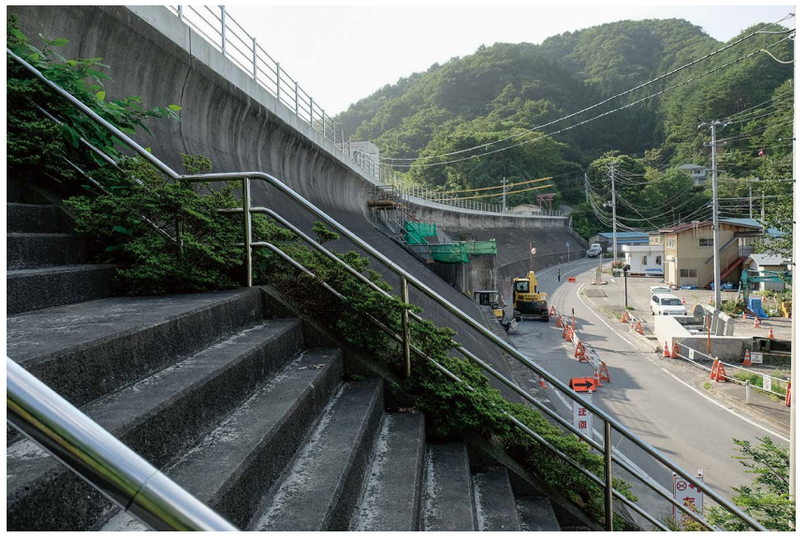


防潮堤が守った住宅地は超至近である

来訪者が増えたためか、堤頂部に手摺りが設けられた



防潮堤から漁港サイドを望む。関連施設の復旧は完了している



太田名部防潮堤へは自由に登ることができるが、手摺り付き階段は非常に急勾配。年配者は非常時に登るのは大変だろう

岩手025番
2014/04/24

大海嘯溺死者招魂碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 下閉伊郡田野畑村羅賀
建立場所 県道路傍　碑高 180cm　碑幅 88cm　海抜 23m



碑文表

明治二十九年

大海嘯溺死者招魂碑

六月十五日　死亡　九十八名
当村
旧五月五日　流家　十九戸



県道脇にある嵩上げされた一般住宅の擁壁に、寄りかかるように壊れた津波碑がある。東日本大震災の津波が到達しており、上部が欠落し、碑文も一部剥げて読み取れない。過去の津波が到達した位置に建立された碑ではないかと推察できる。背後の住宅は嵩上げにより被災していないが、道路の向かいにあった建物は流失している。であるならば、先人の言い伝えを守ったものと、そうではなかったものの明暗が認識できる場所といえる。流された側では新設道路の工事中だった。もうそこに家が建つことはなく、再び流されることはない。ちなみに、その土地の奥には「津波石」という岩がある。明治の津波で打ち上げられた20tもの巨石。そもそも、この巨石のある場所は、東日本大震災で流された家屋の土地よりも高いのである。大震災をひと言で自然災害と言っていいのやら、である。





経緯度 北緯39度56分17秒/東経141度56分12秒



明治三陸大津波で打ち上げられたと言い伝えられる羅賀地区の「津波石」。東日本大震災では津波が再び到達した。岩が動くことはなかったが、羅賀の住宅約150棟のほぼ半数が全壊し、地区住民約450人のうち9人が行方不明となった

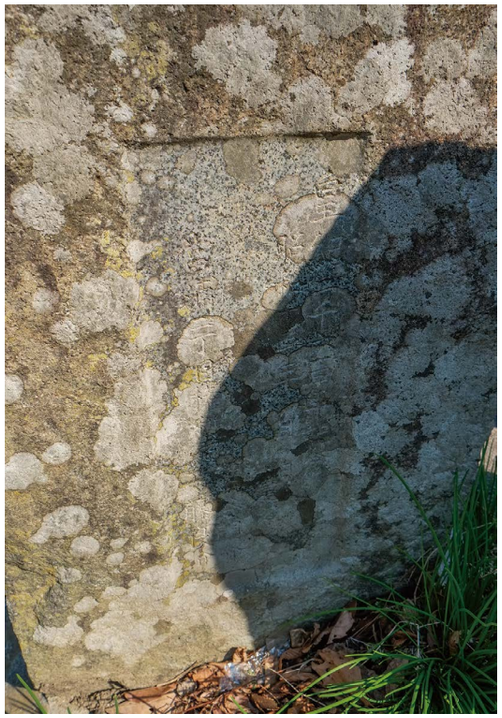
岩手27番
2014/04/24

すべて

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 下閉伊郡田野畑村島越47–13
建立場所 広福寺墓地　碑高 107cm　碑幅 52cm　海抜 40m







島越地区にある広福寺墓地の片隅に３基の津波碑が建つ。３基は揃って海を望むように並んでいる。この島越地区は、急峻な斜面に住宅が建ち並んでいる。過去の津波に被災し、高台移転したのであろうか。生活は相当不便であろうと思われるほどに無茶な宅地展開をしている。雪が積もると登るも降るも出来ないほど急傾斜の道路、果たして１回で出入りが出来るのか疑問の駐車場、庭という概念のない激狭な宅地、ここまでしても宅地を高所に求めたのだから津波対策しかないだろう。このような悪条件の中に建つ津波碑。真に説得力がある。

３基ある碑の中で最も背の低いのがこの碑。しかも碑文がすべてカタカナという点が珍しい。(一文字漢字あり)。調査した津波碑で唯一。昭和８年の津波碑なので、漢字が読めない人がそれほど多かったのか疑問だが、子供にも配慮したのかもしれない。

碑文表

てべす

一、ヂシンガシタラバユダンヲスルナ
一、ヂシンガアッタラタカイトコロニアヅマレ
一、ツナミニオハレタラタカイトコロニアガレ
一、チカクノタカイトコロヲヨウイシテオケ
一、オカミノサダメタヤシキチヨリヒクイトコロニ家ヲタテルナ

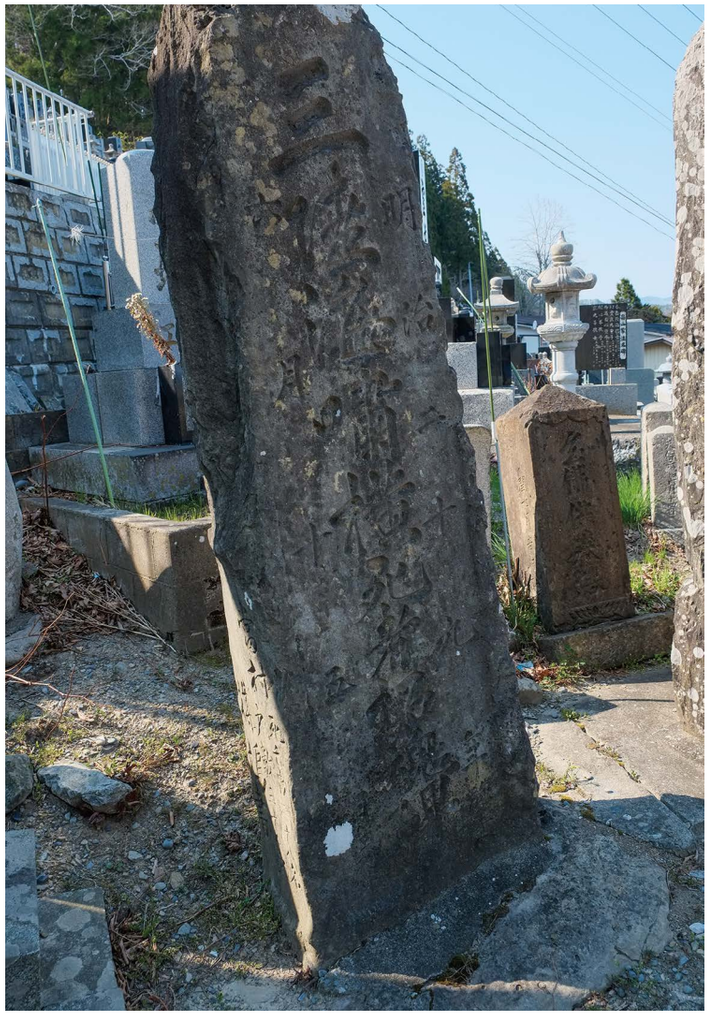
碑文裏

皇紀二千六百年
昭和十五年■月■日　建立
当浦二丁目権利者　熊谷門介
工藤良介

岩手28番
2014/04/24

三陸海嘯横死者招魂碑

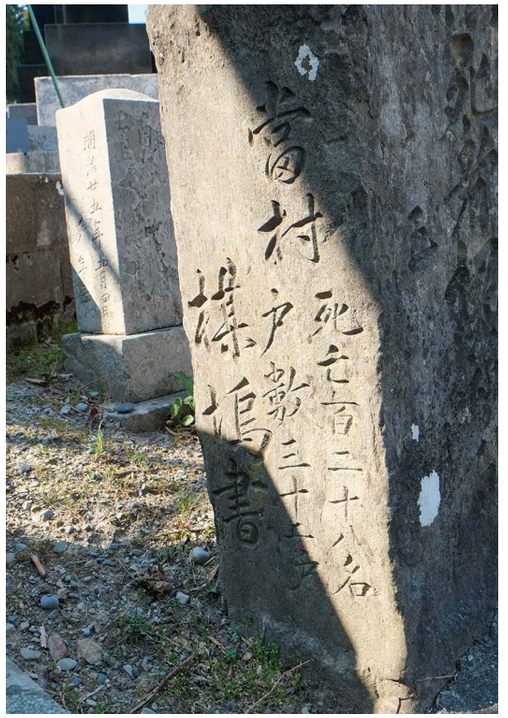
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年8月　住所 下閉伊郡田野畑村島越47–13
建立場所 広福寺墓地　碑高 215cm　碑幅 70cm　海抜 40m



碑銘表

三陸海嘯横死者招魂碑

明治二十九年
六月十五日



碑文左側面

当村　死亡者百二十八名
戸数三十二戸
楳搗書



碑文裏

旧五月五日
宮城県　死亡　三千三百十四人　流失千百八十四戸
岩手県　同　二万五千四百十三人　同六千百五十六戸
青森県　同　三百四十六人　同四百八十四戸
明治三十一年八月建立

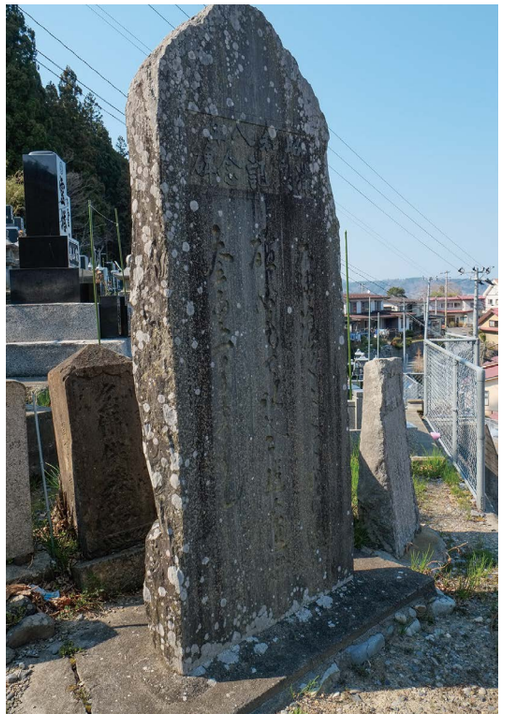
島越地区にある津波碑3基の2基目。大きさも2番目。この碑は明治三陸地震の記念碑で、表には村の被害、裏には東北3県の被害数が記載されてる。明治の震災では、この村で128名も亡くなっており、3,000人ほどの人口に対し、4%を超えるとても大きな被害だった。しかし、岩手県の死者数が異常に多い。情報源は新聞だろうか？
現在は、明治三陸地震津波の死者数は、全体で22,000人弱とされているので、この記載は明らかに誤りである。

岩手29番
2014/04/24

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月９年３月　住 所 下閉伊郡田野畑村島越47–13
建立場所 広福寺墓地　碑 高 236cm　碑 幅 100cm　海 抜 40ｍ







島越地区にある津波碑３基の３基目で最も背が高い。こちらは昭和三陸地震の記念碑で、慰霊度合いも注意喚起度も高くない。どうも朝日新聞社の義援金が出たので、義理で建てました感がなくもない。３基が並んで建っていることもあり、総合力で津波への注意喚起を行っているのかもしれない。



経緯度 北緯39度54分42秒/東経141度56分42秒

碑文表

昭和八年
津浪記念碑

大津浪くぐりてめげぬ
雄心持ていざ追い進み
参い上らまし

英彦

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十八分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響とともに津浪の襲来あり。波浪の高さ約三米より八米。本村の流失戸数百二十三戸、倒壊四戸、溺死者百三名。この記念碑は東京朝日新聞社愛読者より寄託の義援金を同社が罹災町村へ分配せし残余重ねて分配せられたるをもって建設せしたるものなり。

紀元二千五百九十四年　昭和九年三月建立
下閉伊郡田野畑村長　畠山貞作誌

岩手030番
2014/04/24

海嘯溺死者供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 下閉伊郡岩泉町小本小本21
建立場所 宗得寺参道　碑高 190cm　碑幅 113cm　海抜 3m



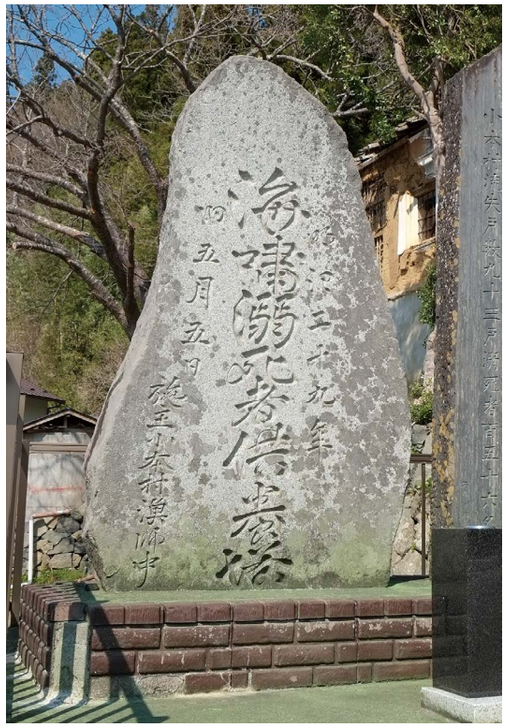
碑銘表

明治二十九年

海嘯溺死者供養塔

旧五月五日

施主　小本漁師中



小本には４基の津波碑がある。うち２基がこの宗得寺門前に建つ。だるまのような形をした石碑が明治三陸津波の碑、板状に成形された碑が昭和三陸津波の碑で、共に慰霊タイプの碑となっている。明治の方は碑銘のみで、供養のために建てられたようで、碑の下には遺骨などが納められているのかもしれない。昭和津波の方も慰霊塔と記されているが、被害の概要も刻まれている。同地に訪れたときは桜が満開の小春日和の日だったが、対照的に新防潮堤建設の工事車両が忙しく往来していたのが印象的だった。東日本大震災では津波が押し寄せていたが、寺院に大きな被害はなかった。







経緯度 北緯39度50分39秒/東経141度58分10秒

岩手031番
2014/04/24

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住所 下閉伊郡岩泉町小本小本21
建立場所 宗得寺参道　碑高 239cm　碑幅 93cm　海抜 3m





碑文表

昭和八年三月三日
旧二月八日　午前三時十分海嘯襲来

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

小本村流失戸数九十三戸溺死者百五十六名

石巻市石井敬三郎刻

碑文裏

本慰霊塔は全国各地の篤志者より寄託せられたる義援金の内より、特に海嘯溺死者の弔慰施設費として県より指定配分せられたる金員と小本浜漁業組合よりの寄附金をもって建設せしものなり。

昭和九年三月　下閉伊郡小本村
同小本浜漁業組合

岩手031-2番
2015/12/17

海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和9年12月　住所 下閉伊郡岩泉町小本小本34
建立場所 一般道路傍　碑高 215cm　碑幅 87cm　海抜 3.5m







この碑は、東北整備局の資料に掲載されていなかったために、2年ほど見落としていた。これほど立派な碑にもかかわらずである。しかも、わずか200mほど手前にある宗得寺には2基の碑があり、しっかり訪れていたのに。見落としに気づき訪れたときは、前面道路の修復工事中で、写真としては情けないことになってしまった。本誌が完成の頃は、立派な道路が出来上がっていることだろう。碑文は力強い書と文面である。「午前三時襲来」と文切り、「津波と見たらすぐ山に」と、恐怖を煽っており、効果バツグンといった感じだ。しかし、なぜこのような住宅地の真ん中にポツンと建てたのだろうか。施主は、小本漁業組合であるので、組合員が居住する所という配慮であろうか。

※地図は103ページを参照

経緯度 北緯39度50分45秒/東経141度58分9秒

碑文表

昭和八年三月三日
海嘯記念碑
午前三時襲来

大地震後は
津波に注意
注意の間は
一時間
津波と見たら
すぐ山に

石巻市　石井敬三郎刻

碑文裏

昭和九年十二月建之

小本浜漁業組合

以下　関係者名簿

義援金に依る共同製造所　一棟　二、五〇〇円　総額　金八万二十円也
共同製造所　一棟　一、七〇〇円
定置及び一般漁具　二七、五一〇円
無動力漁船　三六隻　二七、一二〇円
復旧設備概況
震災害水産業復旧費　七七、五二〇円
組合員流失戸数　四十九戸

組合員家族死者数　四十五名
内訳　低利資金　四〇、三八五円
助成金　三七、一三五円
動力付漁船　一五隻　一五、一七四円
共同販売所　一棟　三、八〇〇円
共同倉庫　四棟　二、二一六円

岩手032番
2014/04/24

三陸大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住所 下閉伊郡岩泉町小本内の沢２
建立場所 小本小学校校庭　碑高 276cm　碑幅 120cm　海抜 8ｍ



小学校校庭の裏山麓に樹木の影になり津波碑がひっそりと建っている。なぜこんな隅っこに？と思える場所にあるのだが、ここは明治三陸地震の際の津波到達地点にあたる。小学校ということもあり、震災教育のためにこの地を選んだのだろう。今回の東日本大震災でも、校舎まで津波が到達している。幸いにも建物の流出・倒壊には至っていないが、浸水のために移転となり廃校となっている。そのため、小学校の校庭ではあるが、津波碑見学のために校庭に立ち入るのは支障ないようだ。なお、今回の震災時は、津波碑が建つ校庭を横切り国道へ通じる避難階段を登り生徒教員は全員無事だった。この避難階段は2009年３月に設置したばかりで、避難路整備を進めた町長の判断が功を奏したということで、地元新聞に記事が掲載されている。



※地図は103ページを参照

経緯度 北緯39度50分33秒/東経141度58分09秒



碑文表

大海嘯記念碑

一、大地震の後には津波が来る
一、地震があったら高い所へ集まれ
一、津波に追われたら何処でもこのくらいの高い所へ逃げろ
一、常に近くの高い所を用意しておけ
一、県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

石巻市石井敬三郎刻

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時十分頃より大音響とともに大津浪の襲来あり。最高波浪小本二十五尺、茂師四十尺余、本村の流失戸数九三戸、溺死者百五十六名、負傷者三十二名、損害見積額五四万二千余円。この記念碑は東京朝日新聞社読者より寄託の義援金を同社において罹災各町村へ配分せる残余を本建設費として寄贈せられたる金員をもって建設したるものなり

昭和九年三月

小本村長代理　助役菅原牧夫　誌

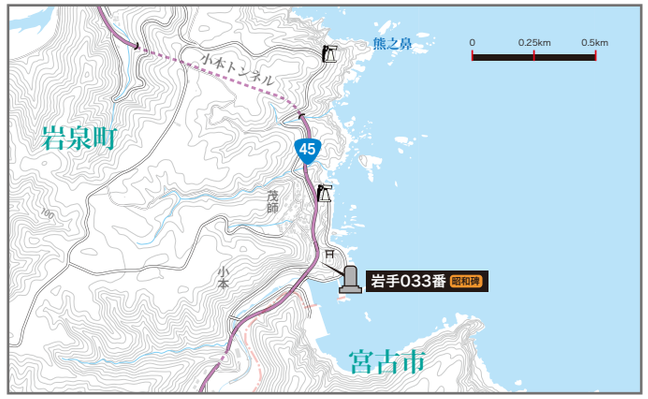
岩手033番
2014/04/24

三陸大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 下閉伊郡岩泉町小本
建立場所 国道路傍　碑　高 231cm　碑　幅 103cm　海　抜 34ｍ



茂師地区の国道45号沿いにある神社の赤い鳥脇に、10基ほどの石碑が建ち並んでいる。一番右寄りに建つのが昭和三陸津波の碑である。これは小本小学校の校庭に建つ碑と姉妹碑で、碑文は若干異なるが、裏面の碑文はまったく同じもの。現在は国道脇にあるが、元は眼下の茂師漁港にあったものを移設している。移設の時期と理由は不明だが、現在の場所は国道の高速コーナーの途中にあり、ちょっと停まって見るというわけにはいかない環境。茂師地区は国道沿いの高台に集落を形成しており、津波の脅威はない。むしろ漁港に建っていた方が効果が期待できたのでは？と思うのだが如何に。



経緯度 北緯39度49分56秒/東経141度58分43秒



碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時十分頃より大音響とともに大津浪の襲来あり。最高波浪小本二十五尺、茂師四十尺余、本村の流失戸数九三戸、溺死者百五十六名、負傷者三十二名、損害見積額五四万二千余円。
この記念碑は東京朝日新聞社読者より寄託の義援金を同社において罹災各町村へ配分せる残余を本建設費として寄贈せられたる金員をもって建設したるものなり

昭和九年三月

小本村長代理　助役菅原牧夫　誌

碑文表

大海嘯記念碑

一、大地震の後には津波が来る
一、地震があったら高い所へ集まれ
一、津波に追われたら何処でも
　このくらいの高い所へ逃げろ
一、常に近くの高い所を用意しておけ

石巻市石井敬三郎刻

岩手034番 海嘯死者供養

2015/10/28

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年8月　住　所 宮古市田老摂待78　建立場所 朝倉鍼灸院裏手
碑　高 91cm　碑　幅 43cm　海　抜 15m

朝倉鍼灸院の右手裏の森へ通じる小径に石碑群がある





この碑は探すのに苦労した。接待という地区名は判っていたが、情報は地区名のみ。まずは現地へ行けば何とかなるだろうと足を運ぶも発見できず。しかし、上村氏の著書「惨禍を語る路傍の石碑」に掲載があり、駅より北側へ500mとの記述で目星が付いた。そこで、Google Mapのストリートビューで散策。一般住宅の裏手に石碑群を見つけた。碑銘まではわからぬものの、まず間違いないと確信し現地へゆく。3度目の探索でのご対面だった。

碑文の通り、明治の三陸大津波の2ヶ月後に建立された供養碑。彫られた文字を見ると達筆とは言い難い筆で、この碑を建立した畠山氏が、自らの手で碑文を彫り建てたのではないかと推察できる。それだけ震災に対する供養の気持ちが強く感じられる。

碑文表

海嘯死者供養

明治二九年六月十五日没
同年八月十四日　畠山長之介建立

上接待　女壱名　水沢　壱名
下接待　男二十五名　小堀内　女壱名
女二十五名　日陰　男壱名

岩手035番 三陸海嘯拾三回忌

2015/10/28

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治41年3月　碑　高 80cm　碑　幅 45cm　海　抜 15m





碑文表

三陸海嘯拾三回忌

宮城県　戸数　千百八十四戸　死亡者　三千三百十四人
岩手県　戸数　六千百八十六戸　死亡者　二万五千四百十三人
青森県　戸数　四百八十四戸　死亡者　三百四十六人
下接待　戸数　十戸　死亡者　五十六人

左頁の海嘯死者供養の隣に、明治海嘯十三回忌に建てられた供養碑。碑文には三陸沿岸3県の被害状況が刻まれているが、データの元は当時の新聞だろうか、他の資料に比べると細かな数値が異なるほか、特に岩手県の死者数が非常に多い。明らかな誤りと思われるが、情報源が気になるところだ。



経緯度 北緯39度48分45秒/東経141度57分41秒

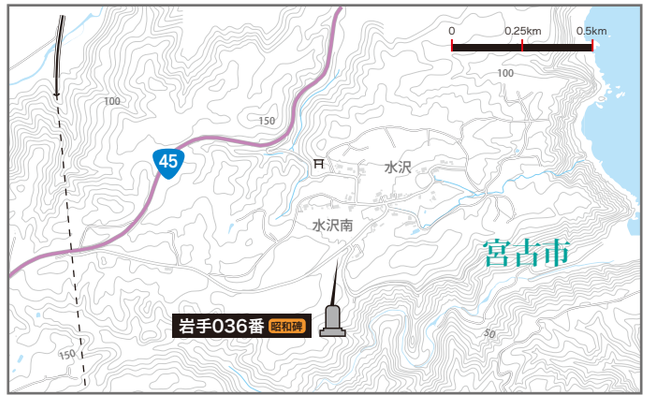
岩手036番
2015/12/17

海雲巧樹信士

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市田老水沢南23
建立場所 水沢墓地内　碑高 45cm　碑幅 35cm　海抜 140m



この津波碑は個人のお墓であるが、どうもまったくの他人により建立されている。津浪の死亡者が安田氏だが墓の建立者は森山氏となっているからだ。弊誌では個人の墓については津波碑として取り上げないスタンスだが、このような例は珍しいため掲載した。何か特別な訳があったに違いにないが、今となってはまったくの謎である。想像だが、身寄りのない安田氏は森山氏の下で働く漁師だったが、津浪により亡くなり、親方の森山氏がここに葬った、という線だろうか。



経緯度 北緯39度47分58秒/東経141度58分24秒

碑文表



生地
宮城県宮城郡七北村松森

昭和八年旧二月八日

海雲巧樹信士

津浪遭難　安田要助
行年五八才
森山千代松建之



水沢墓地には案内板板はないが、道路沿いにあるため比較的見つけやすい。なお、当該碑は道路から入ったすぐの場所にある

「宮古市田老地区」

宮古市
荒谷
ケラス
乙部
新設高台移転住宅地
館が森
岩手039番 昭和碑
岩手040番 明治碑
岩手041番 昭和碑
岩手042番 昭和碑
岩手043番 明治碑
岩手044番 未調査
震災遺構「たろう観光ホテル」
常運寺
野原
田老第一小学校
岩手045番 昭和碑
青砂里
田老漁港
津波到達地碑
三王岩
田中
川向
45
田老駅
小林
向山
177
100
100

0 0.25km 0.5km

田老地区常運寺の津波碑群



宮古市田老地区にある常運寺には、９基（個人墓含む）を超える津波碑がある。しかし、このお寺の意向で津波碑拝観は自由にはできません。弊誌ではデータベースとしての意味合いもあるため掲載しますが、現地への拝観は控えて頂くよう記載しておきます。訪問当日の経緯は以下の通りです。

下調べで、常運寺には７基の津波碑があることが判っており、その大半が墓地入口付近に集中していたため、津波碑の確認は苦労なく実施できた。写真撮影や碑の寸法などを測っていると、先ほどまで近所の床屋さんと世間話をしていた人が、純白のクラウンに乗り筆者の前で止まった。そして、ウインドウを開けるや否や「何をやってる！」と、威圧的に問いただしてきた。衣服を見るに寺の住職のようである。「津波碑を見に来ています」と返答すると、「ここには津波碑はない！」というので、「いえいえ津波記念と書かれた石碑がありましたよ」というと、「それは津波碑ではなく墓だ。勝手に入っては困る。先日もトラブルが起きており迷惑だ」と、強く注意された。ここに至るまでにたくさんの寺院に足を運んだが、丁重に案内や情報を頂いたところはあれど、立ち入りを禁じられたのは初めてだった。が、しかし、当のお寺側からの注意勧告なのだから致し方ない。

岩手039番
2014/04/24

弔海嘯死者碑



碑文表

弔海嘯死者碑

昭和八年
本間栄一郎君
中居盛一郎君
鳥居傳平君
清水義一君
三月三日

台座に建立した同級生12名の氏名

昭和三陸地震津波で亡くなった友人を供養するために、12名の同級生により建てられた石碑。亡くなった友人４名の氏名が刻まれている。また、建立した同級生の氏名は台座に刻まれている。そのためか、亡くなった人の氏名に「君」が付けられている点は、他の津波碑にはない特徴といえる。

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市田老館が森152−9　建立場所 常運寺墓地内
碑高 120cm　碑幅 68cm　海抜 8m

※地図は116ページページを参照

岩手039-2番 海嘯死者之碑

2014/04/24



碑文表

明治二十九年
旧五月五日
海嘯死者之碑

小林子〃　八十一
カネ　四十八
仁太郎　十九
シウ　十三
トミ　十

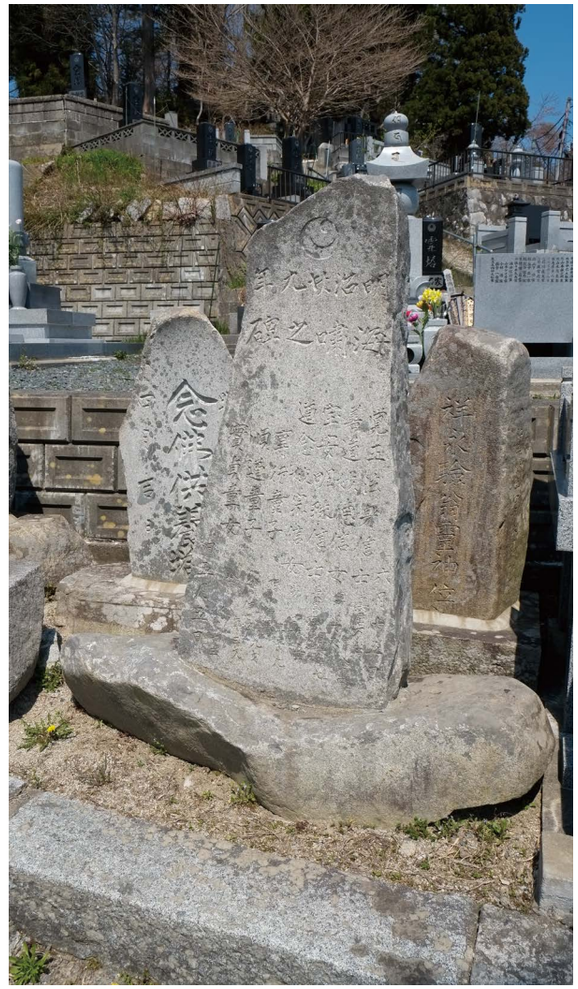
明治の地震津波で亡くなった小林家の慰霊碑。墓は別にあり供養のために別に建てられたのではないかと推察される。周りの小さな石碑も明治と昭和の海嘯で亡くなった人の供養碑。後からここに集めたのだろうか。

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市田老館が森152−9　建立場所 常運寺墓地内
碑　高 81cm　碑　幅 37cm　海　抜 8ｍ

※地図は116ページページを参照

岩手040番 明治二九年海嘯之碑

2014/04/24



碑文表

明治二十九年
海嘯之碑

覚王法身信士　鳥居万治　年八十四
善道妙徳信女　妻　ヤス　年六十七
宝安明珠信士　長男　孫治　年五十
道念妙宗信女　妻　ヒサ　年三十九
専行童子　孫　傳藏　年九才
順道童子　仝　伊七松　年三才
實貞童女　仝　ハツ　年十三才
六月十五日
旧五月五日

左頁の碑と同じく、明治三陸地震の津波により亡くなった一族の戒名と俗名、年齢が刻まれている石碑。三代にわたり一気に亡くなっており、建立した親族の悲しみはいかばかりか。胸の詰まる思いがする津波碑である。個人墓に当たるかもしれないが、碑銘に「海嘯之碑」としているため弊誌でも記載する。

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市田老館が森152−9　建立場所 常運寺墓地内
碑　高 145cm　碑　幅 61cm　海　抜 8ｍ

※地図は116ページページを参照

岩手041番
2014/04/24

海嘯供養塔



碑文表

海嘯供養塔

海嘯遭難者
山﨑十九造
山﨑徳郎
石名澤重吉
石名澤重太郎
山本仲太郎
佐々木好男
皆野川吉郎
扇田市平
吉川啓三郎

（台座）要約
山﨑十九造ほか八名は、宮古町の坂本嘉兵衛が経営する磐城国四ツ倉漁場大謀網に従事し、長年の功績は顕著なるものであったが、昭和八年三月、突如三陸地方に大津波が襲来し、このとき避難すること叶わず、その死を惜しむべく、四ツ倉浜漁業組合ほか友人知人により、ここに慰霊供養塔を建立する

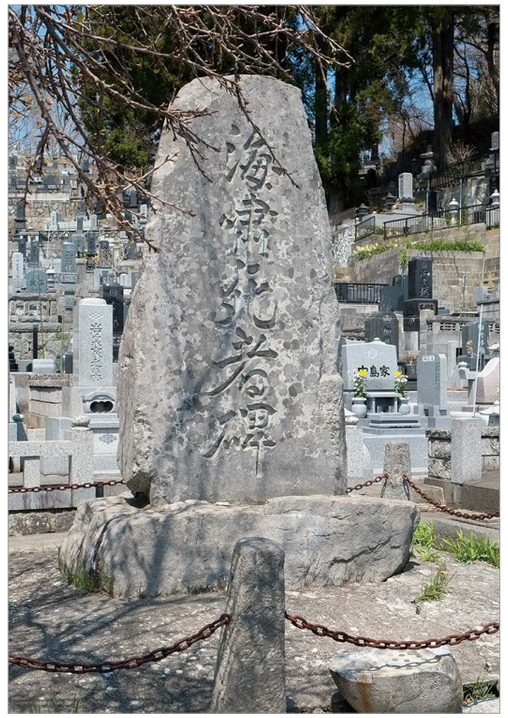
岩手県の宮古から、現在の福島県いわき市に大謀網漁に出稼ぎに出ていた漁師仲間９名が、津波により命を絶たれたことを供養するために、漁協が主体となり、いわきではなく故郷に供養碑を建てたという配慮には感銘した。現代に於いても遭難の地に慰霊碑が建つことは珍しくないが、遭難者の故郷に建てるというのは、その親睦の深さが並ではなかった証といえるのではないだろうか。

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市田老館が森152−9　建立場所 常運寺墓地内
碑　高 177cm　碑　幅 92cm　海　抜 8ｍ

※地図は116ページページを参照

岩手043番
2014/04/24

海嘯死者碑





碑文左側面

三陸海嘯害当池最極惨干時
明治二十九年六月十五日

海嘯死者碑

碑銘表

大きな一枚岩に力強い筆で深く刻む碑銘は、大惨事を後世に伝えるために風化させないぞ！という気概を感じる石碑に思えた。また、ほかの碑では「死者」の文字を入れた場合、供養や慰霊という文字が続くのだが、この碑は「死者碑」のみ。しかし、犠牲者の名簿が刻まれていることもなく、また遺骨をすべてここに埋葬しているはずもない。ただ大きな五つの文字が現すのは、建立者の強い意志であろう。

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市田老館が森152−9　建立場所 常運寺墓地内
碑　高 240cm　碑　幅 135cm　海　抜 11ｍ

※地図は116ページページを参照

岩手042番
2014/04/24

三陸大海嘯溺死慰霊塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 宮古市田老舘が森152−9
建立場所 常運寺墓地内　碑　高 211cm　碑　幅 84cm　海　抜 11ｍ



常雲寺の入口付近に集中して置かれている津波碑だが、２基はやや離れたところに建っている。が、背が高いので遠目からすぐに見分けがつき苦労せず見つけられた。大きさといい造りといい、とにかく立派な津波碑。例の朝日新聞社号令の津波碑である。ここからは大防潮堤の万里の長城が見渡せる。被災前であれば田老の街並みも展望できた高台である。それだけに、更地となってしまった今、津波碑とこの背景が余りにものの悲しく見えてしまう。



※地図は116ページページを参照



背面は強い逆光のため撮影できず

碑文表

昭和八年三月三日
旧二月八日午前三時十分海嘯襲来

三陸大海嘯溺死慰霊塔

田老村流失戸数五百五戸　溺死者九百十一名

石巻市石井敬三郎刻

碑文裏

本慰霊塔は、東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義捐金を、同社に於いて罹災町村に分配せる残金を以て、更に震災記念碑建設費として、岩手県を経て寄贈せられたる金圓以て建設せしものを

昭和九年三日

下閉伊郡田老村長　関口松太郎誌

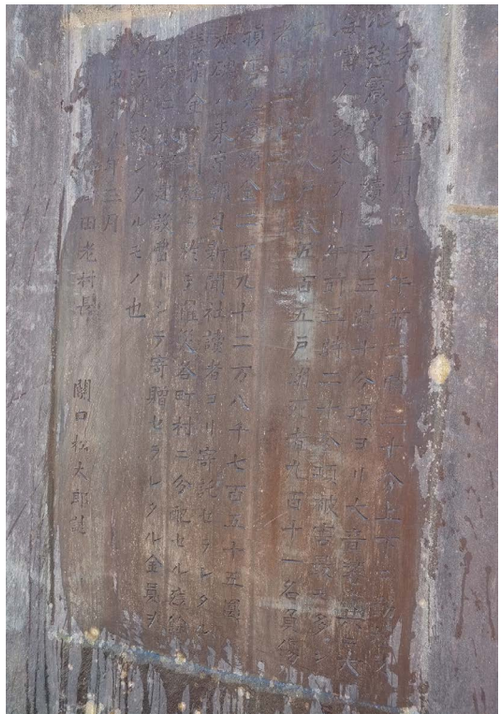
岩手045番
2014/04/24

大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 宮古市田老館が森155−2
建立場所 一般道路傍　碑　高 280cm　碑　幅 135cm　海　抜 11ｍ







田老第一小学校の西側一般道の傍らに、朝日新聞社号令による立派な碑が建つ。碑文に於いて特徴的なのが、２行目に刻まれている文言である。津波の恐れがある地震があったらこの碑に集合せよ、という一文である。これはほかの碑ではあまりみられないもので、昭和三陸地震津波の際に、ここまで津波が到達しなかったという証となる。しかし、海抜はわずか11ｍしかない。碑の周りを見渡しても、確かに津波が来襲した形跡はない。地形図で見る限りでは余裕で到達しそうな場所なのだが。何か地形的な要因があるのだろうか。

※地図は116ページページを参照

経緯度 北緯39度44分9秒/東経141度57分56秒

碑文表

大海嘯記念

一　大地震の後には津浪が来る
一　地震があったらここへ来て一時間
　　我慢せ
一　津浪に襲われたら何処でもこのくらいの
　　高所へ逃げろ
一　遠くへ逃げては津浪に追付かれる
一　常に近くの高い所を用意しておけ

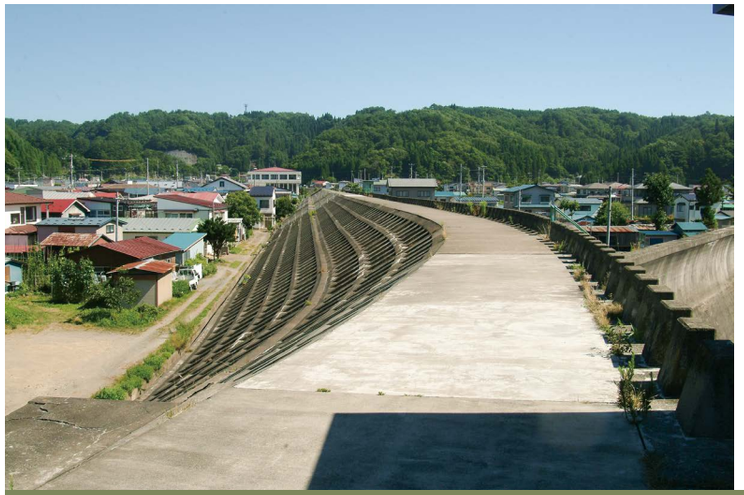
石巻市　石井敬三郎刻

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分、上下に動揺する地震あり。続いて三時十分頃、大音響と共に大海嘯の襲来あり。午前三時二十分頃、被害最も多し本村の流失戸数五百五戸、溺死者九百十一名、負傷者百二十二名。
損害見積額、金二百九十二万八千七百五十五円。
本碑は、東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義捐金を、同社に於いて罹災町村に分配せる残金を以て、更に震災記念碑建設費として、岩手県を経て寄贈せられたる金圓以て建設せしもの也
昭和九年三月
下閉伊郡田老村長　関口松太郎誌

田老地区「万里の長城」

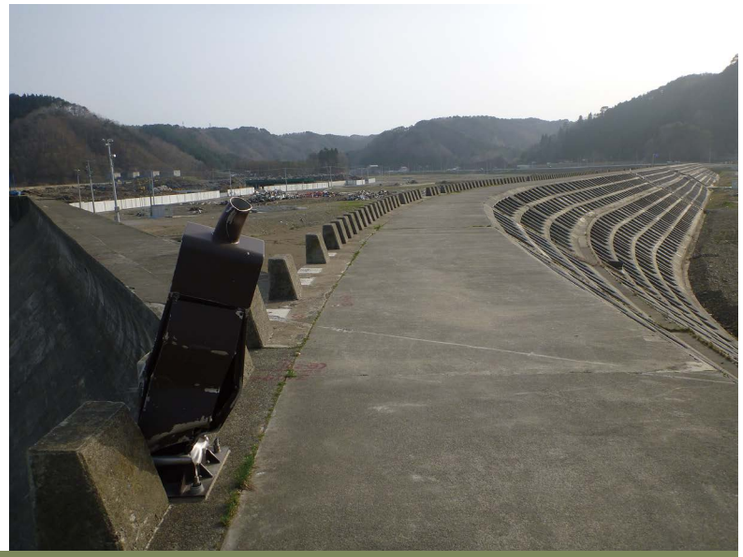
宮古市の田老地区は、慶長三陸津波・明治三陸津波・昭和三陸津波、そして東日本大震災と、記録に残るだけでも４度、町が潰滅している。慶長は全滅、明治は83%、昭和は32%、この数字は住民の死亡率である。この前三回の津波対策にと、全長2600m、高さ10ｍのＸ字形防潮堤が建設された。世界に類を見ない巨大防潮堤で、田老の万里の長城と呼ばれた。しかし、すでにご承知のとおり、東日本大震災では防潮堤を遥かに超える津波高の襲来で町は消えてしまった。





2004/07/29 撮影





2012/04/29 撮影

津波到達地碑

田老の観光名所である三王岩へ向かう坂道の途中に「津波到達地」の石柱が建てられた。写真ではピンとこないが、現地に立つと、その津波の高さに驚愕させられる。映像や写真で見てはいるが、目の前の光景すべてがこの高さまで水没するということが想像できないのである。





景勝地「三王岩」。津波による遊歩道破損のため※今は降りることができない

※2016年３月現在

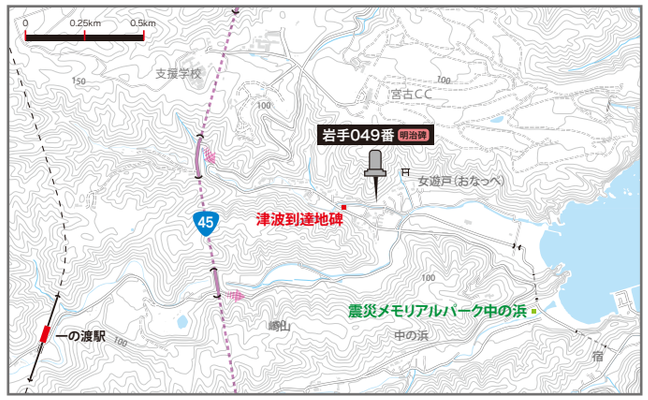
岩手049番 海嘯記念

2014/04/24

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 大正7年旧5月5日　住所 宮古市崎山第5地割26–2
建立場所 一般道路傍　碑高 160cm　碑幅 78cm　海抜 12m



この碑は正確な所在地が判らず、当てずっぽで向かったが、すぐに見つかりラッキーであった。写真撮影や寸法計測をしていると、地元のおばさんが声を掛けてきた。第一声が「こないだ来た人かい？」だった。むろん初めてなのでその旨を話すと、ちょくちょく人が訪れるとのこと。自分と同じように足を運ぶ物好きがいるものなのかと苦笑する。この話し好きのおばさんからは、色々な情報を頂いた。まず、今回の津波は遥か奥まで到達し、現在建っている石碑はすべて流されたこと。それを地元の若者がレッカーを借りてきて、川から拾い上げたこと。そして、曖昧な記憶を頼りに今の位置に建て直したこと。順番は間違ってると思うよと笑う。最後に、東日本大震災の津波到達位置には新しい津波碑が建っていると教えられた。お礼を言って200mほど移動すると津波到達地の碑があった。脇を流れる小川を遡上したのだろう、周囲の家屋には甚大な被害は見受けられなかった。



経緯度 北緯39度41分30秒/東経141度57分33秒



碑文表

海嘯記念

明治二十九年旧五月五日、大海嘯のため本部落戸数二一戸中、流失十九戸、溺死者六十三名ありて、未曽有の惨状を極めたり。本年は恰も二十三周年に当たるをもって部落民協同建立

大正七年旧五月五日

同一戸遊女



地元のおばさんに教えて頂いた場所に建つ東日本大震災津波到達地碑

国道45号から女遊戸（おなっぺ）地区へ降りるには、トンネル口直近の枝道から入るため急減速に要注意

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み







被災前の、中の浜キャンプ場
トイレ棟と炊事棟、サイトの様子
サイトからは直接海は見えなかったが
夏場は海水浴ができるキャンプ場で賑わった
（2001年11月4日撮影）

震災メモリアルパーク中の浜

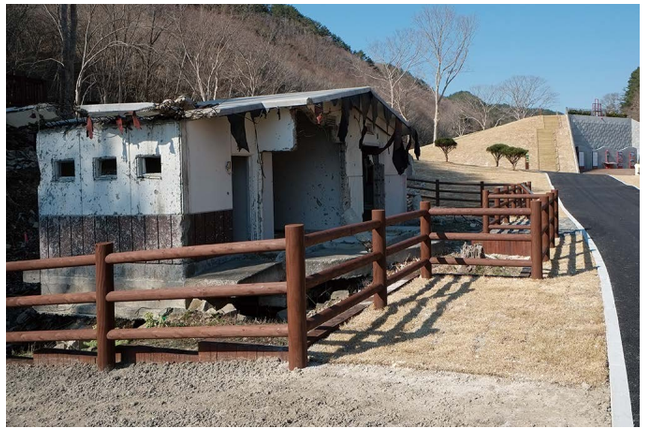
東日本大震災の、震災遺構として整備された公園。被災前は、休暇村宮古が管理運営する、緑と自然豊かな「中の浜キャンプ場」だった。ここでは津波の直撃を受けたトイレ棟と炊事棟をそのまま保存しており、公園中央部には盛土で丘を造り、襲来した津波の波高を目視で体験できるようになっている。



オープン当日に訪れ撮影した（2014年4月24日）



被災後の、中の浜キャンプ場の様子　（2012年4月29日撮影）



遺構として保存されたトイレ棟



大破した炊事棟と盛土で造られた展望の丘

岩手 050 番
2015/12/17

海嘯溺死者供養塔



日出島漁港を見下ろす高台の、地元民しか知らない竹林の中に墓地がある。鬱蒼とした竹藪で外部から訪れた人は、ここに墓地があることなど想像できないような場所にある。その墓地の中に小さな御堂があり、その前に２基の津波碑がある。共に個人が建立したもので、信心深い人が弔いのために建てたのだろう。なお、50 番碑は犠牲になった人間の供養塔で、51 番碑は家畜の供養碑である。供養対象が異なる石碑を別の人により建てられたのは、なにか深い訳があるのだろうか。俺は人間、前は家畜な、と割り振ったのかもしれないし、興味の尽きないところである。しかし、それにしてもたまげた場所である。墓地というほどには整備されておらず、まさに「墓場」と言ったところがピッタリだ。

※地図は 136 ページを参照

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 宮古市崎鍬ヶ崎第 16 地割 50　建立場所 日出島墓地内
碑 高 68cm　碑 幅 44cm　海 抜 26 m

岩手 051 番
2015/12/17

牛馬供養塔





碑文表

明治二九年五月五日
施主
前川福蔵

牛馬供養塔

碑文表

明治二九年五月五日
施主
佐々木福次郎

海嘯溺死者供養塔

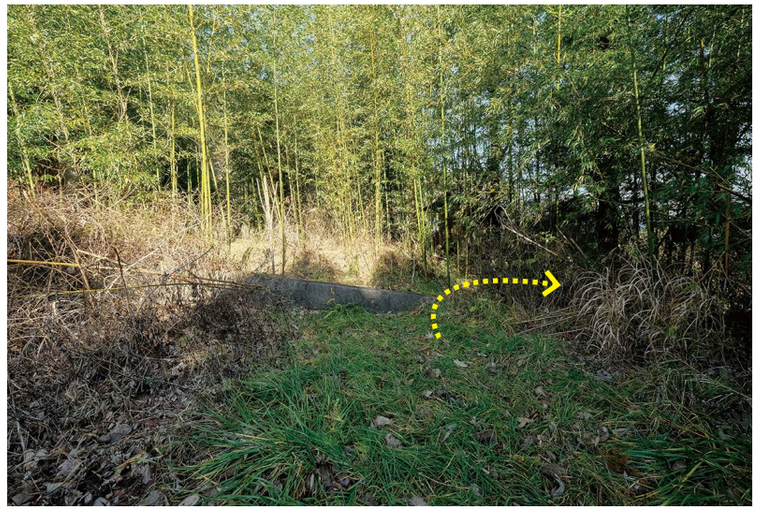
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 宮古市崎鍬ヶ崎第 16 地割 50　建立場所 日出島墓地内
碑 高 58cm　碑 幅 33cm　海 抜 26 m

岩手050番　岩手051番　のアクセス案内

ここは、地元の人以外は絶対に判らない場所である



日出島漁港へ降る坂道の途中に、このような場所がある。点線のように進むと



鬱蒼とした竹藪が現れる。コンクリート基礎のようなものを越えて矢印へ進むと、御堂と津波碑がある。直進すると墓場である



一番上の写真にあるカーブを曲がった先に東日本大震災の津波碑が建てられている



岩手052番
2015/12/17

海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年12月　住　所 宮古市崎鍬ヶ崎第８地割
建立場所 県道路傍　碑　高 228cm　碑　幅 93cm　海　抜 35ｍ







崎山から宮古市街地へ通じている県道259号沿いに忽然と大きな石碑が建っている。こんな場所に建てて誰が見るのか?という所である。しかし、碑文を読めば、津浪から逃げるときはここに集まるように刻まれている。地震・津波はいつ来るか分からない。夜間なら家族で逃げられるが日中はそうはいかない。まさに「津浪てんでんこ」であるから、バラバラに避難した家族はここに集まれば再会できるという筋書きであろう。この碑が建つ場所は海抜35m、東日本大震災級の津波でも十分かわせる高さにある。実に明快な場所に建てたのである。



地図は136ページを参照

経緯度 北緯39度39分39秒/東経141度57分59秒

碑文表

海嘯記念碑

大地震の後には
津浪が来る
地震があったら
ここへ集れ

石巻市　石井敬三郎　刻

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分、上下動の強震あり、続いて同三時頃、大海嘯襲来し、三陸各沿岸大被害被り、本村の被害戸数一百一戸、内流失半壊各一戸、負傷者一名なり。
本碑は東京朝日新聞社に於いて、読者より寄託せられたる義援金の内より分配せられたる金員を以て建設せしものなり。
昭和八年一二月

崎山村　建之

宮古市

立体交差
相互乗入不可

常安禅寺
岩手060番 明治碑

宮古市役所
立体交差

心公院
岩手053番 明治碑
岩手054番 昭和碑
岩手055番 流失
岩手056番 流失

一般車両乗入禁止

岩手057番 昭和碑
岩手058番 チリ碑

浄土ヶ浜レストハウス
浄土ヶ浜パークホテル
県立水産科学館
サッパ船乗り場
御台場展望台
観光船乗り場
宮古港海戦記念碑
浄土ヶ浜ビジターセンター
舘ヶ崎展望台
龍神崎展望台

浄土ヶ浜散策は、この駐車場から
徒歩かバス利用となります

岩手059番 昭和碑

岩手062番 明治碑

岩手063番 明治碑
岩手064番 昭和碑

道の駅シートピアなあど

「宮古市中心市街地」

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

岩手053番
2014/04/24

海嘯記念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治41年11月　住所 宮古市蛸の浜町7-5
建立場所 心公院前路傍　碑高 227cm　碑幅 15cm　海抜 18m



東日本大震災で被害甚大だった、宮古市の小高い丘に位置する心公院には４基の津波碑があったが、現在は２基が残る。最初に出逢うのはこの大きな石碑。院の外に建っており、この先には蛸の浜海水浴場がある。そこへ向かう人の目に止まる位置にある。明治期の津波碑は難しい漢文が刻まれるケースが多々あるが、この碑は一般の人でも読める優しい碑文である。建立者が海嘯に被災した地元の町民有志であるからだろう。読みやすい碑文と、海岸へ向かう道端に建てていることなど、真に二度とこのような惨劇を繰り返さぬようにと、後世に伝えようという気概が伝わる。





経緯度 北緯39度39分3秒/東経141度58分10秒



碑文表

碑念記嘯海

明治二十九年六月十五日陰暦端午に当るこの日、朝より陰鬱なりしが、黄昏地揺ること二回、やがて海上遙かに轟然たる響を聞くや数丈の怒濤、俄然打寄せ来たること三回、その二次最激甚、たちまちにして阿鼻叫喚、修羅の巷は至る所に現せられ、すなわち北陸奥の泊より南陸前志津川に至る海岸ことごとく皆々の害を被り、死者三万、流屋無数。我が鍬ヶ崎町は死者百二十八人、流失二百七十七戸、船舶二百七十六艘を失う。まことに悲惨の極というべし。この時あたかも当町小学校に幻燈会あり、児童及びその父兄等参集したために、海嘯の難を免れし者多かりしは不幸中の幸というべし。ああ天地地妖の測り知るべからざる。まことに恐るべく、また警むべし。今ここに十三年忌に当り罹災者を弔し、碑を建てて後に伝う。

明治四十一年十一月　鍬ヶ崎町有志者

岩手054番
2014/04/24

卍海嘯供養塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 宮古市蛸の浜町7-5
建立場所 心公院墓地内　碑高 145cm　碑幅 75cm　海抜 39m



心公院墓地には外洋側と漁港側の双方から津波が襲来し、墓地内で衝突している。そのため墓地の被害は甚大だった。墓石は3分の1が流失したという。筆者はたまたま被災直後に同地を訪れているが、大半の墓石がなぎ倒された惨状を目の当たりにしている。この碑も津波により倒れており、背後にあったブロック塀は基部を残して跡形もない。また、この他に昭和津波の到達を記す「津浪襲来記録標」があったが、2基とも流失している。





経緯度 北緯39度39分5秒/東経141度58分08秒



碑文表

昭和十年旧二月八日

卍海嘯供養塔

三週年建之

氏名が刻まれるが判読できず

岩手057番
2014/04/24

大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 宮古市日立浜町32
建立場所 浄土ヶ浜　碑　高 310cm　碑　幅 133cm　海　抜 3ｍ





強烈な逆光のために撮影できず

岩手県の名勝観光地である浄土ヶ浜の隅に２基の津波碑が建つ。同地を訪れる観光客の大半は、レストハウスの外壁に記された津波到達ラインの写真は撮って帰るが、当該津波碑には見向きもしない。先人が後世の人間に鳴らした警鐘を、このように石に刻んだ事実をもっと知ってもらいたいものだ。観光協会は案内看板を立ててもよいと思うのだが。ちなみに、この石碑が建つ位置は、昭和三陸地震では津波の到達はないらしい。しかし、今回は完全に水没しており、この津波碑は流されて一時行方不明となっていた。しかし、浜の復旧活動中に海中に沈む石碑を発見。これを引き揚げて元の位置に修復されているという生命力のある石碑なのである。このことも合わせて広報すべきであろう。



経緯度 北緯39度39分10秒/東経141度58分42秒

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分頃より大地震あり。続いて三時頃大音響とともに大津浪襲来し、三時十分頃最も波浪高し。宮古地内は幸にして被害少く流失戸数四戸、溺死者二名なり。
本碑は東京朝日新聞社読者より寄託に係る義援金を重ねて分配せられたる金員をもって建設したるものなり。

昭和九年三月三日　宮古町建之

碑文表

大海嘯記念

一、大地震の後には津浪が来る
一、大地震があったら高い所へ集まれ
一、津浪に追われたら何処でも高い所へ
一、遠くへ逃げては津浪に追いつかれる
　常に逃げ場を用意して置け
一、家を建てるなら津浪の来ぬ安全地帯へ

石巻市　石井敬三郎刻

岩手058番
2014/04/24

1960年5月24日チリ地震津波記念碑

対象津波 チリ津波　建立月日 不明　住所 宮古市日立浜町32　建立場所 浄土ヶ浜　碑高 180cm　碑幅 310cm　海抜 3m



宮古ロータリークラブにより建立された巨大な津波碑。チリ地震による津波の記念碑だが、上部には「四つのテスト」なる意味不明の銘板もある。これは全世界のロータリークラブ基本理念。米国人ダレル・トンプソンが考案した倫理指針で、会社で言えば社訓のようなものでしょうか。今回の津波では、左に建つ昭和三陸津波碑は流失したが、この碑は流されることなくよく耐えた。調べてみたが建立時期は不明で、チリ地震の直後ではなく、少なくとも2000年以降の建立でまだ新しい碑である。

碑文表

1960年5月24日チリ地震

津波記念碑

地震がなくとも潮汐が異常に退
いたら津波が来るから早く高い
所に避難せよ
宮古ロータリークラブ


復興工事が完了した浄土ヶ浜（御台場展望台より）


復旧されたレストハウス、津波到達ラインが記される


名物の浄土ヶ浜カレー


さっぱ船による青の洞門遊覧はお薦め


遊歩道の整備は早期に完了した

岩手059番
2014/04/24

宮古開港記念碑

対象津波 慶長三陸沖地震津波波　建立月日 大正４年９月　住所 宮古市本町1-7
建立場所 国道路傍　碑高 357cm　碑幅 160cm　海抜 2ｍ



宮古市役所のすぐ裏手、国道45号が屈曲する三角地に大きな石碑がある。宮古港の由来を漢文で記した難しい内容だが、前半部に、慶長16年（1611年）に地震による津波災害で大きな被害があったことが記されており、時の領主南部氏が復興には手間取った様子も書かれている。高さ3mを越える大きな碑の隣には、「災害洪水水位標」と刻まれた石柱が建っている。これには台風による高波で浸水した水位や、チリ地震での津波の高さなどが刻まれている。今回の震災では、この水位標を遥かに越える浸水となってしまった。



経緯度 北緯39度38分33秒/東経141度57分22秒



念記港開

碑文表

【漢文による長文が刻まれる】
宮古港開港からの歴史について記され、その中で津波の体験について触れられている





津波碑の脇に建つ「災害洪水位標」。東日本大震災ではこれを越えたため、作り直すことになるか？

岩手060番
2014/04/24

三陸海嘯横死者招魂之塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年旧12月5日　住所 宮古市沢田4-11
建立場所 常安禅寺参道　碑高 180cm　碑幅 80cm　海抜 18m







訪れたときはちょうど桜が満開で、その艶やかさに目を奪われた美しい寺院だった。参道の整備はすこぶるよく、こちらも気持ちが高揚する印象だった。その参道脇に明治の津波碑がある。この寺の駐車場は本堂前。その駐車場に運良くご住職がおられ、津波碑の場所を尋ねるとご丁寧に現地まで案内してくれた。「この下の参道脇ですよ」との説明だけでよかったのに、恐縮でありまた大変有り難くもあった。このような調査旅をしていると、丁寧な接待は心から嬉しい限りである。なお、明治碑の近くには、東日本大震災の津波碑も建立されていた。





経緯度 北緯39度38分43秒/東経141度57分19秒

碑文右側面

宮城県死亡　三千三百十四人　流失　千百八十四戸
岩手県死亡　二万五千四百十三人　同　六千百五十六戸
青森県死亡　三百四十六人　同　四百八十四戸

碑文表

明治廿九年六月十五日旧五月五日午後八時半

三陸海嘯横死者招魂之塔

岩手062番
2015/08/20

三陸大海嘯横死精霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年6月　住所 宮古市藤原3丁目6-7
建立場所 国道路傍/観音堂前　碑高 130cm　碑幅 70cm　海抜 4m



津波碑を探すときは、ほとんどの場合は走行中の車窓からキョロキョロするのだが、流れが速い国道では、目立つように建っていないとなかなか発見できない。ここもそのひとつ。国道沿いの観音堂前にあると事前調査で判ってはいたものの、ちょうどT字路の交差点にあったために、不用意に減速することもできず何度も見落としていた。そもそも東北整備局の資料には、標高22mと記載があったために、上ばかり見ていたという経緯もある。最終的にはGoogleMapのストリートビューで確認し場所を確定。標高は国道と同じレベルでわずか4m。また、前述の通り、交差点内にありクルマでは停まりにくいため、わざわざバイクで向かったという、難儀した石碑巡礼だった。



経緯度 北緯39度38分6秒/東経141度57分43秒



碑文表

三陸大海嘯横死精霊

施主
藤原若者中

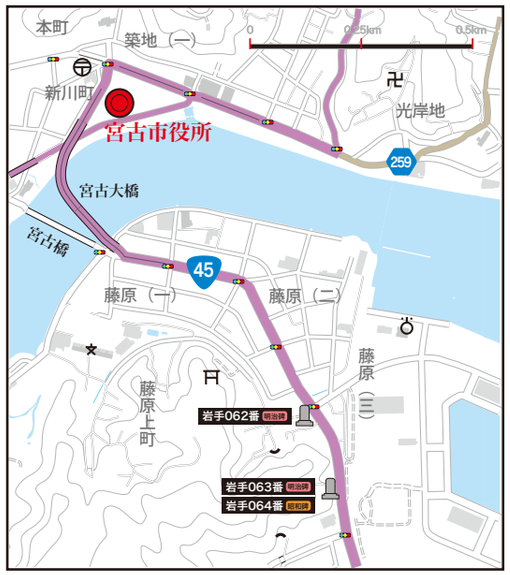
常安廿世法運叟

岩手063番
2015/08/20

海嘯紀念碑



写真の通り、国道脇に手摺りの付いた小径がある、その先にはお社でもあるのだろうか？通行禁止のために登ることはできないが。その小径口に４基の石碑が建っている。うち２基が津波碑である。交通の流れが速い国道沿いのため、ここもクルマではなくバイクでの巡礼とした。人は登れず車窓からは速く目に止まらず、さらに周囲の雑草は伸び放題。このまま忘却の彼方へ去りそうな状態である。



経緯度 北緯39度38分1秒/東経141度57分46秒

対象津波 明治三陸地震津波　建立日 明治35年5月　住所 宮古市磯鶏石崎1　建立場所 国道路傍
碑高 230cm　碑幅 90cm　海抜 7m

岩手064番
2015/08/20

三陸大海嘯記念碑





碑文表

三陸大海嘯記念碑

昭和八年 三月三日 旧二月八日 午前二時三十分強震
大地震の後には
津浪が来る
地震があったら
高い処に逃ろ
午前三時十分大海嘯

石巻市　石井敬三郎　刻

碑文表

海嘯紀念碑

漢文のため簡略に意訳する

端午の節句の祝いの最中、突如発生した津波で、修羅場と化す。明治二九年六月十五日の津波の無惨な光景を記す。その日は薄暗く雨だった。数回の地震の後に、遠雷のような音が響いたら、二回の大津波と激風が襲来してきた。家屋の倒壊や人畜の被害は凄まじく、本村では高浜、金浜、磯鶏石崎・飛鳥・方神林・白浜で流失家屋　百二十一戸、死者九十六名の被害となった。津波の被害は陸前から陸奥北郡まで及び、三万の死者が出た。ここに七年忌を記念して、磯鶏区民一同及び愛友団員は記念碑を建設し後世に伝える。

明治三十五年五月
磯鶏区　横死者　男二十七人　女三十一人
流失家屋　五十三戸　水没十戸

対象津波 昭和三陸地震津波　建立日 昭和9年5月　住所 宮古市磯鶏石崎1　建立場所 国道路傍
碑高 230cm　碑幅 90cm　海抜 7m

岩手065番
2015/12/17

三陸海嘯横死者精霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市金浜第２地割34−2
建立場所 江山寺前　碑高 78cm　碑幅 60cm　海抜 5ｍ



金浜地区にある江山寺山門前の路傍に石碑群があり、その中に背の低い明治の津波碑がある。山門前と書いたが、資料によると「山門前」だったらしく、訪れた際は、道路と石碑と塀らしき基礎があるだけ。以前は周囲に建物があったとは想像ができない状態だった。無論、山門も無い。じつは、この津波碑は２度訪れている。初回は寺前の路傍にあったが、2015年12月に再訪したところ、新道路造設のために参道石段脇の石積みの上に移設されていた。



碑文表

明治二十九年六月

三陸海嘯横死者精霊

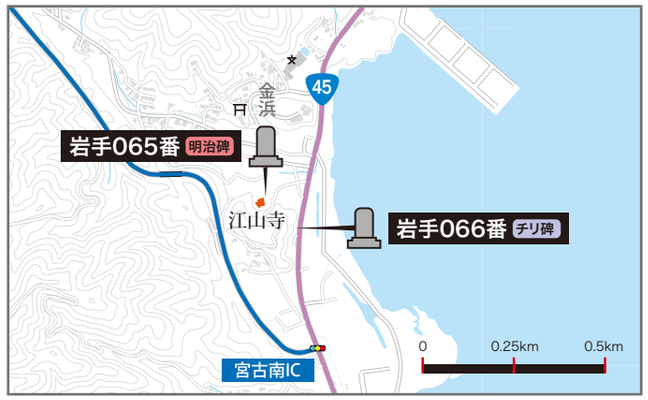
旧五月五日夕

施主

金浜■■■■



移設前の門前と石碑群



経緯度 北緯39度35分46秒/東経141度56分36秒



移設前の路傍の様子。奥には住宅があったと思われる



境内の様子。本堂は修復されたのだろう、しかし、境内は一面茶色い土の地面で他には何もなかった

江山寺周辺は、嵩上げ工事などにより道路の付け替えが行われており、上記地図とは異なる

岩手066番
2015/12/17

チリ地震津浪記念碑

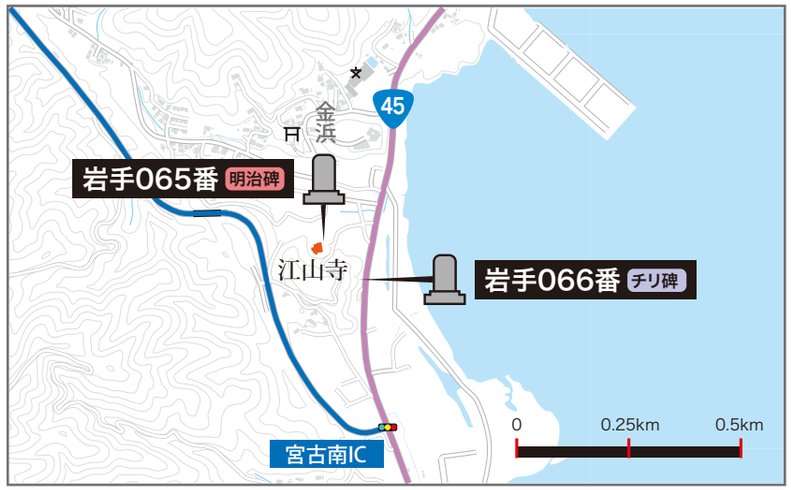
対象津波 チリ津波　建立月日 昭和36年5月24日　住所 宮古市金浜第2地割86
建立場所 国道路傍　碑高 212cm　碑幅 83cm　海抜 4m







国道45号沿いにありすぐ目に止まる大きな石碑。津波の直撃を受けており、表面は傷だらけになっているが、大きな損傷は無い。が、土台との接合部が真新しいセメントのようなので、流されたものを修復している可能性もある。また、チリ津波の碑としては珍しく、昭和津波碑と同形の板碑である点も、他にはあまりみられない貴重な存在といえる。



経緯度 北緯39度35分42秒/東経141度56分38秒

碑文表

昭和三十五年五月二十四日

チリ地震津浪記念碑

午前二時五十分津波襲来

大地震の後には
津波が来る
外国地震でも
津波は来る
潮がめだってひいたら
高い所へ

碑文裏

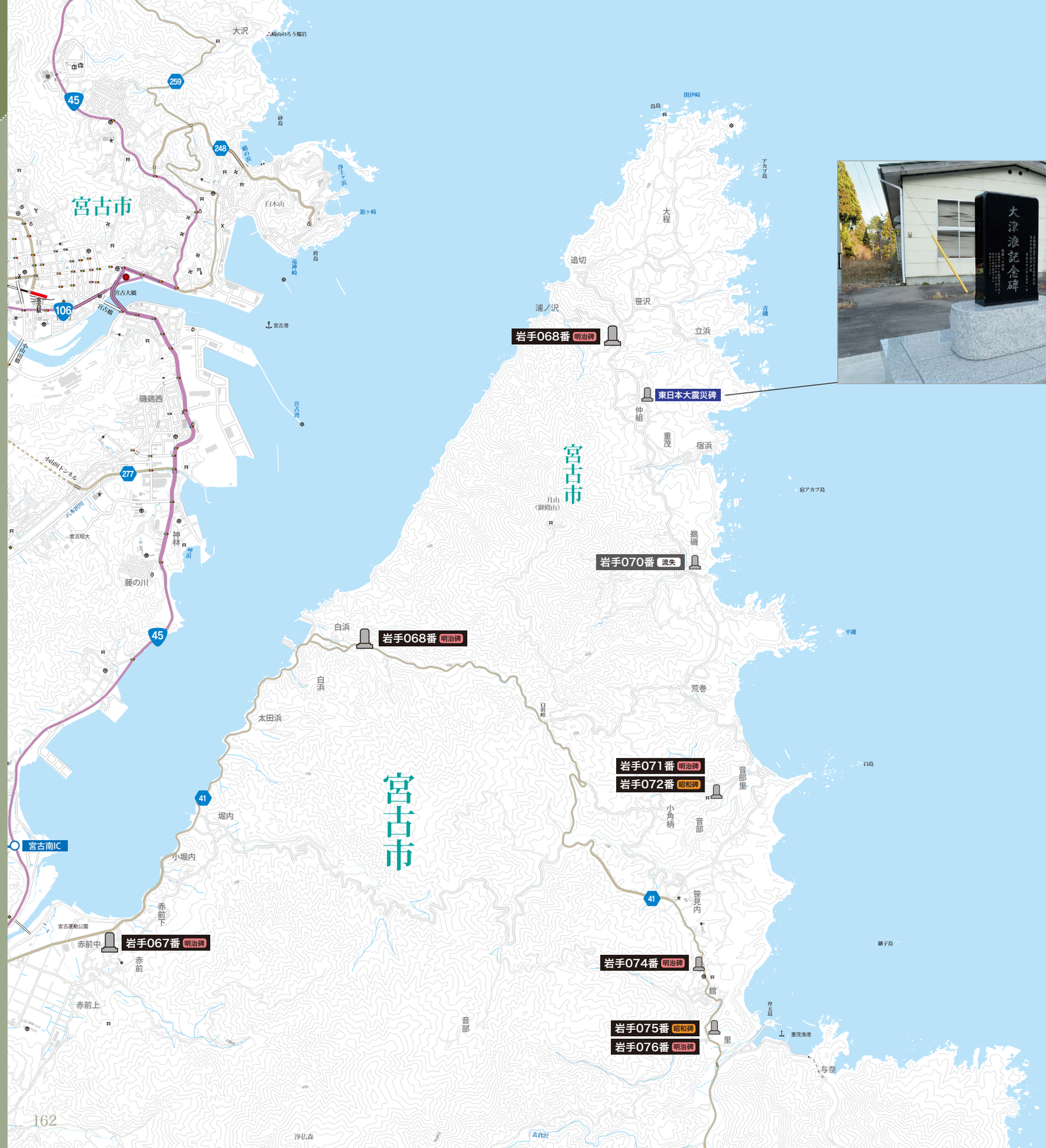
昭和三十五年五月二十四日未明、突如チリ地震津波襲来す。なんの前ぶれもなく正に「寝耳に水」である。過去の経験に「津波は地震を伴うもの」これまでの常識は一瞬にして覆える。それだけに瞬時のうちに住宅財貨を失い、生産手段をもぎとられ、被災地特に高浜、金浜、津軽石の一部及び赤前各地区民の惨状言語に絶する。

被害総額九億五千万円

昭和三十六年五月二十四日

宮古市建之　石工　鈴木祐一

宮古市	世帯数	人員
被害区分		
死亡	一	二〇一
流失	三六	四〇七
全壊	七六	四〇七
半壊	七〇	一〇八二
床上	二一三	二三〇四
床下	四五八	四四〇一
計	八五三	


宮古市
宮古市
宮古市
大沢
白木山
宮古大橋
宮古港
磯鶏西
神林
藤の川
白浜
太田浜
堀内
小堀内
宮古南IC
赤前下
赤前中
赤前
赤前上
宮古運動公園
宮古港
追切
浦ノ沢
笹沢
立浜
大程
東日本大震災碑
仲組
重茂
宿浜
月山
(御殿山)
鵜磯
荒巻
音部里
小角柄
音部
笹見内
館
里
与奈
宿アカブ島
平磯
白島
継子島
弁天島
重茂漁港
浄仏森
表倉沢
岩手068番 明治碑
岩手070番 流失
岩手068番 明治碑
岩手071番 明治碑
岩手072番 昭和碑
岩手067番 明治碑
岩手074番 明治碑
岩手075番 昭和碑
岩手076番 明治碑


大津浪記念碑

「宮古市重茂半島北部」

岩手067番
2015/08/20

海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市赤前第11地割1
建立場所 一般道路傍　碑高 260cm　碑幅 155cm　海抜 3m





筆者のうっかりミスで地図上のマーキングを間違ってしまい、なかなか辿り着けなかった津波碑。着いてしまえばなんということはなかった。事前準備はしっかりやらねばならぬいい教訓となった。この赤浜地区は、この津波碑が建つ一般道を境に段丘となっており、東日本大震災では明暗をきっちり分けてしまった。建立場所は、石碑のために設けられた三角地となっており頑丈な擁壁の上となる。そこに4基の石碑が建ち、最も大きなものが津波碑である。擁壁の上をよく見ると、角パイプが等間隔にちぎれた跡が残る。フェンスの支柱である。フェンスは跡形も無いのだから、津波が襲来したのは間違いない。しかし、碑は耐え残ったが、海の方角に転じると、そこには一軒の家屋も無かった。その様子を自身も波をかぶりながらも一部始終を見ていたことだろう。



経緯度 北緯39度35分1秒/東経141度57分18秒

碑文表

明治二十九年
陰暦五月五日
海嘯紀念碑

岩手068番
2014/04/23

海嘯横死者精霊塔

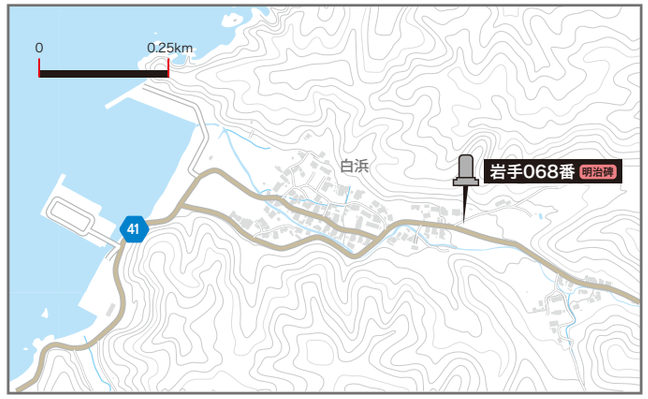
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市白浜第1地割
建立場所 県道路傍　碑高 217cm　碑幅 95cm　海抜 22m







重茂半島を宮古側から進入すると、宮古湾沿いの海岸道路は、白浜地区から山岳路へと切り替わる。その山岳路の始まる路傍に石碑群があり、明治の津波碑が建つ。他の石碑もほとんどが供養碑となっている。以前はバラバラに建っていた碑をこの場所にまとめたようだが時期は判らない。なお、この石碑の基部には津波で亡くなった約30名の刻銘があるが、集落の規模からするとかなり大きな犠牲者の数であろう。この道は集落の生活幹線道路。日々、通るたびに手を合わせたに違いない。



経緯度 北緯39度36分34秒/東経141度59分秒

碑文右側面

施主
当村二七戸
宮古町
坂本嘉左エ門
同　半次郎
木村善之助

碑文表

明治二十九年
海嘯横死者精霊塔
申旧五月五日

約30名の名前が刻まれるが判読が難しい
津波による死亡者の氏名

岩手069番
2015/12/17

三陸海嘯記念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 大正4年3月　住所 宮古市重茂第29地割1
建立場所 山中　碑高 153cm　碑幅 77cm　海抜 100m

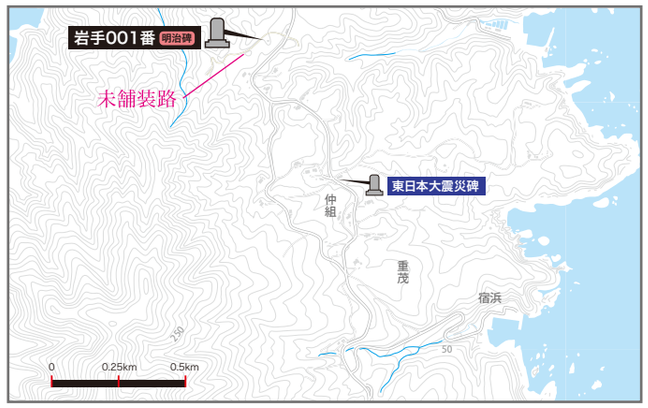






この津波碑は探しました。東北整備局の資料には地区名しかないうえに、所在を示す地図もかなり大雑把。道路を何往復するも影も見えず一旦退散。事務所に戻り航空写真やストリートビューでも発見できない。一時、諦めかけたのだが、上西氏の資料に「廃屋の脇を入る」という旨の記載があり、おそらくこれであろうと思われた小径に進入すると、100mも進まないところに石碑を発見。一帯はちょっとした広場になっており、クルマなら20台は停められるスペースとなっていた。石碑建立の際に広場を開いたのだろう。ところが、道路からは広場は見えず、こんな山中に碑を建てても誰が来るのか？という先入観が探索の勘所を鈍らせてしまったようだ。なお、脇には自衛隊戦闘機事故の慰霊碑と馬頭観世音碑も建っている。





経緯度 北緯39度38分7秒/東経142度0分42秒

碑文表

三陸海嘯紀念碑

明治二十九年旧五月五日

碑文裏

海嘯
唱散白雲不着火
躑翻滄海超那邊
却来消息君休問
処々身心儘現前

善龍谷山瑞雲寺江刺哲道

大正十四年三月仲組・追切有志建之
陸前稲井　菅野卯吉　刻

川代
流失家屋　十六戸
溺死者　五十八名
石浜
流失家屋　十六戸
溺死者　七十四名
千鶏
流失家屋　十六戸
溺死者　七十一名
流失家屋　十六戸
溺死者　五十八名
姉吉
流失家屋　十一戸
溺死者　七十一名
元村
流失家屋　五十戸
溺死者　二百五十名

音部
流失家屋　四十一戸
溺死者　二百七名
荒巻
溺死者　三名
鵜磯
流失家屋　三戸
溺死者　十四名
中組
溺死者　五名
追切
流失家屋　二戸
溺死者　十一名

岩手071番
2014/04/23

海嘯紀念碑



音部地区を訪れたとき、工事用？のプレハブ以外、建物の姿形は一切なく、ここに人間の生活の場が存在した痕跡を感じられない状況だった。さて、このような所に津波碑があるのだろうかと見渡すと、奥の方に鳥居らしきものが見えた。車で近寄ると「ビンゴ」だった。「村社大神宮」と書かれた額が掲げられている。その脇には石碑群があり、さっそくというか、東日本大震災津波到達地の石柱も建っている。津波襲来から３年を経ているため正確にはわからないが、鳥居は修復されたともの推察されたが、石碑群は倒壊を免れたと思われる。過去２回の津波も同地に到達し、そのマーキングとして津波碑を建立したのではないだろうか。

碑文表

海嘯
紀念碑

明治二十九年旧五月五日

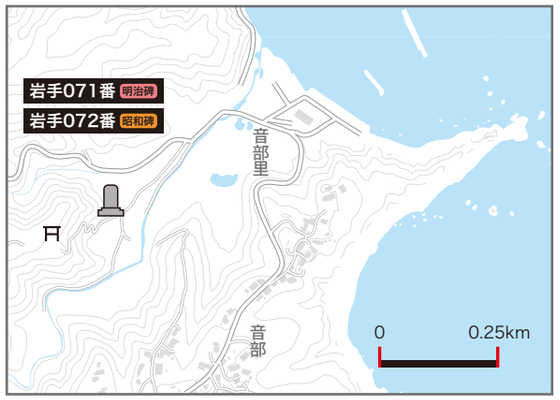
文学博士井上圓了書　音部區民一同

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市音部第６地割24　建立場所 大神宮鳥居前
碑　高 152cm　碑　幅 135cm　海　抜 12ｍ

岩手072番
2014/04/23

昭和八年大津浪記念碑





経緯度 北緯39度35分47秒/東経142度1分25秒

碑文表

昭和八年
大津浪記念碑

強い地震は
津浪の志らせ
その後の警戒
一時間
想え惨禍の
三月三日

この碑は昭和八年津浪の際、東京朝日新聞社が読者から寄託された義援金を各町村に分配し、その残余を更に建碑費として受け建設するものなり。
音部區

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 宮古市音部第６地割24　建立場所 大神宮鳥居前
碑　高 133cm　碑　幅 73cm　海　抜 12ｍ

岩手074番
2014/04/23

海嘯供養

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市重茂第1地割59-4
建立場所 県道路傍　碑高 114cm　碑幅 69cm　海抜 86m





碑文表

明治二十九年
旧五月五日
海嘯供養

なぜここに？と、いぶかしくなる、何の理由もなさそうな道端にポツンと石碑が置いてある。建っているのではなく、「置いてある」という雰囲気。津波碑ではなくお地蔵さんの方がお似合いではという場所柄である。道を挟んで碑の前に、重茂漁協の大きな建物が建っているので、漁業に関係した人が建立したのだろうか。現代ではクルマが往来する道端だが、当時は徒歩の時代。毎日の生活の中で、往来の都度、犠牲者の冥福を祈ったのかもしれない。



なお、2016年7月に再訪のおり、スタンドが建設され撤去されていた。周囲をざっくり探してみたが移設の形跡はなかった。
保管場所は不明である。黄色い点線部分に建っていたのだが何処に？



経緯度 北緯39度34分53秒/東経142度1分19秒

岩手075番
2014/04/23

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市重茂里第1地割
建立場所 県道路傍　碑高 170cm　碑幅 125cm　海抜 14m



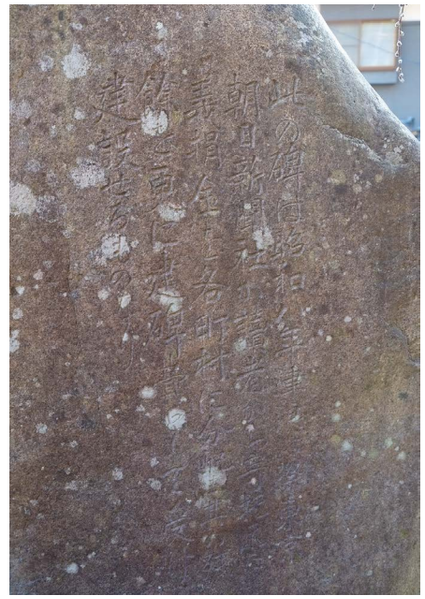
ここ里地区は明治、昭和、東日本大震と3度に渡って甚大な被害が出ている地区だ。それを記す2基の津波碑には被害の数が刻まれているが、特に明治三陸津波の被害は大きかった。津波碑といえば死者の人数と家屋の流出数が刻まれるが、家屋流失項には「五十戸全滅」となっている。「全滅」という記載はそう滅多にあるものではない。そして今回も、この碑より低い場所の家屋は「全滅」しており、茶色い地肌が海岸まで続いていた。なお、2基の津波碑の更に上には、東日本大震災の津波碑が建立されている。三大地震津波の碑が並ぶ数少ない地のひとつである。



地図は173ページページを参照

経緯度 北緯39度34分34秒/東経142度1分20秒

碑文表



昭和八年
三月三日
午前三時

津浪記念碑

強い地震は
津浪の報らせ
その後の警戒
一時間
想え惨禍の
大地震

字里に於いて
流失住宅二八
死者四十七人
傷者八人

台座面

碑文裏

この碑は昭和八年津波の際、東京朝日新聞社が読者から寄託された義援金を各町村に分配し、その残余を更に建碑費として受け建設せるものなり

岩手076番
2014/04/23

海嘯記念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市重茂里第1地割
建立場所 県道路傍　碑高 185cm　碑幅 130cm　海抜 15m



碑文表

明治二九年旧五月五日

海嘯記念碑

里家屋五十戸全滅

死亡者二百五十名



東日本大震災の津波碑は、最も高い位置に建てられている



東日本大震災の津波碑は、「津波到達地碑」もある

地図は173ページページを参照

「宮古市重茂半島南部」

岩手067番 明治碑
岩手074番 明治碑
岩手075番 昭和碑
岩手076番 明治碑
岩手077番 昭和碑
岩手078番 流失
岩手079番 流失
岩手080番 明治碑
岩手081番 昭和碑
岩手082番 流失
岩手083番 明治碑
岩手084番 流失
岩手085番 流失

この地区には高さ190cmと140cmの大型の津波碑があったが、地区の住民に尋ねたところ、古い公民館の脇に建っていたが、津波で建物もろとも流された、とのこと。破損した津波碑は見つけたようだが、気が付いたらどこかに移動されていて、今はないという。原形をとどめているなら復活してもらいたいところだが、処分したところを見ると修復不可能な状態だったのかもしれない。

岩手077番
2014/04/23

大津浪記念碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 宮古市重茂第10地割19
建立場所 一般道路傍　碑高 130cm　碑幅 57cm　海抜 55m







碑文左側面

この碑は昭和八年津浪の際、東京朝日新聞社が読者から寄託された義援金を各町村に分配し、その残余を更に建碑費として受け建設せるものなり。

碑文表

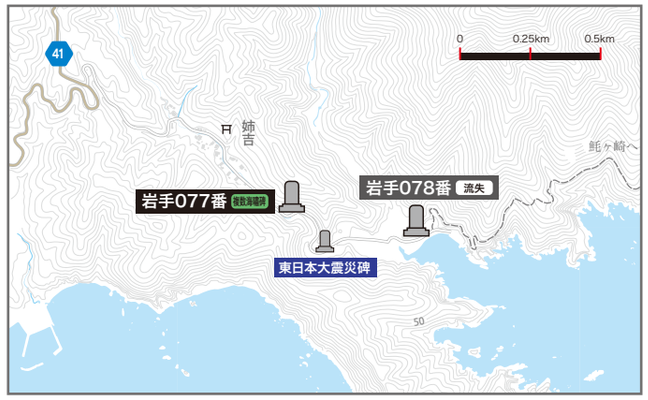
大津浪記念碑

高き住居は
児孫の和楽
想え惨禍の
大津浪
ここより下に
家を建てるな

明治二十九年にも
昭和八年にも津
浪はここまで来て
部落は全滅し生
存者僅かに前に二人
後に四人のみ幾歳
経るとも要心をせ

マスメディアに取り上げられ有名になった津波碑のひとつ。姉吉地区は過去二度の津波で家屋は全滅し、その教訓として津波到達地手前にこの碑が建てられた。この碑より下には家を建ててはならいと刻まれ、住民はその教えを守り標高の高い地点に集団移転。誰ひとり教えに背くものはいなかった。東日本大震災では、漁港に被害はあったものの家屋と人的被害は皆無。教訓型の碑は各地にあるものの、残念ながら人命と財産を失った地区は多い。先人の教えをよく守り被害を出さなかった姉吉の石碑が世に知らされたのはそのためである。東日本大震災津波の到達地点に多くの碑が建てられたが、相変わらずそれを無視し家を再建している光景をよく見る。覚悟の上なのだろうと思うが。





経緯度 北緯39度32分3秒/東経142度2分44秒

岩手080番 対象津波 明治三陸地震津波 建立月日 不明
岩手081番 対象津波 昭和三陸地震津波 建立月日 不明

住 所 宮古市重茂第11地割88
建立場所 県道路傍 海 抜 43m



千鶏地区を見下ろす県道沿いのバス停脇に２基の津波碑が建つ。ここから見渡すこの集落は、けっして広くはないが、明治には90名、東日本大震災では32名もの人々が亡くなっている。裸地となっている旧宅地を見ても、全滅に近いのではないかと思えるほどの広さしかない。亡くなった人には逃げ遅れた様々な事情があったと思うが、流されずに済んだご近所は家族同様の付き合いがあっただろう。そのようなことを思うと切なくなる。明治津波、昭和津波２基の碑の脇には、東日本大震災の３基目の津波碑が建立されていた。４基目の津波碑には被害者「0」の刻みを入れて欲しい。





経緯度 北緯39度31分54秒/東経142度1分59秒

海嘯記念碑 / 昭和八年大津浪記念碑

2014/04/23

岩手080番

碑高 170cm 碑幅 100cm



碑文表

海嘯記念碑

明治二十九年旧五月五日
流失家屋十七
死亡者九十名

岩手081番

碑高 93cm 碑幅 60cm



碑文表

昭和八年大津浪記念碑

強い地震は
津浪の知らせ
その後の警戒
一時間
想え惨禍の
三月三日



碑文裏

この碑は昭和八年津浪の際、東京朝日新聞社が読者から寄託された義援金を各町村に分配し、その残余を更に建碑費として受け建設せるものなり。

岩手083番
2015/12/17

海嘯横死牛馬観世音

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 大正３年　住　所 宮古市重茂第20地割30
建立場所 漁港通路脇　碑　高 94cm　碑　幅 48cm　海　抜 5ｍ





碑文表

海嘯
横死
牛馬観世音

大正十二年十一月■■

石村辰■■

石浜漁港の一角に石碑群がある。大小５基あるが、津波の際に流されており、2014年に修復されたもの。元々ここには津波碑が２基あったようだが、今回の復活には含まれていない。残念ながら見つけることが出来なかったのだろう。残った１基の津波碑だが、津波により死んだ牛馬を弔うもの。せっかく修復してもらったのだが、けっこう荒っぽい修復のようで、本来より20ｃｍ高さが短い。つまり、コンクリートの下に埋没している。ただ、単に深く埋めたのか、破損のために短くなったのかは不明。後者であれば、「荒っぽい修復」の弁は撤回します！



経緯度 北緯39度31分21秒/東経142度1分43秒



岩手県

山田町・大槌町・釜石市

調査対象津波碑	57基
現存碑	45基
流失碑	9基
不明碑	0基
未確認碑	3基



「山田町中心市街地」

山田町

岩手087番 明治碑
岩手088番 昭和碑
岩手086番 昭和碑
岩手090番 復元碑
岩手089番 明治碑
岩手091番 昭和碑
岩手096番 明治碑
岩手097番 昭和碑

南陽寺
ふるさとセンター
龍昌寺
八幡神社
織笠小学校

山田IC
関谷高架橋
山田トンネル
山田橋
織笠高架橋
織笠大橋

新開地
大沢
下条
猫石坂
浜川目
大沢
大沢漁港
熊ヶ崎
山田
関谷
沢田
川向
袴田
柳沢
北浜町
後楽町
中央町
八幡町
山田漁港
長崎（三）
長崎（四）
長崎（一）
長崎（二）
川向町
境田町
大畑
飯岡
細浦
跡浜
森
上
龍泉寺
山田湾
大島（オランダ島）
小島
伝作鼻
弁財天島
女郎島
浪板崎

45
41
100
10000

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

岩手086番
2014/04/23

三陸大海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住所 下閉伊郡山田町大沢第８地割95
建立場所 旧大沢小学校敷地内　碑高 260cm　碑幅 130cm　海抜 15ｍ







碑文表

一大地震の後には津浪が来る
一地震があったら高い所へ集まれ
一津浪に追われたらどこでもここくらいの高い所へ
一遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一近くの高い所を用意しておけ
一県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

陸三
念記嘯海大

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響と共に大海嘯の襲来あり。三時十分頃最も被害あり。
大沢村の流失戸数七十二戸、半潰三十三戸、溺死者一名。
本碑は東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義捐金を同社に施て罹災各町村に分配せし残余を重ねて分配せられ其金員を以て建立せしもの也
昭和九年三月三日建設
下閉伊郡大沢村長　大久保喜重治誌

下調べで大沢小学校の敷地内に建つことは判っていたが、先に訪れた南陽寺参道手前に「大沢小学校跡地記念碑」なるものが建っておりピンときた。この石柱が建つ奥には小高い丘がある。海沿いの学校はめったに海抜0mに建てることはない。丘に通じる小径を登っていくと「大沢公園」と小振りな建物「ふるさとセンター」があった。あまり広くない公園を見渡すと、海沿いのフェンスに大きな石碑。近づくと石碑の脇に校門があり「大沢小学校」のプレートが残っていた。やはりここは旧大沢小学校であった。もちろんその石碑は昭和９年に建てられた津波碑である。ここまですでに200基に迫る津波碑を訪れてきた。津波碑を見つけるアンテナの感度が上がっているようだ。ちなみに現在の大沢小学校は、北北西に400ｍ、海抜30ｍの高台に移転されている。現在の小学校敷地内ではないと勘ぐったのが正解だった。



経緯度 北緯39度29分3秒/東経141度58分28秒

岩手087番
2014/04/23

海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 下閉伊郡山田町大沢第８地割19-2
建立場所 南陽寺参道　碑高 225cm　碑幅 95cm　海抜 5ｍ



南陽寺の参道には明治の津波碑と昭和の津波碑が向かい合うように建立されている。この参道は海抜５ｍしかなく、今回の津波でも浸水しているはずだが、震災から３年後に訪れた時点では被害の跡は見受けられないほどに回復していた。昔から神社仏閣は、津波には流されない位置にあらかじめ建てられているのだろうか。今回の津波碑巡りで感じるのは、流されなかった神社仏閣のほとんどがきわどい位置に建っている点である。これがまぐれなのか、必然なのか真相を知りたいものである。



経緯度 北緯39度29分3秒/東経141度58分25秒





碑銘表

海嘯紀念碑

碑文右側面

明治二十九年六月十五日　旧五月五日　午後八時
大沢村溺死者　男　壱百六十三
女　弐百五十三
合計　四百十六名

岩手088番
2014/04/23

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住　所 下閉伊郡山田町大沢第８地割19-2
建立場所 南陽寺参道　碑　高 250cm　碑　幅 94　cm　海　抜 5ｍ







碑文右側面

本慰霊塔は、全国各地の篤志者より寄託せられたる義金の内より特に海嘯溺死者の弔慰霊施設費として指定し県より配分せられたる義捐金を以て建立せしものなり

昭和九年三月三日　建設
下閉伊郡大沢村長　大久保喜重治誌

碑銘表

昭和八年三月三日　旧二月八日　午前三時十分海嘯襲来

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

大沢村流失戸数七一二戸　溺死者数一名

石巻市　石井敬三郎　刻

前項の87番碑と、参道を挟み向かい合うように当該碑が建つ。一般的な昭和津波碑は、朝日新聞社の義援金で建立されたものを多く見るが、この碑については、県より配分された義援金を使い建立されている。東日本大震災では、死亡者の数により義援金の配分額が異なっている。この時も同様な配分割合で、家屋の流出戸数は多かったものの、死者が１名と少ないために、義援金に余裕があったのだろうか。建立の経緯が他の碑とは異なるという点に興味が湧くが、今となっては確認のしようがない。



経緯度 北緯39度29分3秒/東経141度58分25秒

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み　195

岩手089番
2014/04/23

丙申震嘯之紀

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年2月　住所 下閉伊郡山田町後楽町4-5
建立場所 龍昌寺境内　碑高 260cm　碑幅 137cm　海抜 6m







龍昌寺の境内には２基の津波碑が建立されている。大きな被害を出した山田町であるが、この寺は港から250mほどしか離れていないうえに、海抜もわずか6m。にもかかわらず、建物が流されるほどの津波は襲来していない。摩訶不思議である。地形が関係していると思うが、境内口直前の建物は土台から上は無い。寺の直前で止まっているのである。いつも思うが寺社マジックなのだろうか。龍昌寺の境内には保育園があり、石碑がある場所も境内ではあるが、園庭も兼ねている。

そのためこの津波碑のほか大きな石碑には鉄囲いがされている。過去に園児による事故でもあったのだろうか。それとも津波碑を大事に扱っているのだろうか。たぶん前者なのだろうと思う。



経緯度 北緯39度28分9秒/東経141度57分4秒

碑文裏

被害調査

（箇条タテ書きで、家屋の被災数と死亡者の人数が記載される。詳細は割愛する）

内容は、死亡者の年齢別人数が男女別に細かく記載されている。さらに、赤十字病院に入院した人数や、治療を受けた人数、炊き出しを受けた人数、町議、学生、役場職員などの死亡者数もリストされるなど、ほかの碑にはない特徴がある。

碑文表

丙申震嘯之紀

（漢文が刻まれる。以下要約文）

明治二十九年丙申六月十五日に、微弱な地震の後に遠来轟くが如き大波が来た。畑や住宅のほか人や家畜が流され、悲鳴や号泣が鳴り響いた。朝になると何も無い荒涼な風景が広がり、溺死などで８００人もの遺体が累々と横たわった。火事も起こり、５０人余が焼け死んだ。生き残った者は、服も食べるものも家も失い、飢えに苦しみ悲惨な思いをした。

岩手090番
2014/04/23

海嘯遭難者慰霊塔

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 下閉伊郡山田町後楽町4-5
建立場所 龍昌寺境内　碑高 202cm　碑幅 81cm　海抜 9m





碑文表

海嘯遭難者慰霊塔

敕賜大規正信禅師永平慧昭書

２基目は本堂の脇にある。碑銘のみで碑文はない。園庭に建つ碑は震災の状況説明と被害概要を刻んでおり、後世に伝えるための記録碑。こちらは被災者を弔う目的の碑、ということだろうか。なお、当碑の筆は「大規正信禅師永平慧昭書」と記されており、曹洞宗・永平寺第６８代管長を務めた僧侶。昭和８年に「大規正信禅師」を勅賜されているため、昭和に建てられた津波碑であることが判る。ただ、海嘯遭難者は時代を問わずと考えてよいのかと思う。



経緯度 北緯39度28分9秒/東経141度57分4秒



岩手091番
2014/04/23

津浪記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 下閉伊郡山田町八幡町7-1
建立場所 八幡宮参道　碑高 280cm　碑幅 125cm　海抜 11m



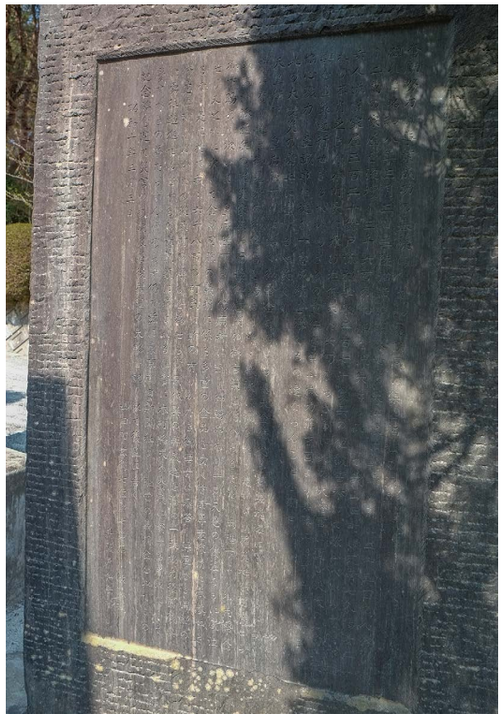
この津波碑は、以前の津波被害から免れた地点に建てられたという。つまりこの碑が避難と建物建設の目安になる位置になる。この教えを守り、町役場は当碑の横に建てられた。東日本大震災でもこの碑の直前で津波は止まっており、当然ながら町役場も一切の被害を受けていない。ところが、役場と道路一本隔てた家屋は流された。海抜は11mしかないが、ピタリと止まっているのである。先人の教えがこれほどまでに確かであることを証明した津波碑の一本である。





経緯度 北緯39度28分3秒/東経141度56分54秒





碑文裏

奮励努力は事業成功の基礎にして、和衷協同は集団福祉の源泉也〜以下長文

要約するに、天皇の下賜金、全国同胞の義援を受け一致協力復興に邁進すべし、と記載されている

碑文表

津浪記念

一 大地震の後には津波が来る
一 地震があったら高い所へ集れ
一 津浪に追はれたら何処でもここくらいの高い所へのぼれ
一 遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一 近くの高い所を用意しておけ
一 県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

岩手096番
2014/04/23

大海嘯記念

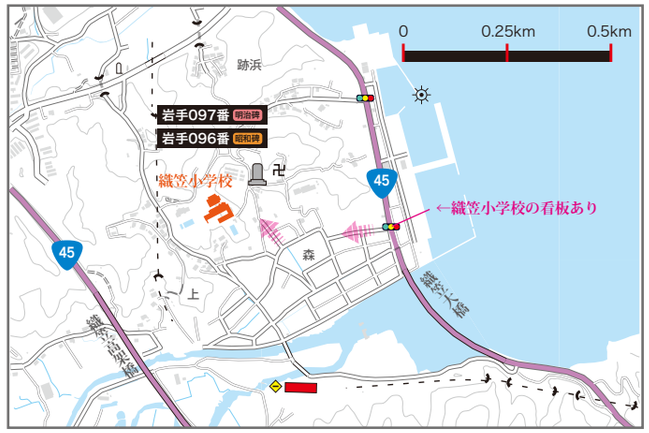
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住所 下閉伊郡山田町織笠第11地割134
建立場所 織笠小学校前路傍　碑高 268cm　碑幅 120cm　海抜 19m







織笠小学校前の三差路に、桜の枝葉が傘を掛けるかのごとく２基の津波碑が建っている。それぞれ明治と昭和の津波碑である。通学路にあり、６年間の学校教育の時間に１度はこの石碑の説明があるのではないだろうか。いや、あって欲しいと願うばかり。奇しくもこの碑に向かって左手には、東日本大震災で被災した住民の仮設住宅があった。被災者の方々は、入居後この津波碑を確認しただろうか。次は先人の教えを守り、仮設に入ることのなきよう誓っただろうか。特に５項目は胸に突き刺さったであろう。



経緯度 北緯39度27分6秒/東経141度57分29秒

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺鵜する強震あり。続いて三時頃より大音響と共に大海嘯襲来あり。波浪の高さ約三米より五米。
織笠村の流出戸数一戸、半壊十戸、床上浸水六十戸、溺死者数六名。
此の記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義捐金二十余万円を罹災町村へ分配せし残金の重ねて分配せられ、其の金員を以て建設せしものなり。

昭和九年三月
下閉伊郡織笠村村長　昆商　平誌之

碑文表

大海嘯記念

一　大地震の後には津波が来る
一　地震があったら高い所へ集れ
一　津波のくる前には海水がひける
一　遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一　近くの高い所を用意しておけ
一　住宅は津波浸水線より高い所へ

石巻市　石井敬三郎刻

岩手097番
2014/04/23

大海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年6月　住所 下閉伊郡山田町織笠第11地割134
建立場所 織笠小学校前路傍　碑高 280cm　碑幅 165cm　海抜 19m







碑文裏

漢文が刻まれている（以下要約）
明治廿九年六月十五日、その日の朝は雨だった。夜に地震が起きた。端午の節句で多くの人が酒に酔っていると、突然濁流が襲来した。山も樹も家も押し流され、北は陸奥から南は陸前志津川まで三万余りの遺体が累々と横たわった。震災を聞き及び侍従が来て弔慰金が贈られた。織笠村の被害は、溺死者七二、流失家屋五六、船舶五六、牛馬九、倉庫数十、橋梁二、水田一六町、陸田六町、宅地六町であった。当碑は三周年を記念し建立するものである。

碑文表

大海嘯紀念碑

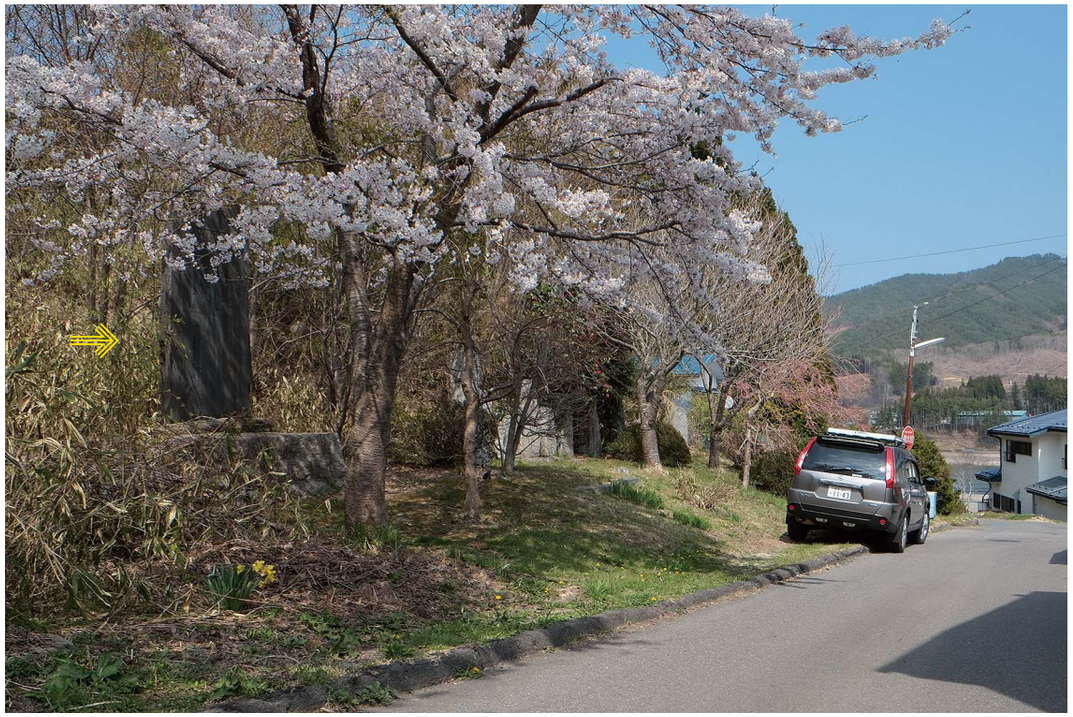

山田湾
浪板崎
大浦崎
大浦漁港
大浦
大浦漁業センター
岩手093番 昭和碑
船越
大浦小学校
船越半島
山田町
多々羅山
小谷鳥
小谷鳥海岸
牛転峠
船越
海蔵寺
岩手094番 昭和碑
船越小学校
岩手095番 昭和碑
船越漁港
船越湾
田の浜
浦の浜
船越家族旅行村キャンプ場
岩手092番 昭和碑
船越
山の内
山田南IC
三陸自動車道
道の駅やまだ
南長林団地
草木山
船越トンネル
45
45
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

「山田町船越・大浦地区」

岩手092番
2014/04/23

大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年５月　住所 下閉伊郡山田町船越第６地割32-44
建立場所 一般道路傍　碑高 274cm　碑幅 127cm　海抜 24ｍ







碑文表

大海嘯記念

一 大地震の後には津波が来る
一 地震があったら高い所へ集れ
一 津浪に追われたら何処でも
ここくらいの高い所へ
一 遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一 近くの高い所を用意しておけ
一 県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

石巻市　石井敬三郎刻

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響とともに大津浪の襲来あり。浪の高さ一〇ｍ、三時十分頃最も被害あり。被害戸数船越区、流失二三戸、半壊一戸、死者三名、田ノ浜区、流失一八三戸、半壊二戸、床上浸水十一戸、死者二名、大浦区、流失五戸、半壊十四戸、床上浸水十六戸なり。本碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残金をもって建てたものなり。

昭和九年五月
下閉伊郡船越村長　鈴木吉平誌

船越地区には４基の津波碑があり、そのうち３基は同じものが場所を異にして建立された。国道45号に近く最も高所に建てられたのがこの津波碑だが、おそらく現在の国道が開通する前は、幹線だったのだろう。国道より少し奥まった一般道路傍にあり、地図上で的確に位置を押さえてなければ見つけるのが難しい場所にある。



経緯度 北緯39度26分1秒/東経141度58分26秒

岩手093番
2014/04/23

大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年５月　住所 下閉伊郡山田町船越第20地割47-3
建立場所 大浦漁業センター敷地　碑高 270cm　碑幅 120cm　海抜 14ｍ







碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下ニ動揺スル強震アリ。続イテ三時頃より大音響とともに大津浪の襲来あり。浪の高さ十ｍ、三時十分頃最も被害あり。被害戸数船越区、流失二十三戸、半壊一戸、死者三名、田ノ浜区、流失百八十三戸、半壊二戸、床上浸水十一戸、死者二名、大浦区、流失五戸、半壊十四戸、床上浸水十六戸なり。本碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残金をもって建てたものなり。

昭和九年五月
下閉伊郡船越村長　鈴木吉平誌

碑文表

大海嘯記念

一　大地震の後には津波が来る
一　地震があったら高い所へ集れ
一　津浪に追われたら何処でもここくらいの高い所へのぼれ
一　遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一　近くの高い所を用意しておけ
一　県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

石巻市　石井敬三郎刻

船越地区には４基の津波碑があり、そのうち３基は同じものが建立された。しかし、この碑を探すのには苦労した。東北地方整備局の資料には、建立場所が「大村小学校」と記載されていたためだ。現地に足を運ぶも碑は見当たらず、たまたま居合わせた先生に所在を聞くと、この学校にはそのような碑は無いと教えられた。はて、と困り果てると、その先生が、「もしかして移転前の小学校では？」という。大浦小学校は昭和33年に移転していたのである。移転前の場所を尋ねると、現在は漁業センターがあるという。そして碑はそこにあったのである。筆者が拠り所としている東北地方整備局資料の落とし穴だった。
なお、この津波碑には白墨が入れられておりとても読み易くなっていた。この配慮はほかの碑にもあまりみられず、津波に対する心構えの高さが窺えた。



経緯度 北緯39度26分44秒/東経142度0分24秒

岩手094番
2014/04/23

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年５月　住所 下閉伊郡山田町船越第10地割18
建立場所 海蔵寺境内　碑高 246cm　碑幅 94cm　海抜 3m







海抜3mしかない海蔵寺は津波により壊滅状態だった。本堂などは跡形も無く、裸地に残った石畳が参道であったことを示すのみであった。津波碑やその他の石碑群はあちらこちらで倒壊しており、元々あった場所に居るのかすら判別できない。その中にあって最も大きな石碑が目当ての津波碑であるが、おそらく庭石だったのだろうか、幾つかの大石に覆い被さるように転倒している。空を仰いでいるのは碑の裏面だった。表は見ることができなかったために、当記述は、国土交通省東北整備局監修「津波石碑情報アーカイブ」からの転載である。



経緯度 北緯39度25分48秒/東経141度58分45秒

碑文表

昭和八年　三月三日
旧二月八日　午前三時十分海嘯襲来

三陸大海嘯溺死者慰霊塔

船越村
流失戸数二百十一戸
半潰戸数　十七戸
溺死者五名

碑文は転倒のため確認できず他の資料から引用した

碑文裏

本慰霊塔は全国各地の篤志者より寄託せられたる義援金の内より、特に海嘯溺死者の弔慰施設費として指定し、県より配分せられたる義援金をもって建設せるものなり。

昭和九年五月
下閉伊郡船越村長　鈴木吉平誌

岩手095番
2014/04/23

大海嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年５月　住所 下閉伊郡山田町船越第12地割19−8
建立場所 一般道路路傍　碑高 280cm　碑幅 120cm　海抜 7m





碑の奥には被災した田の浜地区が見える。建物はない



船越地区には４基の津波碑があり、そのうち３基は同じものが場所を異にして建立された。その中でも、もっとも低地に建てられたのが当該碑。案の定、東日本大震災では津波に押し倒されていた。ただ、不幸中の幸いで、背後が土手であったために、引き波で流失することはなかった。訪れたのは震災から３年を経ていたが、修繕される様子はなく放置状態だった。この地区の復興がなされた際はこの津波碑も直されるだろう。そう願うばかりである。なお、碑の裏面は確認することが出来なかったため、当記述は、国土交通省東北整備局監修「津波石碑情報アーカイブ」からの転載である。

碑の奥にある田の浜地区はほぼ全滅だった。この地区は明治の津波の際、高台移転に同意せず、昭和津波でも潰滅。その後、一旦高台移転をしたものの、時の経過と共に再度低地に住居した。そのため、東日本大震災でも被災し、３度の大震災に３度被災するという憂き目を見ている。昭和津波の高台移転組は全棟無事だった。



経緯度 北緯39度25分14秒/東経141度59分5秒

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分上下に動揺する強震あり。続いて三時頃より大音響とともに大津浪の襲来あり。浪の高さ十ｍ、三時十分頃最も被害あり。被害戸数船越区、流失二十三戸、半壊一戸、死者三名、田ノ浜区、流失百八十三戸、半壊二戸、床上浸水十一戸、死者二名、大浦区、流失五戸、半壊十四戸、床上浸水十六戸なり。本碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残金をもって建てたものなり。

昭和九年五月
下閉伊郡船越村長　鈴木吉平誌

碑文表

大海嘯記念

一 大地震の後には津波が来る
一 地震があったら高い所へ集れ
一 津浪に追われたら何処でもここくらいの高い所へのぼれ
一 遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一 近くの高い所を用意しておけ
一 県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

石巻市　石井敬三郎刻

大槌町

大槌市街地にあった津波碑はすべて流出している
なお、移設した大槌町役場上にある城山公園に
東日本大震災慰霊の「希望の灯」が建てられている

大槌
大ヶ口（一）
辺津ヶ沢
屋敷
迫又
沢山
桑ノ畑
源水
大槌川
大石前
夏本
霜ヶ沢トンネル
吉里吉里トンネル
城山トンネル
城山
末広町
新町
安渡（一）
岩手102番 流失
岩手103番 流失
江岸寺
東日本大震災碑
大槌町役場
小鎚神社
岩手104番 流失
桜木町
鎚川
大町
本町
上町
須賀町
栄町
新港町
港町
安渡（二）
安渡（三）
生井沢
花輪田
伸松
小枕
白石
古廟坂トンネル
岩手100番 明治碑
吉里吉里（二）
吉里吉里（一）
吉祥寺
岩手098番 昭和碑
吉里吉里（四）
吉里吉里（三）
金比羅神社
岩手099番 昭和碑
弁天島
吉里吉里漁港
浪板川
岩手101番 昭和碑
赤浜（一）
赤浜（二）
赤浜（三）
筋山
名越島
大槌漁港
松島
蓬莱島
（珊瑚島）
大槌湾
雀島
室浜
釜石市
26
45
280
231

「大槌町中心市街地」

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

岩手098番
2014/04/23

海嘯溺死精霊塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 上閉伊郡大槌町吉里吉里4丁目4-11
建立場所 吉祥寺参道　碑高 100cm　碑幅 54cm　海抜 62m





碑文表

海嘯溺死精霊塔

昭和八年旧二月八日午前三時
稲荷丸乗組員遭難

乗組員八名の氏名

この津波碑は、寺の参道口にあるため見つけるのは容易いが、国道からのアクセスがヨロシクない。現在運行停止しているJR山田線を渡る必要があるが、この近辺で渡線できるのは2箇所だけ。北側のアンダーパスは広目だが、吉里吉里駅脇の踏切はとても狭い。その後は道幅が狭く勾配のきつい住宅街を登る。筆者が使用しているSUV車のようなガタイの大きなクルマでは運転に神経を使う道を走らされる。しかし、現地には駐車に困らない広いスペースがあるので、その点は助かった。この石碑は、津波により沈没した船舶の乗組員を弔う慰霊碑で、津波碑としては稀少なもの。犠牲者はこの寺の檀家だったのかもしれない。



経緯度 北緯39度22分21秒/東経141度56分16秒



岩手099番
2014/04/23

大海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 上閉伊郡大槌町吉里吉里１丁目2-23
建立場所 金毘羅社境内　碑　高 190cm　碑　幅 86cm　海　抜 15ｍ







小さな金比羅神社の境内に大きな津波碑が建つ。境内はこぢんまりとしているが、津波碑の台座は不必要なまでに大きいのが印象的だった。そのためか、東日本大震災でも津波による浸水があったものの、碑はビクともしなかったようだ。境内から一歩道路に出て海の方向を見ると何も遮るものがなく、ストンと湾が見通せる。恐らく震災前、直接海は見えなかっただろう。この津波碑もデッドラインに建つ警告の碑だったのだろう。



経緯度 北緯39度22分8秒/東経141度56分22秒

碑文裏

本碑は、東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義捐金を、同社に於て罹災各町村に分配せし残餘を重ねて分配せられ、其の金員を以て建立せしもの也

昭和九年三月三日建設
上閉伊郡大槌町長後藤忠太郎誌

碑文表

昭和三年八月三日
大海嘯記念碑

一、地震があったら津浪の用心せよ
一、津浪が来たら高い所へ逃げよ
一、危険地帯に居住をするな

地震時　午前二時三十分
津浪襲来　午前三時
津浪ノ高　十三尺

況状害被

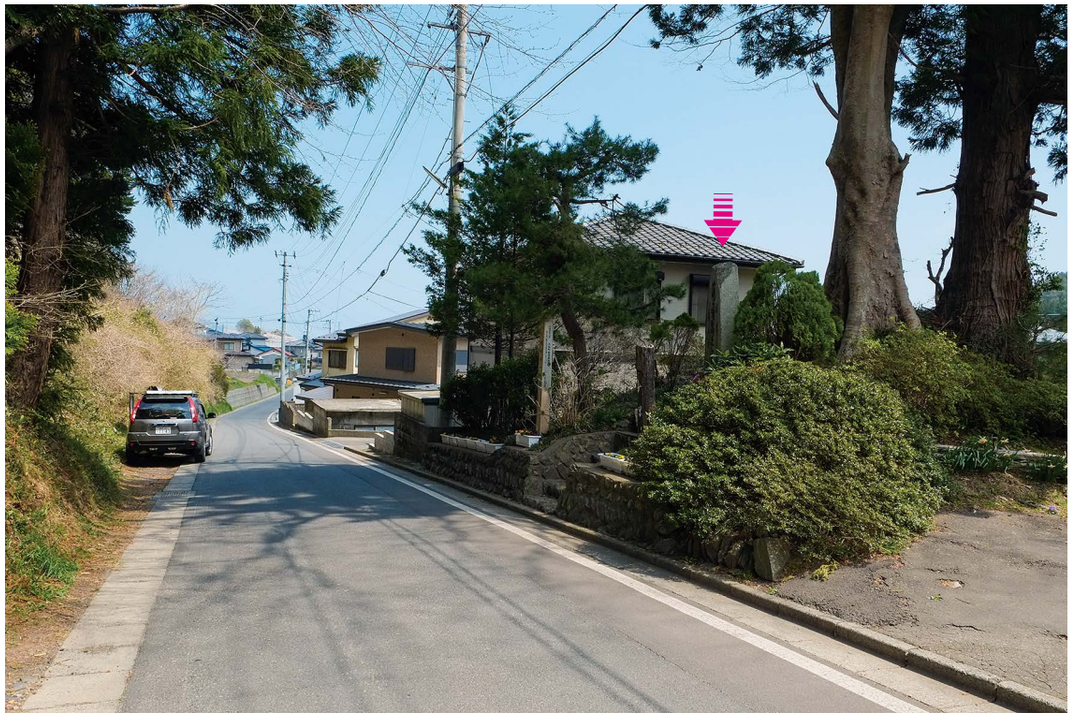
流失倒潰戸数　大槌町六百二十二戸
溺死者数　同上六十一名
耕地浸水　六一七町歩余
其他漁船漁具農具家具多数流失

石巻市　石井敬三郎　刻

岩手100番
2014/04/23

海嘯溺死精霊塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年5月5日　住所 上閉伊郡大槌町吉里吉里4丁目1-35
建立場所 一般道路傍　碑高 200cm　碑幅 136cm　海抜 38m

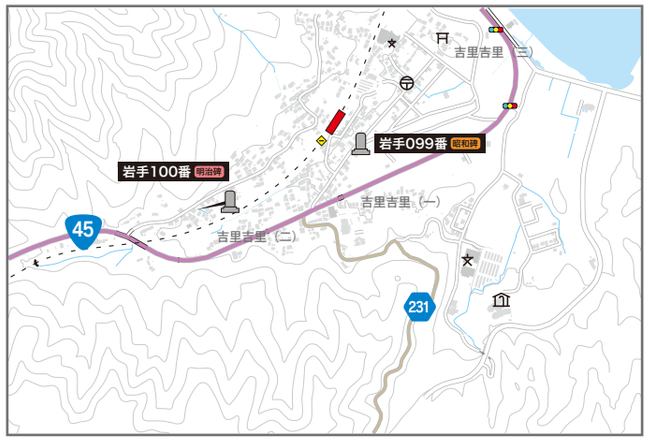




碑文表

明治三十季
海嘯溺死精霊塔
旧五月五日　建之

国道から吉里吉里地区市街地へ進入する一般道の路傍にあるのだが、数ある津波碑の中でも「唯一」といえる石碑である。何が唯一かといえば、一里塚の上に建立されている点である。塚の鼻一里塚という史跡であり、大槌町教育委員会の標柱も建っている。一里塚は街道を挟み、左右に盛土と植樹により構成されるが、左右ともに保全されており貴重な史跡となっている。その上に津波碑である。非常に珍しい取り合わせといえるので、ぜひ足を運ばれたい。



経緯度 北緯39度22分2秒/東経141度56分2秒



岩手101番
2014/04/23

大海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年５月　住所 上閉伊郡大槌町赤浜１丁目2-15
建立場所 旧赤浜町学校校庭　碑高 195cm　碑幅 82cm　海抜 15ｍ



後ろの校舎は解体されて今はない

東日本大震災では津波の直撃を受け大きな被害が出た赤浜地区の、やや小高い丘に建つ小学校校庭脇に津波碑が建つ。今回の津波では、海抜15ｍでは襲来を免れず被災している。石碑の表面も傷だらけとなっている。碑の背後には体育館が見えるが、その壁面には「▼計画盛り土高さ」の看板が掲げられている。つまり、この場所は嵩上げ工事により埋没するのである。校庭の縁にある見事な桜の木も、この後、切り倒されたというニュースを見た。来訪の際、写真を撮っておいて良かった。この碑は確実に移設されるであろうから、工事が終わったら再訪したいと思う。





経緯度 北緯39度21分15秒/東経141度55分45秒





碑文表

日三月三年八和昭
碑念記嘯海大

一、地震があったら津浪の用心せよ
一、津浪が来たら高い所へ逃げよ
一、危険地帯に居住をするな

地震時　午前二時三十分
津浪襲来　午前三時
津浪ノ高　十五尺

況状害被

流失倒潰戸数　大槌町六百二十二戸
溺死者数　同上六十一名
耕地浸水　六一七町歩余
其他漁船漁具農具家具多数流失

石巻市　石井敬三郎　刻

碑文裏

本碑は、東京朝日新聞社読者より寄託せられたる義捐金を、同社に於て罹災各町村に分配せし残餘を重ねて分配せられ、其の金員を以て建立せしもの也

昭和九年三月三日建設
上閉伊郡大槌町長後藤忠太郎誌

ガス灯の脇に石造りの記帳台、足元には説明プレートがある





365日24時間、灯火し続けている



中央公民館前の公衆トイレの脇にある

3.11 大槌希望の灯り

大槌の市街地を見下ろす城山公園の一角に建つガス灯です。これは、阪神淡路大震災の被災者を励ますために灯された「1.17希望の灯り」（神戸市東遊園地）より分灯されたもので、2012年11月11日に建立されました。このガス灯はいまだ行方不明の被災者が、この明かりを頼りに戻ってきてくれるようにとの願いも込められているそうです。東日本大震災の被災地では、陸前高田市と南相馬市にも建立され、その後、広島土砂災害被災地の丘や鬼怒川が氾濫した茨城県常総市にも建てられるなど、広がりを見せています。建立者は、NPO法人阪神淡路大震災1.17希望の灯り（hands）が中心となって活動しています。



大槌市街地の道路は、工事のため常に変動しており、この地図のとおりではありませんのでご注意下さい



神戸の希望の灯り



ガス灯から見下ろす大槌市街地（2014.10.01撮影）


大槌町
釜石市
古廟坂トンネル
岩手105番 流失
岩手106番 流失
岩手107番 昭和碑
岩手108番 明治碑
岩手109番 流失
岩手110番 明治碑
岩手111番 昭和碑
岩手001番 復数海嘯碑
岩手116番 明治碑
岩手117番 明治碑
岩手118番 昭和碑
釜石北IC
釜石両石IC
鵜住居川
鵜住居第一トンネル
三陸自動車道
両石トンネル
大槌湾
平磯崎
早障子崎
根浜海岸
箱崎トンネル
箱崎漁港
白浜漁港（鵜住居）
箱崎白浜
仮宿
浪板崎
黒崎
両石湾
中根
両石漁港
水海公園
松島
御在所山
大骨峠トンネル
大骨峠
女遊部
鵜住居町
田郷
日ノ神
新田
新川原
片岸町
片岸
室浜
松島
雀島
蓬莱島（珊瑚島）
七戻崎
名越島
白石
箱崎町
桑ノ浜
恋ノ峠
両石町
水海
45
36
231
242
0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

「釜石市鵜住居・両石地区」

岩手107番
2014/04/23

津波記念碑

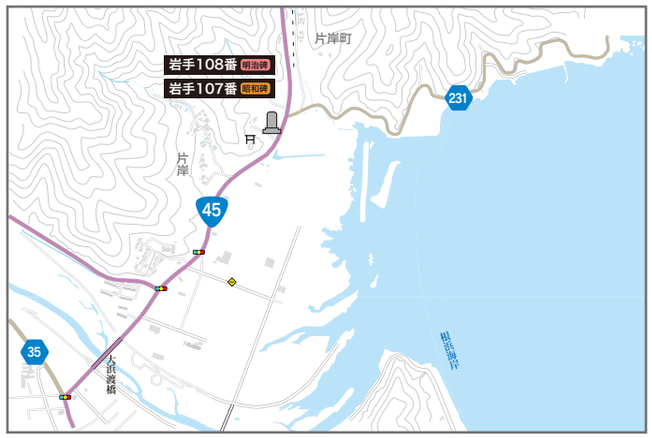
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 釜石市片岸町第9地割50-2
建立場所 国道路傍　碑高 168cm　碑幅 110cm　海抜 7m







片岸地区の国道沿いにポツンと２基の石碑があるのが目に付く。走行している車窓からもよく見える。山肌の岩を平に削って建てられており、道路からは３ｍほど高い位置にある。しかし、この程度の高さでは不足だった。台座のモルタルが新しいため、今回の津波により倒れたようだ。が、心ある人がすぐに修復している。片岸地区の住宅は狭い谷間を拓き建てられており、そのほとんどが津波被害から免れた。国道付近はダメだったが。至近に建てられたこの津波碑は使命を全うしたようだ。



経緯度 北緯39度20分16秒/東経141度53分33秒

碑文表

昭和八年三月三日

津波記念碑

大地震の後には津波が来る　美彦

※美彦とは、当時の岩手県知事、石黒英彦のこと
碑文は知事の書である

碑文裏

地震の時　午前二時三十分
津浪襲来　午前三時
本碑は東京朝日新聞社読者より寄托されたる義捐金を同社が各町村に分配したる残金を以て建立したるもの也
昭和十年三月三日
鵜住居村長　古川徳次郎

岩手108番
2014/04/23

南無妙法蓮華経八大竜王鎮座

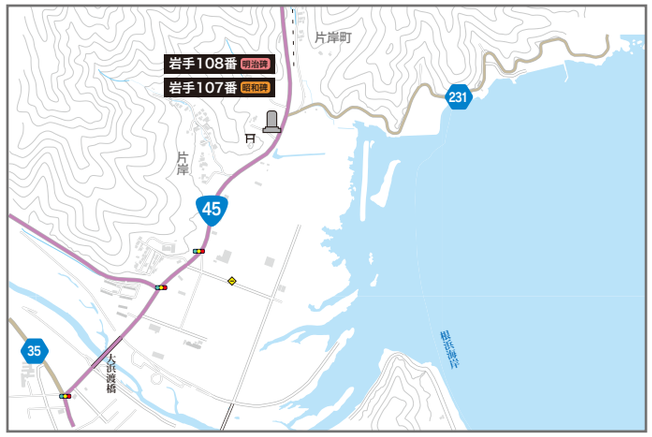
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年　住所 釜石市片岸町第9地割50-2
建立場所 国道路傍　碑高 113cm　碑幅 62cm　海抜 7m







前項の107番碑の右隣に建つ石碑。碑文のとおり個人が建立した碑で、日蓮宗の信者である当地の地主が建てたようだ。いろいろ調べてみると、東日本大震災の復興工事に於ける用地取得のための、岩手県収用委員会告示に名前が掲載されていた。当人はすでに亡くなっているはずだが、相続者がいなかったのだろうか、現在でも土地の所有者として登記されている。



経緯度 北緯39度20分16秒/東経141度53分33秒

碑文左側面

維時明治二十九大海嘯之年　建之主
木川榮吉

碑文表

天長地久国土安穏
南無妙法蓮華経八大竜王鎮座
海上安全村内繁栄

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み　233

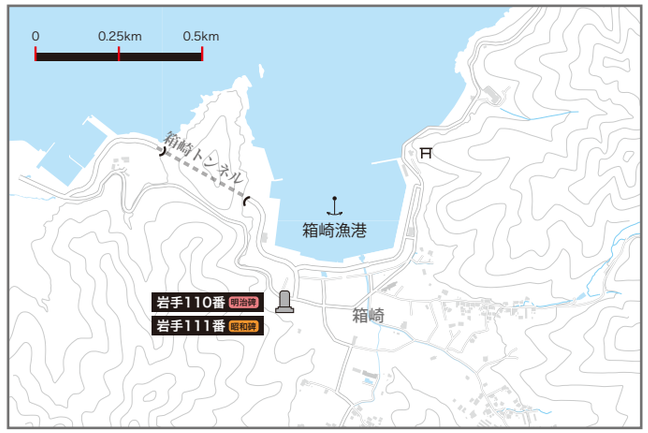
岩手110番
2014/04/23

忠烈永芳

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年６月15日　住所 釜石市箱崎町第９地割18-5
建立場所 一般道路傍　碑高 257cm　碑幅 140cm　海抜 12ｍ



太平洋に突き出る箱崎半島により形成される大槌湾。この半島の根っこの辺りを、その名の通り根浜海岸と呼ぶ。一帯は津波が起きると大きな被害を被る地域。東西に細長い大槌湾最奥のために、津波の波高が最大になるためと思われる。今回の震災でも大きな被害が出た。その箱崎漁協を見下ろす小高い道路の傍らに２基の津波碑がある。明治と昭和の津波碑だがどちらも昭和に建てられている。この「忠烈永芳」碑の建立は昭和３年。建てられてわずか７年後に津波の襲来を受けたことになる。小高いとはいえ海抜12mである。今回も津波の直撃を受けたようで、傍らにある地蔵は倒れないようにロープで仮固定されていた。



経緯度 北緯39度19分23秒/東経141度54分44秒



碑文表

芳永烈忠

故上閉伊郡箱崎小学校教員栃内案吉氏は盛岡の人なり。性朴実にして、漢籍に通じ、村民の信望厚し。偶々明治二十九年六月十五日大海嘯起こるや老母を家族に施し、奮然身を挺して聖影の奉遷に赴き、不幸にして波涛に流さる。翌日、前川徳蔵氏君を汀辺に索む。全身傷を負い、半ば駆泥に埋れ、気息奄々としてなお影を奉持す。すぐに小川忠四郎氏宅に移し、療を加えるも遂に起きたり。齢五十五聞く者痛惜せなるなし。誠忠まことに世の亀鑑たり。小林弘三氏は里人と相謀りて、これを碑に勒し、もって偉烈を後昆に伝う。

昭和三年六月十五日
岩手県教会上閉伊郡部会長工藤祐吉撰

大海嘯　英霊合祀

殉難者
箱崎　十四名
桑ノ浜　五十三名
白浜　十七名
仮宿　九名
大仮宿三漁場八十名

世話人
箱崎講中會一同

岩手111番
2014/04/23

津波記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 釜石市箱崎町第9地割18-5
建立場所 一般道路傍　碑高 180cm　碑幅 125cm　海抜 12m



前項の110番碑の右隣に建つ昭和津波碑。片岸町の国道沿いに建つ107番碑とまったく同じ内容の津波碑。この卵形状の津波碑は4基建てられているが、現存するのは3基。室浜にあったものは東日本大震災の津波により流失している。





碑文表

昭和八年三月三日

津波記念碑

大地震の後には津波が来る　美彦

※美彦とは、当時の岩手県知事、石黒英彦のこと
碑文は知事の書である



碑文裏

地震の時　午前二時三十分
津浪襲来　午前三時
本碑は東京朝日新聞社読者より寄托されたる義捐金を同社が各町村に分配したる残金を以て建立したるもの也
昭和十年三月三日
鵜住居村長　古川徳次郎

岩手112番
2014/04/23

殃死無縁者追善供養塔

対象津波 複数の津波　建立月日 昭和51年6月27日　住所 釜石市箱崎町第5地割19
建立場所 個人敷地内　碑高 221cm　碑幅 65cm　海抜 13m



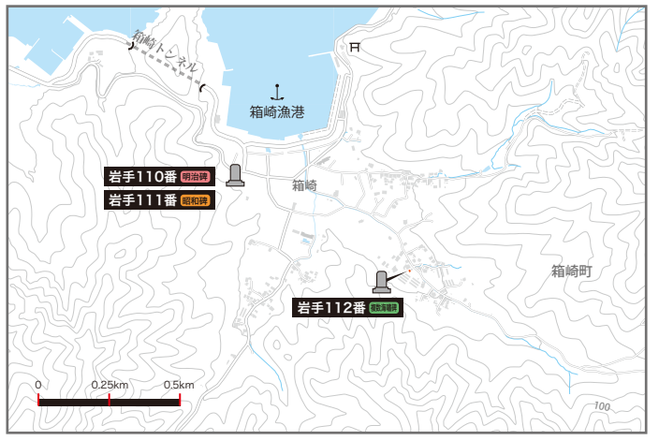
碑文表

津波海嘯
殃死無縁者追善供養塔

若生人天中　受勝妙楽
若在佛前　蓮華化生

昭和五十一年六月二十七日
発起人　小林利七郎
りん　建立

箱崎漁港から直線距離で600mほどある、個人宅敷地内に津波碑がある。個人宅のために立ち入りはせず、石碑は望遠で撮影した。碑銘碑文は東北整備局の「津波被害・津波石碑情報アーカイブ」を参照している。昭和51年と比較的最近建てられた碑にもかかわらず、碑文は漢文であり、建立日も旧字を用いているなど、建てた方はご年配だろうか。建立の訳など詳しくは不明だが、一点気になったのは、このお宅の位置である。東日本大震災では、この住宅の直前までが被災している。もしかすると、ここが津波被害のデッドラインであることを承知の上で碑を建立したのではないだろうか。ちなみにこのお宅の脇には仮設住宅が建ち並んでいた。

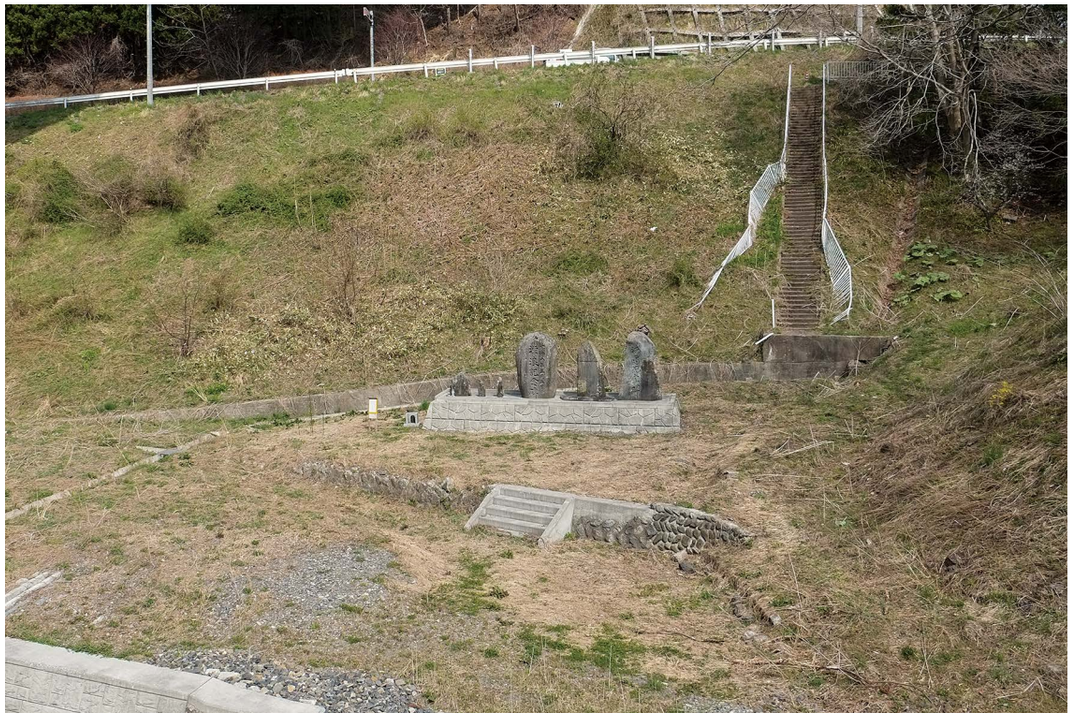


経緯度 北緯39度19分11秒/東経141度55分11秒

岩手001番
2014/04/23

両石海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年7月　住所 釜石市両石町第3地割
建立場所 国道路傍　碑高 166cm　碑幅 80cm　海抜 14m



両石地区から鵜住居へ通じる「恋ノ峠」というなんとも愛らしい峠の登り口で、国道沿い、三陸自動車道高架下に3基の津波碑がある。3基は建立時期は異なり、明治津波が2基と昭和津波が1基となる。元はもっと海よりにあったものを、この場所に移動したが時期は不明。元の位置は本誌マップのA地点。しかし、このA地点も過去に集積した所で、更にその前は明治や昭和の津波到達点にあったとのこと。つまり現在の地点は2回目の移転場所となる。しかし、何とも皮肉なのは、現在の地に移転されると、東日本大震災ではこの3碑に津波が到達している。どうもこれらの石碑は、津波を呼び寄せているように思えてならない。なお、写真をご覧のとおり、背後の階段手摺りが破損している。津波はこの位置、この高さに達している。



経緯度 北緯39度18分44秒/東経141度53分4秒



碑文表

両石海嘯紀念碑

明治三十五年七月　北海居士廣田忠蔵撰并書

…漢文…

【漢文要約】

この碑がなくなっても、この恨みは消えない。雨や苔に蝕まれて文字が消え去っても、この災害は子孫によって言い伝えられるだろう。

明治二九年六月一五日の海嘯は、三陸沿海百里の地に及び、両石一村では七九〇人が命を落とし、生存者はわずか二〇四人だった。しかし、どのような力を持ってしても海神を封ずることはできず、死んだものの恨みを晴らすことは叶わない。

こうして生き残ったものは、文字を刻み弔い冥福を祈る。この石は小さいが大きな功徳である。

恨みは消え去ってもこの碑が消えることはない。

一切のものは掃き尽くされる。

方々に蒼い波は広がり墓には都合がよい。

生死の岸を離れ底なしの船にさおを差す。

土砂は暗く、月は明るく、海は果てしない。

岩手117番
2014/04/23

海嘯記念碑



碑文表

海嘯記念碑

従三位伯爵南部利恭出書画

明治二十九年六月一五日

この碑分は、南部盛岡藩最後の藩主である南部利恭の書である

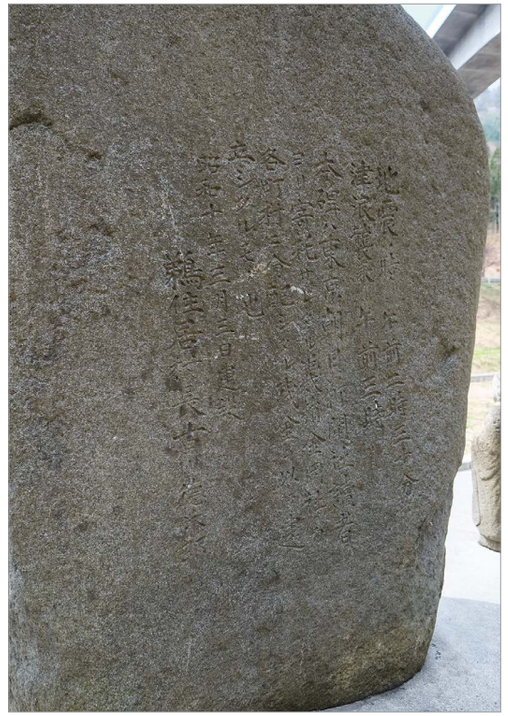
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 釜石市両石町第３地割
建立場所 国道路傍　碑高 198cm　碑幅 110cm　海抜 14ｍ



岩手118番
2014/04/23

津波記念碑





碑文裏

地震の時　午前二時三十分
津浪襲来　午前三時
本碑は東京朝日新聞社読者より寄托されたる義捐金を同社が各町村に分配したる残金を以て建立したるもの也
昭和十年三月三日
鵜住居村長　古川徳次郎

碑文表

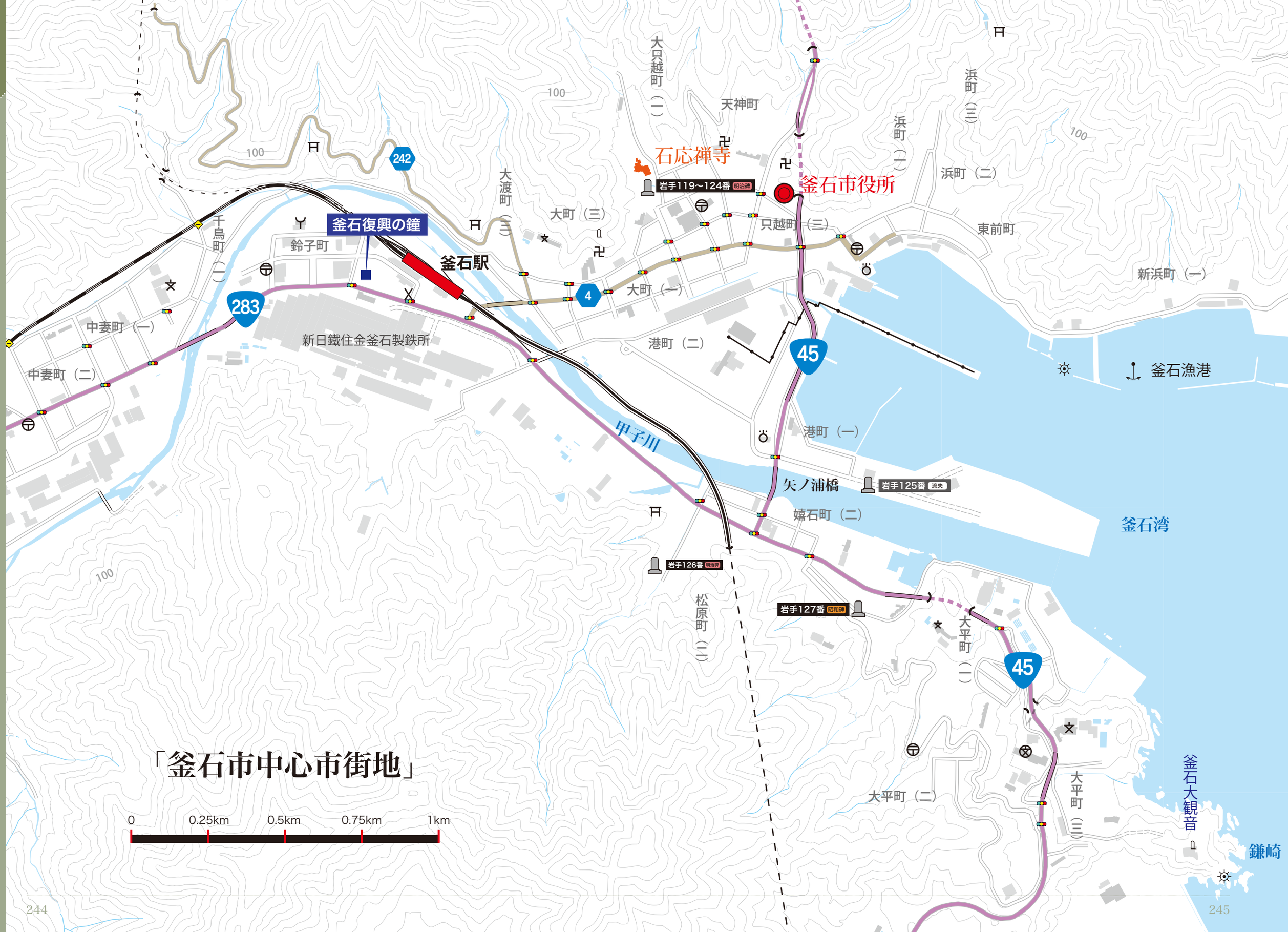
昭和八年三月三日

津波記念碑

大地震の後には津波が来る　美彦

※美彦とは、当時の岩手県知事、石黒英彦のこと
碑文は知事の書である

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 釜石市両石町第３地割
建立場所 国道路傍　碑高 200cm　碑幅 125cm　海抜 14ｍ


釜石復興の鐘
釜石駅
石応禅寺
岩手119～124番 明治碑
釜石市役所
大只越町（一）
天神町
浜町（三）
浜町（一）
浜町（二）
東前町
新浜町（一）
只越町（三）
大町（三）
大渡町（三）
千鳥町（一）
鈴子町
中妻町（一）
中妻町（二）
新日鐵住金釜石製鉄所
大町（一）
港町（二）
港町（一）
甲子川
矢ノ浦橋
岩手125番 流失
嬉石町（二）
釜石漁港
釜石湾
岩手126番 明治碑
岩手127番 昭和碑
松原町（二）
大平町（一）
大平町（二）
大平町（三）
釜石大観音
鎌崎
242
283
4
45
100
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

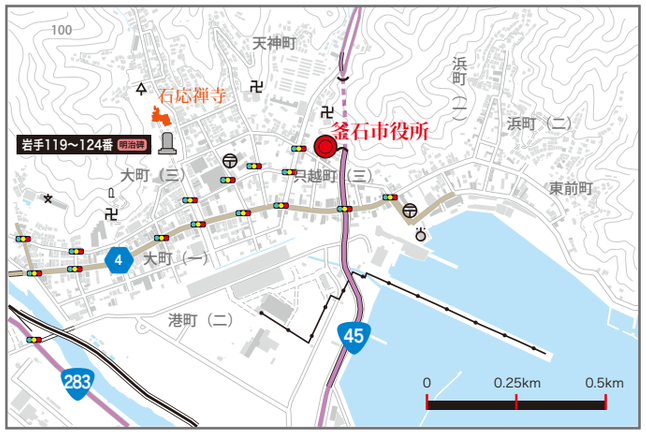
「釜石市中心市街地」

大只越公園の津波碑６基

対象津波 明治三陸地震津波　住　所 釜石市大只越町１丁目2-4
建立場所 大只越公園および石応禅寺境内　海　抜 ４m



石応禅寺の境内及び墓地に隣接して、大只越公園というポケットパークがある。この中に６基の津波碑が建立されている。すべて明治三陸地震津波の碑である。取材時、この公園にはプレハブ造の仮設店舗が建てられており、公園然としていなかった。大只越公園は別称で青葉公園とも呼ばれており、仮設店舗は「青葉公園商店街」と看板を掲げていた。



経緯度 北緯39度16分33秒/東経141度52分50秒

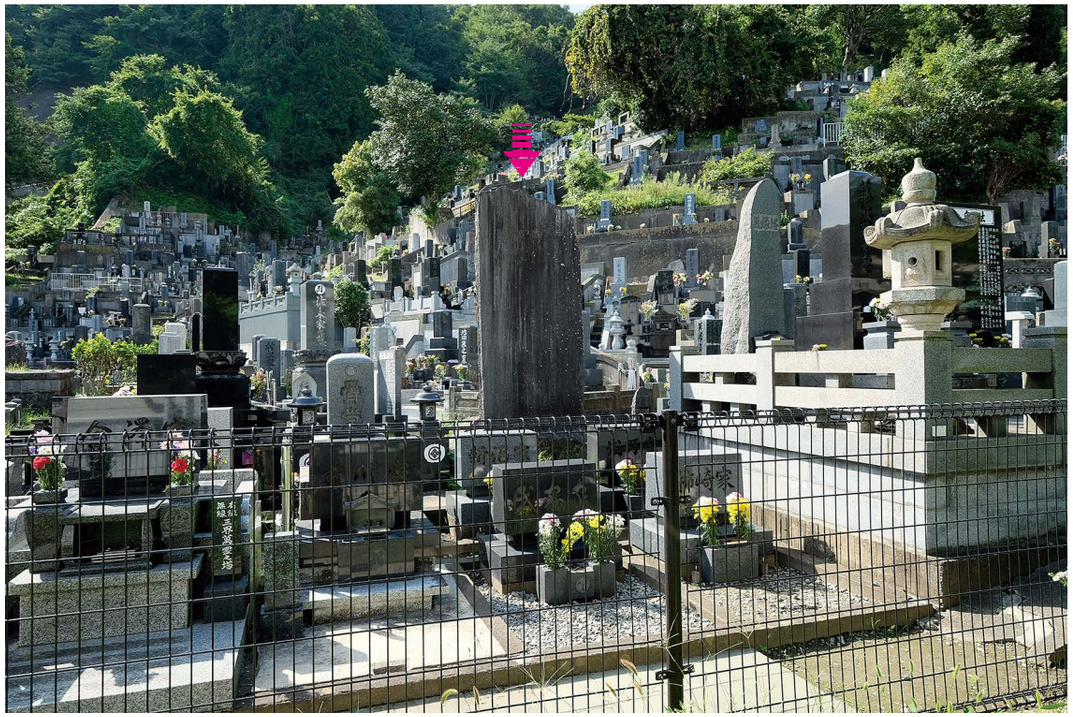


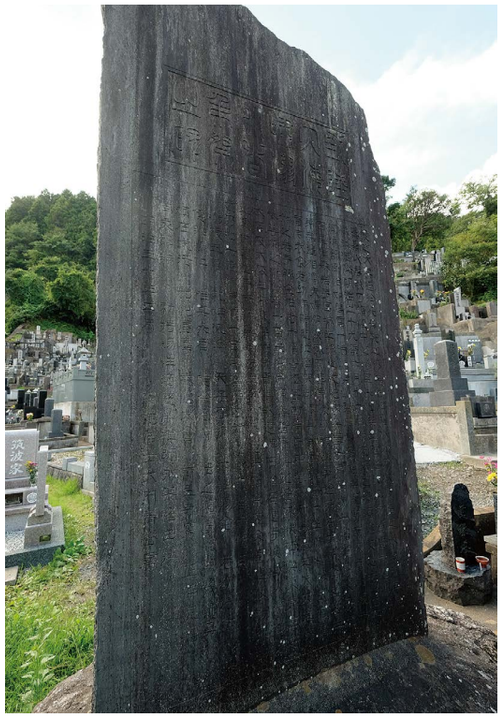


墓地も広大

岩手119番
2016/09/25

三陸大海嘯溺死者弔祭之碑





石応禅寺境内に向かい通路を進み、右手の墓地に建っている。フェンス越しに見られるので墓地の中に入る必要はないが、墓地には簡単に入ることができる。

碑文表

三陸大海嘯溺死者弔祭之碑

漢文による震災の概況が刻まれている

岩手120番
2016/09/25

海嘯記念碑





プレハブ商店の裏手、一般道路傍に建つ３基のひとつ。その中で最も大きな碑である。また、公費で建てられたのもこの碑のみとなる。

碑文表

海嘯記念碑

漢文による震災の概況が刻まれている

建立月日 明治30年3月　碑高 260cm　碑幅 125cm

建立月日 明治35年6月　碑高 236cm　碑幅 135cm

岩手121番
2016/09/25

海嘯災死追悼





仮設店舗の裏に石碑が並ぶ。当碑は奥にある。自然石を加工することなく製作された石碑のようで、何らかの理由で上部３分の１が割れ落ち、セメントにて接着修理している。

碑文表

海嘯災死追悼

明治二十九年六月十五日

碑文左側面

五名の氏名が刻まれる

建立月日 不明　碑高 110cm　碑幅 60cm

岩手120番
2016/09/25

海嘯萬人供養塔





この碑は山形生まれの念仏修行者が個人で建てた石碑のようだ。とすれば、なかなか裕福な人であっただろう。

碑文表

海嘯萬人供養塔

明治三十年七月十日建立　山形縣之産■国念佛行者

高濱隆俊
妻　美幾
長女もん

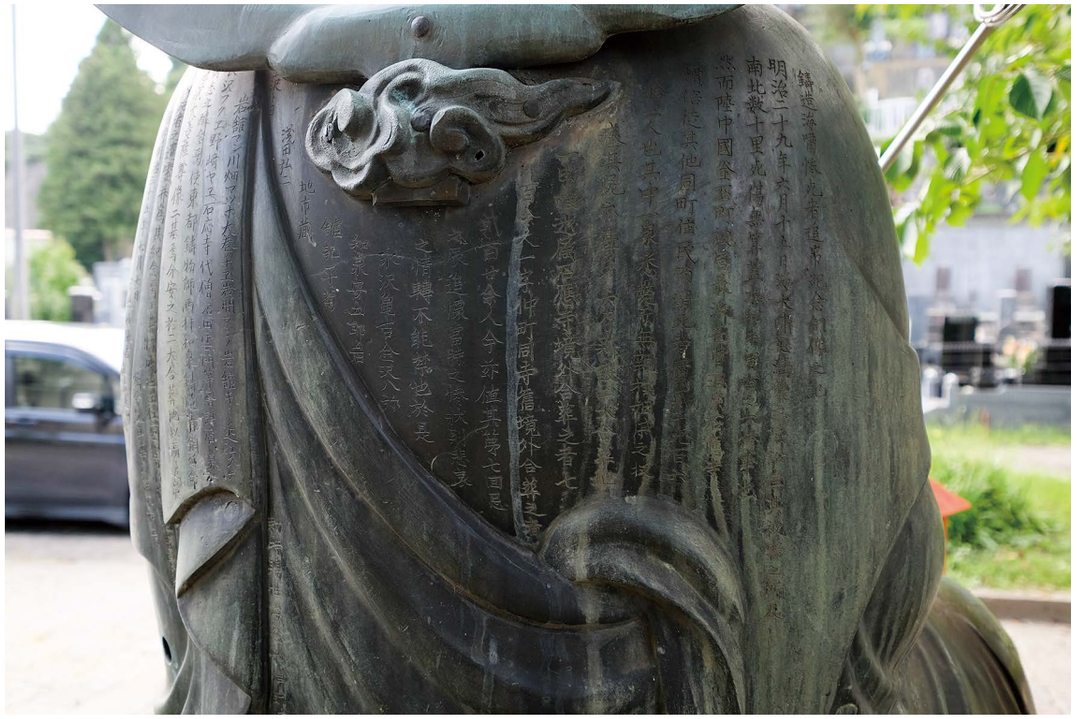
宿元　大和田寅之助
石工　大久保民之助

建立月日 明治30年7月10日　碑高 175cm　碑幅 80cm

岩手123番
2016/09/25

明治丙申海嘯記念之像





建立月日 明治35年7月7日　碑高 217cm　碑幅 115cm

岩手124番
2016/09/25

明治丙申海嘯記念之像



山門の前に２対の青銅製仏像が鎮座している。この仏像の背面に漢文がびっしりと刻まれている。内容は明治三陸地震津波における被害の様子や当碑の建立の経緯などである。300基以上あるといわれる津波碑の中で、仏像が慰霊碑となっているのはここだけで非常に珍しい。なお、東日本大震災では、この仏像碑まで津波が到達している。



仏像型津波碑の奥には、同じように2対の黒い御影石津波碑が建っている。これは東日本大震災の津波碑である。

建立月日 明治35年7月7日　碑高 210cm　碑幅 105cm

岩手126番
2014/04/23

嘯没者追弔塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年6月　住所 釜石市松原町1丁目6–21
建立場所 共同墓地　碑高 160cm　碑幅 90cm　海抜 16m









山の斜面に造られた小規模な墓地の、入口付近に自然石の津波碑が建つ。ここは辿り着いてしまえば何のことはない場所だが、参考資料の地図がアバウトすぎてすぐには見つけられず、3度目の来訪で見つけることができた。碑文には、明治の海嘯で松原地区において59名の死者が出たことが記されているが、来訪の折も、松原地区の3分の1ほどが更地となっており、壊滅的な被害となっていた。この墓地までは襲来した形跡は見られなかった。津波が多い地域の墓地は、往々にしてこのような急峻な土地に造成されているのを見るが、生きている者ばかりではなく、先祖の霊も海嘯から守るべく造られた知恵と工夫の賜なのだろうか。



経緯度 北緯39度15分54秒/東経141度52分51秒

碑文表

明治二十九年六月十五日
嘯没者追弔塔
弔主松原中造立之

碑文左側面

【漢文要約】
当石塔は、松原地区の海嘯犠牲者五九人追悼のために建てるものである。功徳を集め霊を祀るため、明治海嘯の三年忌にあたるこの日に建てる。

碑文裏

名姓者塔建

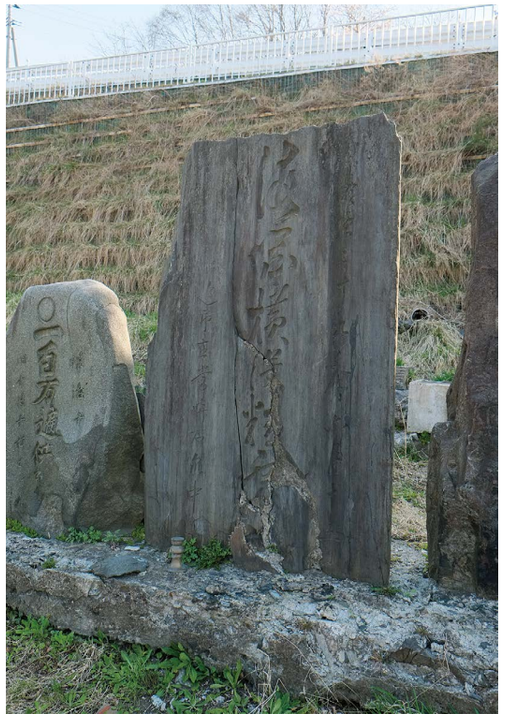
建立関係者三七名の氏名が刻まれる

岩手127番
2014/04/23

海嘯横没精霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年旧5月5日　住所 釜石市嬉石町3丁目9-2
建立場所 一般道路傍　碑高 162cm　碑幅 99cm　海抜 4m







嬉石町の地区は大半が高台であるが、その高台へ登る道路の下にも住宅があった。今回の震災では、残念ながらほぼ全滅で、基礎が残るのみとなっていた。元来この津波碑は住宅の裏手にあり、道路からは一切見えない場所に建っていた。今回の震災が無ければ容易には見つけられなかっただろうと思われる。石碑は縦方向に大きくひび割れており、下部はセメントで補修されているが、今回の津波による破損ではない様子。天部には碑が割れないように赤錆びた鎹（かすがい）が打ち込まれていた。なお、この地区は地盤の嵩上げ工事がされており、取材時の様子とは異なっている。石碑群は移設されるだろうから、復興後は再訪したいと思う。



経緯度 北緯39度15分48秒/東経141度53分20秒

碑文表

明治二十九季六月十五日

海嘯横没精霊

追弔主當嬉石衆中

碑文裏

（漢文要約）
嬉石地区の死者
男六十人女九十四人
追悼
明治三一年旧五月五日　三周忌にあたりこの碑を建てる

寄付金額とその氏名が多数刻まれる



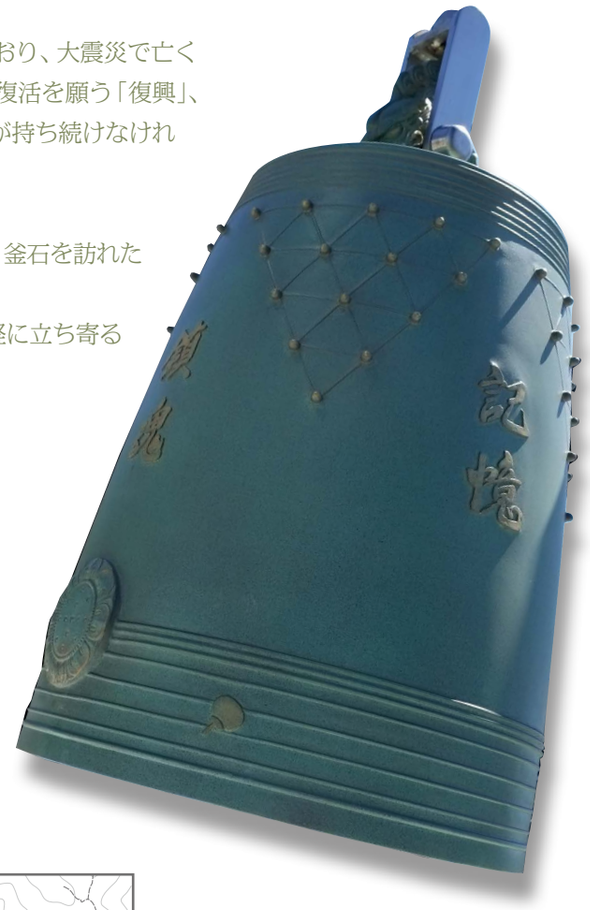


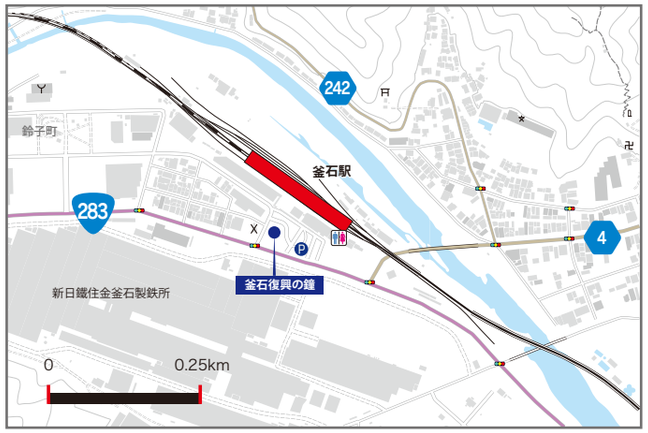
釜石復興の鐘

JR釜石駅前に、東日本大震災の復興を願う鐘があります。震災のあった2011年12月31日建立。
市民団体「釜石復興の風プロジェクト」が発起人となり、「釜石復興の風うちわ」を1本300円で販売。
1万本の販売を達成。これに寄付金などを合わせ、富山県高岡市の鐘専門メーカー「老子製作所」に依頼。
広島平和記念公園の「平和の鐘」を造ったことでも有名な会社。

鐘の側面には、90度毎に4つの文字が刻まれており、大震災で亡くなった多くの方々への「鎮魂」、被災した郷土の復活を願う「復興」、この震災を忘れず後世に伝える「記憶」、だれもが持ち続けなければならない「希望」となっています。

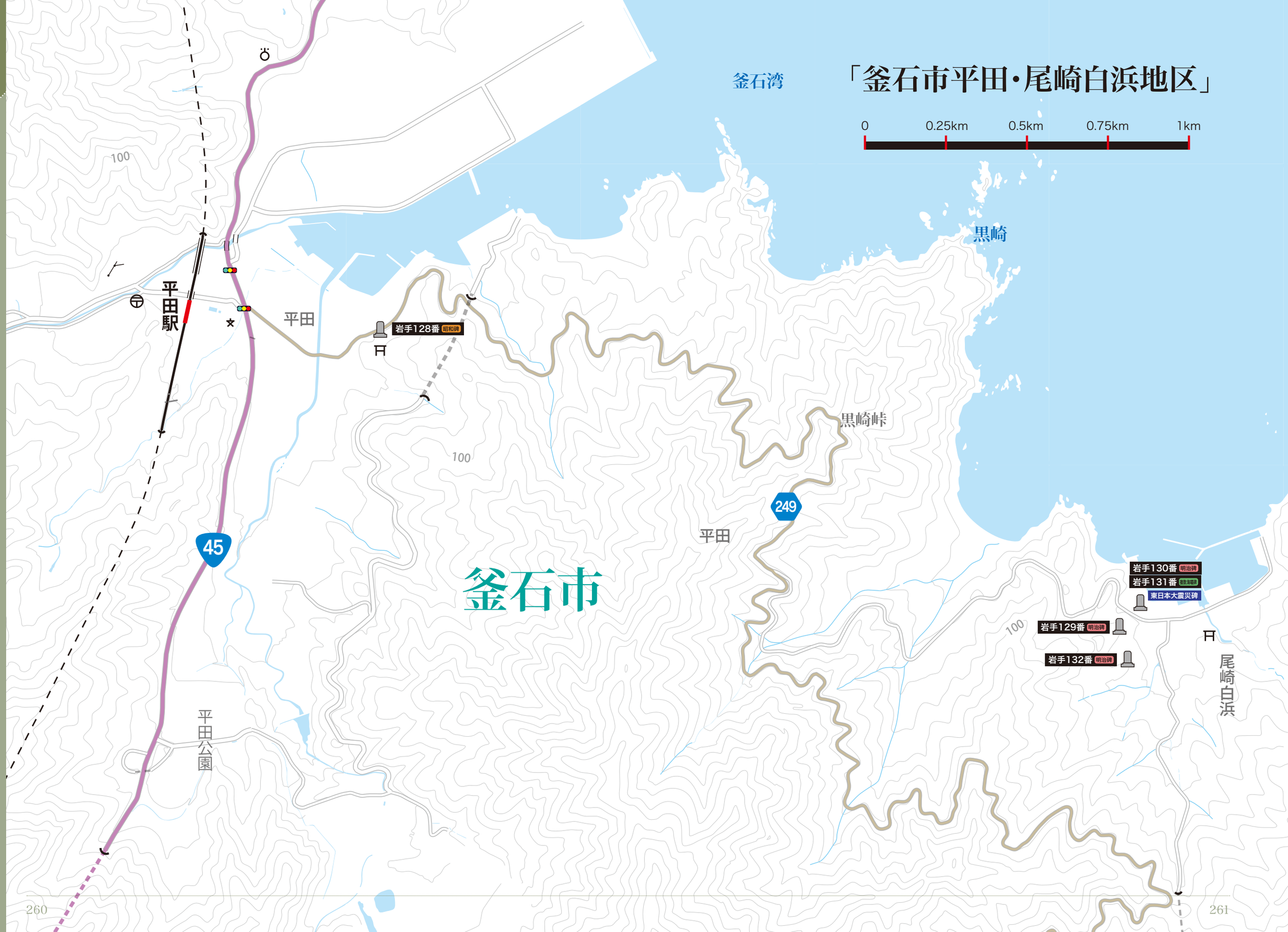
この鐘は誰でも自由に突くことができますので、釜石を訪れた際は忘れに立ち寄って戴きたい。
なお、駅前には無料駐車場があるので車でも気軽に立ち寄ることができます。





経緯度 北緯39度16分22秒/東経141度52分19秒

「釜石市平田・尾崎白浜地区」



岩手128番
2016/04/05

海嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和32年11月　住所 釜石市平田第6地割
建立場所 館山神社参道口　碑高 285cm　碑幅 113cm　海抜 11m







県道249号沿いの館山神社鳥居脇に建つ大きな碑であったので、すぐに見つけることができたが、この碑の見下ろす一帯には住宅の基礎が累々と横たわり、非常に空しく思った。さらに碑文を読めば、締めの部分に「およそ人類には健忘性がある。後昆此の碑を見聞する者、深く警誡して忘却せざるよう余の切に願う所である。」と刻まれているではないか。正にこうならぬようにと海に向かって建っていたのだが・・・・。なお、この津波碑は風化により劣化した碑を復元したものであることが記されている。その際、現在地に移転されたとのこと。元の場所は定かでないが、昭和47年4月25日と記されていた。





経緯度 北緯39度14分42秒/東経141度53分31秒

碑文表

海嘯記念碑

額みるに三陸大海嘯の大悲惨事は、明治二十九丙申年旧端午の宵と昭和八癸酉年新雛祭節句の未明との恐る可き二大突発事件であった。先住智賢和尚撰書の丙申海嘯溺没者碑に依れば、下平田は全戸数五十三軒中流壊四十一、人口四百人中溺死者男三十五、女四十五、馬二十三、牛五頭、流漬船十八艘、製塩所二棟、潮波高さ四丈、南は仁田代口、西は興平ケ鼻、北は狼ケ洞に達し、松ケ鼻の恵比寿岩十二丈の物、怒涛に劈倒せらる。海嘯の猛烈なるを推知せよ。釜石全湾の被害は筆舌に尽くし難し。惨目何事かこれに如かんや。之を以て遺族相謀り碑を建て、もって災死者精霊の菩提営まんと欲す・・・・（明治三十五年三月十五日建立之）・・・と述べてあるが、遺憾ながら自然石は風化破壊して修理手におえず、有志相計りて之を再建せんと欲し、余に撰文を乞う。併せて癸酉海嘯の記事を追加し、海嘯記念碑と題し追弔及び警句の意を兼ねる事とす。癸酉海嘯は下閉伊郡田老と気仙郡本郷とは被害最大であったが、釜石は人畜の被害軽く、死者四十人。其中、平田一人丈け、固より家財の被害は甚大だったが、下平田は倒壊流失家屋十七戸。不幸中の幸と申すべし。委細は海嘯史に譲る。およそ人類には健忘性がある。後昆此の碑を見聞する者、深く警誡して忘却せざるよう余の切に願う所である。

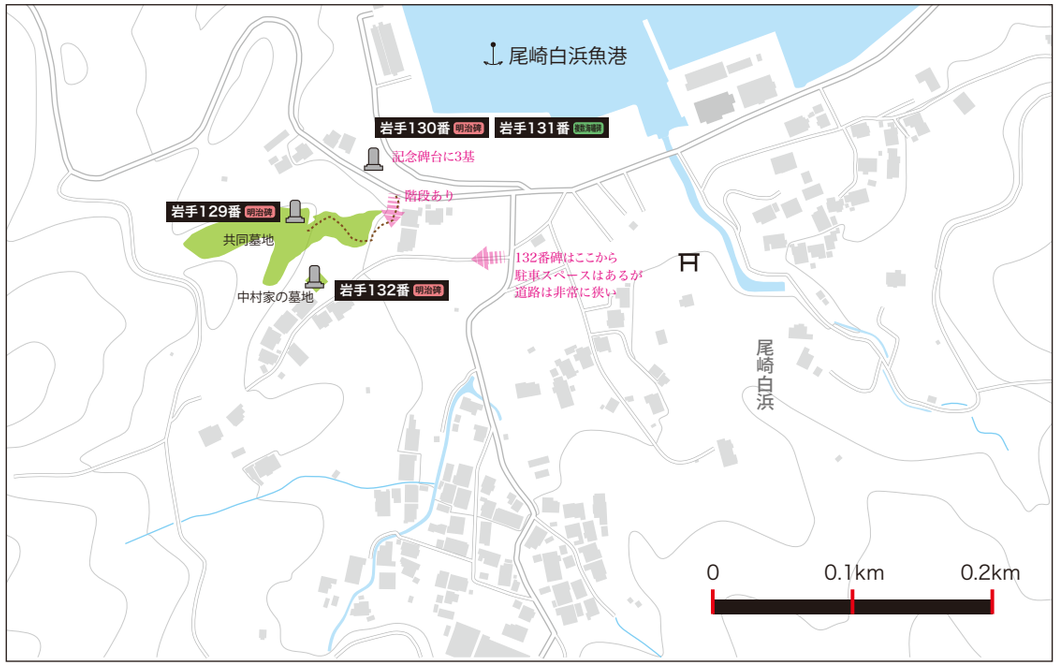
昭和三十二年十一月　石應寺十六世　雲山午朗　識之

宮城県牡鹿郡稲井　阿部初雄　刻

碑文裏

寄進者、寄進額の詳細を記載

尾崎白浜の５碑



尾崎白浜地区は小さな集落だが、５基の津波碑がある（１基は東日本大震碑）。３基は幹線道路脇に立派な記念碑台が造られている。残る２基は墓地にあるが、１基は漁港を見下ろす高台にあり、共同墓地を通り抜ける、道なき通路を登る。残る１基は、民家脇の個人墓地に建つ。共同墓地と個人墓地は直接往来ができないため、上記地図の通り、大回りで行くことになる。



高台の共同墓地から望む尾崎白浜漁港。中央下寄りに記念碑台がある

岩手129番
2016/04/05

海嘯横没者供養塔



碑文表

海嘯の変化ハ明治廿九年六月十五日午後八時二十分頃尓（しか）して横没する者三百三十九人其中十六年以上の男六十三人同十六歳以上の女百0壱人十五歳以下の男児三十三人同女児四十二人流潰家屋七十壱戸奈り此嘯害尓罹らさ流者庵室と外壱戸

海嘯横没者供養塔

あ流のミ茲尓災死者追悼記念のた免水戸金作外卅八人の施主相共尓謀りて此碑石を建立し永久■■を■■■■■
維持明治三十年旧七月十五日■■■石應寺十五代大拙書
建設施主人姓名裏面尓報刻之
當白濱若衆■■和親講中造建

碑文裏

寄進者と金額の内訳を記載



対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年7月15日　住　所 釜石市平田第７地割42-5
建立場所 高台の共同墓地　碑　高 195cm　碑　幅 90cm　海　抜 32ｍ
経緯度 北緯39度14分14秒/東経141度55分９秒

岩手130番
2016/04/05

三陸大津波犠牲先祖供養塔



碑文表

三陸大津波犠牲先祖供養塔

往昔から尾崎白浜の地は毎々大津波の災害を蒙っているが、特に明治二十九年六月十五日の如きは一瞬の間に全部落が大津波に呑まれ、家屋はわずか一戸を残すのみ。実に三七五人の生霊を失い、生存者は辛うじて二十人を数えるという稀なる大惨事となり、まことに痛恨を禁じ得ないものがあった。右に鑑み、大津波の襲来で非命をとげられた多くの先祖ならびに海難事故による遭難者の御霊を久しく御慰籍したい。微衷をもって今回部落民一同の意志りここに供養塔を建立した。

昭和四十七年春彼岸　建立
昭和五十年六月十五日　改修
建立賛助者　堀川豊弘文

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和47年　住　所 釜石市平田第7地割42-6
建立場所 一般道路傍　碑　高 110cm　碑　幅 100cm　海　抜 13m
経緯度 北緯39度14分14秒/東経141度55分10秒

岩手131番
2016/04/05

大津波犠牲先祖霊位





碑文表

大津波犠牲先祖霊位

碑文側面

昭和四十年春彼岸
尾崎白浜町内会
一同建立
釜石市大町石應禅寺前
仲野石材店　刻

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和47年　住　所 釜石市平田第7地割42-5
建立場所 一般道路傍　碑　高 165cm　碑　幅 60cm　海　抜 13m
経緯度 北緯39度14分14秒/東経141度55分10秒

番外
2016/04/05

東日本大震災教訓碑





尾崎白浜には５基の津波碑があるが、３基は写真の通り、道路沿いに記念碑台を造り建てられているのですぐに判る。しかし、残る２基は簡単には見つけられない場所にある。特に129番碑は海抜20～30mの高台だということは下調べで理解していたが、問題はその正確な場所とアプローチである。来訪の日、釜石市街方向から南下してきたのだが、そのお陰で漁港を見下ろす高台に墓石を肉眼で確認できたのは幸いだった。これが反対方向であればすぐには見つけられなかっただろう。そして問題のアプローチ。これは路傍にコンクリートの階段があったため、これが墓地へ通じるのだろうと察することが出来た。が、いざ登ってみれば途中で道が無くなっている。あとは感に任せて頂へ進むのみ。高台の先端部に石碑があったので容易く発見できたが、そうでなかったなら難儀したと思われる。

碑文表

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分
観測史上最大の地震が東日本を襲い
間もなく　この碑の直下まで　巨大津波が
押し寄せた
尾崎白浜町内　二十二戸の家屋が流失し
四名の尊い命が失われた
後世の者たちに告ぐ
　大地震の後は　大津波が必ず来る
　迷わず直ぐに　より高台に逃げよ
　決して戻るな
平成二十四年六月十五日
尾崎白浜町内会

東日本大震災教訓碑は、明治三陸津波碑の裏に建てられる。サイズは異なるが、形状は同じくしている。あえてそうしたのだと思われる。そのことが、同じ過ちを繰り返したことへの畏敬の念であると理解できる。

対象津波 東日本大震災　建立月日 平成24年6月15日　住所 釜石市平田第7地割42-6
建立場所 一般道路傍　海抜 13m　経緯度 北緯39度14分14秒/東経141度55分10秒



ここがアプローチの階段



途中からこんな斜面を登っていく

岩手132番
2016/04/05

中村重兵衛閥歴

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 釜石市平田第7地割71-3　建立場所 共同墓地
碑高 153cm　碑幅 70cm　海抜 27m　経緯度 北緯39度14分14秒/東経141度55分10秒



資料には共同墓地となっているが、中村家の墓しか見当たらないので、個人の墓地であろうと思われる。右手斜面の上には129番碑が建つ共同墓地があるが、連絡路などなく独立した墓地となっている。この小さな墓地は見つけるまでにはずいぶん難儀した。資料の地図には、上部の共同墓地の中にあるようにしか見えず、墓地の隅から隅まで歩いたが見つからず、諦めかけたとき、眼下にこの墓地を発見。遠目だったが、明らかに墓石とは異なる形状の当該碑を目視し確信した。碑文を見ると、明治津波で家族とすべての財産を失うも、見事に復活を遂げたという先祖の話である。うちの爺さん、凄い奴だったんだよね的な内容で、果たしてこれを津波碑とするか、ちょっと微妙な気がした。



碑文表

中村重兵衛閥歴

嘉永五年六月十日誕辰、八歳ノ折海難ニテ父ヲ喪ウ。廿歳ヲ満タズニ家業ヲ継グ、明治廿九年六月十五日突如襲来ノ大津浪ニ家屋諸共家族全員ヲ失イ一人助カル、爾来千辛万苦ノ末一家復興成ル。後ニ漁業ト共ニ植林ニ精励ス。歳九十迄海ニ陸ニ労ヲ惜シマズ努力昭和四十四年五月五日午前七時五十五分数工年百十七歳ニテ天寿ヲ全ウス。明治期ノ大津浪ノ傷痕癒エザルニ流浪ノ難民ヲ救ウ。一家言「家ヲ離レテ働ク時不愉快ナル事アルモ帰ル跡ハ必ズ笑顔ニテ敷居ヲ跨ギ家人ヲ安心サセル事」

堀川豊広詞
鈴木洋一書


小白浜
岩手140番 昭和碑
岩手141番 明治碑
岩手142番 明治碑
盛巌寺
小白浜漁港
本郷
岩手139番 明治碑
岩手137番 明治碑
岩手138番 昭和碑
東日本大震災碑
唐丹漁港
花露辺
岩手136番 明治碑
249
桧島
赤磯
100
100
45
唐丹駅
片岸
岩手143番 明治碑
苫ノ鼻
唐丹湾
仏ヶ崎
善報寺島
熊の木トンネル
下荒川
250
「釜石市唐丹地区」
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

岩手136番
2015/08/16

大海嘯遭難者　追哀碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年６月15日　住所 釜石市唐丹町花露辺
建立場所 高台の斜面/遊歩道沿い　碑高 210cm　碑幅 43cm　海抜 29ｍ



この碑を見つけるのは難儀した。東北整備局の資料では建立場所が「県道脇」と記載されていたためである。花露辺（けろべ）地区の県道を何度も往復するも発見できず、４回目の訪問でやっと発見できた。資料に記載の海抜は30ｍ。ところが県道はどこを走ってもGPSの表示は45～50mなのである。ということは県道脇の斜面か、と歩いて道路下を眺めるも、石碑が建てられるような土地は無い。県道沿いを諦め集落に降りるがやはり無し。ちょうど娘の帰省を見送っていたご夫婦に尋ねたが、存在自体を知らないという。今回も見つからないのかと半ば諦めていると、地区の外れにバス停があった。そこから集落へ降りる小径があり、もしかするとこれかぁ～と半信半疑で降ると、まんまとあるではありませんか！漁港を見下ろす山裾の斜面。県道までは15ｍはある。リアスの急峻な斜面に住宅があるため、適当なバス停が作れない。そこで離れに設置したため、集落へ降りる歩道を造ったのだろう。津波碑はその歩道の脇に建てたのだ。これではバスの利用者以外は津波碑を知らないわけである。





経緯度 北緯39度12分35秒/東経141度53分42秒





碑文右側面

明治二十九年陰暦五月五日午後八時頃■然大海嘯起■瞬時ニシテ激浪■■此地ヲ襲ヒ■■生ヲ失フ数ヲ知ラズ死屍累々海濱浜ニ■■見ル者目ヲ掩フ本邨村流失戸数三百六十八死者一千七百八十六人■部落全戸数三十八披害三十六死者二百二人弔祭■■■シハ精魂依ル無ケシ乃テ卅三回忌■■■■■■■■厚ク茲ニ之ヲ弔フ

昭和三年大陰五月五日

碑文表

明治二十九年陰暦五月五日

大海嘯
遭難者
追哀碑

青松四十一世銕額書

唐丹本郷地区の３石碑



ここには、明治・昭和・東日本大震災の３基の津波碑が並んで建立されている。明治・昭和の２碑が並ぶところは多いが、３碑となるとそう多くはない。その意味では貴重なポイントになる。また、３碑とも将来の災害のために警鐘を鳴らしている。ここに４基目が建つときは犠牲者「0」と刻まれることを祈りたい。

この石碑群の裏手に本郷地区の集落がある。この集落の中央を抜ける道に美しい桜並木がある。「唐丹の桜並木」と地図帳にも記載される名所である。しかし、この桜並木こそ過去の津波到達ラインを示すデッドラインそのものであった。東日本大震災でも桜並木より北側は被害ゼロ。南側の河岸沿いにあった建物は潰滅している。



東日本大震災の津波碑。地元小中学生91名の言葉が刻まれている



この地区は、明治、昭和の津波までは浜辺に集落があった。しかし、２度の壊滅的被害を受けて、現在のように高地移転を行った。その際に通した道路に桜並木を植樹している。この写真では判りにくいが、桜並木と左手の土地とは10ｍほどの高低差があり、東日本大震災の津波はこの高さには達しなかった。



経緯度 北緯39度12分32秒/東経141度53分7秒

津波碑のすぐ上に、「伊能忠敬測量の碑」がある。集落の写真はこの測量の碑がある丘から撮影した

岩手137番
2014/04/16

海嘯遭難記念之碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年　住　所 釜石市唐丹町大曽根　建立場所 県道路傍
碑　高 235cm　碑　幅 165cm　海　抜 12ｍ





碑文表

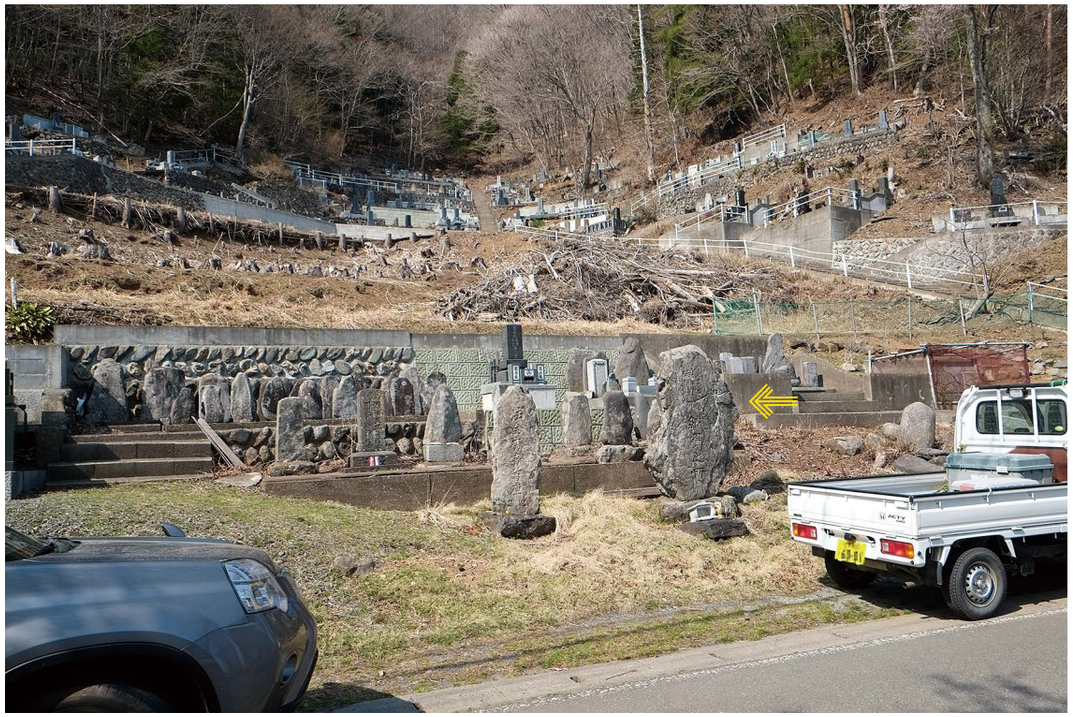
海嘯記念遭難之碑

明治二十九年六月十五日邦■■■

岩手039番
2014/04/16

納骨之所

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年　住所 釜石市唐丹町大曽根106
建立場所 共同墓地/一般道路傍　碑高 170cm　碑幅 120cm　海抜 16m



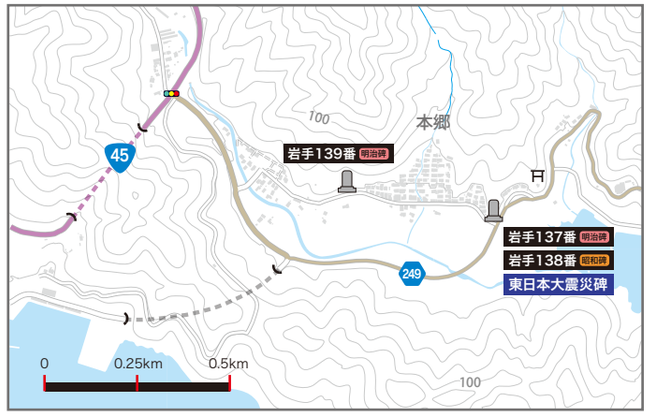


碑文表

明治二十九季旧五月五日
海嘯遭難者
納骨之所

昭和三年　村内一同建之

昭和の津波で高所移転した住宅地の手前に共同墓地がある。その最も道路寄りにこの石碑が建つ。碑銘は「納骨之所」という珍しいもの。これは、明治海嘯の折、引取者が現れなかった遺体を埋葬した所である。今回の大震災でも身元が判明しない遺体が多数出たが、明治、昭和も同じであろう。それを手厚く葬り、村内の有志により建立されたわけで、海嘯災に対する人々の気持ちがよく表れている碑のひとつといえよう。このような埋葬地は各地にあると思うが、石碑の建立はそう多くないと思われる。





経緯度 北緯39度12分35秒/東経141度52分50秒

岩手140番
2014/04/16

昭和八年津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住 所 釜石市唐丹町小白浜 453
建立場所 盛岩寺境内　碑 高 430cm　碑 幅 150cm　海 抜 16 m



小白浜地区にある盛岩寺には３基の津波碑がある、中でも高さ4mを越えるこの碑はまさに圧巻。他の２基も足元両脇に建つ。が、東日本大震災ではここまで津波が襲来しており、津波到達の碑が建てられている。その場所は、２基の津波碑よりも上にある。だが、この寺の境内は波打ち際にあるわけではない。海抜16 mの高さがある。眼下に広がる小白浜漁港は唐丹湾の最深部にあたる。そのためリアス海岸特有の津波遡上により、防波堤を越えてここまで到達している。無論、眼下にあったと思われる建物の姿はなく、基礎とかつての縁の下が空を仰いでいる。さらに、巨大な防波堤の一部は大きく破壊されていた。実際に現地に立ってみれば、数値以上に海面までの高さを感じる。この寺の境内から下はすべて海面下に没したということを想像することはとても難しい。しかし、それは現実に起こっている。



経緯度 北緯39度12分30秒/東経141度52分3秒





左側面の碑文



背面の碑文

碑文左側面

長文の津波の記が記載されている。津波発生時の様子から、皇室、岩手県、陸海軍などの救援、支援、復興活動などについて書かれている。なお、この記念碑は復旧工事の完了を記念し、災害一周年に建立された旨が記される。

碑文裏

災害時関係職員の氏名が多数刻まれている

碑文表

昭和八年
津浪記念碑

大津浪くゞりてめけぬ雄心もて
いさ追ひ進み参ゐ上らまし

岩手141番
2014/04/16

海嘯溺死霊供養碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 明治29年5月　住所 釜石市唐丹町小白浜453
建立場所 盛岩寺境内　碑高 208cm　碑幅 38cm　海抜 16m





碑文裏

大陰五月
五日遭難
有縁無縁合葬塔

碑文表

海嘯溺死霊供養碑

明治二十九年六月十五日



141番碑の背後に、東日本大震災の津波到達の碑が建つ。この碑から港を見下ろすと、この高さまで海面が達したという事実を俄(にわか)に信じられないものがある。しかし、この141番碑こそが過去の津波到達点に建てられたもの。上の写真に写っている道路は、昭和三陸津波の高地移転の際に付けられた道で、右奥の石垣造りの高台も当時の造成地である。当該141番碑は、東日本大震災の津波により転倒したが、寺院を含め壊滅的な打撃には至っていない。昭和の造成地より下部の建物は跡形もないものの、それ以外の多くは過去の津波による高地移転により助かっている。それが一目で見渡せるという、小白浜地区は過去の教訓が活かされた好例地といえる。





この津波碑は、一般社団法人全国優良石材店の会により建立された。28基あるうちのひとつ

岩手142番
2014/04/16

海嘯紀念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 釜石市唐丹町小白浜453
建立場所 盛岩寺境内　碑　高 288cm　碑　幅 126cm　海　抜 16m





碑文表

旨明治弐十有九年
大陰五月五日遭難
海嘯紀念碑

碑文裏

背面には数百名と思われる死亡者の名前がびっしりと刻まれている



浸水程度とはいえ、盛岩寺は無傷ではなかった。転倒した石碑が横たわり、140番碑の玉垣は破損していた。また、お堂などの修復工事中でもあった。



昭和の高地移転で、被災を免れた住宅の様子が一望できる

岩手143番
2016/10/16

海嘯溺死碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 釜石市唐丹町片岸38-10
建立場所 天照御祖神社参道階段登り口　碑高 99cm　碑幅 56cm　海抜 9m





碑文表

海嘯溺死碑

発起者河東栄太郎

片岸ヶ衆中

この津波碑には手こずった。碑に対面するまでに3回足を運んでいるからである。そもそも手元の資料には、建立位置「天照御祖神社」と記載されていた。当然、境内を探すことになるが、初回の訪問では、参道階段に立ち入り禁止のネットが張られており、あえなく退散。なぜ立ち入りができなかったのかは不明。2回目の訪問ではネットは無く、境内を隅々見て回るも発見できず、半ば諦めていた。しかし、本書を編集中、別の資料を入手。それには「天照御祖神社旧社務所裏」と書かれていた。しかも詳細な地図もあり、碑の位置が記載されている。その位置は境内から海側に向かって離れたところに！階段もある。そう、参道階段入口に社務所があり、そこに津波碑が建っていたのだ。過去2回は見当違いの場所を探していたのだから見つかるはずがない。実に調査開始以来2年半かけてのご対面と相成った。



経緯度 北緯39度12分0秒/東経141度51分45秒



神社鳥居の向いには空き地がある。ここは唐丹小学校跡地。津波の直撃を受け取り壊された。奥には新造された巨大防潮堤が完成していた。

岩手県

大船渡市・陸前高田市

調査対象津波碑	75基
現存碑	62基
流失碑	8基
不明碑	5基
未確認碑	0基



「大船渡市吉浜～越喜来地区」

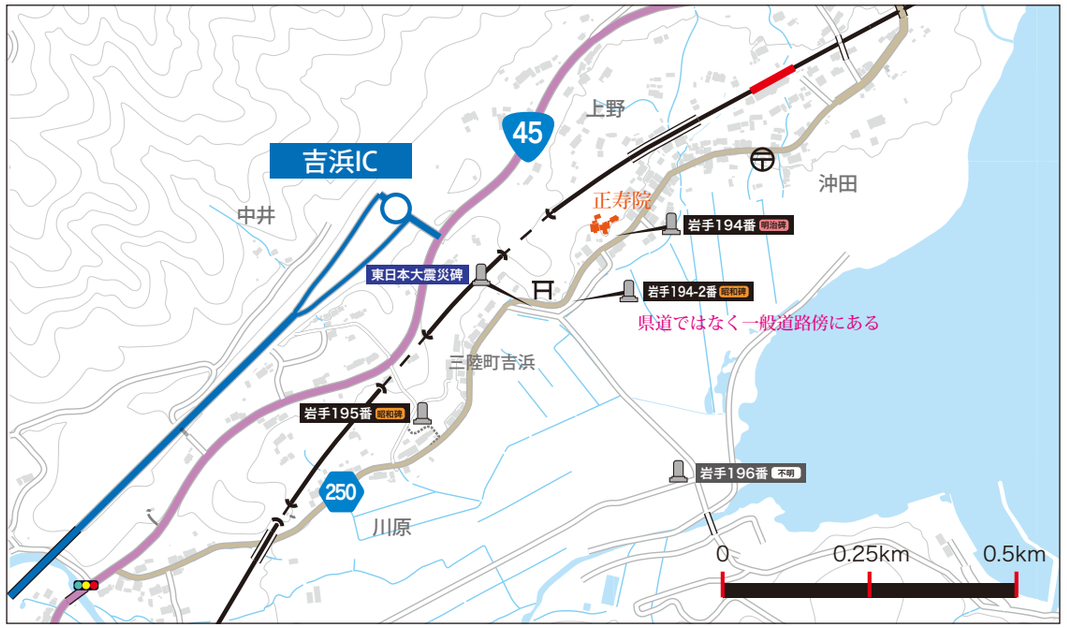


岩手194番
2014/04/16

嗚呼惨哉海嘯

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年4月　住所 大船渡市三陸町吉浜上野
建立場所 正寿院山門脇　碑高 267cm　碑幅 150cm　海抜 16m





経緯度 北緯39度8分55秒/東経141度49分59秒



碑文表

之建月四年十三治明

嗚呼
惨
海嘯
哉

百数十名の犠牲者氏名が刻まれている

吉浜地区には津波碑が4基あったが、1基は道路工事のために撤去（復元されると思うが）、残る3基はこの正寿院前の石碑と後述の津波記念碑となる。これに東日本大震災の記念碑が1基建立され、現在は4基+1基となっている。この吉浜地区は津波の浸水が著しい場所で、明治以来、積極的に高地移転が成された地区で、昭和三陸津波と東日本大震災で甚大な被害は出ていない。明治の被災以来、先人の戒めをしっかり守った結果といえる。小さな集落ながらも5基もの津波碑があるのはその由縁であろう。なお、当該津波碑はかなり風化が進んでおり、朱墨を入れているがハッキリと判読できなくなっている。しかし、亡くなった被害者氏名がメインなので、学術調査でもない限り全文を読む人はあまりいないだろうか。

碑文の年号は正確には「明治卅季四月建之」と記載されている

岩手194-2番
2016/04/05

津波の追憶

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 平成20年5月24日　住所 大船渡市三陸町吉浜上野
建立場所 一般道路路傍　碑高 120cm　碑幅 140cm　海抜 13m



県道より吉浜へ降りる小径の傍らに、平成の時代に建てられた津波碑がある。筆者の知る限りでは、昭和の津波碑が平成に建てられたのはこの碑しか記憶にない。東日本大震災の津波は到達しているが、この碑は流されることなくよく耐えた。しかし、前項の津波碑取材の折には石積みごと撤去されていた。復興工事のための一時撤去であり、工事の完了後に再訪。2016年の4月になった。前面道路は新しく敷き直され、以前は路傍にあった石碑は、ご覧のとおりやや広い空間が設けられ小公園化されていた。土間の裸地だったがこれから芝地にでもするのだろうか。いつか再訪したい。なお、津波碑のほかに、新山神社鳥居跡地の碑と、石川啄木の歌碑も建つ。どちらも以前よりきれいに復元されている。



再整備された石川啄木の歌碑



津波碑の脇には鳥居の台座部が残されている

碑文表

昭和三陸大津波
昭和八年三月三日三時十五分襲来
新山神社参道入口の鳥居が第二波
により被災、津波の恐ろしさを生々し
く物語り、残骸として此処に鳥居の
一部が存在する。（鳥居跡地はこれより
東側十mの位置）
現在位置における津波遡上高は碑
頭より三m上と追想される。
薄らいでいく津波の教訓を、後世に
引き継ぐべく、昭和三陸大津波追憶碑
を此処に建立する。
平成二十年五月二十四日



新山神社鳥居跡地の碑。神社は上に現存

番外
2016/04/05

吉浜　奇跡の集落

対象津波 東日本大震災　建立月日 平成26年3月11日　住　所 大船渡市三陸町吉浜上野
建立場所 一般道路路傍　海　抜 15m　※東日本震災碑は調査対象外のためサイズは未計測



前項の津波碑のすぐ脇に、東日本大震災の津波碑が建立されている。碑銘は「吉浜 奇跡の集落」。これは一般社団法人全優石の津波記憶石プロジェクト事業により建てられたもので、第27号碑となっている。また、碑の周りには建立の経緯と協力者・支援者の名簿、吉浜中学校生徒会による「きせきのしゅうらく」標語が刻まれた石碑4基が併設される。



かなり大きな石碑
二つのL字型の石を「吉浜の人々」と「歴史」に例えてデザインしたというもの



津波碑建立趣旨



製作支援者のリスト碑



製作支援者のリスト碑と吉浜中学校生徒会の標語碑

岩手195番
2014/10/01

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市三陸町吉浜中井57
建立場所 空き地　碑高 160cm　碑幅 45cm　海抜 26m　経緯度 北緯39度8分48秒/東経141度49分48秒



この津波碑は探すのに苦労した。資料には「橋本美容店裏」と記載されていため、建物の裏ばかりを気にしていたため。正確には「裏山」とか「裏手の高台」としてくれれば苦労しなかっただろう。何度か足を運んでも発見できなかったが、上西氏の書籍に「少し急な石段を上った所に〜」と書かれていたために、裏手の高台に目がいき助かった。苦労の末辿り着いた津波碑は、階段付きの立派な囲いがある構えのもので、吉浜の海に向かって凛と建っていた。ここ吉浜は明治の海嘯で大きな被害が出たために、高地への集団移転がなされた地域。元の集落跡は田畑として使用し、昭和の津波でも大きな被害はなく、今回の大震災でも全半壊 4戸と死者1名に留まった。先人の教えを厳に守り最小限の被害に収めた地区のひとつである。なお、県道から石段を登らなくても、現地まで車両で行くことができる裏道があるが、案内板がなくあらかじめ知っておかないと容易には判らない。



県道沿いの立派な石段を登りつめると石碑が建つ





碑文右側面

東京朝日新聞社寄贈



碑文左側面

昭和八年三月三日午前二時半大地震
昭和八年三月三日午前三時　大津浪

碑文表

津浪記念碑

一、大地震の後には津浪が来る
一、俄に潮が引いたら警鐘を打て
一、警鐘を聞いたら避難せよ
一、三四十年経てば来ると思へ

津波碑が毎日眺めている吉浜の海



岩手197番
2014/04/16

嗚呼惨哉海嘯

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年6月　住所 大船渡市三陸町越喜来前田71
建立場所 円満寺参道　碑高 310cm　碑幅 148cm　海抜 27m





碑文表

嗚呼
惨哉
海嘯

長文の漢文が刻まれる

大船渡の越喜来地区には2基の津波碑があり、この碑は震災時には避難場所になる寺院の参道に建つ。漢文である上に、文字は小さく、掘りが浅く、しかも多少の風化の影響もあり、まず一般の人には判読不可能。明治海嘯の様子を鬼気迫る内容で綴られているだけに残念でならない。碑が建つ場所は海抜27mほどあるのだが、わずか100mほど手前の家は基礎だけの状態になっている。この寺もまた津波のデッドラインにあるようだ。



経緯度 北緯39度7分11秒/東経141度48分54秒

【碑文の要約】

多くの人が災害で亡くなることは、悲しく哀れである。明治二九年　六月一五日の三陸大津波は、古今に見ない大災害だった。この日は端午の節句で、家々は舞を踊り和んでいたが、午後八時に怒濤の波が押し寄せ、人も家畜も財産も没した。その被害は南北百里にわたり、越喜来村はその中心であった。被害を受けた町村は波底に沈み、生霊溺れ漂い還らず。恨の声も天が呑み込んだ。蒼天は国民へ何という災いをもたらしたのか。桑畑や田は海に沈み、家屋は流され広野となり、衣服や食料はなく、親子兄弟夫妻の死を恨み叫んだ。海底には死骸が累々と横たわり、岸では遺族が号泣し、その惨劇は言語に尽くしがたかった。

勇者が千軍万馬の中で落命するのは悲しいが、国のための殉死であれば不朽の名誉である。しかし、不測の災害による死は、戦死とは比べるもない。誰に父がなく誰に子がなく、父が死れば子は葬られず、子が死れば父は嘆くことしかできず。父子夫婦兄弟姉妹が死ぬことは誰の命令でもなく。この恨みはいつまでも忘れることはない。生き残った者は、多くの人々の義援により、また仕事につき安堵を得たが、津波の死者が彼岸に至るのは何時のことか。人々が命を落とし、死んでもなお深く沈むことを免れえざれば、悲しみの涙を禁じ得ず、煩悶苦悩は人智の知れるところではない。

この災害の三周忌にあたり、越喜来村浦浜青年共同会員は喜捨浄財をもって、部落数十戸、惨死の男女百二十余名の霊を追悼し、会員及川菊三郎が請文してここに碑を建てた。私はその求めに応じて梗概を述べ、禅師篆額者として記し、末永く追悼するものである。

津波は惨いことだ　老人は没し子供は漂う　家屋は流され　天地に悲しみの叫び　怒濤が激しく逆巻き人も動物も深く沈み　世界が涙で満ちる　善行を行いたいと　有志が土地を占い　追慕の碑を建てるこれをもって死者は仏門に入り　群霊が静まり　福智を修め悟りの道を共に登り　暗い川が永く輝く

岩手198番
2014/04/16

津浪記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和57年3月3日　住所 大船渡市三陸町越喜来杉下
建立場所 県道路傍　碑高 270cm　碑幅 126cm　海抜 6m







板碑形状の石碑に災害標語が刻まれた、あの朝日新聞社が建立を行ったタイプと思いがちですが、これは震災から49年後に建てられたもので、朝日新聞社とは無関係。地区の住民が津波碑建立委員会を立ち上げ、犠牲者の50回忌に合わせて建てられたもの。また、建立位置は昭和津波の到達ライン上で、デッドラインを示す役割もある。東日本大震災でも、津波の到達ラインはこの碑の直前と、まったく同じだった。その意味では、この地区の住民は津波に対する意識、警戒心が高いことを現している。それでも、残念ながらすべての住民が同じ意識を持っているわけではなく、今回も相当数の建物が流失している。今一度、碑文に向き合い、次に来るであろう震災では被害ゼロを目指して欲しい。



経緯度 北緯39度7分3秒/東経141度48分54秒

碑文表

津浪記念

一、大地震の後には津波が来る
一、地震があったら高い所へ集まれ
一、津浪に追はれたら何処でもここ
　位の高い所へ上がれ
一、遠くへ逃げては津浪に追つかれる
一、近くの高い所を用意しておけ
一、県指定の住宅適地より低い所へ家を建てるな

碑文裏

三陸津浪受難者供養碑

二十八名の死亡者氏名

昭和八年三月三日午前三時半大津浪が襲来して甚大な被害を与え、遂には二十八柱の御魂を海底に沈めた。村当局は明治二十九年の津浪と度重なる罹災に鑑み津浪に関する教訓を後世に伝えるべく碑の建立を計画したが、事情によりその実現をみないまま今日に至った。現今、防災に関する施策の著しいものがあるとはいえ、不測の天災について常に備えのあるべきことを念願すると共に、受難者二十八柱の御名を刻して五十回忌の法要を営み、区民一同茲に供養碑を建立する次第である。

昭和五十七年三月三日

施主　供養碑建立実行委員会
協賛　越喜来漁業協同組合
　　浦浜泊部分林組合・地区民一同
及川忠之丞　書・施工　及川耕民

岩手199番
2015/08/16

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 大船渡市三陸町越喜来大平100
建立場所 県道路傍　碑高 209cm　碑幅 92cm　海抜 13m







碑文裏

長く大きくゆれる地震は
津浪の警告と心得
直ちに近くの高地へ避け
一時間位はその場を離れるな

碑文表

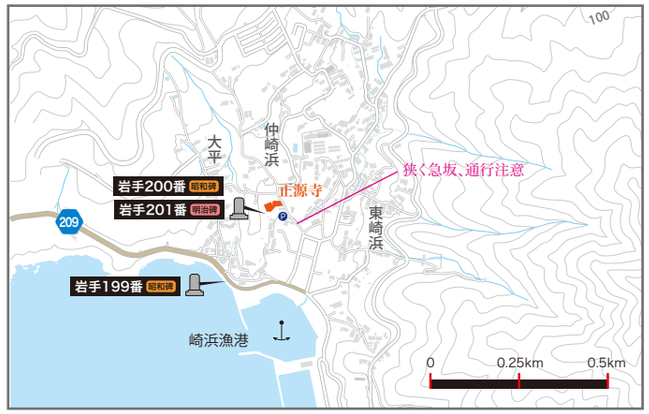
津浪記念碑

東京朝日新聞社寄贈

たかしほのあとかへりみて
いそしまは名におふ村に
家もさかえむ

昭和十年三月三日
越喜来村長従七位勲七等　石川敏蔵
新渡戸仙岳書
石巻市石井敬三郎刻

この津波碑を探しに行ったときは、港湾とその周辺が復興工事のために、道路の通行制限が激しく、当てずっぽうで徘徊していると目の前に現れたという、ラッキーな出逢いだった。港を眼下に望む小高い丘を通る県道脇で、津波碑の建立場所としては抜群の立地と感じた。しかし、訪れたときは目の前に高さ10mを越えるであろう垂直の壁を工事中。防潮壁である。完成するとまったく港は見えなくなる。筆者は防潮堤の設置は100%否定しない派だが、さすがにこの威圧感は凄まじい。しかし、生命や財産と景観は天秤には掛けられないだろう。



経緯度 北緯39度6分16秒/東経141度51分31秒

岩手200番
2015/08/16

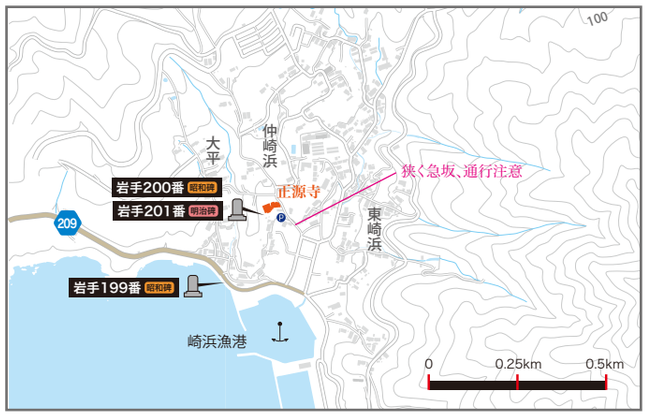
昭和海嘯死亡者追悼碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年1月　住　所 大船渡市三陸町越喜来仲崎浜77
建立場所 正源寺境内　碑　高 233cm　碑　幅 102cm　海　抜 39m



ここ崎浜地区は、津波から避けるためであろう、狭い斜面に宅地を造成し家々が密集している。その中に道路を通しているので狭い上に急勾配。3ナンバーのクルマなら難儀するだろう。寺には狭いながらも駐車場があり車両を停めて境内へ。階段を登ると本堂の左手に大きな石碑が3基建つ。内2基が津波碑である。しかし、ご覧の通り石組みされた囲いの上に建つため、背面を見るためにはこの玉垣の中へ入らなければならない。さすがに躊躇したので、今回は未確認とした。

200番の昭和津波碑には、47名の氏名ではなく戒名が刻まれていることから、集落の死亡者ではなく、この寺の檀家で亡くなった人のリストであろうと思われる。



経緯度 北緯39度6分22秒/東経141度51分34秒

岩手201番
2015/08/16

海嘯溺死者供養碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年旧10月11日　住　所 大船渡市三陸町越喜来仲崎浜77
建立場所 正源寺境内　碑　高 258cm　碑　幅 70cm　海　抜 39m



碑文表

海嘯溺死者供養碑

明治二十九年陰暦五月五日　崎浜念佛女講中
明治三十年陰暦十月十一日建之

当浜死人男女二百二十四人無縁三十七人
願主川畑里能

碑文表

昭和海嘯死亡者追悼碑

死亡者47名の戒名

漢文で災害の様子と被害概況が刻まれる

背面の碑文については未確認のため割愛する

岩手202番
2014/04/16

海嘯溺死記念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治34年旧4月　住所 大船渡市三陸町越喜来甫嶺64
建立場所 龍昌寺境内　碑高 237cm　碑幅 98cm　海抜 49m



甫嶺地区の海抜50mの高台にある寺の境内に、遠くの海を見つめるように建っている。明治の海嘯から6年後に地域の住民の手により建立されたものだが、その念が伝わったのか、今回の震災では大きな被害が出なかった。この地区には海岸直近に南リアス線が南北に突き抜けており、それが防波堤の役割を果たしたようだ。防潮堤建設に賛否ある地域も多々あるが、このように生活に密着している施設が防災に役立つというのはアリではないだろうか。



経緯度 北緯39度5分34秒/東経141度48分7秒



碑文表

海嘯溺死記念碑



碑文裏

明治二十九年陰暦五月五日溺死上下甫嶺
明治三十五年陰暦四月建之　部落一同

岩手203番
2014/04/16

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 大船渡市三陸町越喜来鬼沢
建立場所 県道路傍　碑高 208cm　碑幅 93cm　海抜 22m







前述の甫嶺地区からすぐ南に降りると鬼沢地区がある。小さな集落だが、ここでも昭和の海嘯で犠牲者が出て津波碑が建立されている。漁港を見下ろす県道路傍に赤い鳥居が建ち、その後ろにズラリと石碑が建ち並ぶ。その最も左手の石碑が当津波碑である。鳥居の基礎には「大漁」と金の文字で描かれている。津波碑と海神様を祀り海の安全と生活の安寧を願っている。





経緯度 北緯39度5分17秒/東経141度48分36秒

碑文表

津浪記念碑

たかしほのあとかへりみていそしまは名におふ村に家もさかえむ

昭和十年三月三日
越喜來村長従七位勲七等　石川敏蔵
新渡戸仙岳書

碑文裏

東京朝日新聞社寄贈

昭和八年三月三日震災海嘯概況
三月三日陰暦二月八日午前二時三十一分
波浪高サ　三十尺
流失戸数十八戸
半潰戸数四戸
浸水戸数二戸
死亡人員七名
行衛不明二名

死亡者人名
矢作銀之助
斎藤源七
川原キク
及川シケ
及川トメ
同　典一
斎藤ナミ
同　トミ
同サキ
外　小山善治

岩手204番
2014/04/16

萬死之霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年7月　住所 大船渡市三陸町綾里小石浜
建立場所 県道路傍　碑高 210cm　碑幅 103cm　海抜 37m



県道の路傍に密かに建つ津波碑。密かにというのも、路傍といっても少々引っ込んだ位置にあり、碑の前方も樹木で海は見えず（建立時は見えたかもしれない）、ここにあると事前に知らなければ、まず目には入らない。ただ、碑の前に丘へ登る小径が付いている。転落防止網が張られ、小径自体もよく歩かれている様子。この上には小さな墓地がある。おそらく津波で亡くなった人たちの墓であろう。墓参りに訪れる人へ戒めのため、この場所に建てられたものと推察できる。





経緯度 北緯39度4分41秒/東経141度49分15秒



碑文表

霊之死萬

漢文による碑文

溺死者の氏名

被害の記事

建立関係者一覧

【碑文の要約】

顧みれば明治二十九年六月十五日、古今未曽有の大海嘯により、我が三万人の仲間たちが財産と共に海底の藻屑と化し、東日本三陸の地は、瞬時にしてカワウソの棲む所となった。死者は長く苦しみ続ける鬼となり、生者も家族親戚縁者を失った悲しみのあまり、生涯、涙に暮れる日々を送る。どうすればこの無限の怨みを忘れ、いつになればこの悲しみが消えるのか。生きてさえいれば国のため、家のために活躍したであろうが、天は情けなく、短い運命を惜しむばかりである。今やあの世とこの世は遠く隔たり道もなく、ただ天を怨み地に訴え、その不常に声をあげて泣く。生霊は逝き、天は暗く、草木は衰え、鳥の鳴く声も哀しい。

大船渡市

赤崎駅
太平洋セメント工場
跡浜
大洞
陸前赤崎駅
三陸鉄道南リアス線
生形
岩手152番 復数海嘯碑
大船渡港
山口
綾里トンネル
綾里峠
不動滝
九十九曲
綾里川
坂本
綾里駅
岩手204-2番 昭和碑
中曽根
大明神
大久保
白浜
第二白浜トンネル
恋し浜駅
舘ヶ森
綾里富士
綾里湾
9
大船渡湾
大立
岩手152番 昭和碑
岩手151番 明治碑
弁天岬
琵琶島
永浜
小浦
岩手205番 明治碑
岩手206番 明治碑
岩手207番 明治碑
野形
熊之入
岩崎
清水
宮野
平舘
大畑野
黒土田
野々前
岩手208番 流失
港
石浜
八ケ森
綾里漁港
殿見島
田浜上
田浜下
立石山
垂水
水鶏島
前島
清水
清水合足トンネル
岩手149番 明治碑
珊瑚島
蛸ノ浦
岩手150番 復数海嘯碑
岩手148番 昭和碑
鳥沢
合足
岩手145番 明治碑
岩手144番 昭和碑
打越
小路
八ケ森トンネル
小路岬
尾崎岬
鵜島
青島
長崎
外口
岩手146番 明治碑
岩手147番 明治碑

「大船渡市綾里～赤崎地区」

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

岩手204-2番
2016/04/05

明治三陸大津波伝承碑

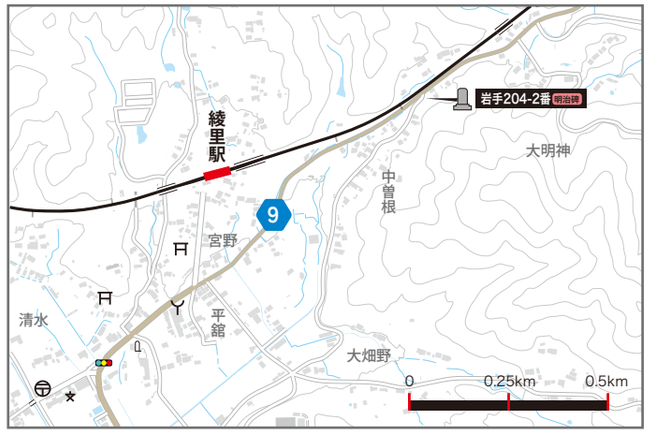
対象津波 対象津波　建立月日 平成10年6月15日　住　所 大船渡市三陸町綾里大明神
建立場所 一般道路傍　碑　高 132cm　碑　幅 260cm　海　抜 35m





今回の津波碑探訪のきっかけとなった、国土交通省東北整備局の資料であるが、元は東北大学の「津波工学研究報告」の情報が大きな参考資料となっている。当津波碑はこの資料には記載されていなかった。資料の発表は1991年～1992年（平成3～4年）、当碑の建立は平成10年（1998年）、研究報告書作成後の建立であり掲載されるはずがない。東日本大震災の津波碑は別として、明治・昭和の津波碑が平成以後建てられたのは非常に少なく、極めて珍しい1基といえる。碑文も現代らしく左横書きとなっている。どうにも現代人の筆者にとってはホッとする。

津波碑の脇には、趣意説明板が建てられている。碑文の記述は当時の文献から抜粋したもので、それを判りやすくさらに細かく説明している。特に気になる一文が、「明治津波の惨状を永く世に伝え、地域住民の戒めとする」という部分。数多く建てられている津波碑の役目を明確に記載している。しかし、どうだったのだろうか、今回の震災では大いに役目を果たしたのだろうか・・・・。



経緯度 北緯39度3分21秒/東経141度48分19秒

碑文表

明治三陸大津波伝承碑

明治29年6月15日（旧暦5月5日）午後8時7分頃襲来、綾里村は被害戸数296戸溺死1350人を数え、この地にて本州津波史上最高の38.2mの波高を記録する。
「白浜は真口の太平洋に直面せるをもって水勢を遮る何物もなきによるべく、野を越え山を走りて道合に至り両湾の海水連絡せるに至る。所謂水合か」（「綾里村誌」）
［綾里村の惨状］
「綾里村の如きは死者は頭脳を砕き、或いは手を抜き足を折り実に名状すべからず。村役場は村長一名を残すのみ、尋常小学校、駐在所みな流失して片影を止めず」（岩手県知事より内務大臣への報告）
「その屍たるや道路に満ち沙湾に横たわり酸鼻言うべからず。晩暮帰潮に随って湾上に揚がるもの数十日、親の屍にすがりて悲しむものあり子の骸を抱き慟哭するものあり、多くは死体変化し、父子だも尚その容貌を弁ずる能はざるに至る。頭足、所を異にするに至りては惨の最も惨たるものなり」（「綾里村誌」）

平成10年6月15日
綾里地区消防100周年記念事業実行委員会　建立

岩手205番
2014/04/16

海嘯溺死者霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市三陸町綾里岩崎135
建立場所 長林寺参道前　碑高 184cm　碑幅 68cm　海抜 11m



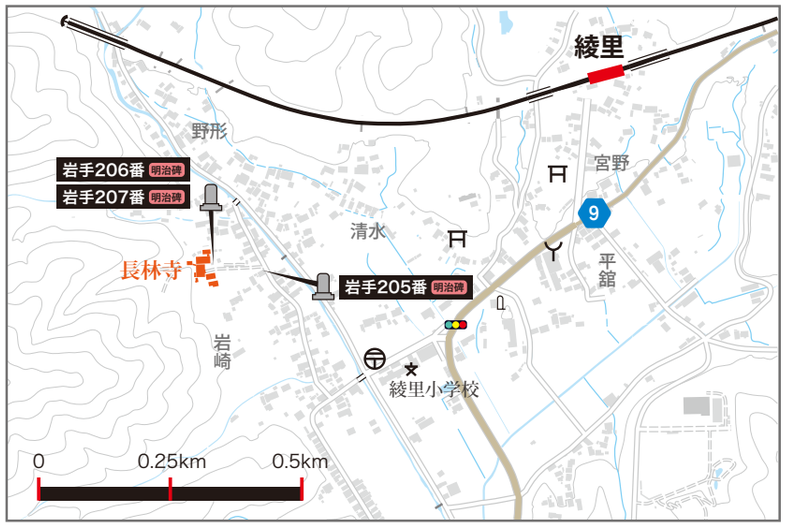


碑文表

明治二十九年
六月十五日

海嘯溺死者霊

綾里地区の長林寺には3基の津波碑があるが、1基は参道入口の路傍に建ち、2基は本堂前にある。こちら入口前に建つ石碑の碑文はシンプルである。ただただ慰霊の碑である。寺の前を通過する人々に一念をということであろうか。



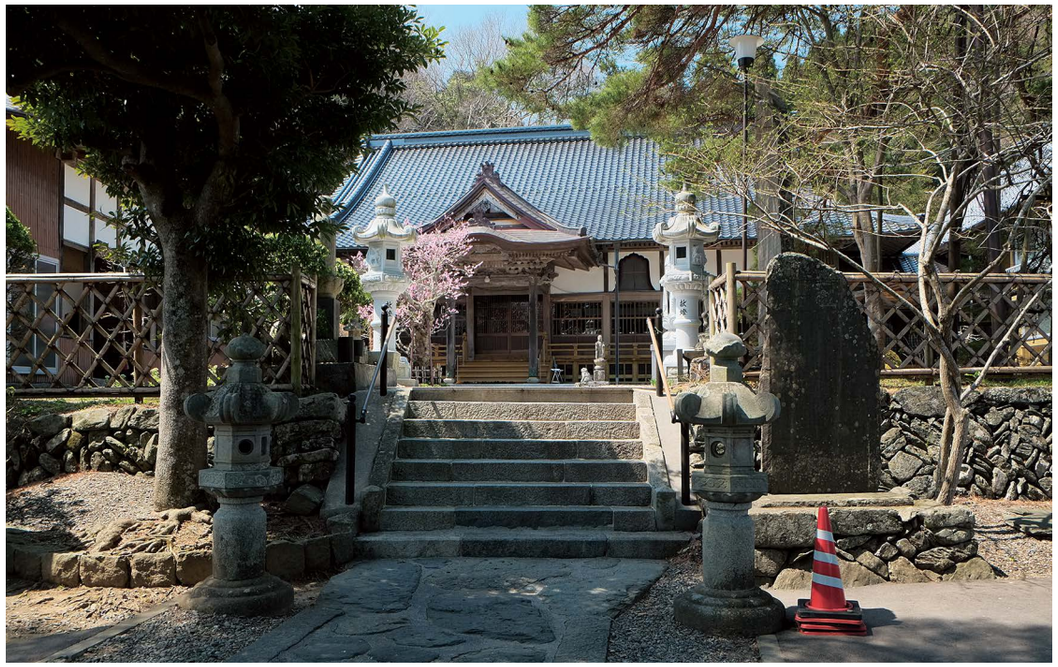
経緯度 北緯39度3分3秒/東経141度47分30秒



岩手206番
2014/04/16

家譜

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年6月　住 所 大船渡市三陸町綾里岩崎135　建立場所 長林寺境内
碑 高 204cm　碑 幅 108cm　海 抜 13m



当地に於いて財を成した伊藤家の歴史について記された石碑で、その一文に海嘯についての記述がある。いたって個人的な碑であり、歴史的観点に於いて重要な史料かもしれないが、単に津波碑探訪の旅としてはあまり面白い内容ではない。ただ、明治の津波のほかに、慶長５年にも大海嘯があったことが書かれており、三陸には幾度も津波が襲っていることが理解できる。

譜　家

碑文表

長い碑文



経緯度 経緯度

岩手207番
2014/04/16

頌徳碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 大船渡市三陸町綾里岩崎135　建立場所 長林寺境内
碑 高 370cm　碑 幅 146cm　海 抜 13m



非常に大きな石碑で、なにごとが書かれているのかと思えば、この寺の第十三代住職の履歴が記載されている。津波については、避難所として提供したということのみ。あとは、この村の発展はこの寺と住職があってのことと、云々長々書かれている。はて、これも津波碑として勘定するべきなのだろうかと訝しく思った次第である。

碑徳頌

碑文表

長い漢文で個人のことが綴られている

碑文は明治期の物だが平仮名が使われており非常に読み易い

岩手144番
2014/04/16

津波記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月　住　所 大船渡市赤崎町合足150　建立場所 一般道路傍
碑　高 140cm　碑　幅 100cm　海　抜 24m



碑文表

津波記念碑

昭和八年三月三日合足部落
溺死者二〇名
被害戸數一一戸

地震があったら津波の用心

岩手145番
2014/04/16

○海嘯横死者諸精霊塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市赤崎町合足150　建立場所 一般道路傍
碑　高 162cm　碑　幅 87cm　海　抜 24m



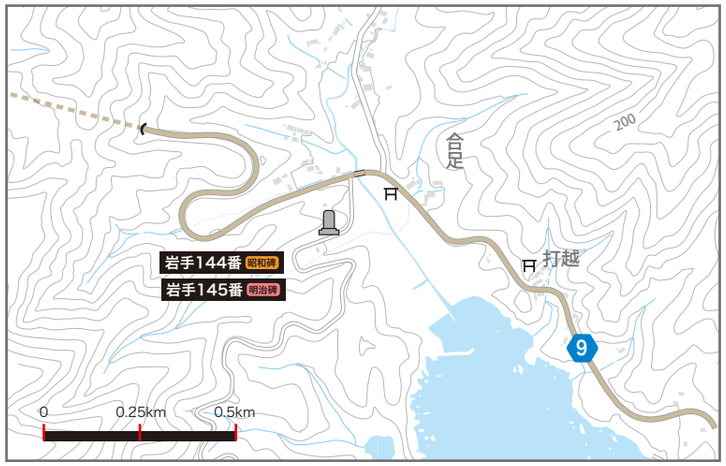
碑文表

○海嘯横死者諸精霊塔

明治二十九年五月五日

八十名死亡

合足（あったり）地区を見下ろす一般道の路傍に２基の津波碑が建つ。この地区は20軒に満たない小さな集落だが、明治、昭和の海嘯では全滅に近い被害を受けており、津波が襲来しない高さの路傍に、肩を寄り添うように津波碑を建立している様は、先人の悲しみを強く表しているように思えた。しかし、今回の震災では大きな被害は出ておらず、先の震災の教訓が功を奏しているといえる。この場所に、３基目が建たなかったのは何よりであった。



経緯度 北緯39度2分11秒/東経141度45分56秒



岩手146番
2014/04/16

丙申海嘯死亡者諸精霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市赤崎町外口80　建立場所 貴舟神社境内
碑高 126cm　碑幅 76cm　海抜 26m



碑文表

丙申海嘯死亡者諸精霊

鳥沢弥五郎　上野キク　志田勇五郎　不二真
上野圍三　同　クラ　同　清左エ門　諸中
同苗　愛三　同　ロク　同　イヲ

葉沢源作　小沢ミイ　大沢タミ
同　トマ　大沢サチ　熊沢倉蔵
同　ヒサ　同　六之丞　袖野久之助
志田清三郎

明治二十三年ヨリ三十二年　高田町　伊藤三千助　外念佛
唐丹町　村川秀吉　世話人
清水エキ　志田ナヲ
大沢トイ
同　タマ
磯貝ナツ

岩手147番
2014/04/16

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市赤崎町外口80　建立場所 貴舟神社境内
碑高 137cm　碑幅 60cm　海抜 26m



碑文表

明治二十九年五月五日

曹獄吸流信士　恵安妙心信女　念佛講中
與四郎　マツ　磯貝リヤウ
発心念観信士　善行修法信男　同ハル
勘十郎　六之丞　同ハナ
普照人天信士　直聞得法信男　同ナツ
権之丞　三之助　大澤トイ
直観了到信士　呑空妙入信女　同タマ
雲蔵　キリ　忠田卯太郎
直指道入信士　應観善童女　蔓ウキ
林右エ門　クラ　熊谷シモ
観法了達信士　智覚清涼信士　磯貝ハチ
勘六　長三郎
脱身了落信男
卯太郎
勝法通身信男
初吉

外口地区にある貴船神社境内に２基の津波碑があるということで足を運んだが、さて神社の所在を正確に押さえていなかったために30分以上も右往左往してしまった。が、よくよくGoggleMapを見ればガッチリ記載があった。準備は大事である(猛省)。消防の屯所脇に鳥居があり、その下をくぐる石段を登るとすぐ左手に石碑群が現れる。右から４基目と６基目が当該津波碑である。共に明治海嘯の慰霊碑で、死亡者の名前、戒名が刻まれている。



経緯度 北緯39度1分13秒/東経141度45分25秒



この消防屯所脇の石段を登る



立派な鳥居と石段の割りに質素な社である

岩手148番
2014/04/16

津波記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月　住所 大船渡市赤崎町蛸ノ浦36
建立場所 一般道路傍　碑高 163cm　碑幅 98cm　海抜 4m







蛸ノ浦地区の県道路傍に石碑群があり右端が津波碑。この地域は大船渡湾の入口のためか、激しい被害は出なかったようで、周囲は大規模に流された形跡がない。震災直後の動画を確認したが、1階までの浸水は認められるものの、家屋全体が押し流されて全潰するに至っておらず、漂着してきた瓦礫が海岸線から道路に堆積している様子が見られた。湾の最奥にある大船渡市街地は激しく押し流されているだけに、リアス津波の不思議を感じる。



経緯度 北緯39度2分3秒/東経141度44分13秒

碑文右側面

昭和十年三月建之　赤崎村

碑文表

津波記念碑

地震があったら津波の用心
津波が来たら高い所へ

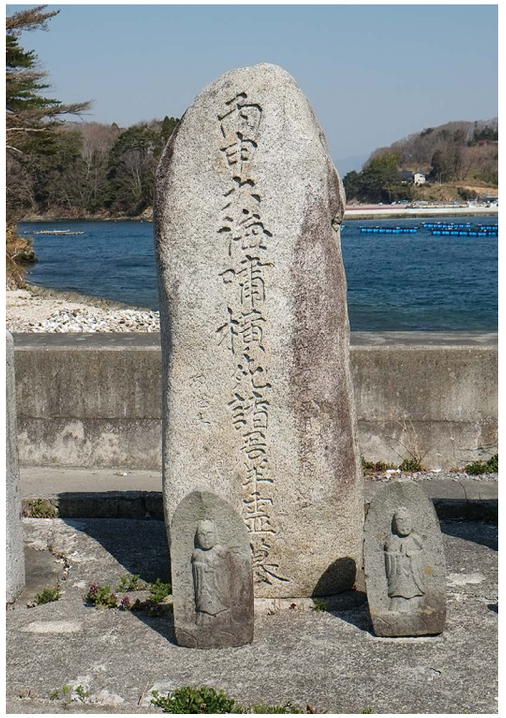
昭和八年三月三日雨蛸浦部落
溺死者　三十二名
被害戸數三十三戸

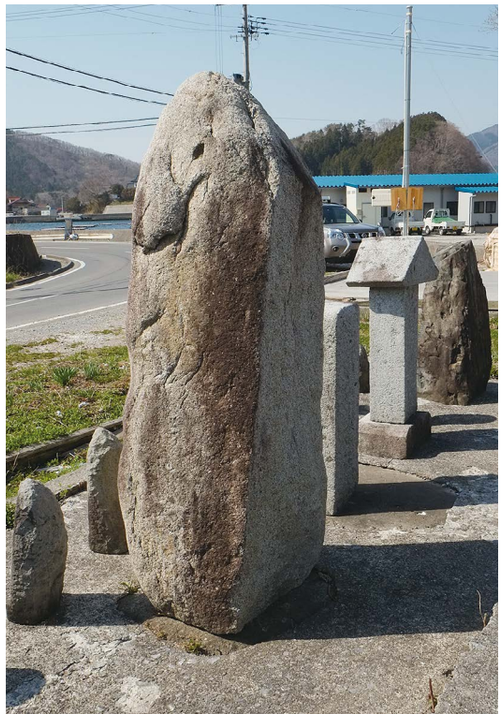
岩手149番
2014/04/16

丙申大海嘯横死諸群霊墓

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治45年5月　住所 大船渡市赤崎町蛸ノ浦83
建立場所 一般道路傍　碑高 164cm　碑幅 60cm　海抜 1.5m







蛸ノ浦地区の北端、一般道の県道合流直前に石碑群があり、中央部に明治の海嘯碑が建つ。大船渡湾を背に立つ石柱で、個人が建立した供養の碑で、３人の氏名（２名は判読できない）が刻まれている。海抜１ｍほどしかないため、今回の震災では確実に津波が襲来しているはずだが、破損した形跡がない。ネット動画で被災直後の様子を確認したが、瓦礫の中に石碑達が凛と建っている姿が確認できた。神の仕業か摩訶不思議である。



経緯度 北緯39度2分15秒/東経141度44分15秒

碑文表

明治四十五年五月建之

丙申大海嘯横死諸群霊墓

鎌田■■
鳥澤りの
功徳生
■■■■

背面に碑文は刻まれてはいない。津波の襲来は背面からと思われるが、まったくの無傷である

岩手150番
2014/04/16

津波記念碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月　住所 大船渡市赤崎町蛸ノ浦
建立場所 一般道路傍　碑高 155cm　碑幅 140cm　海抜 9m





碑文表

明治二十九年六月十五日清水部落
溺死者三五名
被害戸數一六戸

津波記念碑

昭和八年三月三日清水部落
溺死者一六名
被害戸數二五戸

昭和十年三月建立　赤崎村

海岸線から500mほど内陸寄りの路傍にひっそりとある津波碑。幹線から離れた道にあり、あまり人の目に触れることがなさそうな場所。ただ、目の前には仮設住宅が建てられており、入居者はこれを機に初めて見た人もいるだろうか。清水地区における、明治と昭和の津波による被害状況が刻まれているが、この碑が建っている場所は清水地区ではなく、ここより北西の大船渡湾沿いになる。なぜ、清水地区から離れたこの場所に建てたのかは不明である。



経緯度 北緯39度2分11秒/東経141度44分38秒

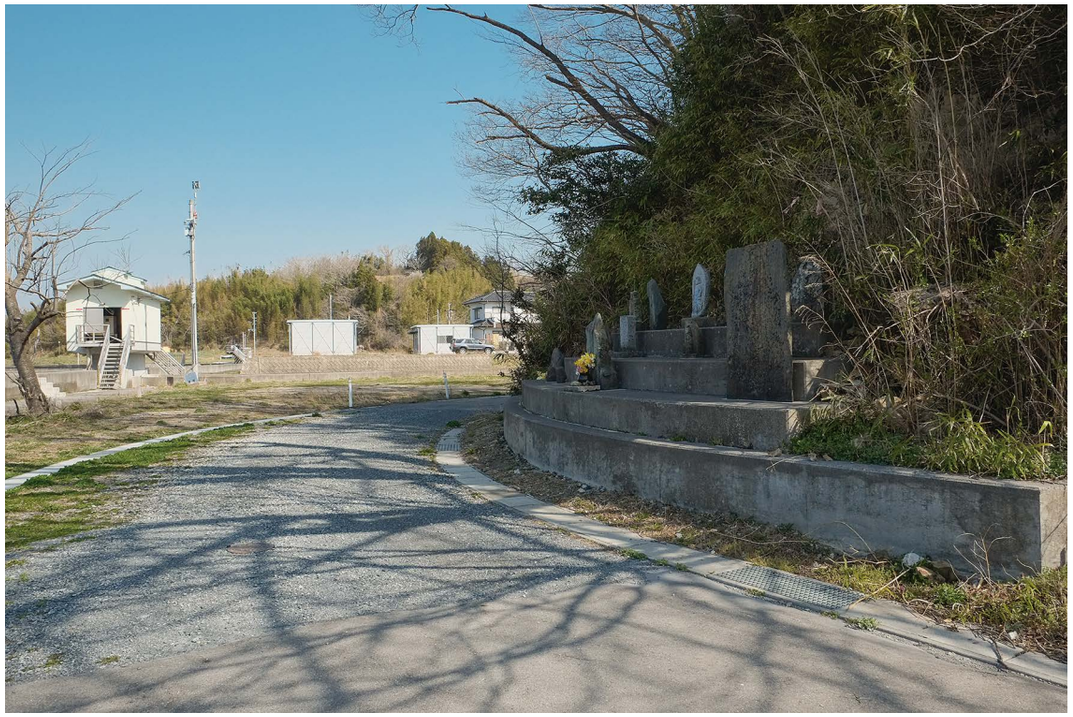


津波碑の前には仮設住宅が建ち並んでいた

岩手151番
2014/04/16

丙申海嘯横死長濱七拾四名供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治33年旧8月23日　住所 大船渡市赤崎町大立61
建立場所 一般道路傍　碑高 150cm　碑幅 83cm　海抜 2m





碑文表

死亡した二十名の法名が刻まれる

丙申海嘯横死長濱七拾四名供養塔

馬頭観世音菩薩　拾二頭

維持明治三十三庚子年陰暦八月二十八日

念佛講中
鈴木未五良
志田モト
同サイ
同カメ
同タミ

大立地区には、明治と昭和の津波碑が２基建立されている。こちらは明治海嘯の津波碑で、海辺の一般道路傍にコンクリートでひな壇を造り、山神碑や八大龍王碑、地蔵尊などと共に置かれている。眼前が海であり、海抜も２mと津波が来れば直撃の位置にありながら大きな破損は見られない。背に小山の斜面があるからだろうか。ただ、根元のモルタルは真新しく、一度倒れたものを修復したことは伺える。



経緯度 北緯39度3分11秒/東経141度44分27秒

岩手152番
2014/04/16

津波記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月　住所 大船渡市赤崎町大立61
建立場所 一般道路傍　碑高 142cm　碑幅 105cm　海抜 ＊3m





碑文表

津波記念碑

昭和八年三月三日永濱部落
溺死者一〇名
被害戸数四〇戸

地震があったら津波の用心

昭和十年三月建之

大立地区にある昭和津波の石碑。庚申塔などの碑とともに並んでいるが、もう一方の明治海嘯碑とは打って変わり、こちらは破損状況が激しい。バンドと当て木でなんとか原形をとどめているが、きちんと修理しないと永くは持つまい。写真の背景をご覧頂くと判るが、周りに建物はない。海からの津波だけで石碑がバラバラにはならないだろうから、引き波により運ばれる瓦礫により破損したのではないだろうか。それにしても、地元の人であろうが、こうして破損した石碑を、簡易ではあるが修復する人がいたのは喜ばしい限りである。倒れようが折れようがそのまま放置という所も珍しくはない。この石碑を建てた先人も草葉の陰で喜んでいることだろう。



経緯度 北緯39度3分15秒/東経141度44分27秒

岩手153番
2014/04/16

津波記念碑

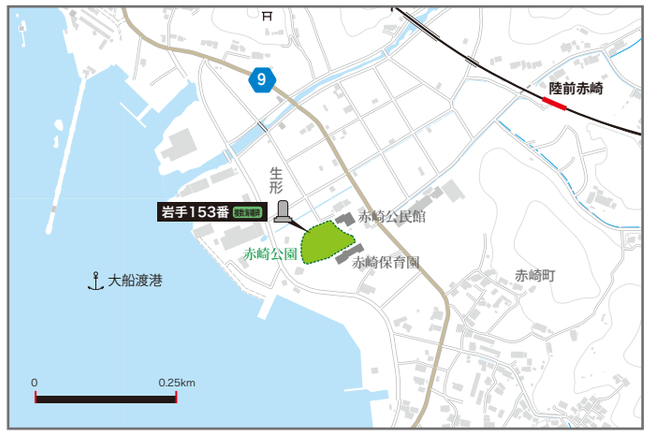
対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和10年3月　住所 大船渡市赤崎町山口80–22
建立場所 赤崎公園内　碑高 320cm　碑幅 95cm　海抜 10m







この碑は、まったく所在が掴めず、近くのガソリンスタンドにて尋ねると、所長さんの対応で位置を教えて頂いたうえに、逸話まで聞かせてくれた。東北整備局の資料では県道沿いに建立となっていたが、道路の拡張工事で、500mほど離れた公園に移転されたとのこと。その逸話だが、以前の建立場所は海抜2～3mという低地にあり、チリ地震津波の際はこの石碑で止まったという。今回の大震災では、海抜10mの高台公園に移転したにもかかわらず、やはり石碑まで到達。津波は必ずこの石碑のある場所に到達し止まるというのである。地元住民の間では語りぐさになっているという。今後この碑は移転することがなければ、次の津波の際、この高台公園は避難場所には適さないことになり、もっと高所へ逃げなければならない。案外、都市伝説も防災に大いに役立つという一席か。この碑を建てた先人も効果絶大に満足であろう。



経緯度 北緯39度3分57秒 / 東経141度44分13秒

碑文表

赤崎村の津波被害

明治廿九年六月十五日　溺死者　四五七名
被害戸数二二八戸

津波記念碑

昭和八年三月三日　溺死者　八一名
被害戸数二一二戸

地震があったら
津波の用心
津波が來たら
高い所へ

碑文裏

建設の由來

昭和八年の三陸津波に際し東京朝日新聞社に於て募集せる義捐金の各町村へ分配したる殘額を記念碑建設費として寄贈せられたるに依り昭和十年三月當所永濱清水蛸浦合足の五ケ所に記念碑を建設したり

赤崎村

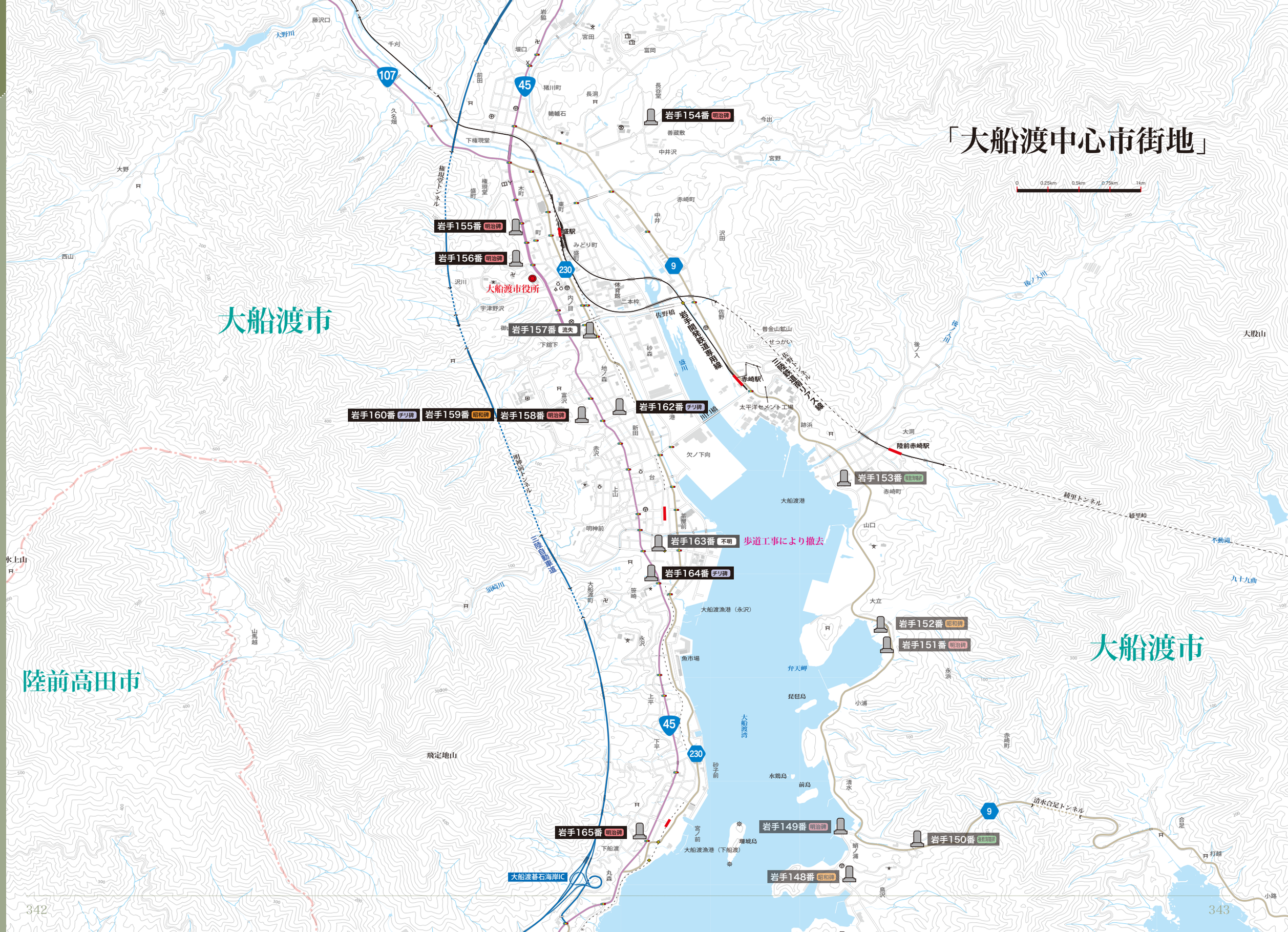
田鎖清書

赤崎公園から眼下を望む

前項の岩手153番碑が建つ赤崎公園から眼下を見下ろした写真。公園は海抜10mの高台となっており、まるで人工地盤のようにこの公園だけが高地となっている。今回の東日本大震災では、園庭の縁ギリギリで津波が止まっている。



「大船渡中心市街地」


大船渡市
陸前高田市
大船渡市役所
岩手154番 明治碑
岩手155番 明治碑
岩手156番 明治碑
岩手157番 流失
岩手160番 チリ碑
岩手159番 昭和碑
岩手158番 明治碑
岩手162番 チリ碑
岩手163番 不明
歩道工事により撤去
岩手164番 チリ碑
岩手165番 明治碑
岩手153番 後敷地碑
岩手152番 昭和碑
岩手151番 明治碑
岩手149番 明治碑
岩手150番 後敷地碑
岩手148番 昭和碑
盛駅
赤崎駅
陸前赤崎駅
大船渡港
大船渡漁港（永沢）
大船渡漁港（下船渡）
大船渡湾
弁天岬
琵琶島
水鶏島
前島
珊瑚島
大船渡碁石海岸IC
飛定地山
大股山
107
45
230
9
岩手県道陸前高田盛線
JR大船渡線
JR気仙沼線
陸前高田市役所
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

岩手154番
2015/08/16

萬人靈塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年9月　住所 大船渡市猪川町長谷堂127
建立場所 一般道路傍(長谷寺向かい)　碑高 184cm　碑幅 85cm　海抜 26m





碑文表

為海嘯死没者建之

萬人靈塔

明治二十九年九月　政徳書

施主
大畑しん
鈴木つね
千葉やな
千葉ゑみ

東組若連

世話人
千葉金三郎
金野栄作

大船渡市街地から北東へやや入った所に長谷寺がある。その道を挟んだ向いに５基の石碑が建つ。一番右の端が当該津波碑である。明治の津波で亡くなった人への慰霊碑で、個人４名により建立されている。この地には２回足を運んでいる。１度目は、長谷寺にあるという情報だったため、境内をウロウロするも発見できず諦めて退散。その後、GoogleMapのストリートビューで再探索中に発見。実際は長谷寺境内ではなくその向かい。情報は正確に記述してもらいたいものだ。初回訪問時に目の前を通過しているにもかかわらず見落としたわけだが、事前に得た情報を鵜呑みしたのが敗因。もっと周囲に目を向ける習慣を付けなければと反省しきり。しかし、インターネットという文明の利器がなければ辿り着けなかったのも事実。あまりに便利な時代に頼り切るのも危険である。五感がどんどん衰えていく気がしてならない。



経緯度 北緯39度5分40秒/東経141度43分11秒

岩手155番
2014/10/01

海嘯紀念

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市盛町町2-2
建立場所 浄願寺境内　碑高 89cm　碑幅 45cm　海抜 5m





碑文表

海嘯紀念

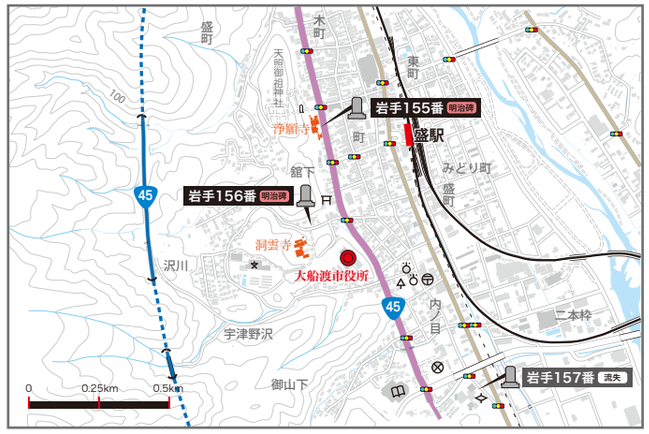
碑文裏

明治二十九年旧五月五日

榮徳了三信士
五雲良峯信士
西室妙見信女
實心妙應信女
妙永善童女

大船渡市街地を抜ける国道45号沿いには、多くの津波碑と津波到達銘板が設置されていたが、東日本大震災の津波により、過去の津波到達銘板は一部流失した。それもそのはず、過去のどの津波よりも今回の方が巨大なわけであるから。反面、津波碑については慰霊や警告の内容であるため、寺院や公園での設置が多く、今回はすべて被災を免れている。ここ浄願寺も海抜5mながら津波の被害はなく碑は無事だった。境内に入りすぐ左手の壁沿いにある。
碑文には5名の戒名が刻まれており、この寺院の檀家で亡くなった人たちであろう。





経緯度 北緯39度5分9秒/東経141度42分26秒

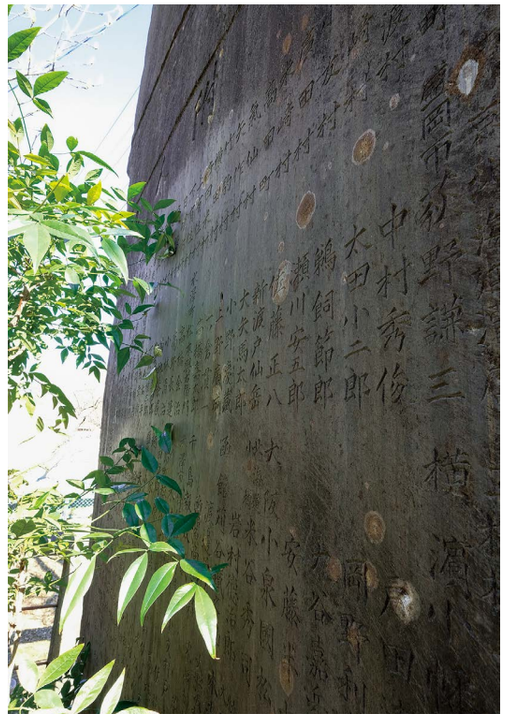
岩手156番
2015/08/16

大海嘯紀念碑

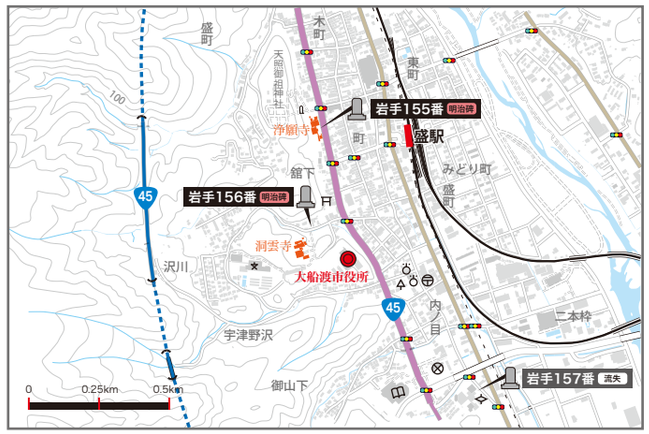
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年6月15日　住所 大船渡市盛町舘下29
建立場所 一般道路傍/洞雲寺参道前　碑高 450cm　碑幅 140cm　海抜 11m







またしても東北整備局の資料にしてやられた。資料には「洞雲寺」と記載されていたうえに、上西氏書籍にも「洞雲寺山門前」と書かれている。となれば、洞雲寺の境内を探すのは当然である。しかも、よりによって山門も境内のど真ん中に建っている。しかし、いくら探しても高さ4mを越える巨大な石碑が見当たらない。2度足を運んだがやはり無い。勝手に「地震で倒壊したのかもしれない」と決めつけてしまう始末。そういうわけで、ネットで津波碑倒壊の記事でもないかと探していると、建立位置が「洞雲寺の向かいの個人宅前」ということが判明。さっそくストリートビューで確認するとバッチリ建っている！参照した2つの資料の記載が曖昧とは。どちらの資料も詳細な地図はない。文章での道案内とは非常に難しいものである。自分の文でも肝に銘じなければなるまい。



経緯度 北緯39度4分59秒/東経141度42分25秒

碑文表

大海嘯紀念碑

碑文裏

名人附寄

石碑の建立寄付人名簿が記載される
百四十一名（法人含む）

明治海嘯の様子が長文で刻まれる

西光寺の津波碑３基

2015/08/16

住所 大船渡市大船渡町富沢75-1　建立場所 西光寺境内　海抜 15ｍ



ここ西光寺境内には３基の津波碑がある。なかなか立派なお寺のようで境内は広い。ややもすればどこにあるのか探すのに一苦労しそうな広さだが、山門手前の左手にまとめて建立されている。これは来訪者に対しすぐに目に付く位置を配慮したものと推察できる。不特定多数の人を対象とする石碑であるから、このような気遣いは大切だと思う。なお、３基の碑は右から時代順に並ぶ。今後、東日本大震災の碑も追加されるのであろうか。



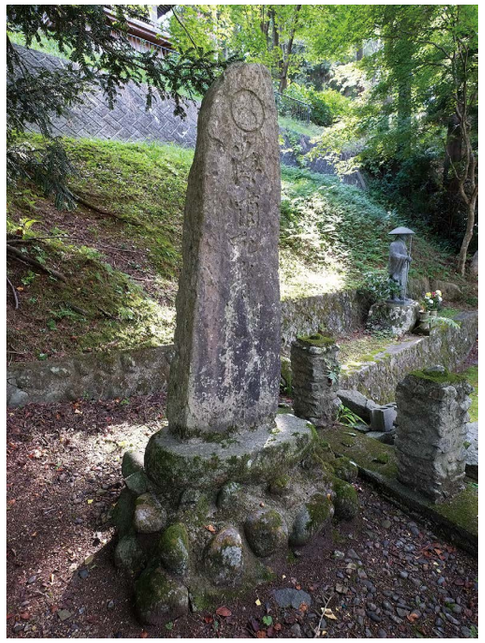


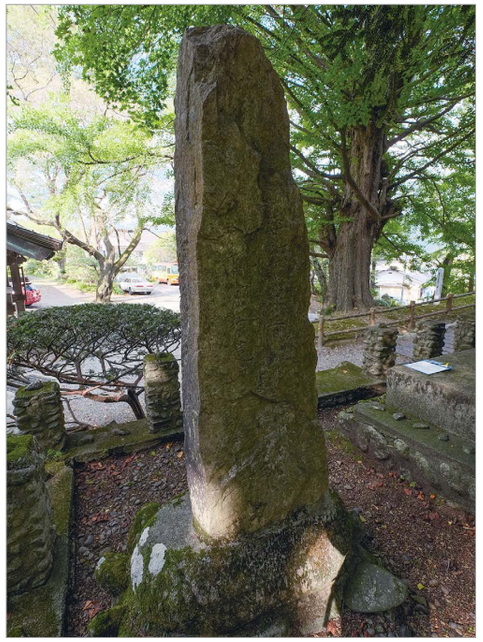
経緯度 北緯39度4分14秒/東経141度42分48秒

岩手158番

○海嘯死者碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年旧8月5日
碑高 178cm　碑幅 48cm





碑文表

○海嘯死者碑

願主　冨澤鳳洲
村内百二十余名
無縁　七十余名
大西平太郎

碑文裏

明治二十九年旧五月五日
発起人　村内大衆中
同三十年旧八月五日建之
世話方　同　有志者

西光寺の津波碑３基

2015/08/16

住所 大船渡市大船渡町富沢75-1　建立場所 西光寺境内　海抜 15m

岩手159番

津浪記念碑

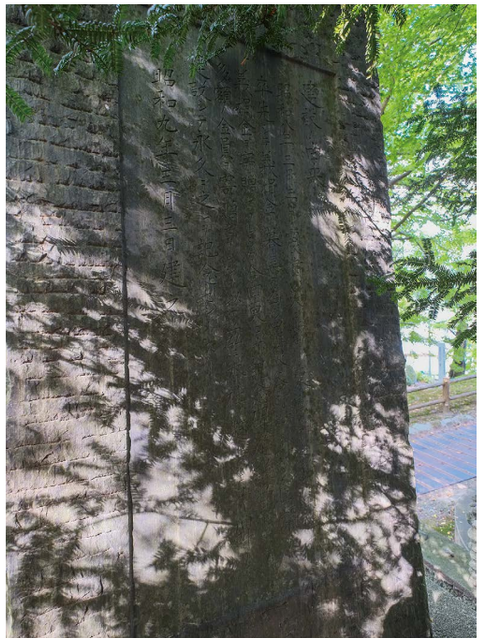
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日
碑高 258cm　碑幅 128cm



碑文表

津浪記念碑

一、想起せ昭和八年三月三日
二、大地震の後には津波に注
　意せよ
三、三四十年に一度は津波が
　来るものと思へ
四、急に潮が引いたら警鐘な
　らせ
五、警鐘聞いたら高い所に



碑文裏

建設ノ由来
昭和八年三月三日ノ震嘯災ニ当リ東京朝日新聞社ガ
率先シテ義援金ノ募集ヲ為シ罹災各町村ニ対シ巨額ノ
義損金ヲ寄贈セラレシガ今回更ニ亦記念碑建設費トシテ
多額ノ金員ヲ寄贈セラレシヲ以テ茲ニ本社ノ趣旨ニヨリ碑ヲ
建設シテ永久ニ之レヲ記念セントス

昭和九年三月三日建之

岩手160番

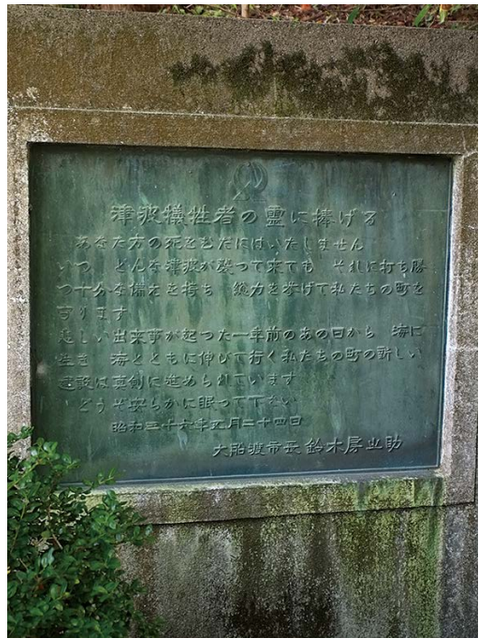
津波犠牲者供養塔

対象津波 チリ津波　建立月日 昭和36年5月24日
碑高 250cm　碑幅 62cm



碑文表

津波犠牲者供養塔



碑文裏の銘板

津波犠牲者の霊に捧げる

あなた方の死をむだにはいたしません
いつ　どんな津波が襲って来ても　それに打ち勝つ十分な備えを持ち　総力を挙げて私たちの町を守ります
悲しい出来事が起こった一年前のあの日から　海に生き　海とともに伸びて行く私たちの町の新しい建設は真剣に進められています
どうぞ安らかに眠ってください
昭和三十六年五月二十四日
大船渡市長　鈴木房之助

岩手162番
2016/10/16

チリ地震津波襲来地点

対象津波 チリ津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市大船渡町地ノ森45-21
建立場所 一般道路傍/歩道上　タテ幅 30cm　ヨコ幅 59cm　海　抜 3.5m



大船渡市街地の歩道上に、チリ地震津波の到達地点を示すプレートが埋め込まれている。このプレートは3箇所設置されていることは、事前の調査で承知していたが、東日本大震災の津波はこの地点を優に越えており、周辺の街並みは一変している。2014年の来訪時には当該地区を訪れているのだが、なぜか発見することができなかった。想像するに、街の復興工事のために一時取り外されたのではないかと思っている。その後、ストリートビューで再確認したところ、見事に歩道のプレートを発見。3箇所とも押さえたために、2016年10月に再訪した。



経緯度 北緯39度4分17秒/東経141度42分59秒



仮設商店の駐車場入口歩道上に埋め込まれている

岩手164番
2016/10/16

チリ地震津波襲来地点

対象津波 チリ地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市大船渡町笹崎58-4　建立場所 国道路傍/歩道上
タテ幅 30cm　ヨコ幅 59cm　海　抜 2.5m





国道45号沿いにある、ドラッグストア駐車場入口の歩道上にプレートが埋め込まれている。この場所も津波により潰滅しており、ドラッグストアは復興で再起した店舗。店舗も駐車場も真新しかった。なお、北へ300mほどにあるはずの岩手163番のプレートは、なぜか外されていた。ストリートビューに撮影された後に撤去されている。なぜか？その理由は判らない。



経緯度 北緯39度3分28秒/東経141度43分12秒

岩手163番

163番のプレートが埋め込まれていた痕跡は確認した。歩道の舗装工事の後だが、なぜ元に戻さなかったのかは判らない。



岩手165番
2014/10/01

海嘯溺死者霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年　住所 大船渡市大船渡町下船渡27-1
建立場所 一般道路傍　碑高 158cm　碑幅 97cm　海抜 22m



手元の資料では建立場所「下船渡公園」とある。まずは公園の位置を地図で押さえ現地に向かう。住宅に囲まれた小高い丘全体が公園化されている。よくある住宅街のポケットパークとは異なり、結構な構えの公園である。隅々探し歩いたが石碑は見当たらない。いつも不正確な情報に振り回されているためか、公園「内」とは限らない?!と、思い、外周を探索するとすぐに発見。公園直下の路傍に4基の石碑が建ちその中にあった。推測だが、何らかの理由でここに集積されたような感じがする。でも、なんでこんな道端なのか?と思えるほどの生活道路。この道の利用者はかなり限定された数しかないと思われる。この場所に決めた意味がよく判らない、摩訶不思議な建立場所である。



経緯度 北緯39度2分12秒/東経141度43分5秒



碑文表

明治二十九年
陰暦五月五日

海嘯溺死者霊

施主　念佛講中

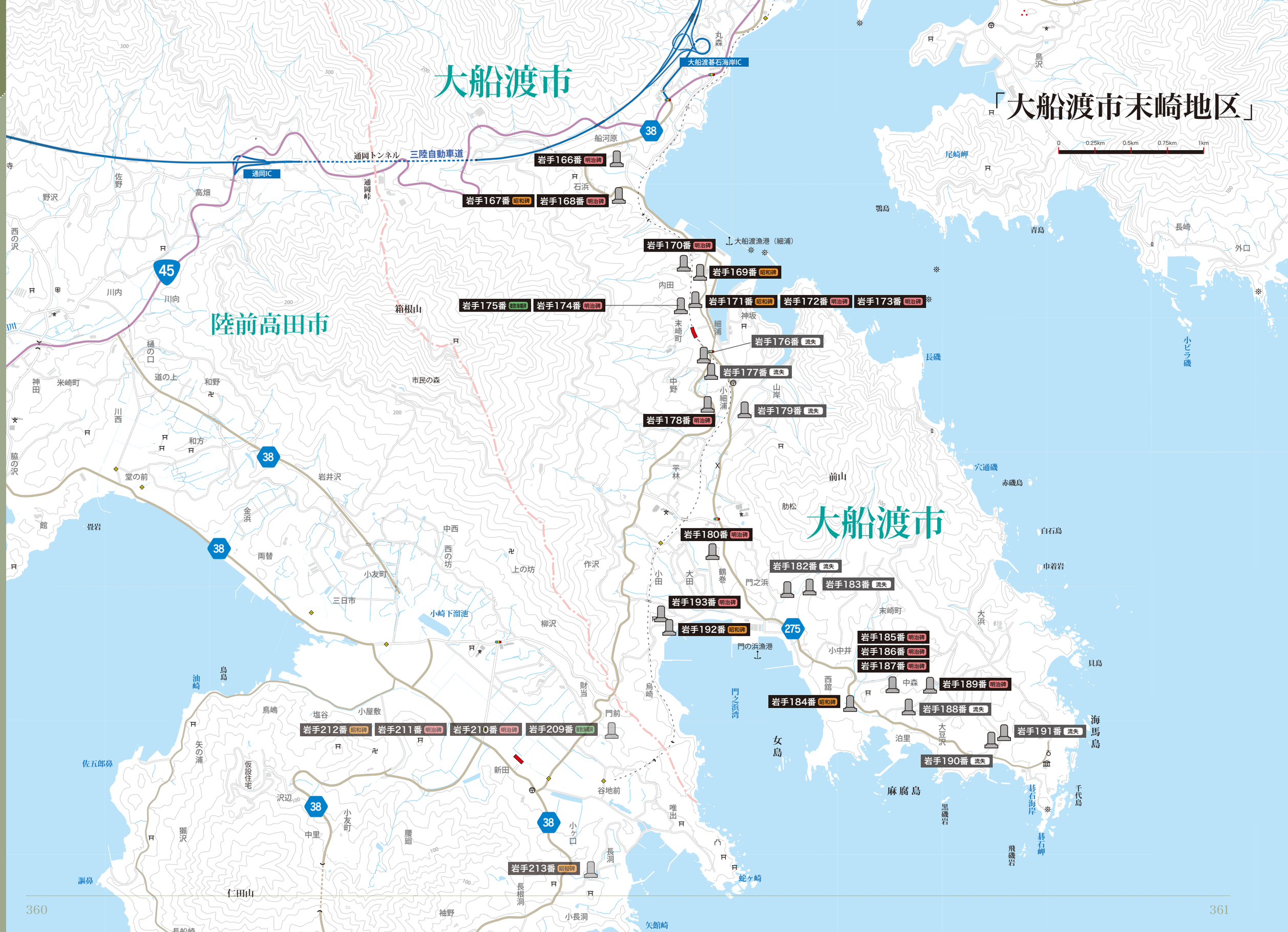
小西とめ
荒井とくゑ
中村ぬく
大和田みさほ
及川やをの

明治三十五年建立

世話方契約中



公園下の生活道路。この先のT字路は国道45号
石碑群の上に下船渡公園がある


「大船渡市末崎地区」

大船渡市
陸前高田市
大船渡市
大船渡碁石海岸IC
通岡IC
通岡トンネル
三陸自動車道
岩手166番 明治碑
岩手167番 昭和碑
岩手168番 明治碑
岩手170番 明治碑
岩手169番 昭和碑
岩手171番 昭和碑
岩手172番 明治碑
岩手173番 明治碑
岩手174番 明治碑
岩手175番 復数海嘯碑
岩手176番 流失
岩手177番 流失
岩手178番 明治碑
岩手179番 流失
岩手180番 明治碑
岩手182番 流失
岩手183番 流失
岩手185番 明治碑
岩手186番 明治碑
岩手187番 明治碑
岩手188番 流失
岩手189番 明治碑
岩手190番 流失
岩手191番 流失
岩手192番 昭和碑
岩手193番 明治碑
岩手184番 昭和碑
岩手185番 明治碑
岩手186番 明治碑
岩手187番 明治碑
岩手188番 流失
岩手189番 明治碑
岩手190番 流失
岩手191番 流失
岩手192番 昭和碑
岩手193番 明治碑
岩手194番 昭和碑
岩手195番 昭和碑
岩手196番 昭和碑
岩手197番 昭和碑
岩手198番 昭和碑
岩手199番 昭和碑
岩手200番 復数海嘯碑
岩手201番 明治碑
岩手202番 昭和碑
岩手203番 昭和碑
岩手204番 復数海嘯碑
岩手205番 復数海嘯碑
岩手206番 復数海嘯碑
岩手207番 復数海嘯碑
岩手208番 復数海嘯碑
岩手209番 復数海嘯碑
岩手210番 明治碑
岩手211番 明治碑
岩手212番 昭和碑
岩手213番 昭和碑
大船渡漁港（細浦）
門の浜漁港
門之浜湾
女島
麻腐島
海馬島
尾崎岬
長磯
穴通磯
赤磯島
白石島
巾着岩
貝島
千代島
碁石海岸
碁石岬
飛磯岩
黒磯岩
蛇ヶ崎
矢館崎
仁田山
佐五郎鼻
油崎
鳥島
鶚島
青島
長崎
外口
小ビラ磯
鳥沢
丸森
船河原
石浜
内田
末崎町
細浦
神坂
中野
小細浦
山岸
平林
前山
肋松
門之浜
小田
大田
鶴巻
末崎町
大浜
小中井
西舘
中森
泊里
大豆沢
門前
谷地前
新田
小ケ口
長洞
長根洞
小長洞
袖野
中里
小友町
腰廻
沢辺
仮設住宅
矢の浦
塩谷
小屋敷
鳥嶋
三日市
小友町
両替
金浜
中西
西の坊
上の坊
作沢
柳沢
財当
岩井沢
堂の前
和方
和野
道の上
樋の口
川西
米崎町
神田
川内
川向
高畑
佐野
野沢
西の沢
脇の沢
畳岩
館
箱根山
市民の森
小崎下溜池
佐野
高畑
通岡峠
38
45
275

岩手166番
2014/10/01

明治二十九年六月海嘯襲来地点

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 大船渡市末崎町船河原3-7　建立場所 一般道路傍
碑 高 90cm　碑 幅 20cm　海 抜 12ｍ　経緯度 北緯39度1分34秒/東経141度42分25秒





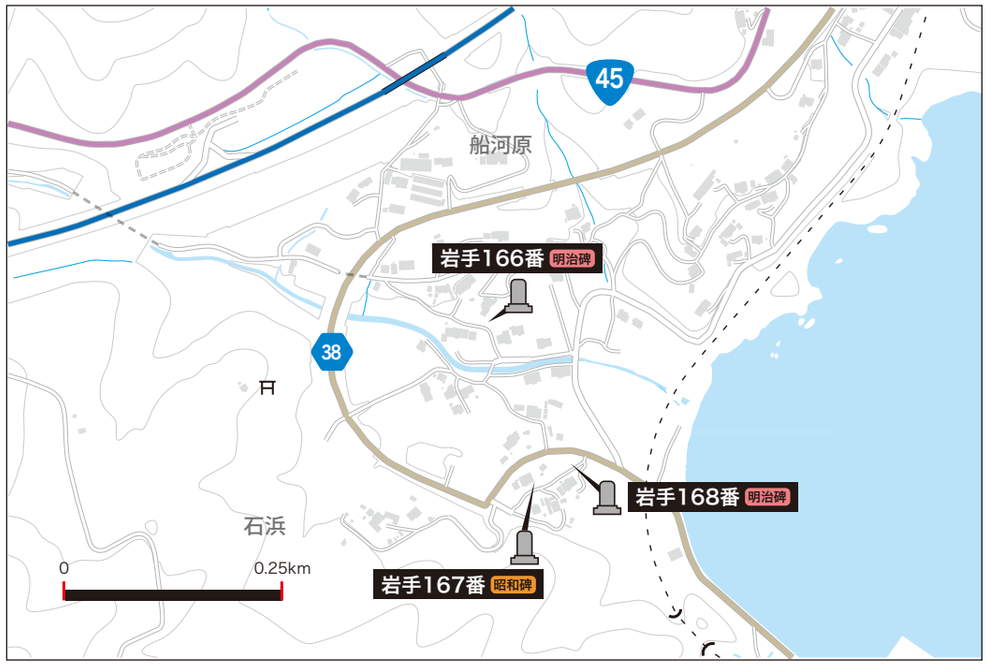
碑文表

明治二十九年六月海嘯襲来地点

大船渡市の末崎半島には数多くの津波碑がある。特に過去この津波が到達した位置を現す石柱タイプが大半を占めている。ここ末崎石浜地区には３基ある。１基は生活道路脇にありすぐに発見できたが、残りの２基には苦労した。参考とした資料の地図が大雑把で、どうみても個人の敷地内のように見え、立ち入りを躊躇していた。ところが、本書を作製中に入手した新資料に詳細な手書き地図があり個人敷地でないことが判明。やっとご対面となった。



この津波碑は、四輪は入ることができない小径路傍にある



岩手168番 昭和八年三月海嘯襲来地点

2016/10/16

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市末崎町石浜14　建立場所 一般道路傍/個人敷地角
碑　高 110cm　碑　幅 24cm　海　抜 7m　経緯度 北緯39度1分28秒/東経141度42分27秒





碑文表

昭和八年三月海嘯襲来地点

岩手167番 明治二十九年六月海嘯襲来地点

2016/10/16

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市末崎町石浜23　建立場所 一般道路傍/個人敷地角
碑　高 120cm　碑　幅 24cm　海　抜 14m　経緯度 北緯39度1分28秒/東経141度42分27秒





碑文表

明治二十九年六月海嘯襲来地点

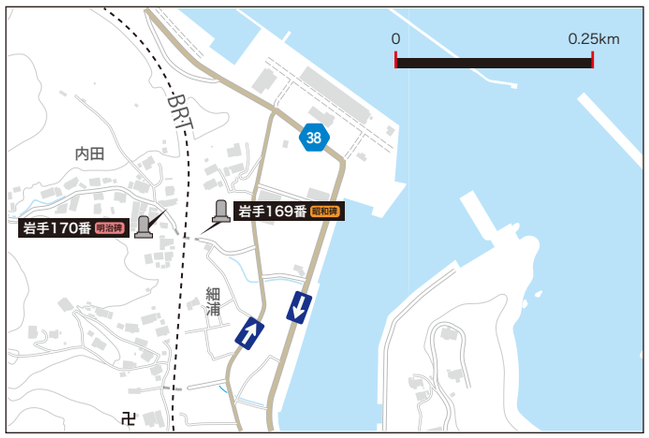
岩手169番
2014/10/01

昭和八年三月海嘯襲来地点

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 大船渡市末崎町峯岸7-8　建立場所 一般道路傍/BRT高架下
碑 高 90cm　碑 幅 24cm　海 抜 7m



昭和津波の到達地点に建つ石柱。廃線となったJR大船渡線の代替交通として稼働しているBRT専用路の高架下にある。東日本大震災の津波は悠に到達しているはずだが、傾きながらも現地にとどまっている。住民の誰だろうか、転倒を食い止めるために支えを入れている。細やかな配慮だが、この気遣いこそが日頃の防災意識を現している。



経緯度 北緯39度1分9秒/東経141度42分48秒

碑文表



昭和八年三月海嘯襲来地点

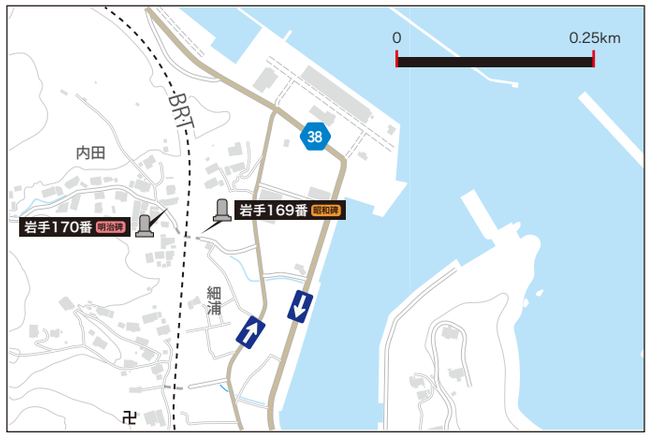
岩手170番
2016/04/05

明治二十九年六月海嘯襲来地点

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 船渡市末崎町内田120　建立場所 一般道路傍
碑　高 96cm　碑　幅 25cm　海　抜 7m



前項の169番碑の上を通る、BRT高架をくぐり抜けて50ｍほどの右手に当該碑が建つ。路傍ではあるが、個人の敷地内となる。なお、東日本大震災の津波は到達していない。おそらくJRの軌道が防波堤の役目を果たしたものと思われる。



経緯度 北緯39度1分10秒/東経141度42分46秒

碑文表

明治二十九年六月海嘯襲来地点



岩手171番 昭和八年三月海嘯襲来地点

2014/04/10

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 大船渡市末崎町細浦150　建立場所 一般道路傍
碑 高 115cm　碑 幅 23cm　海 抜 6m



171番から173番碑は同じ場所に並んで建っていたようだが、東日本大震災の津波により倒壊。172番碑は行方不明となっている。171番碑と173番碑は写真のとおり路傍の石碑群の足元に横たわっていた。おそらく復興作業中に瓦礫の中から発見され、この場所に仮置きしたものと思われる。目の前の空き地は海抜0m。嵩上げをするか巨大防潮堤を建設しなければ住宅地の復活は望めない。2016年再訪の折、一切の工事はされていなかった。この横たわった津波碑も当分このままの状態であろう。



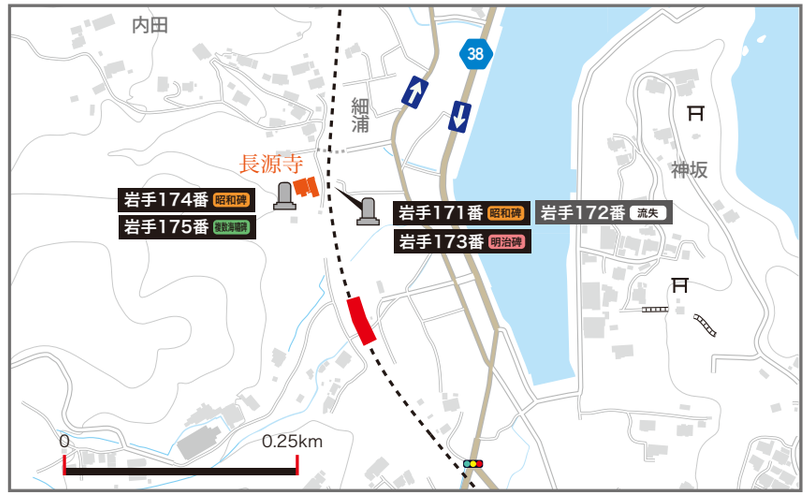
岩手173番 明治二十八年六月海嘯襲来地点

2014/10/01

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 大船渡市末崎町細浦150　建立場所 一般道路傍
碑 高 150cm　碑 幅 25cm　海 抜 6m



クルマの停まっている辺りに建っていたものと思われる



経緯度 北緯39度1分1秒/東経141度42分48秒

岩手174番
2014/04/10

海嘯溺死之霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市末崎町細浦150-1
建立場所 長源寺境内　碑高 175cm　碑幅 70cm　海抜 16m







碑文表

明治二十九年旧五月五日

海嘯溺死之霊

泥舟逸人書
氣仙郡氣仙村
安倍直吉建

碑文裏

佐々木網十郎
本村世話人
滝田栄助
紀室金蔵
佐々木三十郎
牡鹿郡石巻町世話人
佐藤喜八
同郡　同町　湊
小畑昌行拝刻

細浦地区の長源寺には２基の津波碑があるが、昭和10年に建立された大きな石碑は非常に興味深い内容が刻まれている。それは碑の背面に慶長16年の津波から昭和８年の津波まで、９度の津波襲来があったことを伝えている。数ある津波碑の中で９回の津波襲来を記した碑は末崎町にある麟祥寺前の碑と２基のみである。さらに、明治・昭和の津波に関しては、村内28箇所に津波到達地標石を設置したとある。これほど貴重な情報を提供している津波碑は珍しいといえる。

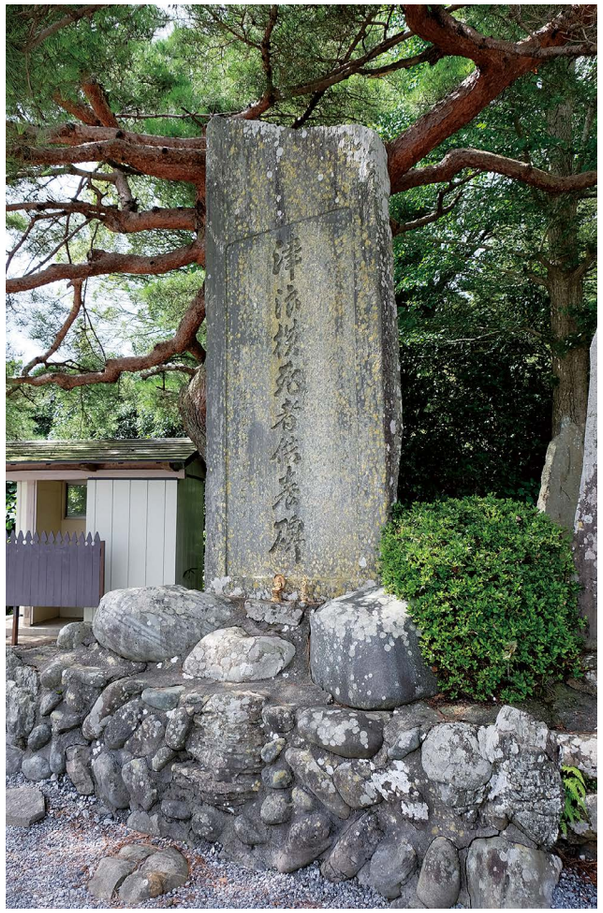


経緯度 北緯39度1分1秒/東経141度42分46秒

岩手175番
2014/04/10

津浪横死者供養碑

対象津波 慶長から昭和の津波　建立月日 昭和10年3月3日　住所 大船渡市末崎町細浦150-1
建立場所 長源寺境内　碑高 175cm　碑幅 174cm　海抜 16m



碑文表

以東京朝日新聞社指定義捐金建之

津浪横死者供養碑

於函麓了荘宮崎五陽書

碑文裏

地震津浪

一、慶長十六年十月二十八日大津浪襲来
一、元和二年七月二十八日大津浪襲来
一、延宝五年三月十二日戌刻ヨリ地震同夜二十数度内戌刻寅刻強震其後昼夜数回ソ、十五日マデ続ク
一、安永三年五月三日大地震地割山崩
一、寛政五年正月七日巳刻大地震雨三度其後毎日数回四日ニ及ブ
一、安政三年七月二十三日四ツ過ギ強震両度直ニ津浪来襲爾後連日強震
一、明治二十九年六月十五日（陰暦五月節句）午後七時五十分海水異様ニ減退同八時七分轟雷ノ響ヲ続ケ大津浪襲来僅カ十八秒ニシテ本村現在戸数三百八十八戸ノ内被害家屋百七十八現在人口二千九百六十五人ノ内死者六百七十余負傷二百余内重傷百六ヲ算ス最大波高八碁石岬乱暴谷断崖上ニ石礫ヲ打上グ
一、明治三十年八月五日（陰暦七月七日）午前十時四十分小津浪来ル被害ナシ
一、昭和八年三月三日午前二時三十三分激震後一時海水著シク減退セリト見ルヤ同三時八分津浪襲来現在戸数五百六十四内流失全潰ヲ合セ百五十六半潰十八浸水二十九死者男二十三女十六負傷男女合セ二十六馬一豚三鶏五十八斃（たおる）ル此ノ災害ノタメ衣食住ノ救護ヲ受ケタル者千九人建物ヲ除ク船舶漁具家財等ノ損害約二十万円ニ昇ル最大波高切通附近満潮面上三十尺
一、明治二十九年昭和八年両度ノ村内津浪襲来地点ハ村内二十八所ニ設置ノ津浪襲来地点標石ニ示ス

此ノ費用ハ東京朝日新聞社指定義捐金ニ依ル

いつかまた襲ふ津浪を忘れすに
海辺低きに住むな村人
於こたるなまたた久襲ふ荒波の
あたを思ひて避くる心を

為後世録之　末崎村長　山本周太郎識

昭和十年三月三日

石巻井内高橋運次郎刻



寺の境内から望む被災地の様子（H16年4月撮影）



岩手178番
2014/10/01

海嘯記念碑

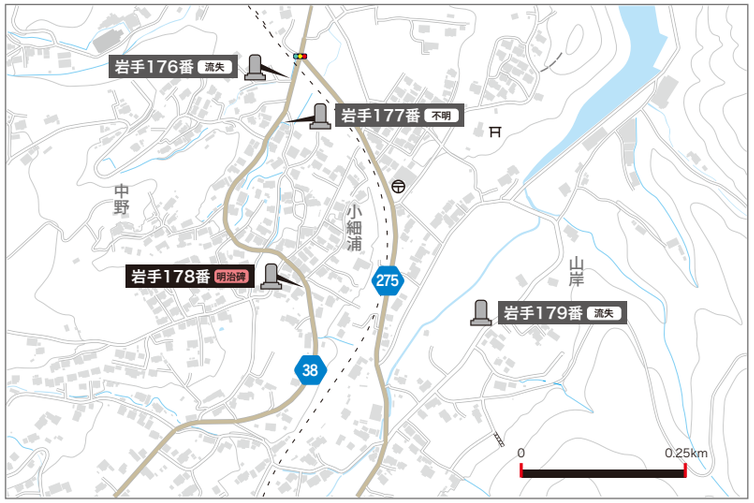
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年6月15日　住所 大船渡市末崎町小細浦42
建立場所 県道路傍　碑高 185cm　碑幅 133cm　海抜 27m







県道の緩やかなカーブの途中に津波碑がポツンと建っている。道幅は狭めで、けっこうな交通量もあり、自由に停車できる場所ではない。クルマで訪れるとやや難儀する場所にある。碑の真向かいに住民が利用する駐車場があり、ここを利用できれば良いのだが、やはり無断利用は避けたい。場所の確定は容易いが、立ち寄りづらいという所もあるものだ。



経緯度 北緯39度0分40秒/東経141度42分54秒

碑文表

海嘯記念碑

ふき出しそのあらなミの
者介しさを
お毛ひ出て毛
可しこおや介ふ　七十二翁美静

【以後長文による海嘯の説明】

明治三十五年六月十五日

陸軍教授　三浦純雄　撰
宮城国学館長　鈴木貞治郎　書

碑文裏

建立関係者の名簿

岩手180番
2014/04/10

明治二十九年六月海嘯襲来地点

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市末崎町鶴巻73−5
建立場所 一般道路傍　碑高 97cm　碑幅 17cm　海抜 13m　経緯度 北緯39度0分7秒/東経141度42分53秒





碑文表



明治二十九年六月海嘯襲来地点

村内28箇所に建てた津波到達地点標石。一般住宅の前に建てられているが、写真をご覧の通り、この住宅は擁壁を造り嵩上げしている。これは津波に対する用心ではないかと思われる。今回の津波も同地まで達しているが、このお宅に被害はないようだった。なお、この津波碑の手前に昭和津波の到達標石があったようだが、かなり以前に消失したとのこと。

岩手192番
2016/10/16

昭和八年三月海嘯襲来地点

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市末崎町高清水124　建立場所 一般道路傍
碑　高 117cm　碑　幅 20cm　海　抜 10m　経緯度 北緯38度59分50秒/東経141度42分38秒



この津波碑は、2016年10月の最終調査で訪れた。2014年4月にも足を運んでいるが、なぜかその時は発見に至らなかった。なぜ見えなかったのか、そもそも、その時はなかったのか今もって不明だが、本誌編集の際に最終確認のつもりで、Googleストリートビューを確認したところ、バッチリと映っており位置を確定できたのである。当日、標石の写真を撮っていると、ご近所のご老人が「津波碑ですか！」と声を掛けてきた。地元の人に認知されているというのは嬉しい限りである。



岩手193番
2014/04/10

明治二十九年六月海嘯襲来地点

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住　所 大船渡市末崎町高清水115　建立場所 個人敷地角
碑　高 120cm　碑　幅 24cm　海　抜 14m　経緯度 北緯38度59分50秒/東経141度42分38秒



この津波碑は、県道から奥まった徒歩道沿いにある。個人宅の石垣を背にしているため、東日本大震災の津波にも耐えた。前項に記載しているが、昭和と明治の津波到達標石は、そのほとんどは明治碑が奥にある。明治の津波がいかに大きかったのか如実に示している。ここも例に洩れずである。



岩手184番
2014/10/08

昭和八年三月海嘯襲来地点

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市末崎町西舘138
建立場所 県道路傍　碑高 107cm　碑幅 25cm　海抜 4m　経緯度 北緯38度59分32秒/東経141度43分37秒



仮設営業の理容院脇に建つ、昭和津波の到達地点標石。今回の津波では、この碑を優に越えてさらに200mほど奥の家屋を流している。当然、このようにちっぽけな石柱など、軽く押し流されているはずだが、心ある人が復元したのだろうと推察される。



碑文表

昭和八年三月海嘯襲来地点



麟祥寺の津波碑３基



麟祥寺を訪れたのは、東日本大震災から３年はほど経っていた頃。碑から見て海側は更地のままだったが、寺と石碑の裏手は何事も無かったかのような佇まいだった。しかし、津波は海抜11ｍにある寺の境内に達しており、津波碑はおろか裏手の住宅も完全に水没している。つまり、裏手の住宅は新築であり、寺の境内は完全に復活しているのである。この頃、復興の速度が遅いと報道されていたが、このように迅速な対応を取っていた所もあったのである。まさに百聞は一見にしかず。マスコミを鵜呑みにせず我が目で見ることは大事と思う。

ここ麟祥寺には３基の津波碑がある。２基は参道階段前に４基の石碑群がありその中に。もう１基は山門を抜けてすぐ左手にある。そこにも４基の板碑があり最も海よりに建っている。とても綺麗な佇まいのお寺で、おそらく津波からの復興により美しく整備されたものと思うが、神社仏閣に傾倒のある人なら訪れ甲斐のある雰囲気を持っている。余談だが、ナビで誘導すると裏手の墓地に着いた。ナビに頼らず弊誌の地図を見て山門前に向かってもらいたい。しっかり広い駐車場を完備している。

岩手185番
2014/11/20

海嘯記念碑



津波碑からは海が見える。以前は建物があり見えなかっただろう

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市末崎町中森29　建立場所 麟祥寺参道前
碑高 200cm　碑幅 93cm　海抜 5ｍ　経緯度 北緯38度59分34秒/東経141度43分46秒

碑文表

海嘯記念碑

恐ろしき大海嘯の我が三陸の海岸を襲いしは、明治二十九年六月十五日旧暦五月五日の午後八時頃なりき。この日、終日曇天、午後は殊に濃霧深く小雨さえ混じり、夜は月なく陰闇の気物凄き程なり。折しも、遠雷の響きに連れて怒濤澎湃すわと言う間も何らせず、万雷地軸を挫いて我が村は数十尺の高波に侵されたり。この日はあたかも端午の節句かつ田植えの頃とて他へ嫁いでいる物も帰り、一家皆打ち揃う天あり。この危急の災難誰かは免れるべき、親は子を、夫は妻を助くる間なく相率いて失いぬ。波はわずかに五分ばかりにて退けば、樹は抜かれ家は流され、満目惨憺、後数日海底に沈みし死骸累々として現る。既に腐敗して性別のつかぬもあり、見知らぬ他村のものあり、流失して影さえ留めぬもあり、かくて数うれば我が泊里の分、溺死二百六十一、各流失家屋五十七戸なり。ああ痛ましくも恐ろしいかな。天朝にてはこれを聞き召され、侍従東園基愛を遣わされ、各県にては皆義援して救□せられき。已当時年二十六、幸いにもこの厄を免れたれば、一つは精霊供養のため、一つはこの惨状を後に伝えんため、かくは石碑を建つるになむ。

陸軍教授　竹林貫一　撰
山下金蔵　書
建碑者　熊谷與惣右衛門

岩手186番
2014/11/20

明治丙申海嘯溺死　弔魂碑



対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和３年６月　住　所 大船渡市末崎町中森29　建立場所 麟祥寺境内
碑　高 150cm　碑　幅 75cm　海　抜 11ｍ　経緯度 北緯38度59分34秒/東経141度43分46秒

碑文表

明治丙申
海嘯溺死

弔魂碑

末崎校溺死生徒七十二名

昭和三年六月丁卅三回忌
末崎少年赤十字團建之

碑文裏

石材　寄附者　熊谷与惣右工門
石工　盛町　古澤　清



明治の海嘯で亡くなった学生の慰霊碑であるが、なんと一校で72名が亡くなっている。これは東日本大震災での石巻市大川小学校の被害と同程度である。やはり子供達が被災するというのは居た堪れないものだ。手を併せて寺を後にした。

岩手187番
2014/11/20

津浪横死者慰霊塔



対象津波 慶長～昭和までの津波　建立月日 昭和10年３月　建立場所 麟祥寺参道前
碑　高 157cm　碑　幅 106cm　海　抜 5ｍ　経緯度 北緯38度59分34秒/東経141度43分46秒

碑文表

以東京朝日新聞社指定義捐金立之

津浪横死者慰霊塔

宮崎　五隔香炷善之

細浦にある長源寺の碑文と同じ内容の記載で、慶長年間から昭和三陸津波まで10回の海嘯について記載がある。碑文は左側面から裏面へと刻まれるが、花崗岩を使ったため非常に読み取りにくい。右側面には詩と建立時期と建立者名が刻まれる。建立者と時期は同じだが、形状がまったく異なる点が興味深い。



山門の柱には津波の到達水位を示すプレートが取り付けられている。この高さまで浸水したにも関わらず、山門や本堂が無事だったとは不幸中の幸いとしかいえないだろう。

麟祥寺

津波碑３基が建つ非常に立派かつ美しいお寺。東日本大震災では本堂まで津波が押し寄せているが山門の倒壊もなく、現在では何事もなかったかのように復興している。





山門から海を望むと、ほぼすべての建物が消え海面が目に映る

岩手189番
2014/10/08

明治二十九年六月海嘯襲来地

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 大船渡市末崎町中森49
建立場所 個人敷地内　碑高 96cm　碑幅 24cm　海抜 12m



個人の敷地入口に補強された津波到達標石がある。補強されたモルタルが真新しいところを見ると、今回の震災後に修復されたのだろうか。だが、奥に建つ建物は津波被害を受けた様子はないため、真偽はわからないが、いずれにしても津波は大きく越境していないようだった。今回の同じ到達位置だったのか。なお、手前にあった188番碑は流失している。



経緯度 北緯38度59分35秒/東経141度43分55秒



碑文表

明治二十九年六月海嘯襲来地

「陸前高田市広田地区」



0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

華蔵寺の津波碑４基

住　所　陸前高田市小友町門前21
建立場所　華蔵寺参道　海　抜　20ｍ



国指定天然記念物の「宝珠松」があることで知られる華蔵寺には、４基の津波碑が参道に建ち並ぶ。ほかの石碑と共に見事に一直線に置かれている。元は別の場所にあったものを、寺周辺の外構工事のために移設したとのこと。この寺は海抜20ｍあり、東日本大震災では津波の襲来はなかったが、眼下の耕作地は東西から津波が浸水し海峡が出没してしまった。そのため広田半島は南北に寸断され孤立。この寺はその一部始終を見ていた。なお、本堂前には東日本大震災の慰霊碑も建立されている。



経緯度　北緯38度59分25秒/東経141度42分24秒

岩手209番
2014/04/10

没溺供養塔

対象津波　不明　建立月日　不明　碑　高　133cm　碑　幅　43cm





碑文表

没溺供養塔

この石碑は、津波碑一覧の資料に掲載されていたが、弘化四年の大時化で遭難した漁師を弔う碑ということで津波碑ではない

碑文右側面

弘化四年暮夏十八日

長十良
佐む

具の
乃ゑ
千代
志め
志よ
者満
とめ
こま
ふよ

■■
ふく
志も
なつ
その
者る
まん
ふき

岩手210番
2014/04/10

海嘯溺死供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年　碑高 111cm　碑幅 65cm





碑文裏

明治三十一年了大祥忌辰　建之

發願主
戸羽シナ
及川セン
佐々木ハん
戸羽ヨシノ
村上ハナ

世話人
佐々木松五郎
戸羽千代松

碑文表

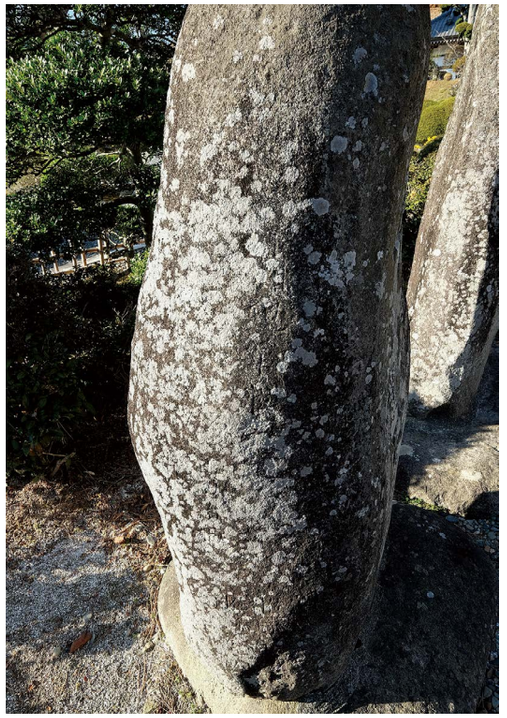
海嘯溺死供養塔

岩手211番
2014/04/10

弔 海嘯 赤痢 亡霊

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治33年3月3日　碑高 150cm　碑幅 72cm





碑文表

弔
海嘯
赤痢
亡霊

門前念仏講中
明治三十三年三月三日

発願
村上コリン　佐藤シメノ　青山マツノ
青山ウエノ　村上ヤス　佐藤ミヨミ
村上チ子ヨ　仝　ソノ　及川ワキ
佐藤リン　村身ヨシノ　佐藤ハル

碑文左側面

開眼　現華蔵寺　菴　石工　山田治助

碑文右側面

世話人　佐藤善治　補　金沢■■
村上寅治　落合コウ
青山千蔵　助　■■■■

岩手212番
2014/04/10

弔海嘯溺死霊

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　碑 高 180cm　碑 幅 95cm



碑文表

弔海嘯溺死霊

昭和八年三月三日旧二月八日

只出部落

番外
2014/04/10

東日本震災慰霊碑



国指定天然記念物「宝珠松」



岩手213番
2014/01/10

津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住 所 陸前高田市広田町長洞104
建立場所 一般道路傍　碑 高 183cm　碑 幅 24cm　海 抜 10ｍ







津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
昭和九年三月三日建之

地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ

低いところに住家を建てるな

個人の敷地の隅に角柱の石碑がポツンと突っ立っている。まさに突っ立っているというのは、周囲は空き地となり、石柱のみが建ち異様な雰囲気だからである。敷地の主の家屋は無く、その眼前にある海岸までは何も遮るものは建っていない。この石柱だけが難を逃れるはずはなく、誰かが流された碑を見つけ復元したものと思う。四面には一言ずつ災害標語が刻まれているが、おそらくこの位置は過去の津波到達ラインも示しているのではないかと思う。今後は、この碑から低地に家屋を建ててはならないのだが、果たして如何と相なるだろうか。



経緯度 北緯38度58分57秒/東経141度42分21秒

岩手214番
2014/01/10

津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 陸前高田市広田町後花貝
建立場所 県道路傍　碑高 214cm　碑幅 24cm　海抜 14ｍ







津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
昭和九年三月三日建之

地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ

低いところに住家を建てるな

昭和津波の翌年に、当時の広田村が同型の津波碑を村内各所に建てたその１基。前項の213番碑とまったく同じ文言が刻まれている。花崗岩で作られた石柱は、昭和９年製とは思えないしっかりしたもので、風化や劣化は見られず文字もクッキリと読み取れる。あと100年は大丈夫そうである。周囲の様子を観察すると、建物に被害は見受けられないが、フェンスの破損しているところがある。家屋が流されるほどではないものの、浸水はあったようで、やはりこの建ち位置も過去の津波到達ラインではないかと推察できる。碑の眼下には巨大な防潮堤を建設中だったが、完成しても安心せず、碑文の教えを守ったほうが無難と思われる。





経緯度 北緯38度58分16秒/東経141度41分41秒

岩手215番
2014/04/10

津浪記念碑

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住　所 前高田市広田町大久保
建立場所 県道路傍　碑　高 260cm　碑　幅 120cm　海　抜 16ｍ







海抜20ｍの高台に建つ広田小学校。県道から校庭へ登る斜路の脇、土手に埋没するように津波碑が建っている。目の前は交通量のある狭い県道で、立ち止まって読むにも、ちょっと危険な場所にある。小学生に見てもらうには最適とは言い難い。まぁ、小学生にはまだ読めない漢字は多々あるが。航空写真で確認すると、大野湾から押し寄せた津波は石碑の直前まで到達していると思われる。この碑も過去の津波のデットラインを示すのだろうか。ただ、不思議なのが腰まで斜面に埋まっているこの状態である。これでは背面の文字は半分読めない。想像だが、後から小学校を盛土して建てたのではないだろうか。そのために、盛土の斜面にこのような状態で取り残されたのかもしれないが、筆者であれば迷わず校庭に移設するだろう。なお、この碑の50mほど先にある信号交差点脇には、東日本大震災の津波碑が建立されているので、併せて立ち寄ってもらいたい。



経緯度 北緯38度57分53秒/東経141度41分45秒

碑文裏

幾度と繰り返される津浪の惨
害より脱れむるため、東京朝日新
聞全国読者の御同情義援金の
内で寄託者の要望により本碑
を建設す

昭和九年三月　建之　廣田村
外村内七箇所ニ建

碑文表

津浪記念碑

一、大地震の後には津浪が来るよ
一、地震があった高所へ集まれ
一、津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
一、低いところに住家を建てるな

明治二九年六月十五日午后八時襲来　死亡者全村五五二名
流失戸数同一五七戸

昭和八年三月三日午前三時襲来　死亡者全村四五名
流失戸数同一二五戸

石巻市石井敬三郎刻

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

岩手221番
2014/01/10

津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 陸前高田市広田町泊
建立場所 県道路傍の階段脇　碑高 210cm　碑幅 24cm　海抜 13ｍ







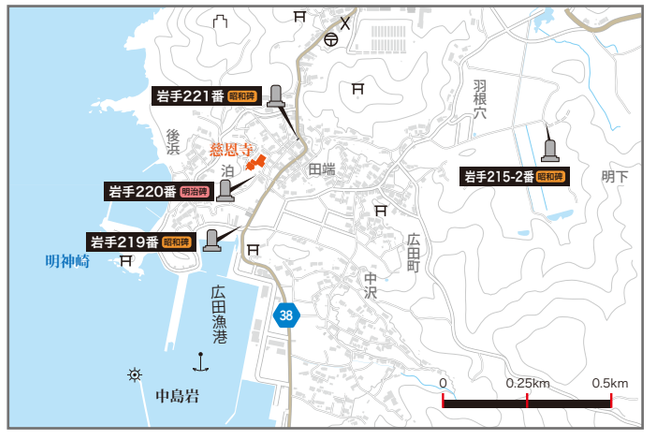
津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
昭和九年三月三日建之

地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ

低いところに住家を建てるな

旧広田村が村内各所に建てた、標語が刻まれた四角柱型の津波碑。事前の準備で県道路傍にあることは判っていたが、いざ現地を走るとまったく発見できない。その日はバイクでの訪問だったが、バイクですら路駐するには忍びないほどの激狭県道で、まずは一旦諦め近くの寺院での津波碑確認後、徒歩で当地に向かう。するとありましたよ、県道に上る石段の途中に。これでは車道から発見できるはずがない。徒歩で攻めてみようという判断は功を奏した。なぜこんな中途半端な場所に、と疑問に感じたが、やはりここも過去の津波到達ラインなのではないか。幸いにも東日本大震災の津波は到達していないが、この碑の下は住宅が密集している。今回は運がよかったと考えるべきだろうか。



経緯度 北緯38度57分34秒/東経141度41分36秒

背面は垣根で見ることができないが、碑文は他の碑と同じ

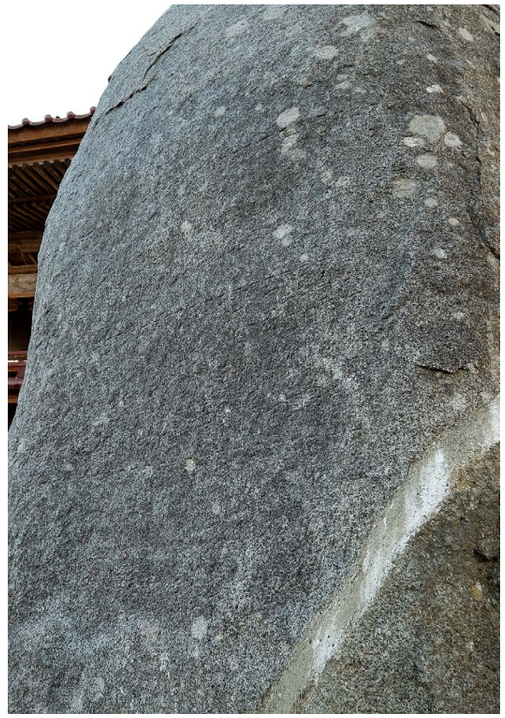
岩手220番
2015/08/16

海嘯　招霊碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治31年8月　住所 陸前高田市広田町泊77
建立場所 慈恩寺山門脇　碑高 245cm　碑幅 104cm　海抜 8m



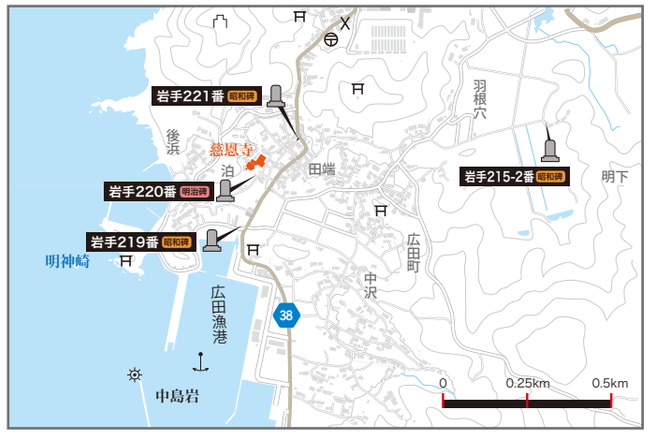




慈恩寺に初めて足を運んだときは、津波襲来より３年後だったが、山門周辺の石碑はすべて流されており、当該津波碑も下部が割れ、駐車場の隅に横たわっていた。住職に復元の予定を尋ねたところ、クレーンが手配できずに目処が立っていないとのことだった。各地の復興工事が途についたばかりの頃で、致し方ない状況だった。それから１年４ヶ月、再訪してみればほかの石碑たちと共に無事修復されていたが、モルタルで継ぎ合わせた根元の割れは痛々しかった。しかし、これも時が経てば平成大津波の証人と呼ばれるのだろう。



当初訪れたときの様子



経緯度 北緯38度57分31秒/東経141度41分31秒

碑文表

嘯海
招霊碑

明治三十一年巳戌仲秋八月彼岸日

碑文裏

維明治二十九年歳次丙申にあり五月■五日の海嘯は実■■■今古未曽有の一大変災というべきなり。その日煙雨あり、海面■々として一陣の風なきに、後八時の頃■俄然海中に鳴動を起す■■滔天の怒濤、瞬息の間に無数の生霊をその渦中に捲き去る。父母妻子たちまちにして生■と別■■の百有余人、田園家屋たちまちにして破清流失せしの四十有余名、ああ■■■■遭難者何因縁を此悲■■は其魂を托するに由なく、存者は其■安す■■所■■人生寧ろこの如きの惨事あらんや。つとに思ひしに哭し■々寤■に忘■■■■■■■■■■今■■■■■は亡者三周の忌景に過う吊の痕に■■同感の諸費浄財を蒐集し、一碑を建立す。一は幽冥■■■し、一は後代の紀念として設立するものなり。

岩手219番
2015/08/16

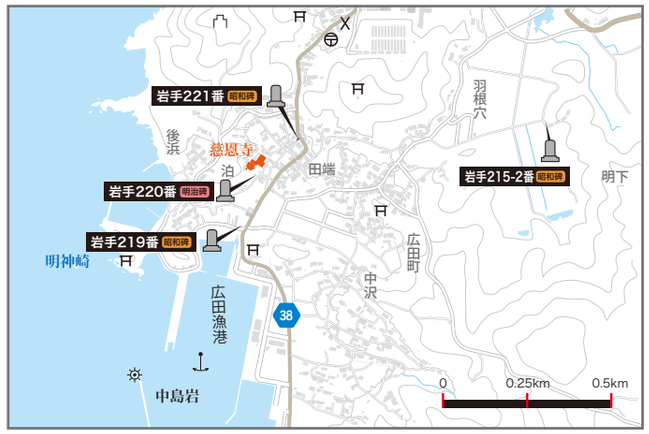
佐佐木大三郎翁頌徳碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和27年11月20日　住所 陸前高田市広田町泊103−4
建立場所 県道路傍　碑高 196cm　碑幅 90cm　海抜 2m





広田漁港前にある漁業協同組合敷地にある石碑。漁港の整備発展、津波被害の復興に尽力した人物の顕彰碑である。しかし、海抜２mという低地でもあり、津波を正面から受ける形となり、根元の基礎ごと押し流されている。おそらくこの場所にとどまったのではなく、後方へ流されたと思われるが、元の場所まで運ばれ角材を枕に寝かされた状態となっていた。それが2014年4月10日だった。それから1年4ヶ月後に再訪したのが上の写真。隣接のガソリンスタンドはきれいに復興されていたが、顕彰碑は手付かずだった。



経緯度 北緯38度57分26秒/東経141度41分29秒

碑文裏

広田港改修関係者の氏名が記載される

碑文表

佐佐木大三郎翁頌徳碑

【氏に関する長い説明があり、中程に左記の記述あり】

〜昭和八年三月三日三陸大海嘯の惨禍悽惨を極め、村民疲弊困憊、その極にある時推されて村長となり。これが復興に身を挺す〜

昭和二十七年十一月二十日　広田町長　熊谷喜一郎　撰文

岩手215-2番
2016/04/05

招魂供養塔

対象津波 対象津波　建立月日 明治三陸地震津波　住所 陸前高田市広田町明下
建立場所 明下共同墓地入口　碑高 223cm　碑幅 90cm　海抜 5m





この津波碑は、東北整備局の資料には未掲載で、上西氏の資料に記載があったもの。しかし、氏の資料には正確な地図がないために、なかなか辿り着くことができなかった。最終的にはgoogle mapの航空画像から捻り出した次第。実に2年の時がかかってしまった。訪問の際、周辺は圃場の工事中で一般車両の立ち入りが禁止。ただし、墓地の下にあるため、墓参者は立ち入り可能だった。ただ、バイクで訪れた筆者は、工事中の仮設道路が不安定だったため、300mほど徒歩で現地に立った。難儀して出逢った碑というものは格別の感慨を得るものだった。



経緯度 北緯38度57分36秒/東経141度42分6秒

碑文表

招魂供養塔

明治二十九年旧五月五日海嘯
各遭難死亡者建立之者也

光明遍照
十方世界
念佛衆生
摂取不捨

岩手216番
2014/01/10

津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住 所 陸前高田市広田町根岸
建立場所 県道路傍　碑 高 196cm　碑 幅 24cm　海 抜 18ｍ



旧広田村が村内に建てた四角柱型の津波碑。現在は営業をしていない木村酒店の角にある。ここも過去の津波到達ラインではないかと推察する。東日本大震災では家屋が流されるほどの被害は出ていない。



経緯度 北緯38度56分47秒/東経141度42分19秒





津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
昭和九年三月三日建之

地震があったら津浪の用心

それ津浪機敏に高所へ

低いところに住家を建てるな

岩手217番
2014/04/10

海嘯溺死霊供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年2月　住所 陸前高田市広田町根岬128　建立場所 鶴樹神社境内
碑高 127cm　碑幅 50cm　海抜 18m　経緯度 北緯38度56分45秒/東経141度42分23秒



根岬地区の海を見下ろす小高い丘の上に小さな社がある。鶴樹(つるぎ)神社である。眼下には地区の漁港が一望できる。海上の安全を願う神社であろうか、ここに海嘯慰霊碑を建てるのは至極当然の地であると感じる。また、丘の下は耕作地となっているが、航空写真を見ると元は住宅地だったのではないか。宅地特有の区割りが見てとれるからである。過去の津波の後、低地には家屋を建てず畑として利用してきたのだろう。





碑文表



海嘯溺死霊供養塔

碑文右側面

明治三十年二月彼岸日建之

発起者
鈴木ふく
高橋よし
松本とち
はらの里
ちの里



神社より海を望む

岩手220-2番
2016/10/16

つなみ溺死紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 陸前高田市広田町大陽里107-2
建立場所 一般道路傍/旧公民館跡地　碑高 187cm　碑幅 125cm　海抜 11ｍ





碑文表

みなつ
溺死紀念碑
明治二十九年旧五月五日
当所有志者敬建

この津波碑は、東北整備局のリストに記載がない。上西氏の資料に掲載されており、現地に２度足を運んだが発見することができなかった。資料には「公民館敷地脇」と記載があり、太陽地区公民館の隅々を探したが無かったのである。2016年冬に、ひょんなことから筆者が地元テレビに出演し、津波碑の本を製作していることを話した。ある日、これを観た視聴者が来店。ここ太陽地区の住民であった。当該碑が見つからない旨を話したところ、正確な場所を教えてくれたのである。テレビに出なければ、住民の方が来なければ、偶然が重なり出逢うことができた奇跡の津波碑である。ちなみに太陽地区の公民館は、50ｍほど離れた所に移動していたため見つからなかったのであった。

岩手220-3番
2016/10/16

津浪と聞いたら欲捨て逃げろ

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 陸前高田市広田町大陽里107-2
建立場所 一般道路傍/旧公民館跡地　碑高 187cm　碑幅 125cm　海抜 11m

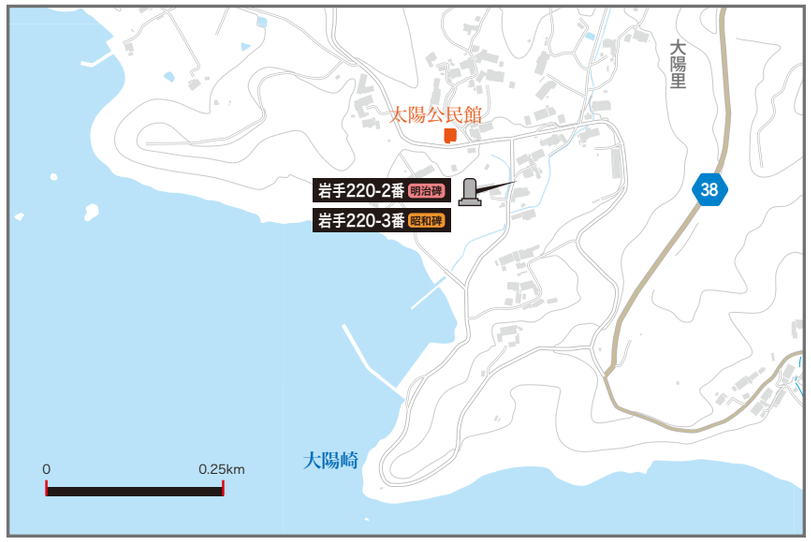






低いところに住家を建てるな
それ津浪機敏に高所へ
津浪と聞いたら欲捨て逃げろ
昭和九年三月三日建之
地震があったら津浪の用心

前項の明治津波碑と同じ場所に、広田村が建てた四角柱の津波碑がある。東北整備局のリストにも上西氏の資料にも掲載がない。上西氏が明治の津波碑を取材したにもかかわらず、これを見落とすはずがない。おそらく最近この場所に移設したのではないかと思われる。



経緯度 北緯38度58分23秒/東経141度40分43秒


陸前高田市
広田湾
道の駅陸前高田(震災遺構)
一本松茶屋
徒歩で900 m
奇跡の一本松
岩手222番 流失
岩手223番 昭和碑
気仙川
川原川
小泉川
浜田川
姉歯橋
気仙大橋
長部川
恵比寿鼻
長部漁港
籬島
白浜崎
鵜島
野島
米ヶ崎
畳岩
佐五郎鼻
340
141
45
38
229
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

「陸前高田市街地周辺」

岩手223番
2015/08/16

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月　住 所 前高田市気仙町湊200
建立場所 一般道路傍　碑 高 296cm　碑 幅 130cm　海 抜 4ｍ



長部漁港のやや手前、小高い丘の裾に、高さ１ｍほどのコンクリート製の構築物がある。これは第二防波堤である。この背の低い防波堤の脇に、投げ捨てられたかのように津波碑が横たわっていた。ここは２度訪れている。１度目は建立場所にて転倒していたが、２度目の時はなぜかこの場所に移動されていた。元の場所で山肌崩落防止工事が施工されていたため、工事の邪魔になったためと思われるが、完了後は元に戻すべきだろうし、工事関係者なら機材があるのだから、復元しても良さそうなものだ。筆者が現場監督ならそれくらいのサービスはするだろう。まったくもって情けない状態に腹が立つ思いである。





経緯度 北緯38度59分29秒/東経141度37分9秒



碑文表

碑は表を下にして転倒していたため判読できず、左記の碑文は、資料を転記した

碑念記浪津

一、不時の津浪に不断の用心
一、地震の後どんと鳴ったら津浪と思へ
一、地震の後潮が退いたら警鐘を打て
一、津浪來たなら直ぐ逃げろ
一、金品より生命

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十分、地震うこと約三分、続いて海に爆音あり、後三十分ばかりにして激浪狂波地を巻いて来たり。本港部落またほとんど全滅の災に罹り、倒潰家屋五十四戸、死者三十二名、傷者二十名に及び、死体旁午、梁棟狼籍、風ために咽び、気ために生臭し。而して災後生存民はなおその地を去らず。明治二十九年の這般災厄、当時における波浪の状況に鑑み、工費二万数千円を投じ、五千五百坪の地区新に土を盛ること高さ約九尺、東南端に石堤を築き、その南側一帯を緩衝地に充て、もって綢繆の計をなし、もって安住の地を定む。ここにこの碑は東京朝日新聞社の募集配贈に係る義援金をもって建設したるものにして、要は這般の難を記念し、併せてそのよる所を後人に諺けんがためなり。

昭和九年三月

氣仙町長　河野俊覚　撰并書

奇跡の一本松

すでに報道でご存知の一本松。100万本あったといわれる高田の松原で、津浪から唯一生き残った松を、人工的に保存処置を行い、ポケットパークとして復元している。車両で訪れた場合、近くのパーキングに停め900m歩く必要がある。往復1.8kmになるため、時間に余裕を持って訪れたい。







道の駅震災遺構

国道沿いにあった「道の駅高田松原」は、津波の直撃を受け大破したものの、建物を解体することなく当時のまま保存公開する、震災遺構となっている。敷地内には小振りな資料館と追悼施設がある。



▲震災遺構「道の駅タピック45」



◀東日本大震災追悼施設

▼復興まちづくり情報館

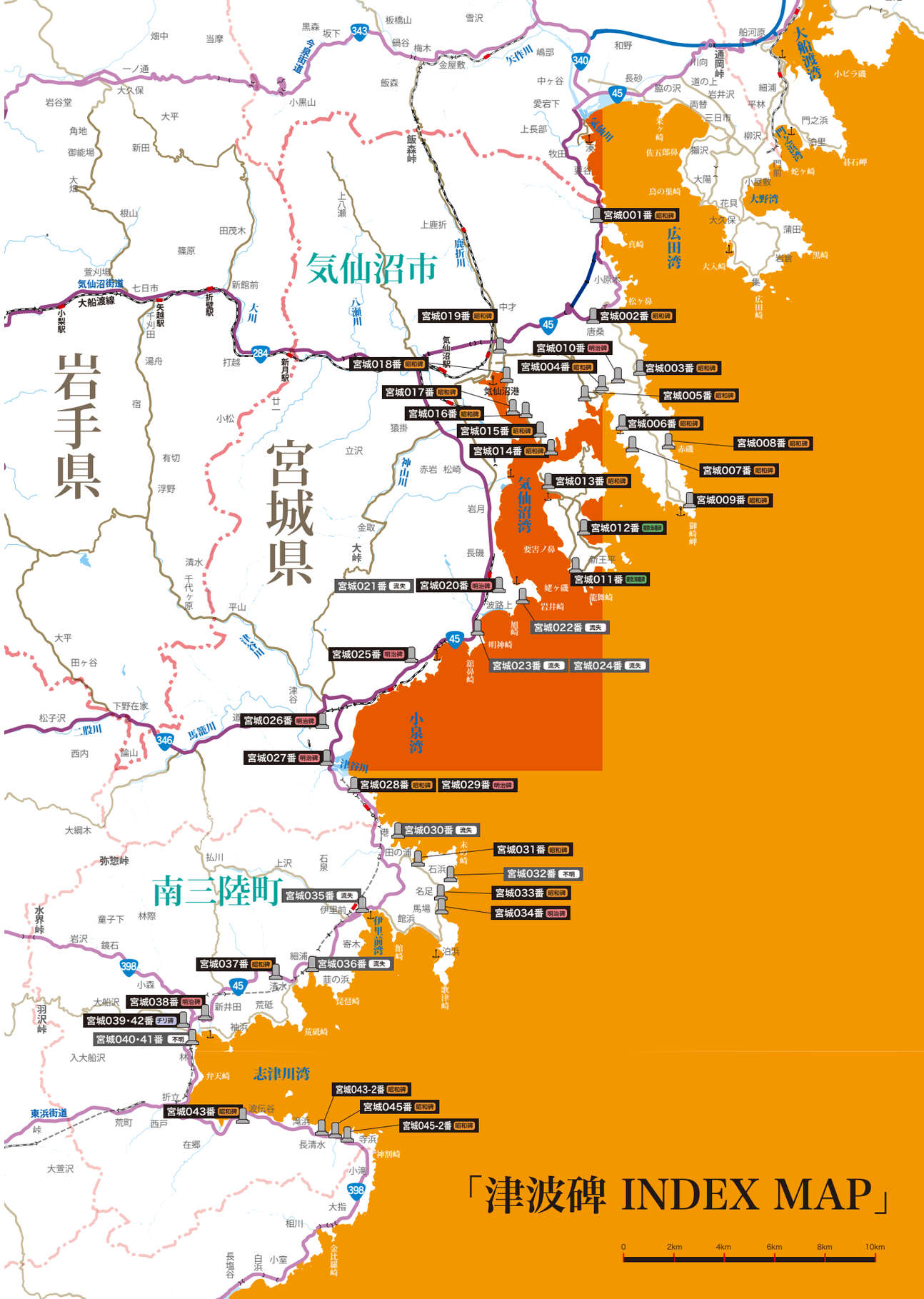


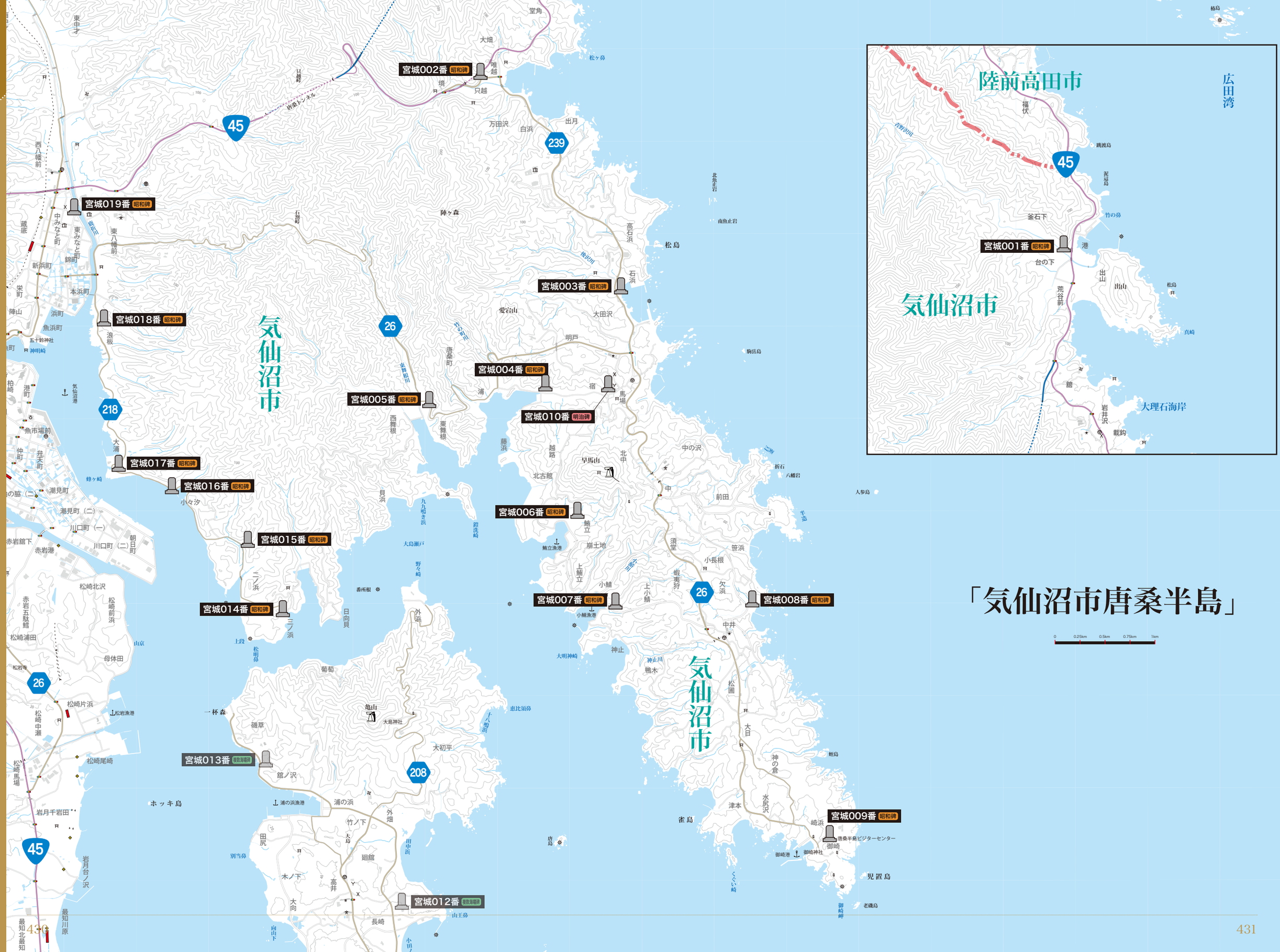


宮城県

気仙沼市・南三陸町

調査対象津波碑	41基
現存碑	30基
流失碑	7基
不明碑	4基
未確認碑	0基




陸前高田市
広田湾
気仙沼市
大理石海岸
宮城001番 昭和碑
宮城002番 昭和碑
宮城003番 昭和碑
宮城004番 昭和碑
宮城005番 昭和碑
宮城006番 昭和碑
宮城007番 昭和碑
宮城008番 昭和碑
宮城009番 昭和碑
宮城010番 明治碑
宮城012番 明治碑
宮城013番 明治碑
宮城014番 昭和碑
宮城015番 昭和碑
宮城016番 昭和碑
宮城017番 昭和碑
宮城018番 昭和碑
宮城019番 昭和碑
気仙沼市
45
26
218
239
208
松島
唐桑半島ビジターセンター

「気仙沼市唐桑半島」

宮城001番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町竹の袖９
建立場所 賀茂神社境内　碑高 120cm　碑幅 90cm　海抜 3m







碑文表

昭和八年三月三日
大震嘯災記念

地震があったら
津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

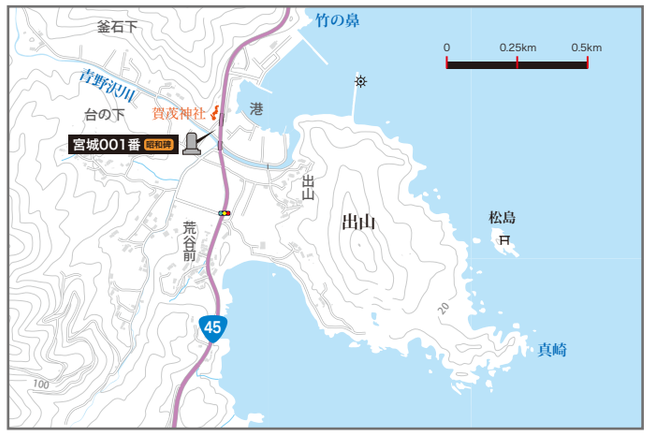
此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

大澤　災害状況
溺死者　五人
住宅流失　十六戸
住宅全潰　四戸
住宅浸水　十五戸
動力附漁船流失破損　二艘
無動力漁船流失破損　四十二艘
馬斃死　二頭

唐桑村

岩手県境にほど近い賀茂神社境内に、宮城県第１番目の津波碑がある。写真を見ての通り、東日本大震災の津波により上部が破損して足元に落ちたままとなっている。その破損は今回の津波によるのもではなく、チリ津波の時ではないかと思われる。割れた頭部を金物で補強していたのだが、真っ直ぐだった補強金物は無残に変形しており、津波の凄まじさを物語っている。しかも破損ばかりではない。基礎部分から丸ごとえぐられ全体が傾いている。国道45号沿いのために、いつもこの場所を通る度に眺めているが、修復のつもりはないらしく、今でもこのような痛ましい状態である。

なお、この竹の袖地区は、海へ突き出た出山と、陸地の狭間にある低地で、津波があれば一帯が水没する地勢である。そのため過去の津波で大きな被害が出ており、高地移転が進んでいたが、東日本大震災では津波が川を遡上し、移転した集落も呑み込んでいる。



経緯度 北緯38度57分44秒/東経141度37分52秒

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城002番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町上川原1-5
建立場所 県道路傍　碑高 203cm　碑幅 93cm　海抜 9m







昭和海嘯の被害状況を記すこの津波碑は、碑銘・碑文と造りがまったく同じものが、旧唐桑村内に9基建立されている。前項の宮城001番碑もその1基である。今回の調査では全基を確認することができた。しかし、全基無事だったとはいえ津波が襲来していなかったのは2基だけで、残りはすべて津波の直撃を受けている。この碑もそのひとつで、周囲には助かった家屋は無い。しかし、石碑が修復された痕跡は認められず、津波に耐えたものと思われる。単に造りが頑丈だったのか、なにか神がかり的なモノがあったのかは定かではない。想像すれば、背後に斜面がある場合、押し波に耐えられれば、引き波の際に瓦礫に引きずられない。助かったのはそうしたことかもしれない。



経緯度 北緯38度55分50秒/東経141度37分53秒

碑文表

昭和八年三月三日
大震嘯災記念

地震があったら
津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

只越　災害状況
溺死者　二十三人
住宅流失　三十三戸
住宅全潰　四戸
住宅半流半潰　二戸
住宅浸水　七戸
動力附漁船流失破損　十一艘
無動力漁船流失破損　五十四艘
馬斃死　二頭

唐桑村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城003番
2014/10/08

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町明戸187向かい
建立場所 県道路傍　碑高 215cm　碑幅 92cm　海抜 17m



この津波碑には苦労させられた。東北整備局の資料には「砂子浜、県道脇」としか記載がない。そこでまずは砂子浜の探索から始めるが、地図上に砂子浜の記載が無い。ただ、「砂子」の地名はあるため隣接の浜の呼称であろうと推論。現地に足を運ぶも、一向に石碑は見つからない。県道を何度も往復し、幾つかの漁港まで降りるも無し。一旦諦め、自宅でGoogleMapのストリートビューで探すも無し。唐桑半島には５～６回足を運んでおり、その都度探すが見当たらない。しかし、ある日のこと、何気にGoogleMapのストリートビューを眺めていると、県道直傍ではなく、さらに一段高くなっている土手の上に黒い影を発見！Mapでも現地でもず～～っと道路脇ばかり見ており、路面から２ｍほどの高い場所へは意識がなかった。しかも薮の陰に紛れていたために見落としていたようだ。自分の観察眼の低くさにガッカリしたが、まずは見つかり安堵した。



経緯度 北緯38度54分37秒/東経141度38分52秒



この津波碑は、現在このように道路から目視できる状態だが、以前は深い藪の中だった。神戸の上西氏が調査の際に、近くの民宿にせっかくの津波碑が藪で見えないと話したところ、民宿のご主人が市役所に相談し、このように周囲の刈り払いを行うようになったという逸話がある。住民にとって「気付き」は大事である。

碑文表

昭和大震嘯災記念
三月三日

地震があったら
津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

石浜　災害状況
溺死者　七人
住宅流失　五戸
住宅浸水　三戸
動力附漁船流失破損　二艘
無動力漁船流失破損　六十二艘

唐桑村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城004番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町宿浦69
建立場所 早馬神社参道口　碑高 210cm　碑幅 90cm　海抜 4m







赤い囲いが印象的な早馬神社の鳥居脇に、旧唐桑村建立の石碑が建つ。東日本大震災では、この津波碑はおろか、この先500m奥まで津波は到達して、その間、家屋は一切ない。ほかの資料を見ると、碑の背後には神職の住宅だったのだろうか、平屋の家屋があったようだが跡形も無い。しかし、この石碑は倒壊せずに生き残ったようだ。なぜ倒れなかったのか謎である。



以前は家屋が建ち、ここから海は見えなかったのだろう



経緯度 北緯38度54分10秒/東経141度38分20秒

碑文表

昭和大震嘯災記念

地震があったら津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

宿浦　災害状況

住宅流失　四戸
住宅全潰　三戸
住宅半流半潰　一戸
住宅浸水　十三戸
無動力漁船流失破損　六艘

唐桑村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城010番
2014/04/10

海嘯紀念碑

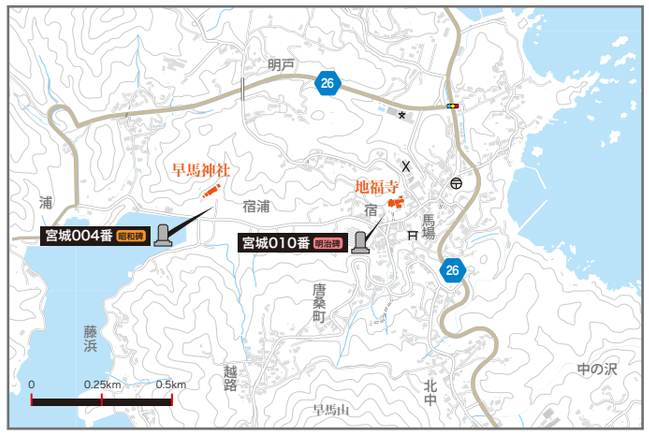
対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治35年10月　住所 気仙沼市唐桑町馬場172
建立場所 地福寺境内　碑高 374cm　碑幅 164cm　海抜 19m







唐桑半島では、最も立派な寺院ではないかと思われる地福寺境内に高さ3mを越える大きな津波碑がある。山門をくぐり、その奥に建つ鐘楼脇にある。碑文は漢文でしかも長文のため、細かな文字がぎっしり刻み込まれている。まず一般の人には読めないと思われる。大まかな内容は、「このところ東北地方では天変地異や事故が相次いでいる。磐梯山噴火、酒田の大火、陸軍も八甲田山遭難事故、そして三陸大津波である。」この後詳細な被害の内容と続く。唐桑半島では8基の津波碑が確認されるが、明治の海嘯についての碑はこの一基のみである。そのため、唐桑半島における明治海嘯の被害状況を知る貴重な史料といえる。



経緯度 北緯38度54分9秒/東経141度38分46秒

碑文表

碑念紀嘯海

漢文による長文が刻まれる

碑文裏

記念碑建立の寄付者名簿約300名が刻まれている

宮城005番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町東舞根
建立場所 県道路傍　碑高 202cm　碑幅 96cm　海抜 12ｍ







跡形も無く更地と化した舞根地区を見下ろす高台に津波碑が建つ。旧唐桑村で建てた９基の津波碑のうち、東日本大震災の津波で、直撃を受けていない２基のひとつである。３月11日は、津波の襲来で流される集落の様子を一部始終眺めていたに違いない。80年近くの歳月、集落を見つめてきたこの碑にとって、どんな想いだっただろうか。それを尋ねても応えは返ってこないのだが。



津波碑は浜の低地を見下ろす



経緯度 北緯38度54分4秒/東経141度37分31秒

碑文表

昭和大震嘯災記念
三月三日
八年

地震があったら
津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

舞根　災害状況
住宅流失　三戸
住宅全潰　一戸
住宅半流半潰　七戸
住宅浸水　十一戸
カ附漁船流失破損　一艘
無動力漁船流失破損　三艘

唐桑村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城006番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町鮪立77–4
建立場所 八幡神社階段脇　碑高 203cm　碑幅 95cm　海抜 9m



集落の中程にある八幡宮へ登る石段の傍らに津波碑が建つ。この位置は今回の津波襲来ラインと重なる。過去の津波もこのラインだったのかもしれない。背面の被害状況を見ると、昭和の海嘯当時は人口が少なかったようで大きな被害はない。この地区は車で移動するには億劫になるほど、幅の狭い道が山肌を削った宅地に巡っており、大半の建物に津波は到達していない。しかし、海と変わらない標高に家屋は跡形もない。それらが住宅だったのか、港湾施設だったのかは判らないが、全体的に、過去の教訓が活かされている地域造りがされていることは間違いないだろう。



八幡宮より漁港を見下ろす



経緯度 北緯38度53分28秒/東経141度38分34秒





碑文表

昭和八年三月三日
大震嘯災記念

地震があったら津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

鮪立　災害状況
住宅流失　一戸
住宅全潰　一戸
住宅浸水　六十四戸
動力附漁船流失破損　二艘
無動力漁船流失破損　十艘

唐桑村

宮城007番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住 所 気仙沼市唐桑町上小鯖198
建立場所 一般道路傍　碑 高 197cm　碑 幅 93cm　海 抜 1m







ここに集落があったことが想像できないほど、周囲にはまったく何もない状態で、ポツンと1基の石碑が建っている。あまりにも寂しすぎる光景である。古い写真を見ると、周囲には家屋がたくさん建っていたのであるが、見事に1棟もない。おそらくこの碑も一度流されたのだろう。足元のモルタルはまだ新しく、補修されたことが判る。周りに何も残っていないこの場所に、碑を再建したときの気持ちは如何ばかりかと思う。



助かった家は一軒もない



経緯度 北緯38度52分58秒/東経141度38分48秒

碑文表

昭和大震嘯災記念
地震があったら津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

小鯖　災害状況
溺死者　十五人
住宅流失　二十七戸
住宅全潰　三戸
住宅半流半潰　一戸
住宅浸水　六戸
動力附漁船流失破損　七艘
無動力漁船流失破損　二十一艘

唐桑村

宮城008番
2014/10/08

昭和八年三月三日大震嘯災記念

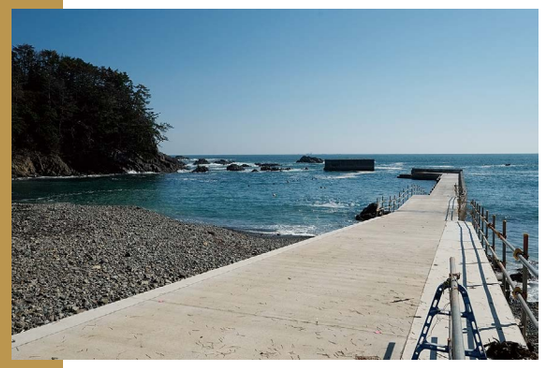
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町欠浜77
建立場所 一般道路傍　碑高 200cm　碑幅 93cm　海抜 7m





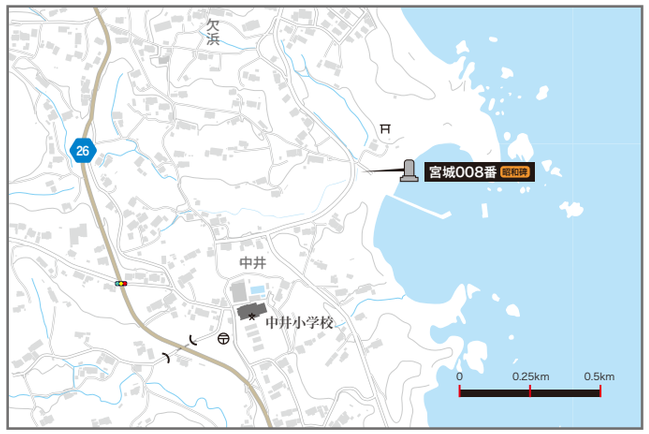


この石碑は、最初の春の調査では見つけることが出来なかった。しかし、秋の再訪の折に、港湾整備の工事事務所脇に置かれているのを発見。おそらく、どこかに流されていたものを、この場所まで移動したのだろうと思われる。港湾の工事関係者が見つけたとすれば、海中にあったのかもしれない。背面に残る大きな傷が痛々しかった。その後、近くに再建されると思われるので、近い将来確かめに訪れたい。



港は再建途中だった

ここは道が入り組んでおり一発で行けない。ナビを頼る必要がある



経緯度 北緯38度52分58秒/東経141度39分44秒

碑文表

昭和八年三月三日大震嘯災記念

地震があったら
津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

中井　災害状況
住宅流失　二戸
住宅浸水　一戸
動力附漁船流失破損　二艘
無動力漁船流失破損　三十二艘

唐桑村

宮城009番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市唐桑町崎浜4-3
建立場所 ビジターセンター敷地内　碑高 208cm　碑幅 97cm　海抜 33m



唐桑半島ビジターセンターの陰に津波碑がある。海抜33mの高台にあり、唐桑で津波を受けなかった2基のひとつ。石碑はビジタセンター玄関の左手奥に建つが、あらかじめ注意していないと気にも留めないであろう。また、碑の脇には周辺散策路の案内板もあるが、津波碑に興味がなければ、案内板を見ただけでスルーかもしれない。訪問の際、碑の写真を撮っているところを学芸員の女性が見ていたようで、館内に入るとすぐに声を掛けてきた。町で作成した津波碑関係の冊子をわざわざ用意して待っていたのである。筆者のような奇特な来訪者が現れてちょっと嬉しかったようである。



館内は明治から東日本大震災までの写真を展示



経緯度 北緯38度51分47秒/東経141度40分23秒





碑文表

昭和大震嘯災記念
三月三日

地震があったら津浪の用心

六位勲六等四竈仁逓書
陸前井内　阿部勇之丞　刻

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災市町村へ配分した残額をもって建てたものです

馬場　災害状況
溺死者　四人
住宅流失　一戸
住宅浸水　二戸
動力附漁船流失破損　三艘
無動力漁船流失破損　二十七艘

唐桑村

宮城014番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市三ノ浜御嶽神社
建立場所 御嶽神社鳥居脇　碑高 212cm　碑幅 90cm　海抜 5m







対岸に気仙大島を望み、鶴ヶ浦漁港を見下ろす御嶽神社鳥居脇に津波碑が建つ。まるで海を睨みつけるかのように。この神社は津波発生時の避難指定場所でもある。そのため地元住民はこの碑の存在は重々承知していると思う。参道石段の登り口と、15～6段登った辺りに過去の津波到達を示す看板が設置されている。東日本大震災では10mを超える津波が襲来しており、このような貧弱な看板はひとたまりもなさそうだが、上部が曲がっている程度で耐え抜いている。当の津波碑も破壊された様子はないが、気仙沼湾に流れ出した重油を被っており、表裏とも黒い油の筋が残っているのが痛ましかった。



経緯度 北緯38度52分57秒/東経141度36分31秒

碑文表

昭和三年八月三日
大震嘯災記念

大地震どんと沖鳴りそら津波

六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁船漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヲはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

宮城015番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市二ノ浜
建立場所 県道路傍　碑高 220cm　碑幅 93cm　海抜 4m







県道沿いに建つ津波碑だが、来訪の折、道路拡幅工事のため本来の場所より一時的に移動されていた。工事が終われば適切な位置に置かれることと思う。この場所だが、二ノ浜よりちょっと山側に入るのだが、東日本大震災の津波はこの碑を越えて襲来している。現地に立つと感覚的には到達しなさそうなのだが、標高を計測すると海抜4mしかない。これでは津波の到来は無理もない。現在、気仙大島と本土をつなぐ「大島架橋」を建設中で、道路の工事は、大島と気仙市街を結ぶバイパス道路のための拡幅である。平成30年完成の予定で工事は進んでいる。本誌完成の頃は、すでに道路工事は完了し、丁度カーブの辺りに据え直されていると思われる。地図の位置はそこに落としている。



経緯度 北緯38度53分18秒/東経141度36分13秒

碑文表

昭和三年八月三日
大震嘯災記念

大地震それ来たぞ大津浪

六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁船漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヨはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

背面は前項の宮城14番碑と同じ

宮城016番
2016/04/06

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 仙沼市小々汐
建立場所 県道路傍　碑高 220cm　碑幅 90cm　海抜 0m



この津波碑は、最後まで巡り逢えなかった碑のひとつ。何度もこの道を走っていたのだが、写真の通り道路脇に置かれているのに、まったく気付かなかった。なぜ目に留まらなかったのか自分でも理解できない。半ば諦めていたところ、いつものGoogleMapの再確認で発見したもの。初めて訪れたのは2014年4月、それから2年経った今でもこのままである。再建のつもりはないのであろうか。本誌完成後、まだ修復してなければ、本誌を役所に届けるのも妙案か。



経緯度 北緯38度53分36秒/東経141度35分45秒

津波碑転倒のため未確認
資料参照により、宮城14番碑と同一とした



碑文表

昭和三年八月三日
大震嘯災記念

大地震どんと
沖鳴りそら津波

六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁舩漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヲはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

宮城017番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市大浦
建立場所 県道路傍　碑高 208cm　碑幅 94cm　海抜 2m



気仙沼市港町から三ノ浜へ至る県道沿いに建立されている６基の津波碑は、碑文が若干異なるものの、裏面の碑文はすべて同じ内容である。旧気仙村により一時に建立されている。ここ大村地区の石碑はカーブ途中の路傍にあり、注意していないと見落としがちな位置にある。東日本大震災では根元から流され、一時行方不明となったが、すぐに発見されると、残った台座に無事再建されている。しかし、碑面には流失の際に受けたおびただしい傷が残っており、津波による攻撃の凄まじさを物語っている。これが生身の人間だったらと想像すると、背筋に寒気が走る。



経緯度 北緯38度53分44秒/東経141度35分20秒





碑文表

昭和三年八月三日大震嘯災記念

大地震それ来るぞ大津波

六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁舩漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヨはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

宮城018番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市浪板272
建立場所 県道路傍/個人敷地内　碑高 220cm　碑幅 93cm　海抜 9m



県道脇の擁壁上に津波碑が建っている。なんでこんな所に！と首を傾げたくなる。どうやら過去の道路拡張に際に、この位置に移動されたらしい。しかも、建立場所は個人の敷地であるから、勝手に立ち入ることは出来ない。このように遠望するしかない。この擁壁の足元でも十分に建てられるスペースはある。ここに移動した人物は、先人が建てた津波碑の意味や役割というものをまったく理解していなかったのだろう。余りに情けなく涙がでる思いである。



経緯度 北緯38度54分29秒/東経141度35分14秒



碑文表

昭和三年八月三日
大震嘯災記念

大地震どんと
沖鳴りそら津波

六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁舩漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヲはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

背面は前項の宮城14～17番碑と同じ

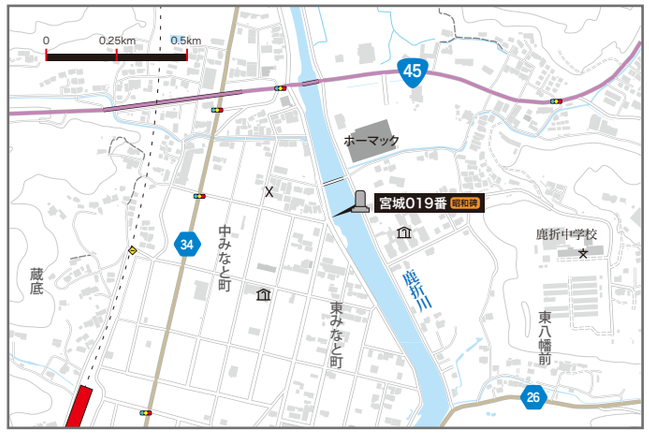
宮城019番
2014/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 仙沼市東みなと町84
建立場所 一般道路傍　碑高 246cm　碑幅 92cm　海抜 2m



旧気仙村が建てた6基の津波碑で、最も市街地よりに建つのがこの石碑。鹿折川沿いにあり海抜が2mしかないために、今回の津波の直撃を受け転倒している。GoogleMapで確認すると、2011年7月にはすでにこの状態で横たわっている。誰も元に戻す気はないのか、2014年に訪れた際は3年間放置されていた。なお、さらに2年後の2016年に近くを通ったときは、一帯が嵩上げ工事のために更地になっており、工事中で一般者の立ち入りはできなかった。復興工事終了後、元の位置に再建されると思う。



経緯度 北緯38度55分7秒/東経141度35分5秒



碑文裏

大震嘯災概況

昭和八年三月三日午前二時三十二分より二分間余にわたる大地震起こる。それより約十五分後、気仙郡沖合方面遥の海底に大小の爆音二回聞こゆ。後二十分にして大津浪来る。その被害区域本県より北海道に及ぶ。

一本村ノ被害左ノ如シ
鶴ヶ浦湊　死者　男二　女二　傷者　男三　女一
家屋流失　一戸　六棟　半潰　二戸
床上床下ノ浸水家屋漁船漁具及耕地ノ被害多シ
一損害総額　三万四千余円
一津浪ノ高サ
鶴ヶ浦湊　三、三メートル　以北浜区迄一メートルヨリ一、三メートル
一本県ヲはじメ各地ヨリ寄贈セラレタル金品左ノ如シ
金員　五千八百四十四円　物品　二千百六十点

畏くも両陛下より御救恤金、更に皇后陛下より重傷者に衣服地、ここに裁縫料各宮殿下より御救恤金を御下賜あらせらる。御仁慈恐懼感激に禁はず。

この記念碑は東京朝日新聞社へ寄託の義援金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建立したるものなり。

薫風謹書

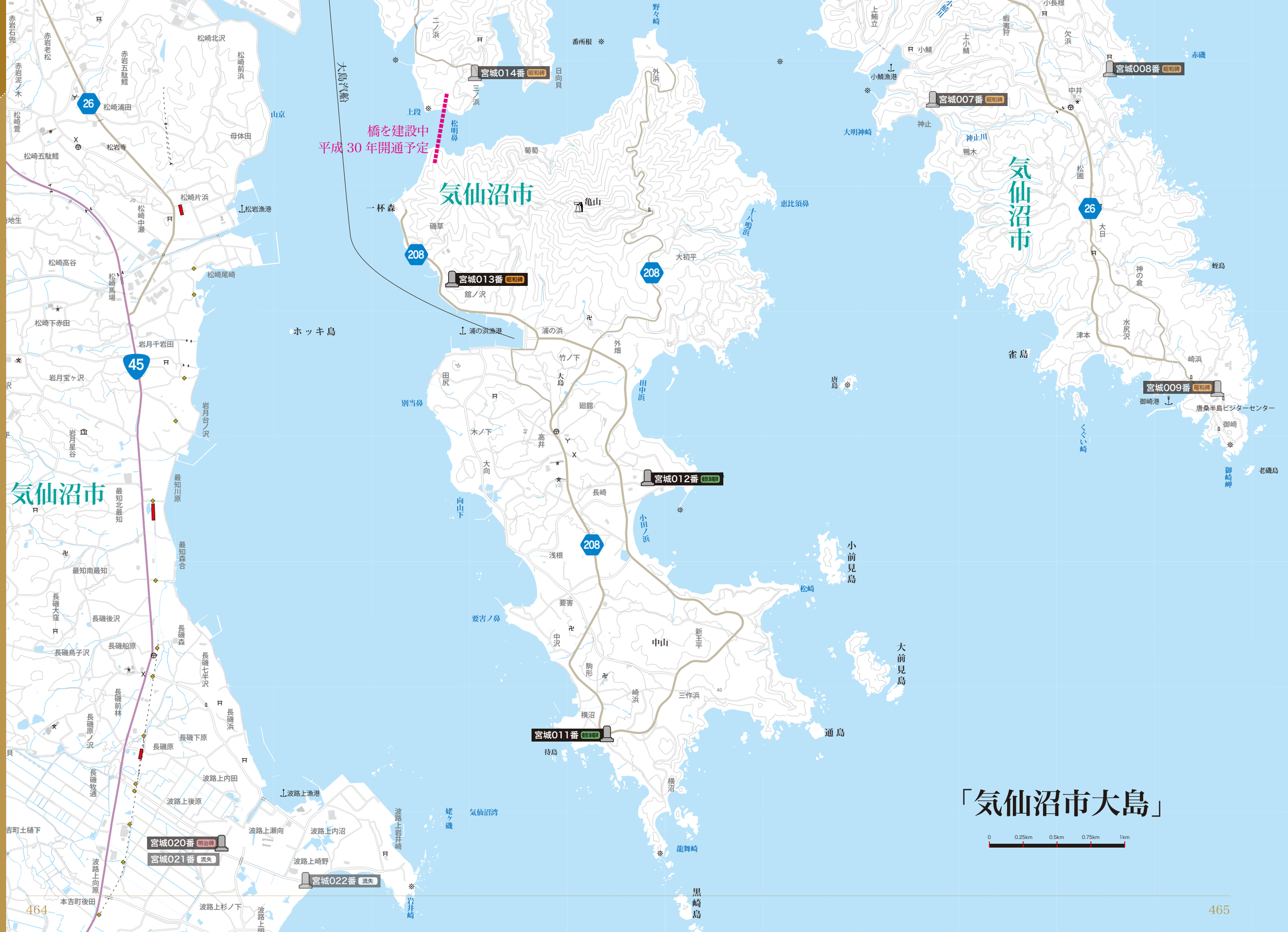
碑文表

昭和三年三月三日
大震嘯災記念

大地震それ来るぞ大津波

六位勲六等四竈仁逓書

津波碑転倒のため表面は未確認
資料参照により、宮城17番碑と同一とした


気仙沼市
気仙沼市
気仙沼市
橋を建設中
平成 30 年開通予定
大島汽船
宮城014番 昭和碑
宮城013番 昭和碑
宮城012番 復数海曜碑
宮城011番 復数海曜碑
宮城008番 昭和碑
宮城007番 昭和碑
宮城009番 昭和碑
宮城020番 明治碑
宮城021番 流失
宮城022番 流失
ホッキ島
雀島
小前見島
大前見島
通島
黒崎島
大島
亀山
一杯森
松崎浦田
松崎片浜
松崎尾崎
岩月千岩田
岩月宝ヶ沢
岩月台ノ沢
最知川原
最知森合
最知北最知
最知南最知
長磯後沢
長磯船原
長磯鳥子沢
長磯森
長磯七半沢
長磯下原
長磯原
波路上内田
波路上後原
波路上漁港
波路上瀬向
波路上内沼
波路上崎野
波路上杉ノ下
本吉町後田
波路上向原
吉町土樋下
浦の浜漁港
浦の浜
竹ノ下
大初平
外畑
田中浜
別当鼻
向山下
要害ノ鼻
小田ノ浜
長崎
浅根
要害
中沢
駒形
横沼
待島
中山
新王平
三作浜
崎浜
横沼
龍舞崎
松崎
恵比須鼻
十八鳴浜
大明神崎
神止
神止川
鴨木
松岡
大日
神の倉
水尻沢
津本
崎浜
御崎港
唐桑半島ビジターセンター
御崎
くぐい崎
御崎岬
老磯島
赤磯
蛭島
小鯖
小鯖漁港
上小鯖
小長根
欠浜
中井
松岡
大島
外浜
葡萄
上段
松明鼻
三ノ浜
二ノ浜
日向貝
番所根
野々崎
大島汽船
松崎北沢
松崎前浜
赤岩五駄鱈
赤岩老松
赤岩石兜
赤岩泥ノ木
松崎萱
松崎五駄鱈
松岩寺
母体田
山京
松崎片浜
松岩漁港
松崎中瀬
松崎高谷
松崎馬場
松崎下赤田
岩月千岩田
岩月宝ヶ沢
岩月台ノ沢
岩月星谷
26
45
208
「気仙沼市大島」
0
0.25km
0.5km
0.75km
1km

宮城011番
2014/10/08

震嘯記念

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年６月10日　住　所 気仙沼市横沼93近傍
建立場所 県道路傍　碑　高 160cm　碑　幅 90cm　海　抜 20ｍ





碑文表

震嘯記念

大地しんそれつなみ
時変襲来侵我村海湾一望頗銷魂
喜悲異感唯同涙昨泣嘯災今聖恩

震嘯日時　昭和八年三月三日
人畜被害　死者無　岩手県出稼二名死
家屋　流失三潰破四
宅地　■百七十八坪
田圃　十四町歩
船舶　大小百二十艘
被害高　金三万五千余円
救済及慰問金一万一千八百九十七円

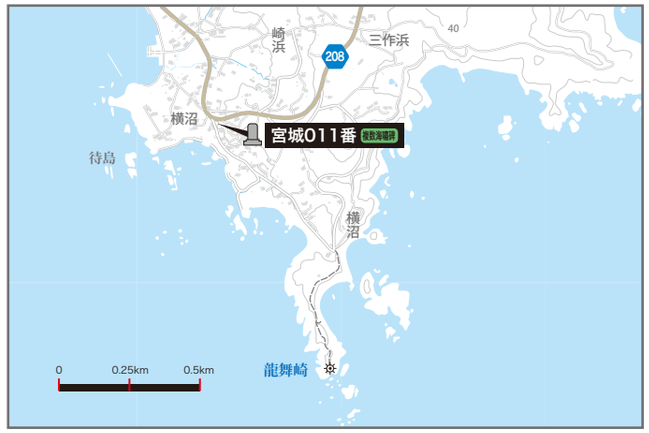
明治二十九年六月十五日午後七時三十分
死者六十一人　内男二二女三九
流失十七　潰破六　付属屋流五一潰一三
十九町
一町六反歩
大小五十一艘
金一万五千八百円
金二千四百六十七円

朝日新聞社寄託金二十余万円を罹災町村に分配し尚残額の交付を受けたるを碑費に当て之を建つ

昭和九年六月十日

大島村長　菅原熊次郎謹撰
同村石工　野口義雄謹刻

気仙沼湾に浮かぶ大島には３基の津波碑が存在する。その中で最も南にあるのがこの石碑。また、３基の中で唯一幹線道路沿いにあり、最も目につく場所に建っている。碑文には明治と昭和の海嘯被害が記録されており、明治では61名が死亡しているが、昭和では死者が０となっている。両海嘯は近い時期に起こったこともあろうが、過去の教訓を活かし、犠牲者を激減させたことはまことに見事である。しかし、今回の東日本大震災では31名の死亡・行方不明者が出ている。残念なことではあるが、明治・昭和の津波を遥かに超える波高の津波が襲来したとのことだが、やはり悔やんでも悔やみきれないだろう。



経緯度 北緯38度50分18秒/東経141度37分11秒

宮城012番
2014/10/08

MEMORIAL OF THE GREAT EARTH QUAKE AND TIDAL WAVE

対象津波 明治・昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市長崎92
建立場所 一般道路傍/民宿幸坂荘の向かい　碑高 160cm　碑幅 90cm　海抜 18m





碑銘が英文で刻まれている非常に珍しい津波碑である。おそらく英文はこの1基のみだろう。にもかかわらず、碑文は漢文で長々刻まれ、一般の人には皆目意味が判らない。建てられたのは昭和海嘯の後であるから、現代文であってもおかしくないはずだが、英文＋漢文と、あえて難解に造ったのだろうか？　また、建立場所もよく判らないところで、県道から外れた軽自動車でもやっと、といった狭い生活道の三叉路にある。はたして近隣住民にこの難解な碑を理解できる人はいかほどいるのか。はなはだ建立意義が疑問の津波碑である。



経緯度 北緯38度51分17秒/東経141度37分6秒

碑文表

MEMORIAL OF THE
GREAT EARTH QUAKE
AND TIDAL WAVE

昭和八年三月三日大海嘯記

以後、漢文により
明治と昭和の津波被害に
ついての説明が記される。

英文　従七位勲七等　小野寺　廣　野口　義雄刻之
小野寺　東七撰並書

宮城013番
2014/10/08

震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年10月　住 所 気仙沼市磯草279
建立場所 一般道路傍　碑 高 160cm　碑 幅 85cm　海 抜 22ｍ



この石碑は東北整備局の資料だけでは絶対に発見できなかった。気仙大島の津波碑探訪は、単身フェリーで上陸後、レンタサイクルで島を一周した。この碑は島の北西部に位置することしか把握していなかったため、難航することは覚悟していた。県道208号の終点まで走るも発見できなかったため、世間話をしていた親子に尋ねた。すると、かなり手前の民家の前にあるとのことだったが、その民家は坂道を200ｍほど登る、と教えられたものの、坂道が何本もある。こちらは久々の自転車なので体力がすぐに尽きてしまい、２本目の坂で難儀しウロウロしていると、先ほどの親子が道案内にとクルマで走ってきてくれた。これには本当に頭の下がる思いだった。その坂道は未舗装の林道で、とても自転車で登れるようには思えず、徒歩で向かうことに。なるほど200ｍほど進むと路傍に石碑が建っている。しかし、こんな場所にいったい誰が建てたのか?と、思うほど鬱蒼とした私道脇なのである。自宅に戻り



経緯度 北緯38度52分4秒/東経141度36分25秒

碑文表

地震があったら津なみの用心

昭和八年三月三日暁ちかき頃大ないふる人々驚きて家の外に走り出てたる・・・大君はいたく御心を痛めさせたまひてあまたの金を村々の災にあひし人々にたまはり・・・・

・・・・ここに事のよしをしるして後の世の人に示す

昭和九年十月建之

大島村長　菅原熊治郎謹撰書

碑文は長文のため割愛するが、子供でも読めるようにひらがな使いの読みやすい文面となっている



この記事を書きながら調べると、どうも石碑を建てたときは、この林道が幹線道路だったことが判明した。1947年撮影の航空写真を確認すると、海岸線を抜ける県道は無いのである。これで摩訶不思議な建立場所の謎は解けた。



この道を登ったところにある、一切の案内も目印もない



「気仙沼市波路上（はじかみ）～本吉地区」

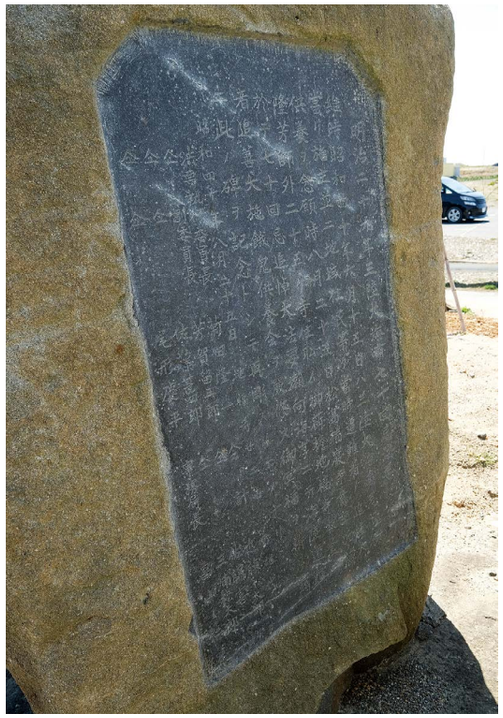
宮城020番
2016/04/06

海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 昭和46年8月25日　住所 気仙沼市波路上牧31
建立場所 地福寺境内　碑高 158cm　碑幅 105cm　海抜 7m







碑文裏

明治二十九年三陸大海嘯七十回忌法要記念
維持昭和四十六年六月十五日は、三陸大海嘯期日に当り、施主並に地域住民等当時遭難者の追悼大供養を念願。時八月二十五日、松島瑞巌寺貫主加藤隆芳師ほか二十五ヶ寺住職の御苻檐、地福寺本堂に於いて七十回忌追悼大法要瀬向海岸にて海陸遭難者追善大施餓鬼供養会を厳修すご冥福を祈り、ここにこの碑を記念として再彫するものなり

昭和四十六年八月二十五日　地福寺二十二世　秀雄代

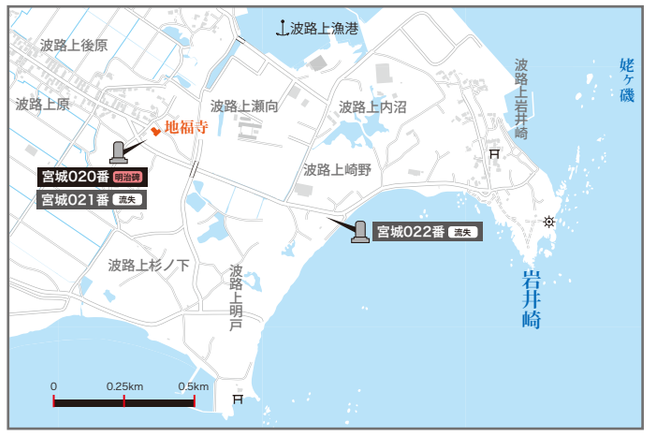
碑文表

嘯海
碑念紀

漢文による明治海嘯の概況が説明されている

波路上地区にある地福寺は、海抜わずか7m、海岸線より700m弱という立地のため、東日本大震災の津波に強襲された。しかし、航空写真を見ると、寺の本堂より以北の住宅は大きな被害は見受けられない。今回の津波ではデッドライン上だったようだ。山門脇には明治海嘯の70回忌記念碑が建っていたが、山門と共に流失。東北整備局の資料にも流失と記載されていたが、念のために訪問することに。すると、潰滅した鐘楼の上に「祈りの広場」が作られ、流されていた鐘と津波碑が再建されていた。被災前は道路に向かい建っていたが、今回の再建では海に向け建てられた。また、被災した梵鐘と石碑の表面には、流された際に付いた傷跡が生々しく残っている。なお、平成7年に建立されたばかりの明治海嘯百年忌供養塔は、残念ながら流失している。





経緯度 北緯38度49分51秒/東経141度35分13秒

流された梵鐘の傷が生々しい

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城023番 宮城024番
2016/04/06

大谷漁港の流失２碑

対象津波 明治三陸地震津波/昭和三陸地震津波　建立月日 大正２年９月３日/不明
住　所 仙沼市本吉町大谷173　建立場所 大谷漁港路傍　海　抜 1ｍ

大谷漁港には、明治と昭和海嘯の津波碑が２基並んで建っていたが、どちらも津波により流失している。現地を訪れると、基礎のみが残っており流失の事実を確認できる。



経緯度 北緯38度48分55秒/東経141度34分30秒

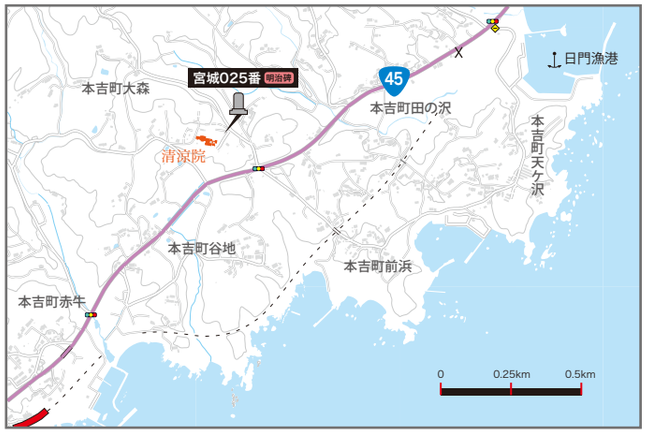
宮城025番
2014/04/09

海嘯紀念碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年11月　住所 気仙沼市本吉町大森8
建立場所 清涼院門前　碑高 180cm　碑幅 88cm　海抜 52m



海岸からかなり離れた高台にある寺院。墓地の入口付近に津波碑が建つ。漢文により明治海嘯の様子と被害内容、その後の復興についての記述が刻まれる。壊滅的被害を受けた大谷村の被災者多数を、当寺に埋葬したとのことからこの碑が建立されたようだ。なお、この碑の背後には、東日本大震災の供養塔も建てられている。



経緯度 北緯38度48分17秒/東経141度32分34秒



碑文表

碑念紀嘯海

漢文による海嘯の概況と被害の規模、
その後の復興についての記載がある

「気仙沼市本吉町地区」

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

気仙沼市

南三陸町

346
45
100
60

本吉町小峰崎
本吉町猪の鼻
本吉町津谷松尾
本吉町登米沢
本吉町道外
本吉町幣掛
本吉町新圓の沢
本吉町圓の沢
本吉町卯名沢
本吉町中島
本吉町北明戸
本吉町泉沢
本吉町泉
本吉町平貝
本吉町下宿
本吉町蕨野
本吉町外尾
本吉町菅の沢
本吉町小浜
本吉町今朝磯
本吉町二十一浜
本吉町歌生
本吉町柳沢
本吉町蔵内
本吉町草木沢

宮城026番 明治碑
宮城027番 明治碑
宮城028番 昭和碑
宮城029番 明治碑

小泉大橋

赤崎海岸
仙代崎

宮城026番
2016/04/06

海嘯碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 不明　住所 気仙沼市本吉町圃の沢107
建立場所 浄福寺山門脇　碑高 142cm　碑幅 98cm　海抜 21ｍ







津谷川の津波遡上により大きな被害が出た、圃（はた）の沢地区の高台にある寺院山門脇に、大きな自然石をスライスして作られた津波碑が建つ。漢文で明治海嘯の概況と被害内容を記しており、28代住職が建立している。この寺は海抜20ｍほどあるが、門前まで浸水し、墓石に大きな被害が出ている。到達地点には大きな到達碑が建立された。むろん眼下にも大きな被害が出ており何もない原野然としている。明治海嘯の際も同じ光景だったのだろう。津波碑はその光景を眺めるように建っている。これからは、同じ光景を見ることのないように願うばかり。



東日本大震災津波到達地点に建つ石碑



経緯度 北緯38度46分37秒/東経141度29分59秒

碑文表

碑嘯海

浄福寺二十八代住職　中村宗直代建立

漢文にて明治海嘯の概況と
被害内容が記される

碑文裏

維時明治■■九月彼岸　建之

建立時の世話人名簿が記される

宮城027番
2014/11/20

有縁無縁三界万霊塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年12月　住所 気仙沼市本吉町新南明戸300
建立場所 津谷川堤防沿い　碑高 122cm　碑幅 64cm　海抜 3m



東北整備局の資料には流失と記載されていたが、現地を訪れると、津波によりなぎ倒された石碑群が存在していた。四角いコンクリートの囲いの中に、きれいに収まるように倒れている。ここは特別な目的ある人間でもないかぎり、普段人が来ることはない場所。おそらくこのまま修復されることなく時が過ぎ去りそうな気配である。



堤防から見た様子。手前には水門がある



経緯度 北緯38度46分9秒/東経141度30分22秒



碑文裏

背面は転倒のため確認できず
他の資料によれば、明治海嘯の被害内容が記されている

碑文表

有縁無縁三界万霊塔

宮城028番 昭和八年三月三日大震災記念碑

2014/11/20

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月１日　住　所 気仙沼市本吉町二十一浜
建立場所 小泉浜区葬祭場前　碑　高 155cm　碑　幅 93cm　海　抜 26ｍ



碑文表

日三月三年八和昭
碑念記災震大

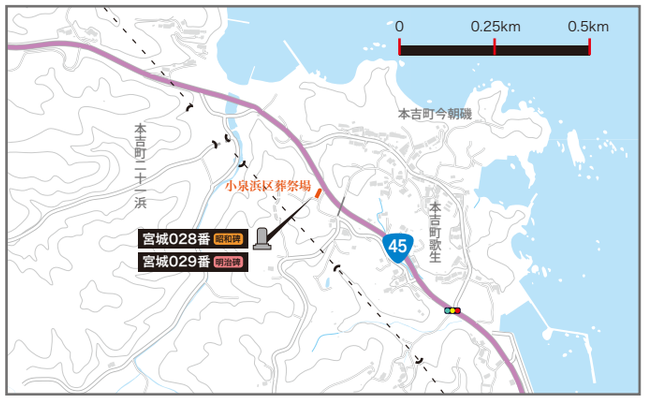
地震があったら津浪の用心

碑文右側面

午前二時三十分大地震後約二十分にして三陸沿岸一体に津浪襲来せり本村にては二十一浜蔵内浜に多大の損害を与えられ死者十五名流失二十二戸浸水十四戸其他損害額九万九千余円に及べり

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです
昭和九年三月一日　小泉村青年団

この碑を見つけるのにはなかなか苦労させられた。東北整備局の資料には、所在地欄に「気仙沼市本吉町二十一浜」と記載があるのみ。この二十一浜地区は名称に「浜」の文字があるが内陸部にある。そこで、該当地区を走ったが一向に見当たらない。事務所に戻り、上西氏の資料を見ると「小泉地区の葬祭会館前」とある。はて、地図上には小泉地区という記載は無い。しかし、国道45号から少し入った所に会館があるとも書かれている。そこでGoogleMapのストリートビューで手当たり次第脇道を探る。すると、ありましたありました。住所は確かに「二十一浜」、会館は「小泉浜区葬祭場」、なんともややこしいのである。文明の利器がなければ発見できなかったかもしれない。



経緯度 北緯38度45分25秒/東経141度31分19秒

宮城029番 海嘯溺死者精霊之塔

2014/11/20

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治30年旧５月５日
碑　高 134cm　碑　幅 90cm　海　抜 26ｍ



碑文表

海嘯溺死者精霊之塔

漢文にて明治海嘯の概況と被害内容が記される



「南三陸町泊崎半島」

気仙沼市

南三陸町

泊崎半島

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

宮城030番 流失

宮城031番 昭和碑

宮城032番 不明

住民に所在を尋ねるも
移転したとのことで詳細は不明

宮城033番 昭和碑

宮城034番 明治碑

宮城035番 流失

伊里前漁港

仙代崎
松島
末の崎
松崎
大島
小名崎
弁天崎
館崎
伊里前湾
港川
伊里前川
草木沢
中野
浪板
石泉
田の浦
長羽
牧田
上の山
田茂川
南の沢
長沢
北の沢
平棚
石浜
名足
中山
馬場
大沼
稲淵
館浜
板橋
平成の森
枡沢
管の浜
伊里前
歌津
中在
白山
町向
宮方
吉野沢
寄木
田の頭

45 225 236 100 40

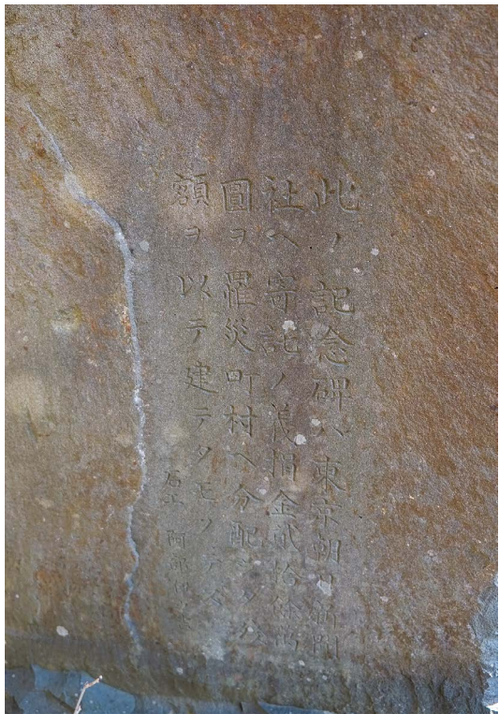
宮城031番
2014/04/09

大震嘯記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町歌津田の浦44
建立場所 八幡神社鳥居脇　碑高 175cm　碑幅 92cm　海抜 15m







海抜15mほどの高台にある八幡神社の鳥居脇に石碑が建つ。東日本大震災ではこの高さまで津波が到達している。昭和海嘯の際もこの地点まで到達したため、同地に津波碑を建立したのではないだろうか。つまり、津浪襲来の際は、この鳥居より上に避難せよ!という目印のために。碑の脇には、東日本大震災の津波到達の地「波来の碑」が建てられている。

碑文表

昭和八年三月三日
発震午前二時三十分
津浪午前三時十分

大震嘯記念碑

地震があったら津浪の用心
津波と聞いたら早く高地へ

害被浦ノ田
死亡二十八人　行方不明一人　負傷二十二人
住家流失二十六戸　住家半壊一戸　床上浸水一戸
床下浸水二戸　田流亡五町歩　畑流亡六段歩
斃馬二頭　漁船流失三十九艘　漁船破損五艘

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の
義金二十余万円を罹災町村へ分配
した残額をもって建てたものです
石工　阿部伊之吉





経緯度 北緯38度44分11秒/東経141度32分42秒

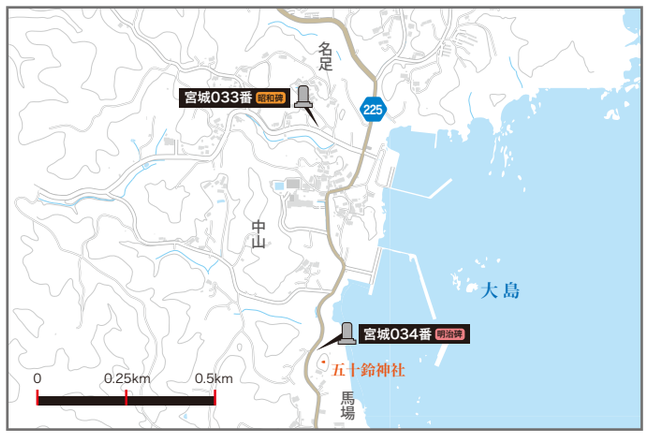
宮城033番
2014/04/09

昭和八年三月三日大震嘯災紀念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町歌津名足72
建立場所 一般道路傍　碑高 153cm　碑幅 94cm　海抜 9m



漁港からわずか250mの位置にあった津波碑。台座には修復の跡と判る真新しいモルタルが見られ、碑面にはおびただしいひっかき傷がついている。明らかに、流された碑を発見した人たちの手で元の場所に再建されている。他の文献によるとコミュニティーセンターの前に建っていたそうだが、周囲には家屋の姿はない。また、被災した海辺の建物を見ると波高は10mに迫るものであり、よくぞ石碑の原形をとどめたものと感心する。



経緯度 北緯38度43分25秒/東経141度33分23秒

碑文表

日三月三年八和昭
碑念記災震大

地震があった羅つなみ用心
つなみときいた羅すぐにげよ

発震午前二時三十分
津浪午前三時十分

負傷四人　住家流失八戸　住家半
壊三戸　床上浸水三戸　漁船流失四十艘　破損四艘
斃馬一頭　田流亡三
丁歩　畑三丁歩



宮城034番
2014/04/09

海嘯記念之碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治33年11月　住所 本吉郡南三陸町歌津中山
建立場所 県道路傍　碑高 230cm　碑幅 97cm　海抜 5m

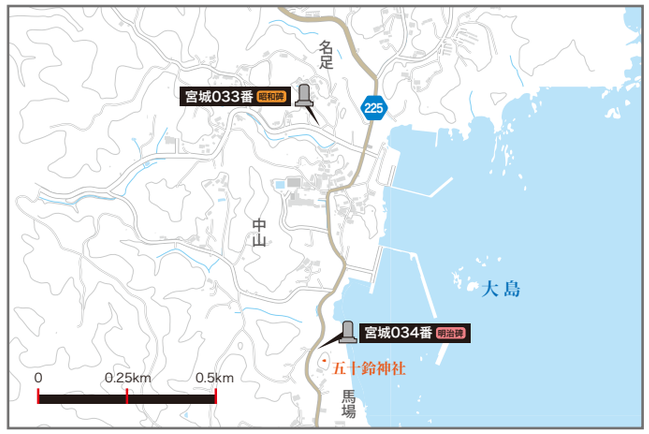




五十鈴神社の参道口に、転倒したまま放置されている石碑を見つける。石碑の脇には参道があるが、神社へと通じる参道とは思えない状態である。これも津波による破壊である。他の文献を見ると、この津波碑の脇には石造りの鳥居があり、周囲には樹木も生い茂っていた。神社の参道はきれいに丸裸にされてしまったのである。当該石碑が倒れた状態とはいえこの場所にとどまっただけでも奇跡かもしれない。なお、この小高い丘には神社が3社もある。下から稲荷神社、中山白山神社、最上部に五十鈴神社。いずれも社は無事だった。



最上部の五十鈴神社



経緯度 北緯38度43分06秒/東経141度33分21秒



碑文表

海嘯記念之碑

【碑文は漢文の長文】
太平洋沿岸数百里にわたり未曾有の大海嘯が起こる。
歌津村中山浜においては、家屋流失四十数戸、溺死者
二百名を越え、斃馬五十余頭の被害が出た・・・・
その後の救援活動などが記載

「南三陸町歌津～志津川地区」

宮城039～42番の4基については、港近くの松原公園に建立していたがすべて津波により被災。39番と42番碑は回収のうえ保管されているが、40番と41番碑は不明。

宮城037番
2014/04/03

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町志津川松井田54
建立場所 国道路傍/久須志神社階段下　碑高 200cm　碑幅 90cm　海抜 10m



国道沿いにある久須志神社参道階段脇の切り株の上に、足元から折れた石碑が横たわっている。元はこの石段の右側に建立されていた津波碑である。流失した碑を発見者がこの場所に移動したのだろう。しかし、震災後に訪れると本当に驚愕する。訪問時の写真を見ると階段から社までが見事に見通せるが、震災前は周囲を杉並木に囲まれ、石段も最初の10段ほどしか見えないような、霊験あらたかな神社だったのである。すべてをはぎ取られ丸裸の状態になってしまった。自然の力は本当に計り知れない。



石段途中から見下ろした



経緯度 北緯38度41分37秒/東経141度28分59秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心
正六位勲六等四竈仁逓書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の
義金二十余万円を罹災町村へ分配
した残額をもって建てたものです
志津川町
陸前井内　阿部裕之亟刻

碑が転倒していたため背面は未確認
碑文は他の資料より転載した

宮城038番
2014/04/03

海嘯遭難死亡各霊供養碑

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年9月19日　住所 本吉郡南三陸町志津川上の山11
建立場所 海円寺境内　碑高 163cm　碑幅 60cm　海抜 16m





碑文表

明治二十九年六月十九日　導師講入行者六十九名立之

海嘯遭難死亡各霊供養碑

施主
宮城　中新田　小野田　三本木　松山　古川
岩手　県　小牛田　涌谷　大貫　田尻　中枠根　各大師講中
栗原　岩ヶ崎　金成　一関　水沢

しづがわ保育園に通じる急坂を登り詰めると海円寺がある。本堂脇に大日如来像に並び明治海嘯の供養費が建つ。どうも素人が掘ったような字体で、たどたどしい碑文であるが、宮城県と岩手県の各地に在住する信者が建立した旨が刻まれている。文字が不明瞭であるが69名が建立資金を供出したようだ。なお、ここ海円寺は、ポケット公園がある小高い丘にあるのだが、志津川の市街地は嵩上げ工事を行っており、丘と同じレベルになりつつあった。街は津波で一変したが、人工の地盤でも様変わりし、昔の面影は一切なくなってしまった。



嵩上げ工事進行中の市街地を望む



経緯度 北緯38度40分42秒/東経141度27分00秒

志津川高校の２碑

経緯度 北緯38度40分53秒/東経141度26分20秒



志津川高校の駐車場脇に２基の津波碑と破壊されたモアイ像の頭部が保管されている。２基の津波碑とモアイ像は市街地の松原公園内に建てられていたもの。東日本大震災の津波により倒壊したため、役所により回収され当地に置かれている。松原公園には４基の津波碑があったのだが、他の２基の行方は不明。

志津川高校は、海抜31mの高台にあるため津波被害は無い。ここに石碑を運んできたのは何か訳があるのだろう。教育のためかもしれない。実は、筆者は今回の津波碑探訪でここに足を運んだのではなかった。[※1]チリから寄贈されたモアイ像が津波により破壊し、その頭部が学校に保管されているという情報を聞きつけ、モアイ像に逢いに来たのである。訪れたのは、2013年９月。その時は、写真こそ撮影したものの、２基の津波碑に特には感心がなかった。

弊誌を編集中、松原公園の４基の碑は流失?と考えていたのだが、なんとなく、どこかで四角い石碑を見た記憶があった。写真ライブラリーを探しているうちに、ハタと気付いて見つけたのであった。当時は、津波碑を300基以上も巡るなどとは思っていなかったわけで、なんとも運命の巡り合わせというのか、妙な気分である。



道路は復興工事により地図の通りではない
常に変動しているので要注意



松原公園にあった、チリの彫刻家製作のモアイ像が津波により破壊されたと聞き、2013年５月25日、さっそくチリ政府より新しいモアイ像が寄贈された。イースター島から贈られたホンモノだそうだ。現在、南三陸ポータルセンター脇の駐車場に置かれている。何とも頭の下がる思いである。

※１　当時はそう聞いていたが、実際はふるさと創生事業の一環としてチリ人彫刻家に依頼していた

宮城039番
2013/09/13

津浪災害記念碑

対象津波 チリ地震津波　建立月日 昭和36年5月24日　住 所 本吉郡南三陸町志津川廻館92
建立場所 志津川高校駐車場(仮置き)　碑 高 150cm　碑 幅 170cm　海 抜 31m



碑文表

津浪災害記念碑

昭和三十五年五月二十四日

異常な引潮津浪の用心

宮城042番
2013/09/13

志津川町チリ地震津浪災害30周年記念碑

対象津波 チリ地震津波　建立月日 平成2年5月24日　住 所 本吉郡南三陸町志津川廻館92
建立場所 志津川高校駐車場(仮置き)　碑 高 93cm　碑 幅 119cm　海 抜 31m



碑文表

志津川町チリ地震津浪災害30周年記念碑

チリ地震津波の災害30周年にあたり、災害の防止と豊かな郷土づくりへの誓いを新たにするとともに、同じ被災国であるチリ共和国との友好の碑としてこの碑を建てる。

志津川町における津波の波高5.5メートルの位置から、チリ共和国の国鳥コンドルがはるか祖国をのぞむ。

アンデス山脈の花崗岩でつくられた台座には、チリ共和国から志津川町民への友好のメッセージが刻まれている。

平成2年5月24日
志津川町長　阿 部 公 三

宮城043番
2017/04/10

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町戸倉戸倉30
建立場所 戸倉神社境内　碑高 180cm　碑幅 93cm　海抜 16m







碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心
正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです
戸倉村

波伝谷の津波碑はずいぶん探した。回数にしても５～６回にはなるだろうか。初めは、個人のブログ記事で、津波の引き波により海に運ばれ横倒しで沈んでいると知り、海岸線を数百メートルに渡り探すも見当たらず。工事関係者に尋ねたりもしたが見つけられなかった。最後の津波碑調査で訪れた金華山の帰り道、再度海岸線を探そうと思ったが、国道が付け替えられており、旧道は工事中のため海岸線に行けなかった。新国道は海抜の高いところを通る。そのため、今まで気にも留めていなかった朱塗りの神社が目に入った。もしや・・・・と思いダメ元で足を運ぶと、再建されたピカピカの社の脇に移設されていたのである。ただただ、この幸運に喜び勇んだ次第である。





経緯度 北緯38度38分37秒/東経141度27分55秒

宮城043-2番
2014/04/09

昭和八年三月三日大震嘯災記念

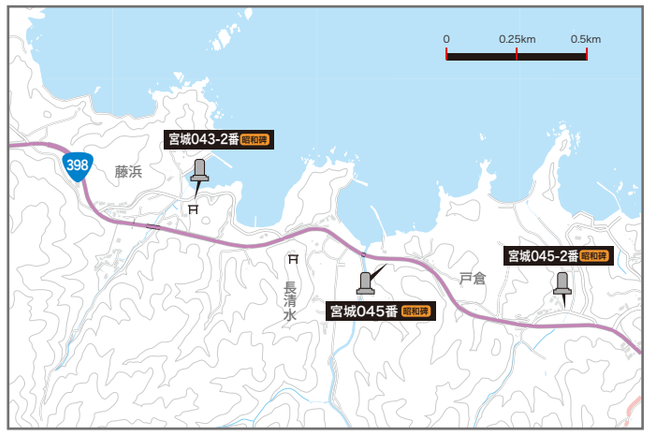
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町戸倉藤浜154
建立場所 無名神社鳥居脇　碑高 200cm　碑幅 95cm　海抜 14ｍ







東北整備局のリストには掲載されていない津波碑を、たまたま個人のホームページにて発見。建立位置の正確な記載はなかったものの、藤浜の海岸沿いを走っていると見つけたとあった。実際現地に足を運ぶと苦もなく見つけることが出来た。リストに載っていてもなかなか見つからないものもあれば、未掲載でもあっさり出逢えるものもある。皮肉なものですなぁ〜。なお、この碑は流失で発見できなかった波伝谷の石碑と同一のもの。どちらも旧戸倉村によって建立されている。



経緯度 北緯38度38分16秒/東経141度30分11秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄
託の義金二十余万円を罹災町
村へ分配した残額をもって建
てたものです

戸倉村

宮城045番 昭和八年三月三日大震嘯災記念

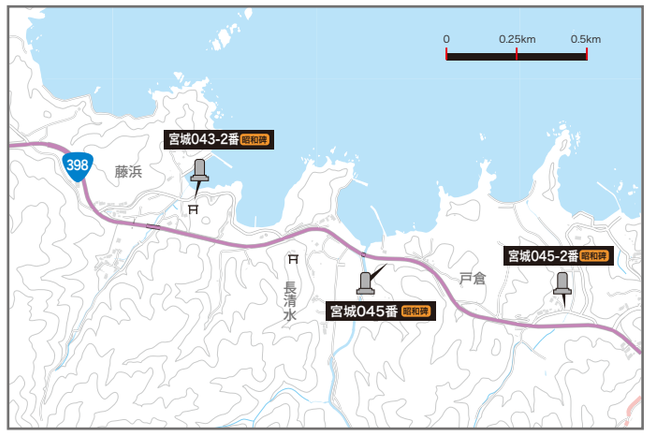
2014/04/09

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町戸倉長清水
建立場所 国道路傍　碑高 205cm　碑幅 93cm　海抜 13ｍ



何もない国道沿いにポツンと建つ。おそらく昭和津波の到達点ではないだろうか。東日本大震災でも、この碑から低地は被災地となっている。なお、この碑は流失で発見できなかった波伝谷の石碑と同一。どちらも旧戸倉村によって建立されている。同型の津波碑は４基建てられたようである。ちなみに、手前にはチェーン脱着用の駐車帯が設けられており、クルマを停めるのには好都合となっている。それはランドマークにもなっている。





経緯度 北緯38度38分09秒/東経141度30分41秒





碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄
託の義金二十余万円を罹災町
村へ分配した残額をもって建
てたものです

戸倉村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

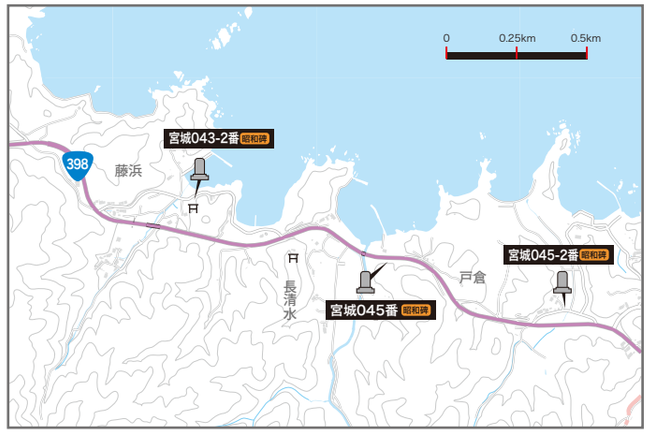
宮城045-2番
2014/04/09

昭和八年三月三日大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 本吉郡南三陸町戸倉下道７
建立場所 一般道路傍　碑高 170cm　碑幅 90cm　海抜 9ｍ



大まかな位置は特定していたものの、現地でなかなか発見できず。２度目に訪れた際、国道から離れた生活道路の土手に半ば埋まるように石の板を発見。いや～これでは見つかりませんよ！と、声高々に言いたくなる場所に建立。なぜこんな人目に付かない場所に、しかも人目に付かない恰好で置かれているのか！？ 数ある津波碑の中でも、存在意義が限りなく無いに等しい、特異な石碑である。想像ではあるが、この生活道路のような一般道が、旧来の幹線道だったのかもしれない。というか、それしか説明がつかない。いずれにしても、現在の国道の位置を考えると、掘り起こして移築した方がよろしいのではないだろうか。なお、この碑も、旧戸倉村建立の同型である。



経緯度 北緯38度38分3秒/東経141度31分6秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです

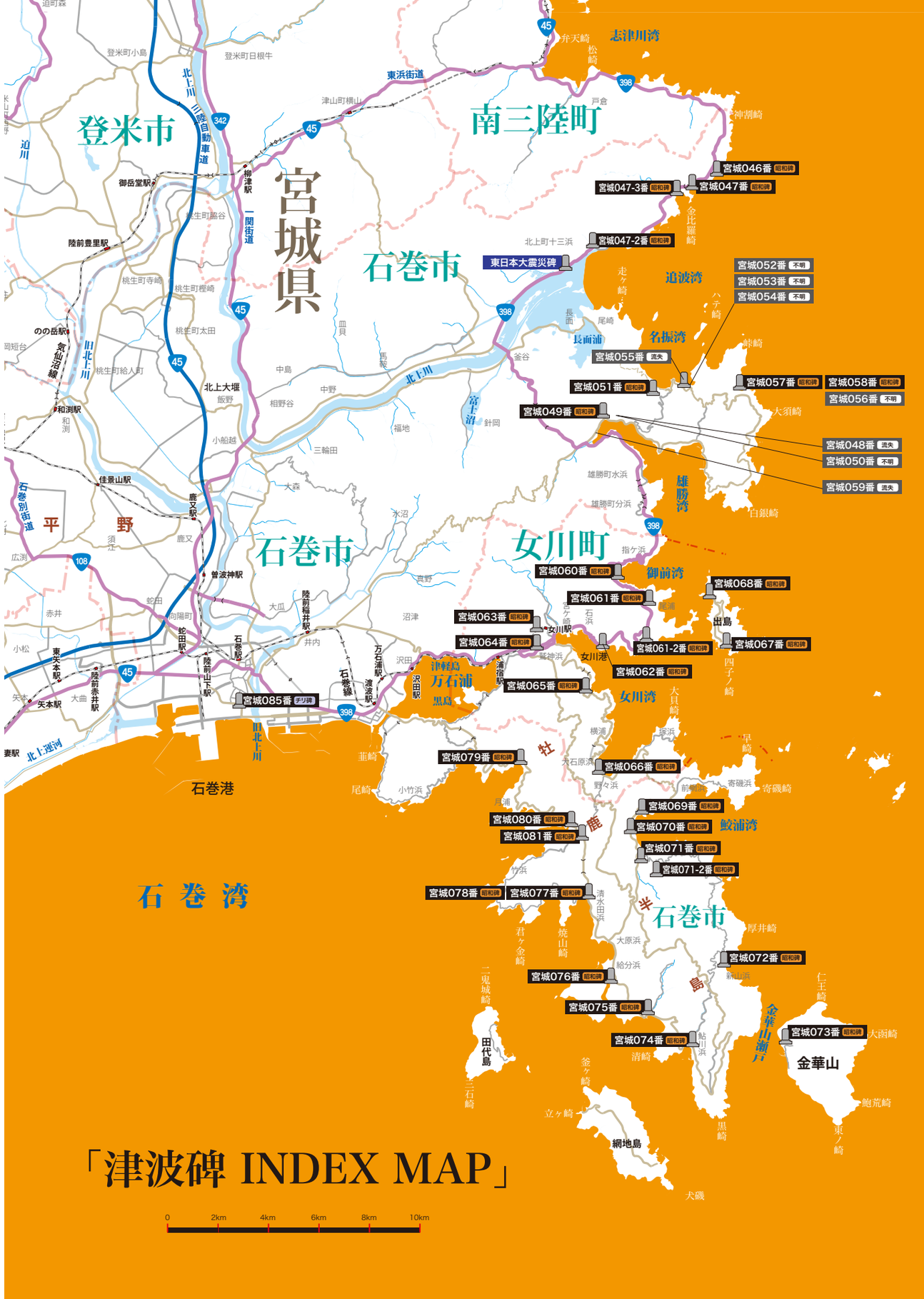
戸倉村

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正済み

宮城県

石巻市・女川町

調査対象津波碑	40基
現存碑	33基
流失碑	3基
不明碑	4基
未確認碑	0基




南三陸町
石巻市
神割崎
宮城046番 昭和碑
宮城047番 昭和碑
宮城047-3番 昭和碑
宮城047-2番 昭和碑
東日本大震災碑
398
追波湾
北上川
北上町十三浜
大指
小指
小泊
大室
小室
白浜
長塩谷
立神
吉浜
月浜
追波
須賀
大岩
二丁谷地
長面
弘象
尾崎
走ヶ崎
ハテ崎
金比羅崎
かもめ島
黒島
双子島
松島
小滝
寺浜
戸倉
長清水
藤浜
在郷
大盤平放牧場
大盤峠
白浜トンネル
十三浜トンネル

「石巻市十三浜地区」

宮城46番
2014/10/23

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 石巻市北上町十三浜大指６
建立場所 一般道路傍　碑高 230cm　碑幅 97cm　海抜 2ｍ



ここは何度も足を運んだがまったく消息不明であった。訪問の都度、数名の漁業関係者に津波碑のことを尋ねるも、誰も知る者がいなかった。やはりここには存在しないのかと諦めかけていたところ、偶然にも漁船の脇に、草むらに埋没している石碑を発見。草をかき分けて写真を撮影。手前に基礎があったため、引き波により倒れたらしく、遠くへ流されてはいない。見つけて安堵はしたが、目と鼻の先にあった物を、地元の人が存在を認知していなかったことには驚いた。この碑を建てた先人が知れば、嘆き悲しむのは間違いないだろう。



経緯度 北緯38度36分35秒/東経141度31分15秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大

地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時、突如、稀なる強震あり。たちまち三陸一帯は津浪に襲われし、人畜の死傷、家屋船舶の流失、損壊、焼失等多く、中には一村全滅の惨禍に至りしもの、その凄惨たる現象は、明治二十九年の嘯害に比しやや少なる。ただ死者の少なきは経験より避難したるものの多きによる。本村は死者一二、傷者九、家屋の流失三二、全半潰一四、床上下五八、船舶の流失破損等ありしも、嘯害の大なるは相川にして、死者の多きは小指部落なり。

この災害に際し、朝日新聞社は多大の同情をもって、事実の通報に義金の募集に率先して、最善の努力を払われ、同社寄託義金二十余万円にのぼり、急速罹災町村に分配せらる。本村もまたその恩恵に浴するも少なからず。この記念碑もその義金をもって建碑せられたるものにして、不幸なる罹災者の供養塔たるのみならず、後世波害予防上の好指標として稗益(ひえき)すること大なるものあらん。

ここに同社深甚の芳情に封じ、永久に感謝の意を表する所以なり。

昭和九年三月三日　十三浜村長　千葉捨治誌

転倒により背面の確認ができなかったが、他の旧十三村建立の碑銘が同じ事から同様と推察。

宮城46番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

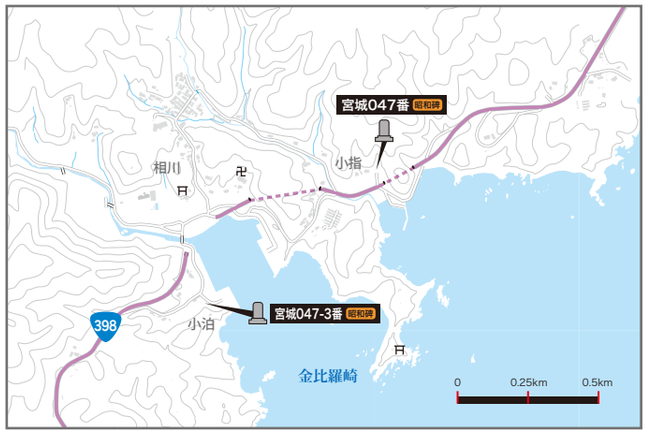
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 石巻市北上町十三浜小指10
建立場所 旧観音堂前　碑高 205cm　碑幅 90cm　海抜 7m



小指地区に着くと、さて、漁港側か、山寄りか。事前に詳細な位置は掴んでおらず。まずは山側から探索、と車を降りるとすぐに目に入る。どうやら観音堂前に建っていたようだが、撤去されて跡形もない。流されたお堂には町指定の重要文化財「木造十一面観音座像」があったようだが、もちろんもろとも失われてしまった。文化財は取り戻しようがない。まことに残念である。なお、現在は新しい集会所が建ったとのことである。



海まではこの近さ



経緯度 北緯38度36分18秒/東経141度30分30秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら 津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時、突如、稀なる強震あり。たちまち三陸一帯は津浪に襲われし、人畜の死傷、家屋船舶の流失、損壊、焼失等多く、中には一村全滅の惨禍に至りしもの、その凄惨たる現象は、明治二十九年の嘯害に比しやや少なる。ただ死者の少なきは経験より避難したるものの多きによる。本村（ほんそん）は死者一二、傷者九、家屋の流失三二、全半潰一四、床上下五八、船舶の流失破損等ありしも、嘯害の大なるは相川にして、死者の多きは小指部落なり。

この災害に際し、朝日新聞社は多大の同情をもって、事実の通報に義金の募集に率先して、最善の努力を払われ、同社寄託義金二十余万円にのぼり、急速罹災町村に分配せらる。本村もまたその恩恵に浴するも少なからず。この記念碑もその義金をもって建碑せられたるものにして、不幸なる罹災者の供養塔たるのみならず、後世波害予防上の好指標として稗益（ひえき）すること大なるものあらん。

ここに同社深甚の芳情に封じ、永久に感謝の意を表する所以なり。

昭和九年三月三日　十三浜村長　千葉捨治誌



読み易いように句読点を挿入し、旧字は修正、片仮名も平仮名に変更

宮城47-3番
2016/04/06

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 石巻市北上町十三浜小泊20
建立場所 漁港前　碑高 200cm　碑幅 95cm　海抜 4ｍ





碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心
正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏



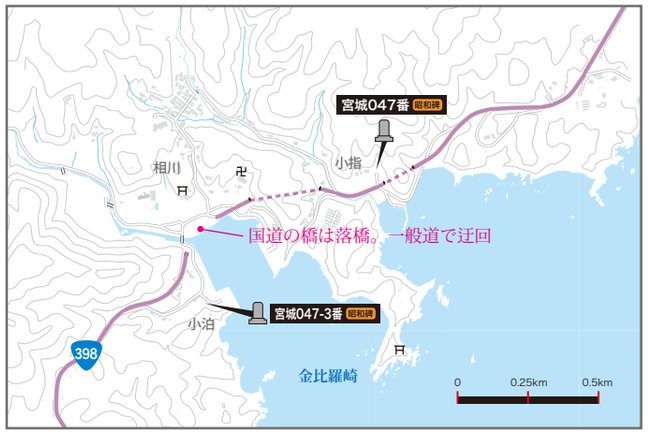
昭和八年三月三日午前二時、突如、稀なる強震あり。たちまち三陸一帯は津浪に襲われし、人畜の死傷、家屋船舶の流失、損壊、焼失等多く、中には一村全滅の惨禍に至りしもの、その凄惨たる現象は、明治二十九年の嘯害に比しやや少なる。ただ死者の少なきは経験より避難したるものの多きによる。本村（ほんそん）は死者一二、傷者九、家屋の流失三二、全半潰一四、床上下五八、船舶の流失破損等ありしも、嘯害の大なるは相川にして、死者の多きは小指部落なり。

この災害に際し、朝日新聞社は多大の同情をもって、事実の通報に義金の募集に率先して、最善の努力を払われ、同社寄託義金二十余万円にのぼり、急速罹災町村に分配せらる。本村もまたその恩恵に浴するも少なからず。この記念碑もその義金をもって建碑せられたるものにして、不幸なる罹災者の供養塔たるのみならず、後世波害予防上の好指標として稗益（ひえき）すること大なるものあらん。

ここに同社深甚の芳情に封じ、永久に感謝の意を表する所以なり。

昭和九年三月三日　十三浜村長　千葉捨治誌

この津波碑はしばらく見つけることができなかった。しかし、どうしても諦められず、折を見てはGoogle mapのストリートビューで探索を続けた。2011年８月の記録では台座らしき物は映っていたが、石碑自体はナシ。2015年８月の映像には台座すら映っていなかった。(のちに雑草に隠れていたことが判明)。そうして2016年４月に小泊を通過の際、再度立ち寄ると、ご覧の通り津波碑が復活していた。写真では判りにくいが、表面には無数の傷が付いてる。激しく流されたことが判る。この日、ハタと感じたのが、復興工事が完了された目の前の漁港と真新しいアスファルトの路盤。筆者が訪れた直前に工事が完了したのだろう。その際、この津波碑を再建したのは漁港の工事関係者ではないかと推理した。流された碑を保管しておき、現場から去る前の置き土産に作業したのではないだろうか。この工事関係者に賞賛を贈りたい！



経緯度 北緯38度36分3秒/東経141度30分5秒

宮城47-2番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 石巻市北上町十三浜月浜13
建立場所 国道路傍　碑高 190cm　碑幅 85cm　海抜 1ｍ



国道398号を走行していると、突然、周囲に何もない荒涼とした道路脇に津波碑が建っている。いったいなぜこんな所に？と訝(いぶか)しんでいたが、弊誌編集のため調べると、実は周辺には商店や家屋、消防のポンプ小屋など、道路沿いにズラリと家屋が建ち並んでいたのである。しかし、今となっては人の営みがあったとは想像できないほどに原野と化してしまった。唯一残っているのがこの津波碑である。今後、この地に人の生活が戻るかどうかは不明だが、未来永劫、この碑だけはこの場所に立ち続けるのだろう。そう考えると胸が熱くなる思いである。

なお、旧十三浜村が建立した津波碑４基のうち、この碑だけが白墨を入れてある。想像になるが、近隣住民の方でこの石碑を大事にしていた人が個人で白墨を入れたのではないだろうか。よく読めるように、よく注意するようにと。



経緯度 北緯38度34分27秒/東経141度27分03秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏



昭和八年三月三日午前二時、突如、稀なる強震あり。たちまち三陸一帯は津浪に襲われし、人畜の死傷、家屋船舶の流失、損壊、焼失等多く、中には一村全滅の惨禍に至りしもの、その凄惨たる現象は、明治二十九年の嘯害に比しやや少なる。ただ死者の少なきは経験より避難したるものの多きによる。本村(ほんそん)は死者一二、傷者九、家屋の流失三二、全半潰一四、床上下五八、船舶の流失破損等ありしも、嘯害の大なるは相川にして、死者の多きは小指部落なり。

この災害に際し、朝日新聞社は多大の同情をもって、事実の通報に義金の募集に率先して、最善の努力を払われ、同社寄託義金二十余万円にのぼり、急速罹災町村に分配せらる。本村もまたその恩恵に浴するも少なからず。この記念碑もその義金をもって建碑せられたるものにして、不幸なる罹災者の供養塔たるのみならず、後世波害予防上の好指標として稗益(ひえき)すること大なるものあらん。

ここに同社深甚の芳情に封じ、永久に感謝の意を表する所以なり。

昭和九年三月三日　　十三浜村長　千葉捨治誌

「石巻市雄勝地区」

0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

宮城051番 昭和碑

宮城052番 不明
宮城053番 不明
宮城054番 不明

船越地区の3碑は不明
位置の特定もならず

宮城055番 流失

宮城056番 不明

荒地区の1碑は不明
位置の特定もならず

宮城057番 昭和碑
宮城058番 昭和碑

宮城049番 昭和碑
宮城048番 流失

雄勝地区の1碑は不明
位置の特定もならず

宮城050番 不明

宮城059番 流失

県道並みの道路、短縮に使える

県道並みの道路、短縮に使える

石巻市

石巻市

雄勝湾

雄勝湾

尾ノ崎峠
名振湾
峠崎
杉ノ浜
船越湾
小泊
雄勝町船越
清水
船越
荒
荒峠
小浜
西
中
東
雄勝町名振
明神山
小渕山
伊勢畑
雄勝町明神
明神
沼尻
下雄勝
石峰山
大浜峠
大日陰
大須崎
黒磯
大須
雄勝町大須
船隠
小富士山
館森
雄勝町小島
小島
和田
小滝浜
雄勝町大浜
大浜
袖浜
寺下
天神
雄勝町立浜
立浜
雄勝町熊沢
熊沢
大畑
雄勝町桑浜
桑浜
羽坂
丁名崎
白銀崎
雄勝町雄勝
上雄勝
雄勝漁港
雄勝港
呉壺
小渕
味噌作
寺
折下
船戸神明
唐桑
中倉
雄勝町水浜
水浜
向
小浜
雄勝町分浜
分浜
波板

238
398
192

宮城049番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市雄勝町雄勝伊勢畑26-57
建立場所 雄勝支所前　碑高 230cm　碑幅 90cm　海抜 5m







碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余り万円を羅災町村へ分配した残額をもって建てたものです

十五浜村

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大

地震があったら津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

石巻市雄勝支所庁舎前に建つ津波碑。庁舎は津波により全壊したが、この石碑と「雄勝町庁舎」と刻まれた銘石は残った。しかし、その表面は瓦礫によるものか、激しく傷が残っており、津波の凄まじさを物語る。碑の背後にはプレハブ2階建ての仮設商店が営業していた。せめてもの応援にとお昼の弁当を購入。しかし空しいのは、この周辺に建物といえばここだけなのである。各地で街並みが失われているが、完璧に100%街が消滅したのはこの雄勝地区のみであろう。それほどまでに甚大な被害が出ている。雄勝湾は間口が比較的広いが、最奥部は10分の1程度に狭まっている。津波は湾が狭くなるにつれ波高が上がる。リアス式の三陸海岸で津波被害が大きいのはその理由だが、特にここ雄勝は顕著だった。





経緯度 北緯38度31分21秒/東経141度28分14秒

倒壊した庁舎前に残る傷だらけの銘石、脇には黒御影石の津波到達碑が建つ

碑の表面は傷だらけ、よくこれで助かったものだ

宮城051番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市雄勝町名振西41
建立場所 空き地　碑高 226cm　碑幅 100cm　海抜 5m







名振り地区に足を運んだが、海岸沿いに家屋といものは一切存在しておらず、本来あるはずの老人憩いの家は影すらもない。元の住宅地は一通り見渡せるほどの広さしかないにもかかわらず、石碑の類いは確認できなかった。一旦出直し、翌週に再訪すると、嵩上げ工事用の土砂の陰にポツリと建つ碑を発見。これでは海側より見渡しただけでは見つかるわけがない。しかし、津波により転倒することなく残ったのか、修復されたのかは不明だが、どこか、帰らぬ主(あるじ)を待つ忠犬のようで寂しさがこみ上げた。



経緯度 北緯38度31分54秒/東経141度29分39秒

碑文表

昭和三年三月三日
大震嘯災記念
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余り万円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです

十五浜村

宮城058番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市雄勝町船越荒50
建立場所 海浜　碑高 190cm　碑幅 82cm　海抜 3m





荒地区に着くと破壊された小さな港と、小高い位置に建ち難を逃れた家屋があった。すぐに津波碑は確認できず、これは尋ねるのが一番と、近くのお宅に飛び込み津波碑の所在を尋ねると、老齢の男性が長靴を履いて案内してくれた。まずは、住宅手前の電信柱の根本に倒れた石柱を教えてくれる。これはブラブラ歩いただけでは見つからなかっただろう。もう一基は浜辺に倒れ、半分砂に埋まった状態の石碑だった。松林があり、海岸に出る通路脇に建っていたと教えられた。さらに、この荒地区では先人の教えを守り、昭和海嘯の津波到達ラインより上に家屋を建て、低地には、漁具を収納する納屋のみを建てたと話してくれた。今回はそれより波高が高く、1軒の家屋が流されたが、その他は無事だった。先人のお陰としみじみ話してくれた。高齢なうえ昼時に休んでいるところを、わざわざ案内頂き感謝の念に堪えない。



経緯度 北緯38度31分54秒/東経141度31分50秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
地震があったら
津浪の用心

正六位勲六等四竈仁通書

宮城057番



57番碑は電柱の足元に転倒のままだった

「女川町市街周辺〜出島」

いずしま

女川町
御前湾
女川湾
出島
宮城060番 昭和碑
宮城061番 昭和碑
宮城061-2番 昭和碑
宮城062番 昭和碑
宮城063番 昭和碑
宮城064番 昭和碑
宮城065番 昭和碑
宮城067番 昭和碑
宮城068番 昭和碑
女川町役場
女川駅
女川漁港
女川港
398
41
217
220
コバルトライン
旧道
新道
0 0.25km 0.5km 0.75km 1km

宮城060番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町御前浜御前63
建立場所 一般道路傍　碑高 182cm　碑幅 76cm　海抜 2m





初回の訪問時は、ご覧の通り倒れたままの状態で放置されていたが、その後、近くを通過の際、一帯の全面嵩上げ工事を行っていた。さすがにこのまま土を盛っているとは考えにくい。嵩上げ工事と共に再建するのではないかと思われるが、石碑はタテに真っ二つに割れている状態でもあり、現在の状況は不明。
※2017年４月の現地確認では工事進行中であった。進捗は50%以下に見えた。



経緯度 北緯38度27分57秒/東経141度28分32秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大

大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

転倒のため碑銘は確認できなかったが、女川町に建つ津波碑の碑文がすべて同一であることから、これも同じと推論した

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へす、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。
この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城061番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住 所 牡鹿郡女川町尾浦尾浦 26
建立場所 神社鳥居脇　碑 高 185cm　碑 幅 80cm　海 抜 35ｍ



この碑の発見には非常に難儀した。手元の資料に「羽黒神社鳥居脇」に建つとある。名称の定まる神社であるから、すぐに見つかると思いきや、国道沿いには神社らしきものはナシ。もしくは案内板くらいはあると期待したがそれもナシ。またいい加減な記載かと思い、国道を何往復、何十キロ無駄走りしたことか。すると、たまたま道路脇の駐車帯で作業をしていた工事関係者に神社の所在を尋ねると、国道下にある保福寺の手前に山道がある。そこを歩いて数分と教えられた。つまり、この神社は徒歩でしか行くことができないのである。車窓から探したのでは見つかるはずもなかった。とにかく「尋ねる」という行為は省略してはならない、と強く感じたのであります。

この碑へのアクセスは、一筋縄では辿り着けないため、次項にて詳細な道案内を記載します



碑文表

昭和三年八月三日
大震嘯災記念
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心



碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。
この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

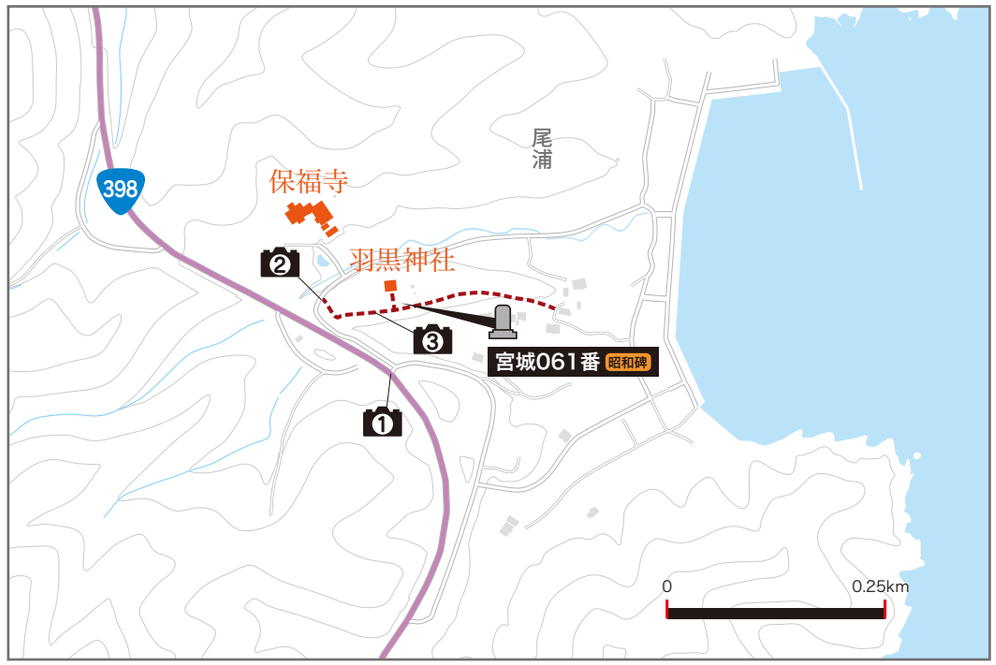
女川町

宮城061番 大震嘯災記念碑へのアクセス

地図を見ればあっさり辿り着けるが、現地には看板ひとつないため、
一切の情報なしでは、まず辿り着くことはできない。



① 女川方面より北上して観た写真。「保福寺」の間道へ降る



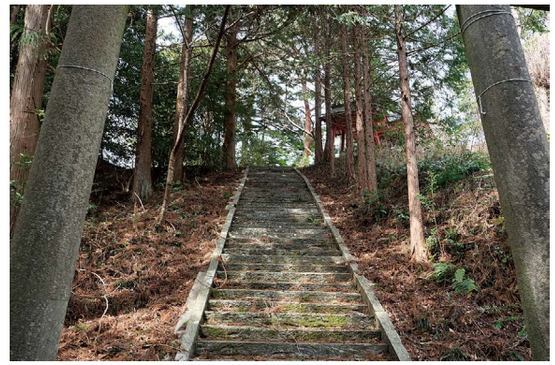
経緯度 北緯38度27分15秒/東経141度29分26秒

② 白い手摺りの階段から山道へ入る





③ 人っ子一人いない山道を進む





津波碑の建つ鳥居をくぐり石段を登れば、霊験あらたかな神社がある

宮城061-2番 昭和八年三月三日 大震嘯災記念

2017/04/10

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住　所 宮城県牡鹿郡女川町竹浦月浜35
建立場所 五十鈴神社境内　碑　高 178cm　碑　幅 80cm　海　抜 16ｍ







竹浦の津波碑は最後まで見つけられなかった。実は2013年5月撮影のGoogle mapストリートビューに映っていたため正確な位置は把握できていた。しかし、現地に足を運ぶと無かったのである。工事のために一時保管であろうと思い、港湾工事や高台移転の完了まで待った。そして2016年に再訪するもやはり無い。この碑は半ば諦めていた。2017年最後の調査の際、今一度と思い再訪。港周辺には見当たらなかった。もう帰ろうと思い、ふと頭を上げると高台の木々の間から赤い建物が見えた。もしや、と思い登ってみると、2014年3月建立の「女川いのちの石碑」脇にあった！おそらく平成碑と共にこの場所に移転されたのであろう。この情報を掴んでいなかったために、何度も無駄足を踏んでしまった。津波碑からみれば「早く私を見つけてね」と、ウロウロしている筆者を高いところから覗き込んでいたような気がする。



経緯度 北緯38度26分37秒/東経141度29分19秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。

この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城061-2番 大震嘯災記念碑周囲の様子

高台移転された宅地への道すがら竹浦を一望するところがある。
水色のラインは津波浸水高である。自然の驚異がよく理解できる光景である。





神社の足元まで津波が到達している



平成の津波碑と並んで移設されていた

宮城062番
2015/08/15

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町石浜崎山展望公園
建立場所 崎山展望公園　碑高 170cm　碑幅 80cm　海抜 59ｍ



女川市街地より国道を東へ登り詰めた辺りに小さな展望公園がある。東日本大震災で地盤が緩み、崩落の危険から立入禁止となっている。この公園の東端に津波碑がある。幸いに立入禁止処置の柵から外れており、とりあえず見ることはできるが、柵外でも崩落の危険はあるので、自己責任＆十分な注意のうえで訪れてもらいたい。



展望公園は立入禁止



経緯度 北緯38度26分23秒/東経141度28分07秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大

大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

昭和六十三年二月　石浜字高森十三番地からこの公園に移転



碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。

この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

「女川町中心市街地」

0　0.25km　0.5km

女川浜

役場駐車場

駐車場の隅にシートをかけて保管中

宮城063番 昭和碑

女川町役場

女川小学校

女川中学校

大原

伊勢

宮ヶ崎

石浜

女川温泉ゆぽっぽ

女川駅

女川駅前賑わい拠点

女川

398

女川地域医療センター

女川港

女川湾戦没者慰霊塔

2014年訪問時はここに健在したが、
現在は嵩上げ工事のため移動されている

宮城064番 昭和碑

旧国道

黄金町

41

シーパル女川離島航路　金華山・出島・江島

宮城062番 昭和碑

荒立

398

鷲神

鷲神浜

220

小乗浜

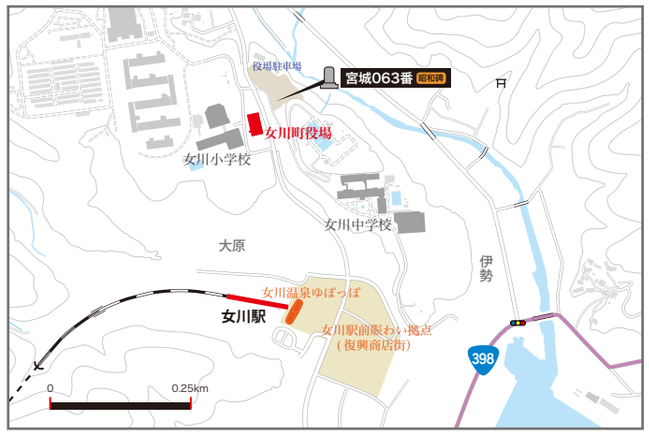
宮城063番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町女川浜大原460−6
建立場所 役場駐車場　碑高 188cm　碑幅 80cm　海抜 24ｍ



被災前の町役場前に建立していた津波碑。来訪の時はすでに復興の嵩上げ工事の最中で、むろん役場は解体済みで何もなし。そのため、仮庁舎まで出向き所在を確かめることにした。担当部署に案内されると、課長さん、部長さんまで出てきての有り難い応対を受ける。いろいろ調べていただいた結果、役場専用駐車場の隅に、被災した役場関連の銅像や石碑を保管していることが判明。津波碑はブルーシートにくるまれ保管されていた。付き添ってくれた職員の方が、わざわざブルーシートを剥がしてくれ写真を撮らせて頂いた。復興で超多忙の所をノーアポで出向いた筆者に、嫌な顔ひとつせず協力して頂き、まことに感謝の極みであった。本設の町役場が完成の暁には、以前同様庁舎前に再建されるという。必ず再会に訪れたいと思う。



経緯度 北緯38度27分02秒/東経141度26分36秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。
この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城064番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町鷲神浜堀切山29
建立場所 国道路傍　碑高 180cm　碑幅 80cm　海抜 3m







東北整備局の資料に「熊野神社」と記載されていたため、迷うことなく神社の社殿へ向かう。この神社は女川地域医療センターの裏手にあり、長〜い石段を登り詰めたところにある。一気に登れば息も絶え絶えである。ところが、どこを見ても石碑の類いは見当たらない。そんなことはなかろうと、しらみつぶしに見て回るもない。今回は諦めて次のポイントへ移動と国道398号を走行していると、見栄えの悪い石段の陰に石碑らしきものを発見。まさにこれだった。この石段、被災前は鳥居や灯籠などがあり、毅然とした構えの熊野神社の参道口であった。津波により破壊されていたため、国道を走行中の車窓からは神社に見えなかったのである。参道は見事に破壊されたが、階段が防波堤の役目を果たし難を逃れたのである。

現在この場所は、復興の嵩上げ工事で国道が付け替えられ、盛土の下になっている。また、高台にあった熊野神社も、嵩上げ用の土砂を採取するために移転されて今はない。碑は撤去保管されていると思われる。



経緯度 北緯38度26分27秒/東経141度26分29秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へす、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。
この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城065番
2014/04/03

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町高白浜崎山58
建立場所 一般道路傍　碑高 167cm　碑幅 80cm　海抜 2m



県道から側道に進み小さな漁港である高白浜に降りると、背の低い防波堤沿いに、高さ1.5ｍとやや高めの住宅基礎が残っている。この程度の嵩上げでは津波に対して効果は無いが、高潮程度なら十分回避できたのであろうか。その基礎が、津波碑を囲うように作られている箇所がある。家を建てる前からここに石碑があり、移動することなく無理やり基礎を逃がしたのだろう。そのお陰で今回の津波にも抵抗でき無傷で残った。ただ、これでは背面の碑文はまったく読めない。建てた先人の気持ちとしては、少々ガッカリだろうか。



経緯度 北緯38度25分29秒/東経141度27分46秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

碑文裏

女川町内に建つ津波碑と同文とのことだが、
確認できないために掲載は見送り

宮城067番
2017/04/10

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町出島寺間2-1
建立場所 厳島神社鳥居脇　碑高 190cm　碑幅 77cm　海抜 15ｍ



牡鹿半島の周囲にはいくつもの離島があるが、津波碑が存在するのは金華山と出島（いずしま）の２島。出島は南北に３キロほどの小島ながら津波碑は２基建っている。第３セクターが運営する離島フェリーの埠頭も２箇所あり、他の離島とはちょっと扱いが異なる。当該津波碑は、寺間地区にある厳島神社鳥居の脇に建つ。現地を訪れると平成の津波碑「女川いのちの石碑」も建っていた。このいのちの石碑にも刻まれているが、鳥居の建つ位置は津波のデッドラインである。今回の震災でもここまで到達しており、鳥居直下の住宅は基礎を残すのみとなっている。そのためこの津波碑は明らかに警告の意を込めたものであることが判る。





経緯度 北緯38度26分27秒/東経141度31分36秒





碑文表

大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

昭和三年八月日
大震嘯災記念

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。

この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城068番
2017/04/10

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町出島出島３
建立場所 旧出島郵便局跡　碑高 178cm　碑幅 77cm　海抜 1ｍ



出島（いずしま）に建つもう一基の津波碑は、出島郵便局の脇に建っていた。左記に述べたとおり、出島にはフェリー埠頭が２つあるが、この２箇所を結ぶ交通機関はない。寺間埠頭からこの出島埠頭までは徒歩で4km近くあった。しかし、初めて歩く島の道は新鮮で時間を感じることはなかった。ネットの情報で郵便局の建屋は無く津波碑のみが残っていることは知っていたが、現地に着くと、津波碑だけがポツンと立ち、周囲に何もない空間にあ然とした。果たしてこの津波碑は自力で抵抗できたのか、いったん流されたものを復元したのか、調べたが情報はなかった。いずれにせよこの石碑の生命力の強さには感心した。





経緯度 北緯38度27分30秒/東経141度31分8秒



碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大
大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心



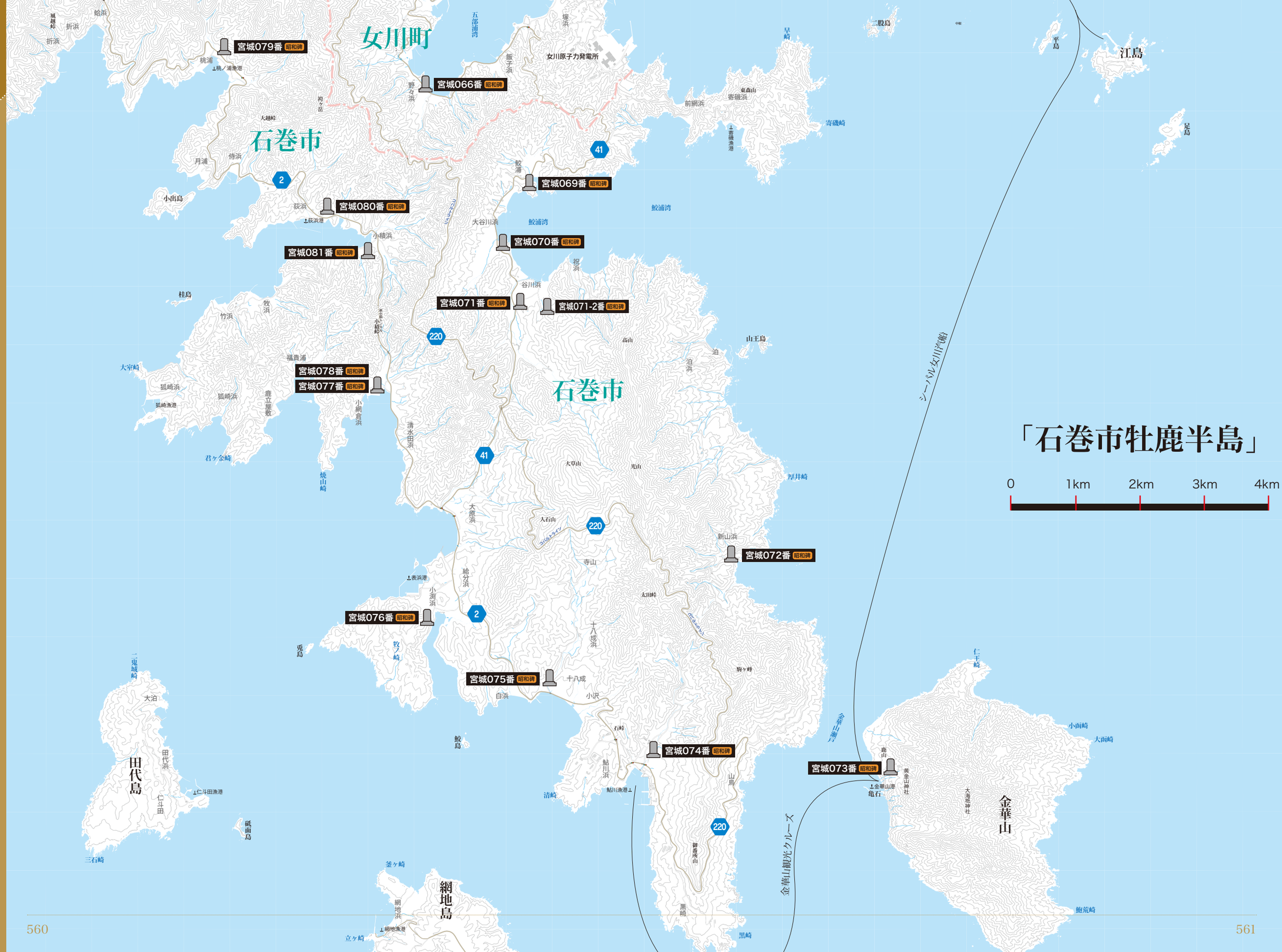
碑文裏

畏（かしこ）くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召（きこしめ）され、特に罹災者に対して救恤金（きゅうじゅつ）を御下賜（ごかし）あらせらる。洵（まこと）に恐懼感激（きょうくかんげき）に堪（た）へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。

この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町


女川町
石巻市
石巻市
宮城079番 昭和碑
宮城066番 昭和碑
宮城069番 昭和碑
宮城080番 昭和碑
宮城070番 昭和碑
宮城081番 昭和碑
宮城071番 昭和碑
宮城071-2番 昭和碑
宮城078番 昭和碑
宮城077番 昭和碑
宮城072番 昭和碑
宮城076番 昭和碑
宮城075番 昭和碑
宮城074番 昭和碑
宮城073番 昭和碑
女川原子力発電所
江島
シーパル女川汽船
金華山観光クルーズ
田代島
網地島
金華山
0
1km
2km
3km
4km

「石巻市牡鹿半島」

宮城066番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震嘯災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 牡鹿郡女川町野々浜漁港
建立場所 漁港　碑高 170cm　碑幅 75cm　海抜 1ｍ







野々浜漁港の入口に建っており、津波の直撃を受けて倒壊したようだが、台座のモルタルが真新しく、被災後速やかに修復されたようだ。来訪の折は漁港施設も修復中だったが、何よりも津波碑の修復を先行するとは敬服の至りである。翌年、再訪の折には、漁港の復旧は完了し、高台への住宅移転も済んでいた。小さな地区ではあるが、確実に復興が進んでいるという印象を受けた。



経緯度 北緯38度23分42秒/東経141度28分07秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災嘯震大

大地震の後には津浪が来る
地震があったら津浪の用心

碑文裏

畏くも天皇皇后両陛下には、災害の甚大なるを聞召され、特に罹災者に対して救恤金を御下賜あらせらる。洵に恐懼感激に堪へず、ここに聖恩の宏大なるを永く後世に伝へんとす。

この記念碑は、朝日新聞寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額をもって建てたるものなり。

昭和九年三月三日

女川町

宮城069番
2014/10/23

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市鮫浦細田11
建立場所 熊野神社参道跡　碑高 183cm　碑幅 93cm　海抜 6m





鮫浦地区に津波碑があることは承知していたが、何度足を運んでも発見できなかった。そのため、勝手に津波により流失したのだろうと処理していた。ところが上西氏の資料に、「神明社の参道口に建つ」という記載がある。そこで再度足を運んだ。すると、小高い丘に小さな社（熊野神社）を見つけ、神社の麓に幾つかの石碑が横たわっているのを見つける。目的の津波碑はその中のひとつだった。当所の探索では道路端ばかりを探したのが敗因。残念ながら、当該碑はうつ伏せに転倒しており放置されていた。石碑の周囲は土が露出した斜面だったが、津波を受ける前はきちんとした参道だったと想像がついた。神社のさらに後方には新たな住宅地が造成されている。地区の高台移転が完了すれば、神社と石碑の再建もされるであろう。



経緯度 北緯38度22分51秒/東経141度29分12秒

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村

碑文表

転倒のため表面は確認できかったが、旧大原村建立の他碑と同文であるが数値は不明

日三月三年八和昭
念記嘯震大

一地震があったら津波の用心
一津波が来たらこれより高い所へ
一危険区域内に住居をするな

発震の時　午前二時三十分
津波の襲来　午前三時
津波の高さ　■■■■■

被害状況
住家床上浸水　■■戸
住家床下浸水　■■戸
耕地浸水　田■■町■反歩　畑■■町■反歩
其他漁船漁具農具及家財多数流失

宮城070番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市大谷川浜川向1
建立場所 浜辺・海岸線　碑高 182cm　碑幅 92cm　海抜 11m







大谷川浜の津波碑は、元あった場所に置いてある、と表現するのが適当だろうか。写真で見ると何もない砂浜の、何もないやや小高い場所に、ただ石碑のみがポツンと突っ立っている、という印象。しかし、ここには住宅が建っており、漁港があり、集落もあった。裏手には小学校と神社も。今は、立体物といえば、この津波碑、壊れた水門、そして遠目にただ1軒生き残った家屋一棟のみである。あとは、茶色一色の殺伐とした更地が広がるのみ。過去の津波よりも高い場所に建てた石碑も直撃を受けた。今回の震災は如何に巨大なものであったのかが窺い知れる場所であった。



碑の後ろには家屋の基礎が残る



経緯度 北緯38度22分21秒/東経141度28分58秒

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村

碑文表

昭和三年三月三日
大震嘯記念

一 地震があったら津波の用心
一 津波が来たらこれより高い所へ
一 危険区域内に住居をするな

発震の時　午前二時三十分
津波の襲来　午前三時
津波の高さ　四・八米

被害状況
住家床上浸水　十三戸
住家床下浸水　三戸
耕地浸水　田三町七反歩　畑一町七反歩
其他漁船漁具農具及家財多数流失

宮城071番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市谷川浜
建立場所 県道路傍　碑高 188cm　碑幅 95cm　海抜 8m



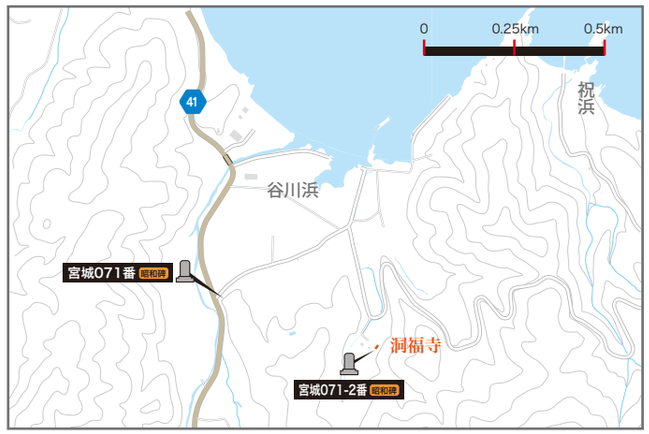




旧大原村が建てた津波碑３基のひとつ。唯一漁港から離れた場所に建てられている。なぜこのような場所なのかは判らないが、県道から漁港への入口に位置するため、危険エリア進入に対する注意喚起が目的だったのだろうか。海岸までは500ｍ近く離れているが、一切の人工物がない。エリア内を通る道路もあり、ここが住宅地であったことは間違いない。背後の斜面を見ると、波高７～８ｍほどの浸水跡が見られる。過去の津波波高の２倍である。凄まじいの一言に尽きる光景だった。



海までいっさい何もない



経緯度 北緯38度21分50秒/東経141度29分07秒

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大

一地震があったら津波の用心
一津波が来たらこれより高い所へ
一危険区域内に住居をするな

発震の時　午前二時三十分
津波の襲来　午前三時
津波の高さ　四・八〇米

被害状況
死亡者二十四名　住家床上浸水　二戸
行方不明者　二名　同床下浸水　三戸
負傷者　二十二名　耕地浸水　田八町歩　畑八反歩
住家全流失　二十九戸
同半流失　三戸
其他漁船漁具農具及家財多数流失

宮城071-2番
2014/10/23

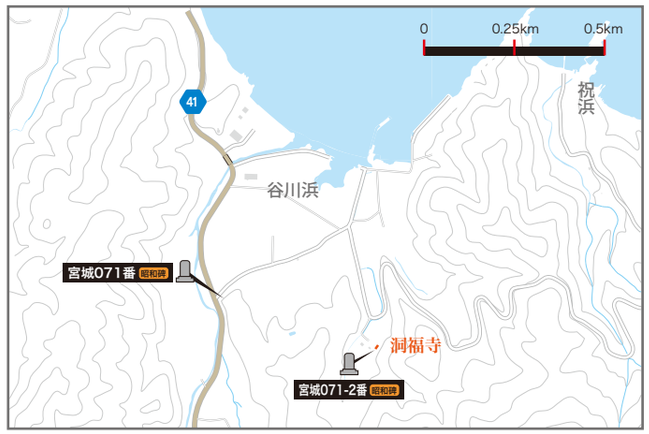
昭和八年海嘯溺死者供養塔

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年旧２月８日　住所 石巻市谷川浜中井道７
建立場所 洞福寺境内　碑高 230cm　碑幅 93cm　海抜 14ｍ





東北整備局のリストには掲載されていない津波碑で、上西氏の資料により情報を得る。同地に足を運び石碑のサイズを計測していると、傍らで地蔵に屋根を掛けていた大工さんに、「何をしているのか！」と注意された。最初に、こんにちは程度の挨拶はしたのだが、石碑の撮影と計測に大工さんの許可は無用だろうと作業を始めたのであった。ところが、大工作業をしている内の一人がご住職だった。いやはや、ねじりハチマキ姿ですっかり作業員かと思った次第。津波碑巡りの旨を説明すると、当該石碑は今回の津波により流されたため、山門前から現在の場所に移設したことや、開山から500年、一度も津波は山門に到達したことがなかったが、今回は山門どころか本堂まで完全に破壊された等々、親切に説明を頂いた。まさに1,000年に一度の大津波と力説していたのが印象的だった。



経緯度 北緯38度21分46秒/東経141度29分23秒

碑文表

昭和八年
嘯溺死者供養塔

碑文台座

谷川念仏講中
石森つま
阿部さよ
石森かつ
吉光よね
三浦よしえ
渥美はるの
村上ふじ
昭和九年
旧二月八日建之

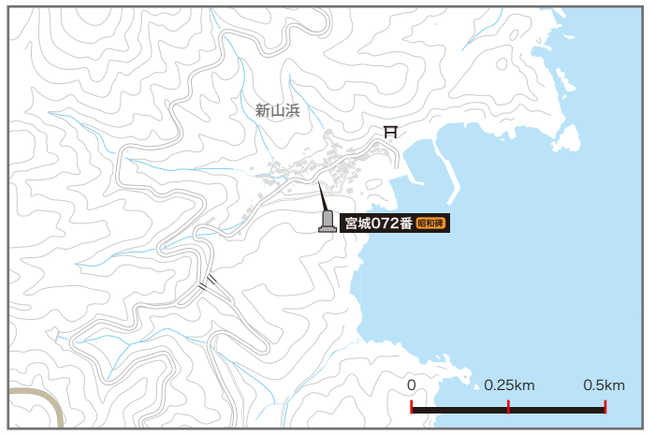
宮城072番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和９年３月３日　住所 石巻市新山浜不動沢３
建立場所 一般道路傍　碑高 175cm　碑幅 75cm　海抜 25ｍ



新山浜へは急勾配の坂道を一気に降るが、その坂道の両側にびっしりと家屋が建ち並んでいる。明らかに津波に警戒しての高台住居である。その半ばに石碑群があり最も左手に津波碑が置かれている。碑文には、津浪襲来の折にはこの碑より上に逃げるようにと刻まれている。実際は、この碑より下にも家屋が建っているが、東日本大震災では全棟が無事のようである。最下部の家屋で海抜15mと割りと低いのだが、新山浜は湾口が広く開け奥が狭くないため、高い遡上波が起きないのだろう。それでも、当時は沖から迫る津波を見て、気が気ではなかっただろう。



経緯度 北緯38度19分42秒/東経141度31分26秒

碑文表



昭和九年三月三日建設

大震災記念

地震があったら
津波の用心
それや来た逃げよう
此の場所へ

新山実業団中

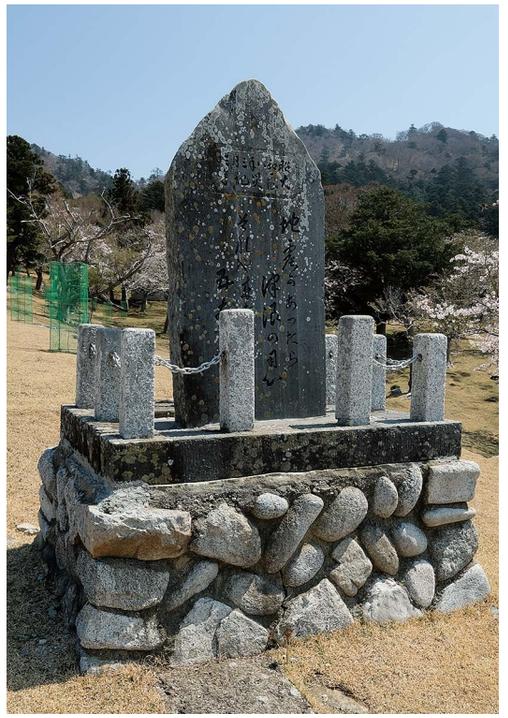


宮城073番
2017/04/16

昭和八年三月三日 大震災記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市鮎川浜金華山5
建立場所 黄金山神社境内　碑高 175cm　碑幅 85cm　海抜 50m







離島である金華山への津波碑訪問は最後の最後になってしまった。2017年4月16日、まさに記念すべきラストの碑である。1基目の津波碑対面は2014年4月3日であるから、実に3年と16日目の達成である。そのラストにふさわしく、石組みの台座に玉垣で囲まれ、眼下の海を遥かに望んで建っている。実に凛とした姿の津波碑である。しかし、よりによって意味のわからない碑文が最後にきた。「それや来た逃げよう五本松」の五本松っていったい何？なにか深い意味でもあるのだろうか、調べてみたが判らない。最後の最後に消化不良とは！



経緯度 北緯38度17分50秒/東経141度33分5秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記災震大
地震があったら
津波の用心
それや来た逃げよう
五本松

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです



金華山にある黄金山神社は想像以上に立派で広い境内。いくつもの社殿があり、ここですべては紹介できません。上の写真は拝殿で奥に本殿があります。フェリー埠頭から勾配のきつい坂を登り、さらに傾斜が続く表参道を進み、境内に入ると、これまた急勾配の長い石段を登り辿り着きます。ここまで写真を撮りながらであるものの30分近い時間がかかります。

心臓破りの急坂を登り、表参道を進む。復興工事は依然続いている状態



至るところに鹿さん



埠頭には立派な休憩場が完成

金華山航路と黄金山神社

金華山への2つの航路があります。潮プランニングの女川-金華山航路、シードリーム金華山汽船の鮎川-金華山航路です。今回は鮎川港から金華山へ向かいました。所要時間は20分と短いのですが、日曜日の1便しかありません。この日は10：30出港－12:50帰港で、島の滞在時間は2時間ほど。神社参拝には時間に余裕があるくらいですが、金華山登山は時間が足りません。フェリーは定員72名で小さいために完全予約制となっています。今回は4月で70%ほどの乗船率でしたので、夏場はほぼ満席となるでしょう。

20分と短い乗船ですが、ハッキリと言いますが、けっこう揺れます。ローリングもピッチングも沖合では激しいです。船酔いに自信がない人は、乗船前に酔い止め薬は必須でしょう。



鮎川のフェリー埠頭。青いゲートは津波にも耐えて生き残った。





これが金華山へ運んでくれるドリーム号

宮城074番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市鮎川浜大台31
建立場所 鮎川集会所敷地　碑高 165cm　碑幅 75cm　海抜 11ｍ







鮎川浜と十八成浜の２基の津波碑が所在を掴めず、牡鹿総合支所に尋ねることとした。総合案内で用件を伝えると、２階の担当部署に通された。すると、職員数名と課長さんまでも応対して頂いた。あ～だこ～だと、あちこちの資料をひっくり返し、なんとか２基の位置が判明。鮎川浜の碑については、課長さん直々に、会議室の窓越しに指差しで正確な場所の指示を頂いた。震災復興の忙しい時期にも関わらず、大変丁重な対応に感謝であった。しかし、その碑は鮎川集会所の敷地にあったが、残念なことに背面にゴミステーションが作られ、碑文はまともに読めない状態になっていた。先人が建てた大事な碑だけに、建立状態はよくよく考慮してもらいたいものである。

なお、この場所は元々国民健康保険病院であったが、現在は集会所となっている。海抜はわずか11ｍしかないが、ここまで津波は上がっていない。避難所としてはギリギリの高さだろう。



経緯度 北緯38度17分52秒/東経141度30分40秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大
地震があったら
津波の用心
それや来た逃げよう
此の場所へ

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

宮城075番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市十八成浜山下9
建立場所 牡鹿町老人憩いの家敷地　碑高 160cm　碑幅 85cm　海抜 5m





老人憩いの家に碑があった。東北整備局の資料では「十八成浜」としか記載がないため、自力では絶対に発見できない場所だったと思われる。前項の鮎川浜の碑とともに、役所で尋ねて大正解だった。しかし、せっかく見つけた碑の状態はとても残念であった。というよりも、建立した先人が見ればガッカリのひと言かもしれない。碑の背面にピッタリと倉庫が建ち碑文が読めないのである。また、倉庫の奥にも別の石碑が建っている。これまた、倉庫の陰となり、先人が建てた石碑はまったく眼中にないといった様子。このようなぞんざいな扱いをすればバチが当たるかもしれない。いや、もう当たったのかも・・・・



経緯度 北緯38度18分38秒/東経141度29分25秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大

地震があったら
津波の用心
それや来た逃げよう
此の場所へ

現地より海を望む。一軒の家屋も無し



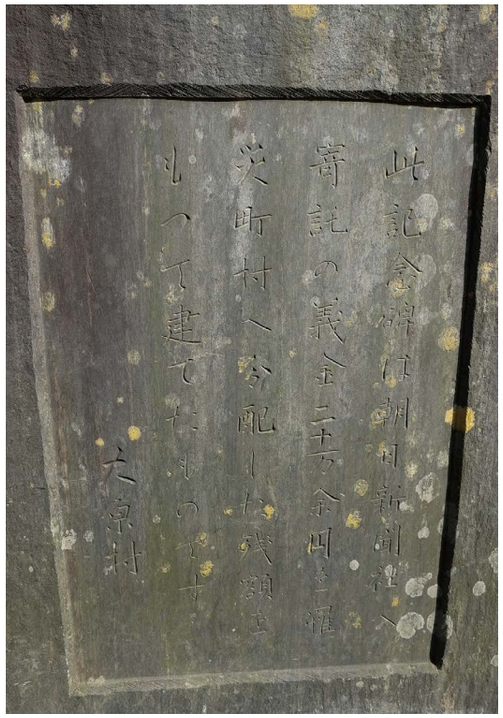
宮城076番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯記念

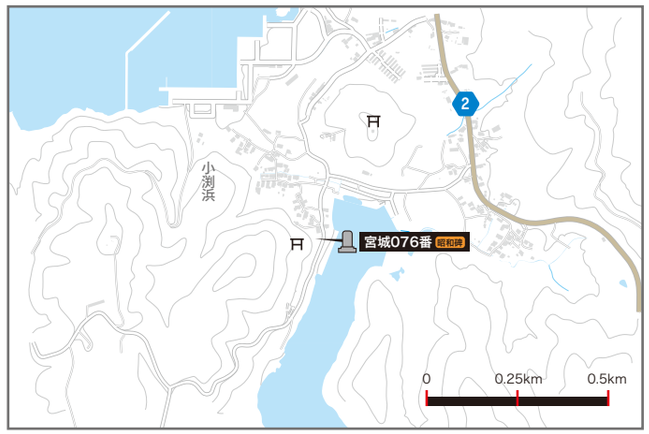
対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市小渕浜小渕60
建立場所 五十鈴神社参道　碑高 184cm　碑幅 93cm　海抜 5m







下調べで、国土地理院地図には小渕浜に神社アイコンが2つある。五十鈴神社はそのいずれかである。まずは入江に近い方から向かうことに。するとビンゴ、一発で到着。難儀しても見つからないところもあれば、いとも簡単に見つかる場合もある。運がいいのか勘がいいのか。さて、この五十鈴神社だが、鳥居から参道までとても綺麗になっていた。前年に津波破損による修復工事が完了しており、一番奥には五十鈴神社修復碑も建立されている。また、県道から神社に至る沿道沿いにも漁業関連施設の再建が進んでおり、忙しそうに働く人たちの姿も見られた。津波による痛手は大きかったが、再起に向けて邁進するパワーもひしひしと感じた。



経緯度 北緯38度19分10秒/東経141度28分12秒

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大

一地震があったら津波の用心
一津波が来たらこれより高い所へ
一危険区域内に住居をするな

発震時　午前二時三十分
津波の襲来　午前三時
津波の高さ　二・四米

被害状況
住家床上浸水　三十九戸
住家床下浸水　十二戸
耕地浸水　田二町二反歩　畑二反歩
其他漁船漁具農具及家財多数流失

宮城077番
2014/04/02

津浪記念碑

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市小網倉浜小網倉70−21
建立場所 一般道路傍　碑高 180cm　碑幅 90cm　海抜 1m





小網倉浜の惨状は一際であった。建物といえるものが一切残っていない。北側の山裾に1軒の家屋と、さらにその奥の小高い丘に神社が取り残されるようにあるのみ。それほどまでに激しい状況に於いて、玉垣に守られるように石碑群があった。その中の一基が津波碑であった。いろいろ調べてみると、この石碑群の近くには家屋がなかったようで、津波には襲われるも、瓦礫の直撃を免れた可能性がある。これは、奇跡なのか神がかりなものか計り知れないが、津波に於いて建造物の倒壊は、津波と引き波とによる瓦礫の移動によるものが、大きな要因となっているのではないかと思える。素人考えであるが。



経緯度 北緯38度21分09秒/東経141度27分36秒

碑文表

碑念記浪津

昭和八年三月三日旧二月八日
紀元二千五百九十三年
午前四時の大津波忘れるな
強い地震に油断をするな
地震後海がどんと鳴ったら津浪と思え
津浪と知ったら高いところへ逃げよ
永久子孫に伝えんがために是を建てたり

発　大壁熊治
杉山卯三郎
亀山政之助
起　吉田先生
人　阿部金一郎
大原浜寶吉丸

寄附人
井上石工
齋藤憲三郎

宮城078番
2017/04/10

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市小網倉浜小網倉２
建立場所 一般道路傍　碑高 178cm　碑幅 92cm　海抜 6ｍ







この津波碑は、2014年来訪の折には流されており行方不明だった。データベースにも「流失」として記録していたのだが、ちょっとしたきっかけでGoogle mapのストリートビューで発見。2015年９月の撮影データに確認ができたのである。この１年半ほどの間に復元されたようだ。しかし、なかなか足を運ぶ機会がないまま2017年４月まで延び延びとなってしまった。
この日、金華山上陸に際し同地を訪れることが叶った。周辺にはやや高台になっている１軒を除き全世帯が津波にさらわれている。碑文の「危険区域に住居をするな」の文字がもの悲しかった。



経緯度 北緯38度21分11秒/東経141度27分33秒

碑文裏

この記念碑は朝日新聞社へ
寄託の義金二十余万円を羅
災町村へ分配した残額を
もって建てたものです

大原村

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大

一地震があったら津波の用心
一津波が来たらこれより高い所へ
一危険区域内に住居をするな

発震の時　午前二時三十分
津波の襲来　午前三時
津波の高さ　三・〇米

被害状況
住家全流失　一戸
住家床上浸水　二十六戸
同床下浸水　二戸
耕地浸水　田三町一反歩　畑二反歩
負傷者一名
其他漁船漁具農具及家財多数流失

宮城081番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市小積浜小積10
建立場所 一般道路傍　碑高 220cm　碑幅 91cm　海抜 3m







小積浜に着くと、もうそこには家屋と称するものは一切ない。これでは津波碑の生存も無理であろうと思えたが、一通り漁港を巡ってみようと、県道より海沿いの脇道へ進んだ。すると、山裾に5基の石碑が健在していた。碑の背面が斜面のため、引き波による影響を受けなかったことと、正面が海となっており、瓦礫の影響も皆無であったことが、倒壊と流失を免れた要因だろうか。そうなると、入り江に向かい建つ津波碑が誇らしげに見えてくるから不思議である。腕があれば腰に手をあてがい、胸を張って海を見ているようだった。「お前達にはそう簡単にはやられんぞ」。



経緯度 北緯38度22分21秒/東経141度27分30秒

碑文表

日三月三年八和昭
念記嘯震大

地震があったら津浪の用心
忘るな火の元の注意
先に老幼続いて避難第一

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十二分強震あり。同五十分東方海上と思料せらるる方に於て、大砲の轟かく如き音響あり。又同五十五分頃同様の音響を聞けり、其後海水著しく干たりと見いたるに、間もなく五尺内外の海嘯四五回反覆来襲するに至りたり。最後の海嘯の高さは約六尺。被害は荻浜区、床上浸水二十六戸、床下八戸。小積浜区、床上十三戸、床下四戸。福貴浦区、床上三戸、床下一戸。鹿立区、床上二戸、床下一戸。桃浦区、床上八戸、床下九戸ニにして、多少物件の流失あるも、人畜死傷なし。此の報一度天聴に達するや、畏くも、天皇皇后両陛下より御救恤として金一封宛を賜り、まことに恐懼感激に禁へず。尚各地より金品の寄贈に其他盡きざる同情を寄せられたるは肝銘措く能はざる所にして、感謝に禁へず。
此の記念碑は、朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです。

宮城080番
2014/04/09

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市荻浜家前17
建立場所 旧役場跡の公園　碑高 140cm　碑幅 90cm　海抜 5m



被災後に、元村役場の跡地に石碑が集められて保存されている。当該津浪記念碑は約半分が地面に埋没し、上部も破損し失われている。初めは地面に埋まっているのかと思ったが、津波による流失時に破損し、この部分のみが発見されたのではないかと推察している。もしそうだとすれば、ここまで無残な姿になった碑であっても、保存しているのは他では見られない丁重な取扱いといえる。今後、東日本大震災を語る上で貴重な史料となるのであろう。



被災石碑による震災メモリアルパークである



経緯度 北緯38度22分41秒/東経141度26分52秒





大きく損傷しているため碑文は読めないが、前項の小積浜碑と同一と思われる

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十二分強震あり。同五十分東方海上と思料せらるる方に於て、大砲の轟かく如き音響あり。又同五十五分頃同様の音響を聞けり、其後海水著しく干たりと見いたるに、間もなく五尺内外の海嘯四五回反覆来襲するに至りたり。最後の海嘯の高さは約六尺。被害は荻浜区、床上浸水二十六戸、床下八戸。小積浜区、床上十三戸、床下四戸。福貴浦区、床上三戸、床下一戸。鹿立区、床上二戸、床下一戸。桃浦区、床上八戸、床下九戸ニにして、多少物件の流失あるも、人畜死傷なし。此の報一度天聴に達するや、畏くも、天皇皇后両陛下より御救恤として金一封宛を賜り、まことに恐懼感激に禁へず。尚各地より金品の寄贈に其他盡きざる同情を寄せられたるは肝銘措く能はざる所にして、感謝に禁へず。
此の記念碑は、朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです。

碑文表

大震嘯記念
昭和三年八月三日

地震があったら津浪の用心
忘るな火の元の注意
先に老幼続いて避難第一

上下に真っ二つとなり、表面は傷だらけ。実に痛々しい石碑である

宮城079番
2014/04/02

昭和八年三月三日 大震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 不明　住所 石巻市桃浦寺下6
建立場所 洞仙寺前　碑高 230cm　碑幅 90cm　海抜 3m







桃浦地区に差し掛かると、大きな銘石が建つ洞仙寺がある。県道端にあるためそれとすぐに認識できる。しかし、残念ながら本堂は無い。完全に流失している。この被災したお寺の前（境内かもしれない）に、当該津波碑が置かれている。元は漁協建物の裏手にあり、雑草に隠れ蜘蛛の巣まみれという、ぞんざいな扱いだったようだ。しかし、誰かが流された碑を見つけこの場所に建てたようだ。ただ置いてあるのではなく、基礎も打ってあるので、仮設ではないと思うが、元からこの寺の所有ではないため、本設なのか預かりなのかは判らない。いずれにしても、今後は丁重に扱い、碑訓を守り続けてほしいものだ。



経緯度 北緯38度24分02秒/東経141度25分50秒

碑文表

昭和八年三月三日

地震があったら津浪の用心
忘るな火の元の注意
先に老幼続いて避難第一

碑文裏

昭和八年三月三日午前二時三十二分強震あり。同五十分東方海上と思料せらるる方に於て、大砲の轟かく如き音響あり。又同五十五分頃同様の音響を聞けり、其後海水著しく干たりと見いたるに、間もなく五尺内外の海嘯四五回反覆来襲するに至りたり。最後の海嘯の高さは約六尺。被害は萩浜区、床上浸水二十六戸、床下八戸。小積浜区、床上十三戸、床下四戸。福貴浦区、床上三戸、床下一戸。鹿立区、床上二戸、床下一戸。桃浦区、床上八戸、床下九戸ニにして、多少物件の流失あるも、人畜死傷なし。此の報一度天聴に達するや、畏くも、天皇皇后両陛下より御救恤として金一封宛を賜り、まことに恐懼感激に禁へず。尚各地より金品の寄贈に其他盡きざる同情を寄せられたるは肝銘措く能はざる所にして、感謝に禁へず。

此の記念碑は、朝日新聞社へ寄託の義金二十余萬円を罹災町村へ分配した残額をもって建てたものです。

読み易いように句読点を挿入し、旧字も修正、カタカナをひらがなへ変更

「石巻市中心市街地」

0　0.25km　0.5km　0.75km　1km

石巻駅
石巻市役所
羽黒山
石ノ森萬画館
中瀬
牧山トンネル
日和山
宮城085番 チリ碑
石巻神社
石巻港（内港）
日和大橋
御所入
湊

398　33　192　7　240

宮城085番
2014/04/09

チリ地震津波碑

対象津波 チリ地震津波　建立月日 昭和36年5月　住　所 石巻市日和が丘2丁目4-12
建立場所 日和山公園　銘板幅 60cm　銘板高 45cm　海　抜 46m

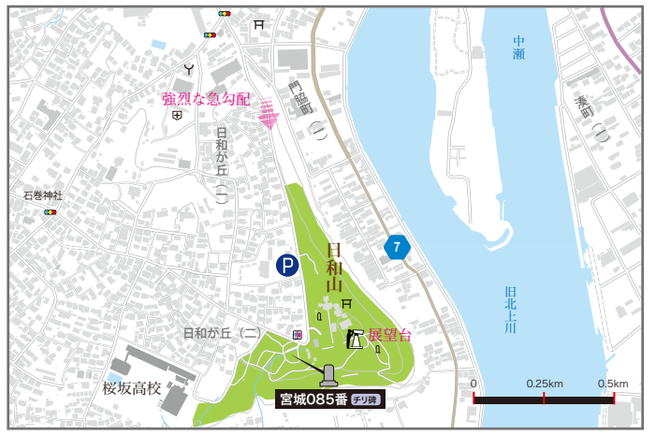




北上川と市街地を見下ろす市民憩いの公園にチリ津波の津波碑がある。地元のロータリークラブにより建立されたものだが、碑文が非会員には難解な内容となっている。8行目までは理解できるが、9～15行目はとんと理解できない。そして、16～20行までは自戒の念として理解できる。数ある津波碑の中でも特異な存在といえよう。なお、ここからは眼下に裸地と化した市街地の惨状が一望できる。早期の復興を願わざるを得ない。



日和山より市街地展望



経緯度 北緯38度25分24秒/東経141度18分27秒

碑文表

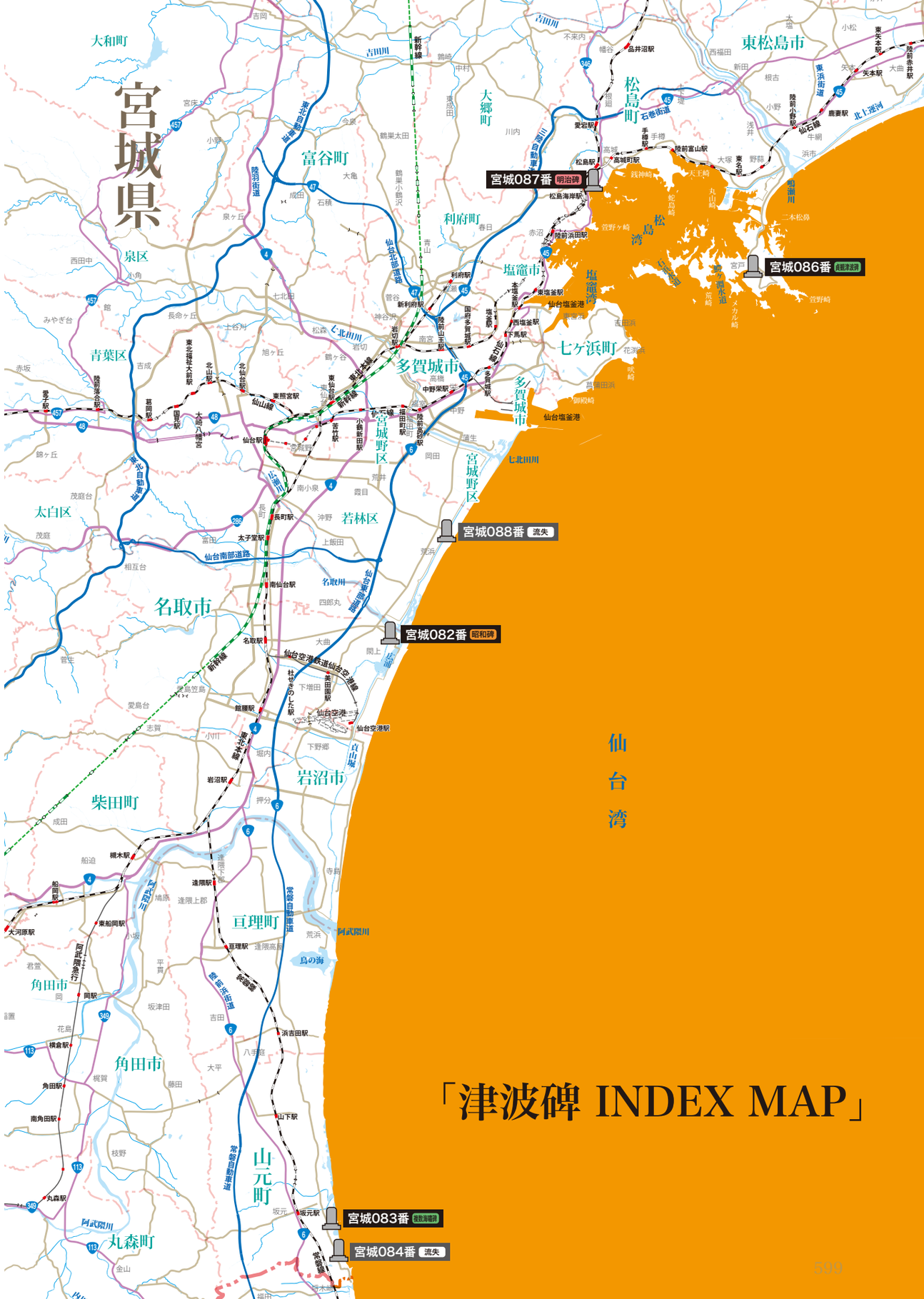
ほら　こんなに
まるで慈母のように穏やかな海も
ひと度荒れ狂うと
恐ろしい残忍な形相となる
海難・津波・海難と
ここ三陸一帯に
無情な海の惨禍が絶えることがない
一九六〇年五月二四日のチリ地震津波
この日におくられた
東京都内をはじめ
はるばる海外からのロータリーアンの
あたたかい御芳志と
近海捕鯨の御厚意により
ここに「四つのテスト」の碑を建立し
配するに鯨の噴水をもってする
襟をただし
はるかなる海底にねむる
万霊の冥福を祈るとともに
常に心しよう
海難はまたやってくることを

一九六一年五月　石巻ロータリークラブ
石巻東ロータリークラブ

宮城県

東松島市・松島町・仙台市・名取市・山元町

調査対象津波碑	6基
現存碑	4基
流失碑	2基
不明碑	0基
未確認碑	0基



「津波碑 INDEX MAP」


「松島湾周辺」

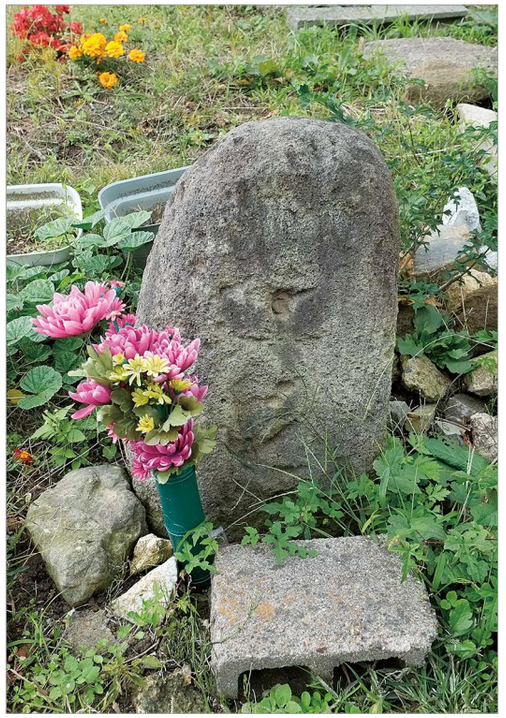
0
1km
2km
3km
松島町
東松島市
利府町
塩竈市
松島湾
瑞巌寺
宮城087番
宮城086番
松島駅
高城町駅
松島海岸駅
陸前富山駅
陸前大塚駅
野蒜駅
東名駅
仙石線
東北本線
手樽駅
櫃ヶ浦
浜田浜
塩竈湾（千賀ノ浦）
浜口浦
鮫ヶ浦
畳石浦
里浦
鰐ヶ淵水道
美女浦
寒風沢水道
石浜水道
波津々浦
鹿島（一）
大浜
月浜（一）
宮戸
大浜台
二ッ橋
大高森
浦戸野々島
浦戸寒風沢
浦戸桂島
浦戸石浜
大平戸山
多聞山
土浜
東宮浜
沢尻
谷地
清水
代ヶ崎浜
新浜町（三）
竈の渕
要害浦
27
60
144
45
58

宮城086番
2014/10/23

貞観の碑（碑銘読めず）

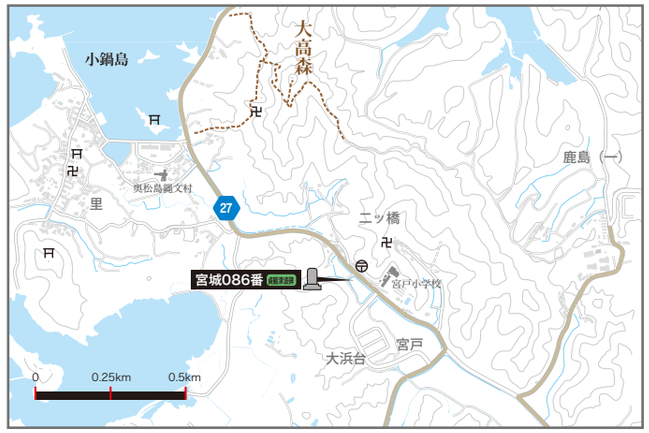
対象津波 貞観津波　建立月日 不明　住所 東松島市宮戸二ツ橋58-2
建立場所 一般道路傍　碑高 60cm　碑幅 37cm　海抜 7m







通称奥松島と呼ばれる宮戸島。ほぼ中央に位置する宮戸郵便局前の空き地に、古くから島民により津波石と伝承される小さな石がある。表面には何やら刻みがあるのだが風化して読むことはできない。この石は平安時代にあった貞観津波（貞観11年/869年）の到達地とされ「これより下に家を建てるな」と、言い伝えられている。東日本大震災でも、この石を目印に避難をしたという。津波はまさにこの石の直前で止まっており、「この碑の言い伝えにより千人避難する」と刻まれた新たな石柱が建てられた。



経緯度 北緯38度20分5秒東経141度9分16秒



宮城087番
2014/10/23

三陸海嘯　死者供養塔

対象津波 明治三陸地震津波　建立月日 明治29年8月10日　住所 宮城郡松島町松島町内67
建立場所 瑞巌寺法身窟　碑高 145cm　碑幅 58cm　海抜 4m



伊達政宗建立で有名な瑞巌寺境内にある法身窟という、鎌倉時代、法身禅師と執権北条時頼が出会ったところと伝えられている洞窟がある。表は格子で閉じており、中に入ることはできない。内部には数基の石碑があるが、そのほぼ中央に明治三陸海嘯の津波碑がある。しかし、筆者が訪れたときは、地震によるものと思われるが、転倒し二つに折れていた。地震から3年を経ても修復しないのはなぜなのか判らない。本誌が世に出る頃には修理されているのだろうか。折を見て再訪してみたい。なお、採寸や碑銘確認はできないため、本誌の記載は上村氏の資料（忘れるな・三陸沿岸大津波・惨禍を語る路傍の石碑）より転記している。



経緯度 北緯38度22分17秒/東経141度3分37秒



碑文表

三陸海嘯死者供養塔

碑文左側面

■■■■二四教区寺院

上村氏の資料では側面の碑文が写真と異なるため、読める範囲を記載

宮城088番 流失 東日本大震災碑

深沼浄土寺は津波により跡形もなく破壊されているが、石碑など一部が残る。
境内には、2013年3月に東日本大震災の慰霊碑が建立されている。





宮城082番 昭和碑

「仙台市荒浜・名取市閖上（ゆりあげ）」

0 1km 2km 3km

宮城082番
2014/04/02

震嘯記念

対象津波 昭和三陸地震津波　建立月日 昭和８年11月３日　住 所 名取市閖上４丁目18
建立場所 日和山　碑 高 230cm　碑 幅 95cm　海 抜 2ｍ





東日本大震災で、甚大な被害と多くの人命が失われた閖上地区には、日和山と呼ばれる小さな山がある。標高８ｍ低山だが、周囲は平地のために、近くまで来ればどの方角からも視認することができる。頂部には当主姫神社が鎮座する。津波碑は日和山の北西側麓、つまり海とは反対側の裾に倒れている。震災前は頂部にあった神社本殿脇に建っていたのだが、10mを越える波高の津波襲来により、裏側へ吹き飛ばされたのである。なんと凄まじいことであろうか。しかし、石碑は滑落したにもかかわらず原形をとどめており、大きく破損はしていない。この点は奇跡といえるだろう。

碑文を読むと、ここ閖上地区には過去にも津波は襲来しているが、波高は3mほどで、東日本大震災の３分の一である。今回の震災は1,000年に一度と言われる津波であることがよく判る史料といえる。早く頂部に再建される日が来ることを祈るばかりである。



経緯度 北緯38度10分21秒/東経140度57分13秒

碑文表

念記嘯震

地震があったら津波の用心

昭和八年三月三日午前二時三十分、突如強震あり。鎮静後四十分にして異常の音響とともに怒涛澎湃し来たり。水高十尺、名取川を遡上して、西は猿猴園に至り、南は貞山堀広浦江一帯に氾濫せり。浸水家屋二十余戸、名取川町裏沿岸にありし三十トン級の発動機漁船数艘は柳原園の畑地に押上げられ、小艇の破砕せられたるもの少なからざりしも、幸い人畜には死傷なかりき。県内桃生、牡鹿、本吉の各郡及び岩手、青森両県地方の被害甚大なりしに比し軽少なりしは震源地の遠く金華山の東北東約百五十里の沖合にありて、濤勢の牡鹿半島に遮断せられその余波の襲来に過ぎざりしと、河口の洲丘及び築堤のこれを阻止したるとによるなり。震災の報一度天聴に達するや、畏くも天皇皇后両陛下より御救恤として御内帑金を下賜せらる、聖御の宏大なることまことに恐懼感激に禁へざるところなり。想うに天災地変は人力の予知し難きものなるをもって、緊急護岸の万策を講ずべきは勿論平素用心を怠らず、変に応ずるの覚悟なかるべからず。ここに刻してもって記念とす。

昭和八年十一月三日

閖上町長　渡辺卓郎篆額
従七位勲八等加藤忠蔵撰文
勲八等　赤松喜一郎書
宮城県本吉郡志津川町
石工　阿部清蔵刻

日和山公園

標高８メートルという超低山の日和山。一帯はポケットパークとなっているが、公園らしい状況ではない。周囲はすべて、地面からはぎ取られている。山頂には小振りな神社が鎮座しているが、東日本大震災では、この社を越える津波が襲来した。前述の通り、社も石碑も後方へ吹き飛ばされている。ただ、１基の石碑は生き残ったようで、今でも無事な姿を見せている。

現在、赤い屋根の社が鎮座しているが、これは震災後に再建されたもの。しかも、再建に携わった大工さんは地元の方で被災者である。しかし、一度は流された大工道具を回収し、また、瓦礫となった木材から利用できる物を選別し、この社を再建している。その意味では、この小さな神社は津波災害から立ち直った象徴いえるものなのである。

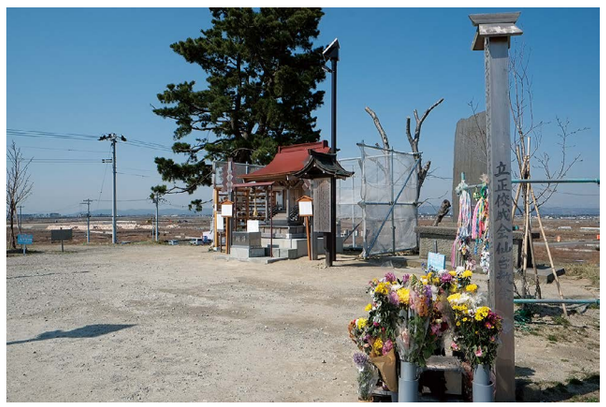
山頂から周囲を見渡すと、閖上地区の被害の甚大さがよく判る。現在、急ピッチで復興工事中であるが、相当量の嵩上げが行われるようで、この日和山の高さはグッと圧縮されそうである。



日和山を海側より望む



再建された鳥居と生き残った石段



頂部の様子





「山元町中浜・磯地区」



山元町の海岸線一帯は甚大な被害が出ており、
当該碑は跡形もとどめてはいない。
背後には幕政時代の台場公園があるが、
台場の足元まで津波によりえぐられているという、
凄まじい状況である。

宮城083番
2014/10/23

昭和八年三月三日 大震災記念

対象津波 明治・昭和三陸地震津波波　建立月日 不明　住所 亘理郡山元町坂元久根22
建立場所 旧中浜小学校敷地内　碑高 228cm　碑幅 98cm　海抜 3m





津波の直撃を受け廃校となった中浜小学校敷地内に、明治と昭和の海嘯被害を記した津波碑が横たわっている。他の資料によれば津之明神社に建立とあるため、流された碑を別の場所で発見、ここにて保管しているのであろう。これが一時保管か否かは不明。執筆現在(2017年1月)、校舎を震災遺構として保存する動きがあり、遺構として残すことが決まれば、横たわっている津波碑も再建される可能性がある。いつの日か、あらためて人の目に触れられることを願うばかりである。なお、当該碑の脇には「1182人の思い出」と銘打った東日本大震災碑が建立されている。

中浜小学校では、震災当日、津波警報を受けて避難しようとするも、子供の足での避難は時間的に無理と判断し、屋上避難を決断。最終的に2階までの浸水でとどまり難を逃れた。走っての避難であれば大川小学校の二の舞になっていた可能性がある。結果論ではあるが現場判断は功を奏した。生徒・職員90名は屋上倉庫で一晩過ごし、15時間後に自衛隊ヘリに救助された。



経緯度 北緯37度54分58秒/東経140度55分4秒

碑文裏

此の記念碑は朝日新聞社へ寄託の義金二十余万円を罹災町村へ分配したる残額を以て建てたものです

津波の状況

年月日時	津波の高さ	全潰家屋	半潰家屋	床上浸水家屋	床下浸水家屋	負傷者	斃馬	破損船
明治二十九年六月二十六日午後九時半	六尺	一	一	一〇	一五	一		一〇
昭和八年三月三日午前四時	七尺五寸	一〇	一二	一〇	一八	一二	一	六三

碑文表

昭和八年三月三日
念記災震大

地震があったら津波の用心

東日本大震災碑

筆者は、明治・昭和の津波碑をメインに巡ってきました。東日本大震災碑については、通りすがり、もしくは近くに建立されている場合にのみ取り上げております。現在、2017年1月の段階で、すでに百数十基が建立されており、今後も増えていくことでしょう。正直な話、この津波碑も取材対象とすると、延々と巡礼の旅が終わりません。弊誌をお読み頂いた方で、手を上げてくれる人がいないものでしょうか・・・・。大歓迎でございます。と、いうことで、最後のページには、巡礼の旅で※最南端に建つ東日本大震災の津波碑を取り上げて、ここに旅の完了としたく思います。





旧中浜小学校敷地内に建つ
東日本大震災津波碑
「1182人の思い出」



旧中浜小学校に隣接して建つ
「千年塔」と「東日本大震災慰霊碑」





黒御影石の石碑の表には犠牲者の名簿が刻まれ、
背面には、被害状況の説明と建立者の氏名が刻まれる



経緯度　北緯37度54分14秒/東経140度55分10秒



磯地区の小高い墓地駐車場に建つ
「東日本大震災慰霊碑」

※東日本大震災碑は、ココに記載の碑よりさらに南にたくさん建立されています。筆者が訪れた中での最南端の意です

津波碑建立について

すでに本誌をお読みの方々は、売上げから新しい津波碑を建立するプロジェクトはご存じかと思います。ここでは、新津波碑建立プロジェクトについてご説明します。

津波碑建立までの概要

◆津波碑巡礼チャリティブックの販売

津波碑巡礼チャリティブックは電子書籍という形態で、下記の２サイトにて販売しています。

◆旅的電子書籍制作所配送センター　　PDF形式電子書籍
http://tabiteki.tank.jp/tabiteki/

◆アップル　iBooks store　　e-pub形式電子書籍
https://www.apple.com/jp/ibooks/

売上金の計算方法については下記の通りとなります。

◆旅的電子書籍制作所配送センター　　PDF形式電子書籍

販売価格 ー（販管費＋消費税＋法人税）＝チャリティ金額（売価の59%）

※販管費は、主にクレジット決済手数料（サーバー代行会社への支払い）になります。
※法人税は、実効税率を30%とみなし計算します。

◆アップル　iBooks store　　e-pub形式電子書籍
https://www.apple.com/jp/ibooks/

販売価格 ×0.7ー（販管費＋消費税＋法人税）＝チャリティ金額（売価の41%）

※販管費および法人税は上記と同じです。
※0.7という掛け率ですが、アップルの手数料が販売価格の30%のため

◆津波碑巡礼Facebookの公開

津波碑巡礼Facebookページを公開してます。

◆チャリティブックの販売状況を定期的に公開します
◆津波碑に彫り込む碑文の募集を行います
◆津波碑建立の進捗状況を公開します



◆罹災自治体への寄付

チャリティブックの売上げを、東日本大震災の罹災自治体へ津波碑建立を使途限定とする寄付を行います。その後、津波碑建立について自治体と協議しながら、公募した災害標語を刻んだ石碑を建立します。

取材よもやま話

津波碑を巡りながら、普段絶対に足を運ばないであろう場所を訪れています。
そなこんなを思い出してみます。



女川町の市街地を見下ろす展望台を発見。津波碑が神社にあるという情報で境内をうろついている間にここまで登ってしまった。眼下には更地となった市街地の土色だけが目に焼き付く。訪れたのは2014年4月3日。それから4年経った2017年4月10日の写真が右下の復興した商店街。この4年を長いとみるか早いとみるかは人それぞれだろう。筆者としては、時の流れには関わらず、姿形をここまで変貌させる人間の力に感心させられた。



南三陸町の歌津田ノ浦漁港の様子。2014年4月9日に訪れた写真。この頃は震災から3年が経ち、各地で復興工事が盛んになり始めた時期。主に漁港の工事が一斉に着手されたのではないだろうか。津波碑を巡りながら、いったい幾つの工事中漁港を観たのだろうか。数えてはいないが、三陸沿岸にある漁港の大半を見たのではないかと思う。いつか、復興された漁港巡りもまた一考。



南三陸町の戸倉海岸パーキング。ここには２体のモアイ像が立っていた。モロ海岸沿いのため津波の直撃を受けたが倒壊することなく残っていた。しかし、２体とも下腹部辺りに損傷があり穴が空いていた。その穴を見て「な～んだ、このモアイ像FRP製だったのかぁ～」と、実は石像とばかり信じていたのに、津波のお陰で造りがバレバレに！　現在は国道の付け替えにてパーキングは消滅し、このモアイ像も移転されたとか。





女川町城山展望公園。訪れたのは2014年4月3日。地震の影響で地盤が緩み、立入禁止となった公園の片隅に津波碑があった。目の前を通る国道も痛み、修復工事中だった。その工事関係者がなぜかこのように津波碑にブルーシート巻き付けて保護していた。数多くの碑を見たが、このように保護されていたのはこの一基のみだった。保護の意図は不明だがなんだか嬉しかった。

気仙沼市大島へ渡るカーフェリー。わずか20分ほどの船旅だが、リアスの入江を航行するため波はなく穏やかな船旅だった。小さなフェリーだが、横から見ると台形をした前後対照形で非常に合理的な設計である。乗り物好きの筆者は、よくよく感心させられた。この気仙大島には2018年に橋が完成する。名物フェリーに乗ることもできなくなる。この時乗っておいて良かったと思う。







岩手県洋野町にある種市の防潮堤。東日本大震災では見事に津波を防ぎ、市街地を守り抜いている。この防潮堤に取り付けられている「津波浸水深さ表示板」。ブルーに統一された表示板は、被災地の各地に取り付けられている。いったい何枚の表示板を見たのか定かではないが、6年経過した現在、すでに劣化が始まっている。この看板何年保つのだろうか？劣化しきったら取り替えるのだろうか？ないだろうなぁ～～。次の震災時にはアテになりそうにもない・・・・



賛否両論激論口論さまざまな論争を呼んだ防潮堤建設。中止になった防潮堤はわずかでほぼ予定通りに建設が進んでいる。その形状も様々で、津波碑巡礼中にもほぼすべてのパターンを見ただろうか。そんな中で気になったのが、この板状の防潮堤。これ本当に止められます？大津波！



陸前高田市の高台移転住宅造成地。出来たての造成地を訪れたのは２０１５年８月１６日。まだ一軒も家が建っていなかったが、現在は家並みとなっているのでしょう。が、過去にも同様の高台移転をしたものの、海仕事が不便と低地に戻ってしまったところが数多くある。今回はここからは絶対に降りないで欲しいと思う。

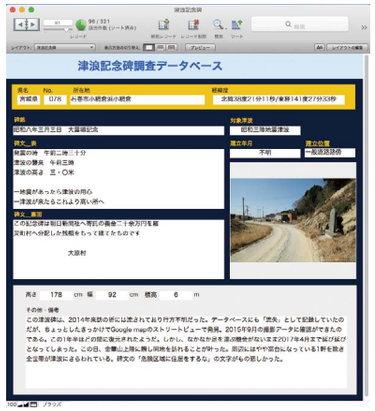


田野畑村羅賀地区にある「津波石」。重さは20トンもある。これが津波により海より400m運ばれてきたという。しかも、標高差で25m持ち上げられている。津波は地殻の変異エネルギーが海水に伝わり、それが津波となり巨石を移動させた、エネルギー保存の法則による事象である。地球から見れば、大震災級の地殻変動など、アリのくしゃみ程度のことなのだろう。

あとがき

調査開始より足掛け４年経ってしまいました。当初は調査に１年、編集に１年程度だろうとタカをくくっていたのですが、見事に倍かかってしまったのです。敗因は思いのほか津波碑の発見に手間取ったことでしょう。８割方はパパッと見つけられたのですが、残りがとにかく見つからない。こればかりやっている訳ではないため、時間を見つけてはコツコツ探し当てたという感じでしょうか。

次に難航したのが碑文の解析。現場で読み解いて記録するのは手間がかかるため、カメラに収めパソコンのモニターで拡大しながらの判読。ところが写真というのはそうおいそれとは映ってはくれません。光線の加減や石の種類や状態、掘りの深さなど、バッチリ映るものがあれば、まったく読めないものもあり。そんな場合は現地に足を運び再度撮影。これも幾度あったことか。



一般的に本を書く人は、原稿用紙直筆型とパソコン入力型に大別されるでしょう。筆者は後者ですが、おそらく他の人と異なるのは、ワードなどの文章入力ソフトを使わないことです。自分の知る限りでは聞いたことがないのですが、データベースソフトに入力しています。住所、各種数値、碑名碑文などはデータベースは便利に管理できますが、本文すら入力しています。

データベース入力には、２年近くを費やしています。本誌製作のための組版作業はデータベース完成後に開始。約２年間、データベースに淡々とデータを入れる作業は長く辛いものでした。正直、もう一度やれと言われたら100％やりません。反面、データベースは一度構築すれば、検索や統計など様々な用途に使えるため、本誌と共に筆者の宝であることは間違いありません。

現場においては様々な方にご協力を頂いています。役場の職員の方々、寺社の関係者の方々、近隣住民の方々。時には学校や資料館などの施設職員の方にもお世話になりました。皆、共通していえることは、津波碑を探していると話すと、快く協力頂いたことです。時節柄、まだまだ復興半ばであり、中には心の傷は癒えていない方もおられたでしょう。感謝、感謝、感謝。この言葉に尽きます。ありがとうございました。

参考資料・文献

◆『津波被害・津波石碑情報アーカイブ』　国土交通省東北地方整備局道路部
http://www.thr.mlit.go.jp/road/sekihijouhou/

◆『忘れるな　三陸沿岸大津波　惨禍を語る路傍の石碑』　上西　勇著

◆『津波工学研究報告』　東北大学災害科学国際研究所

◆『宮城県津波碑DB』　https://fusiontables.google.com/DataSource?docid=1RVIN5td3OPZwhfDfIoU17U2RWAiDTKUw5-PYv8c#rows:id=1

◆論文『津波碑は生き続けているか―宮城県津波碑調査報告』
北原　糸子、卯花　政孝、大邑　潤三　共著

◆『石に刻まれた明治29年・昭和８年の三陸沖地震津波』
岩手県立博物館研究報告　目地　和哉著

◆『津波ディジタルライブラリィ』　http://tsunami-dl.jp

津波碑巡礼

2017年6月24日発行

編　　者　旅的電子書籍制作所
発 行 者　佐々木　直子
取材・編集　三沢　覚司
発 行 所　株式会社オフィスタンクバッグ
〒025-0078
岩手県花巻市吹張町10番35号
電話　0198-23-0838
ＩＳＢＮ　978-4-907119-15-7　C0825

■本誌掲載のデータは2016年10月現在のものです。主観的な評価、時間の経過による変化、記入時のミスタイプなどにより、その内容の完全性、正確性、安全性などに関して、いかなる保証もできません。したがいまして、本誌の情報によって発生した損害および事故について、一切の責任を負いません。
■本誌掲載の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号　平29情使、第285号)

ISBN987-4-907119-15-7
c0825 ¥1900E

9784907119157

定価：1900円

1920825019003









旅的電子書籍制作所